

## 7. 自己点検・評価報告書

### (1) 2022年度第3クォーター 掲載目次

#### 専任教員

##### 【所属】

人文学部	キリスト教学科	1
人文学部	人類文化学科	6
人文学部	心理人間学科	12
人文学部	日本文化学科	16
外国語学部	英米学科	19
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	22
外国語学部	フランス学科	23
外国語学部	ドイツ学科	26
外国語学部	アジア学科	27
経済学部	経済学科	28
経営学部	経営学科	33
法学部	法律学科	39
総合政策学部	総合政策学科	47
理工学部	ソフトウェア工学科	53
理工学部	データサイエンス学科	53
理工学部	電子情報工学科	54
理工学部	機械システム工学科	57
国際教養学部	国際教養学科	58
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	63
教職センター		64
国際センター		65
外国語教育センター		66
体育教育センター		71

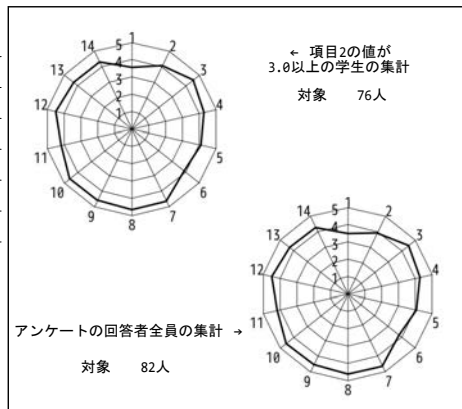
#### 非常勤教員

##### 【所属】

人文学部	人類文化学科	71
人文学部	心理人間学科	72
人文学部	日本文化学科	74
外国語学部	英米学科	76
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	77
外国語学部	フランス学科	77
外国語学部	アジア学科	79
経済学部	経済学科	80
経営学部	経営学科	83
法学部	法律学科	85
総合政策学部	総合政策学科	88
国際教養学部	国際教養学科	89
共通教育	仏語	90
共通教育	西語	92
共通教育	中国語	94
共通教育	共通	96
共通教育	韓国朝鮮語	107
教職センター		108
外国語教育センター		109

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[B]1  
授業コード 10A01-009  
教員名 南 翔一朗  
教員コード 104627  
登録人数 139  
回答数 82  
回答率 59.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標については、おおむね到達できたと考えている。特に映画やアニメなどの映像資料を使用し、それによってインパクトを与えながら授業をすることができたので、多くの学生が勉学に対して意欲的に取り組んでくれた。

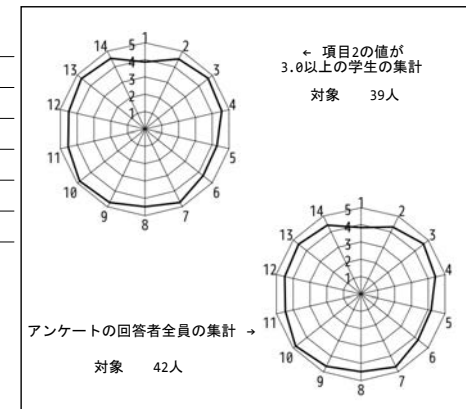
また、アンケートから得られたデータ（数値データおよび自由記述等）を踏まえると、本講義に関しては特に大きな問題が学生から指摘されているということはないように思われる。

なお、次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針は下記の3点である。

- ① 映像資料に頼りすぎない。映像資料を適切に用いて学生のモチベーションを高めつつも、学術的内容をしっかりと理解させる。そのためにも、見る映像（およびその部分）をしっかりと厳選する。
- ② 出欠やワークシート管理を厳格化し、授業参加度をより正確に把握して評価する（ただし、履修者数や現状の大学の設備・システムを考えるとかなり難しい問題ではある）。
- ③（上記②とも部分的に関連するが）心身の健康上の問題で対面授業に出席できない学生に対して可能な限り配慮して授業を構築する。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[B]2  
授業コード 10A01-010  
教員名 MCMULLEN, Matthew  
教員コード 103838  
登録人数 150  
回答数 42  
回答率 28.0%  
休講回数 2 回  
補講回数 1 回



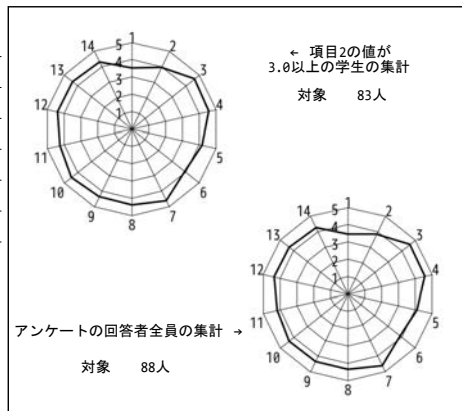
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was the final time teaching this course. After five years, I must say that the students level of engagement has much improved. In part, I think this has been a response to my changes in the course material and resources. However, I think two years of online courses helped to focus the content and goals of the course.

In the evaluations, several students said they learned something new about religion. That was the goal, so I guess it was successful. However, I still think my Japanese language skills are insufficient to teach an introductory course.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教論[T]2  
授業コード 10A01-016  
教員名 KISALA, Robert  
教員コード 018275  
登録人数 150  
回答数 88  
回答率 58.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



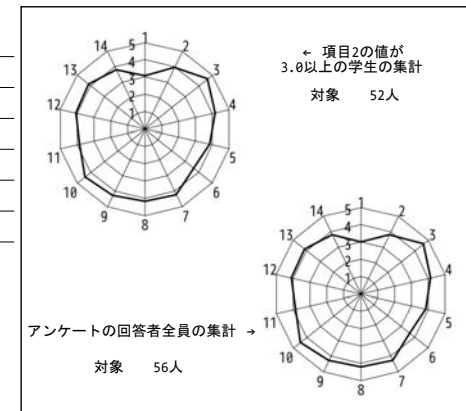
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標として「宗教についての理解を深めている」と「現代社会における宗教の位置・役割を考察することができるようになっていく」という二つを初回授業で学生に提示した。学生評価の結果（設問番号5：平均値4.11；設問番号6：平均値3.89）から、学生らは到達目標をある程度理解して授業に取り組んでいたとは言えるであろうが、更なる改善に努め続く。一方、自由記述式設問の回答結果からは特にパワーポイントと映像資料の使用、参考文献の紹介、または小人数グループディスカッションが積極的に評価されていると言える。また、説明及び資料が分かりやすかったことが指摘されている。

本講義の改善点として、学生が講義の到達目標を意識させるためにさらなる工夫を考えている。学生が到達目標を授業の内容と繋げられるような説明も取り入れながら毎回の講義の初めに前回の講義の内容を確認し、今回の講義の到達目標を明確にすることを続ける。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[P]1  
授業コード 10A51-014  
教員名 SUSAI, Raj  
教員コード 101347  
登録人数 70  
回答数 56  
回答率 80.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

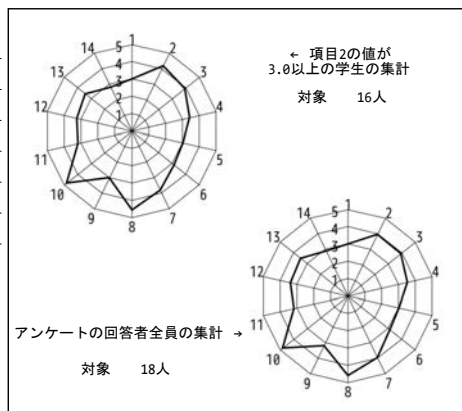


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第3Qのキリスト教概論の授業は予定通りに行われたと思われます。学生たちが授業概要を理解し、到達目標に着いたと思われます。学生が多かったため、一人ひとりに気を配ることができなかった。さらにキリスト教の全てを教えることもできなかったが基本的なことは授業中で確認できたと思われる。学生の評価にもありましたが、時々学生の理解を深めるため質問等に応えるため、授業の内容の遅れがあったりしました。学生たちの積極的参加はあまりなく残念と思われます。学生の積極的参加を促す方法を今後考える必要がある。スクリーンが小さいためパワーポイントが見え難かったりしました。解決策としては学生が自分たちの端末を使用することを勧めていきたい。学生たちにもっと授業に興味を抱かせるため、映像などももっと取り入れたいと思う。授業の勧め具合が多少予定通りに行かなかったが、学生の勉学と理解を中心にして授業を進めることができたと思われる。今回の学生の要望を受け入れて今後jの授業を改善していきたいと思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[P12]  
授業コード 10A51-015  
教員名 RAJCANI, Jakub  
教員コード 103281  
登録人数 28  
回答数 18  
回答率 64.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

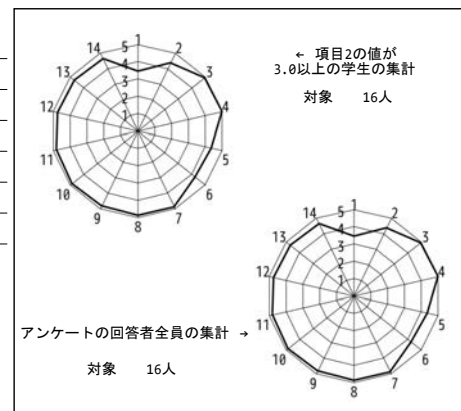
シラバスなどにも記載してあるし、口頭でも説明した通り、本授業は一般教養として、広く浅く、様々なテーマを取り扱い、学生によって少なくともどれかのテーマに関心を持ってもらう前提で行っています。必ず関心がない、理解し難いテーマもあることは覚悟している。ひとまず、計画通りに全てを扱うことができ、目指していた目標を達成したように思う。

レジュメについてのコメントが多かったが、それもわざと後からアップロードしている理由がある。ほとんど毎回書いてもらう極めて簡単な感想の材料になるのではなく、復習や試験の勉強のために挙げているのであって、各人が取るべきノートの代わりに挙げているのではない。それは、授業中の聞く意欲や集中を促すためである。独り言であることは講義形の授業であるためであって、意見交換や発表が中心である授業にしたつもりはなかった。

今後、スライドをもっと早くwebclassに挙げることに取り組み、学生の感想を授業中に口頭で求めることを検討中である。しかし、当てられて答えるのが嫌いな人ほど、教員が一方的に話すことを堂々と批判するようにも思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語III[HC]  
授業コード 11J11-001  
教員名 井上 淳  
教員コード 100301  
登録人数 23  
回答数 16  
回答率 69.6%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設定した目標には達成できた。評価の数値もかなり高いものだったので嬉しい。設問3~14の平均値は4.74であった。特に設問5「毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか」には5点をもらった。今回のラテン語原典解読にはラテン教父ヒエローニムスに関する伝説を選んだ。これからも興味深いラテン語の文章を読んで行きたい。内容は以下の通り。

1. エウセビウスという貴族の人の息子、ヒエローニムスは、ダルマティアとパンノニアの境界を占めるストリドンという町の出身の者として現れた。
2. まだ少年の時、この人はローマに行き、ギリシア語、ラテン語、ヘブライ語の読み書きによって、十分に教育を受けた。
3. さて、ある日の夕方、ヒエローニムスが修道士たちと一緒に聖なる聖書朗読を聞くために座っていると、突然ある一頭のライオンが、よろめきながら修道院に入って来た。
4. そのライオンを見ると、他の修道士たちは逃げたが、ヒエローニムスは、まるで客人のようにそのライオンを迎えた。
5. それゆえライオンは傷ついた足を彼に見せ、その間に修道士たちが呼び戻されて、ヒエローニムスは彼らに、ライオンの足を洗い（足が洗われ）、その傷を入念に探す（傷が入念に探される）よう指示した。
6. そのことがなされた時、彼らはイバラの茂みで傷つけられたライオンの足の裏を見つけた。
7. そこで、入念な治療がほどこされると、ライオンは健康を回復し、そして全ての狂暴さを捨てて、まるで家の動物（ペット）のように、彼らの中に住んだ。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語III<全>

授業コード 11J11-002

教員名 松根 伸治

教員コード 101833

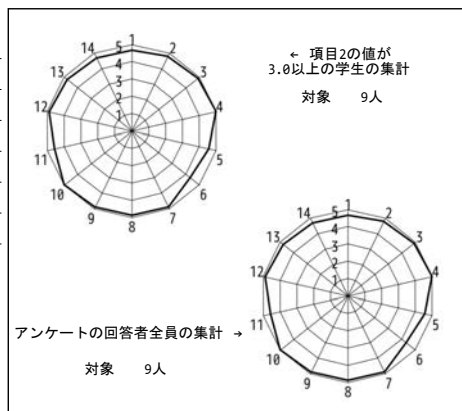
登録人数 18

回答数 9

回答率 50.0%

休講回数 1 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

回答が9名と少なかった点で案内が不十分だったことを反省している。ただし、第2クォーターにも履修者の多くが重なる「ラテン語II」で授業評価が実施されたことも回答数が低調だった理由のひとつかもしれない。この前も答えたのにも思いながらも協力してくれた受講者は、授業内容と自分の学習成果に前向きな考えをいだいている傾向が大きいと想像されるので、評価の平均値が良好だったのは割り引いて見るべきだろう。今回とくに授業の進め方の項目で数値が高く（項目3、4、7、8、9、10、12）、自由記述にも解説や復習の丁寧さについて好意的なコメントが多かった。

むしろ、アンケートに答える気のない学生、答えたくない学生の実態が気になるところである。というのは、授業中の応答や提出課題から判断すると、シラバスの到達目標「ラテン語の文章を正確に音読することができる」「ラテン語の文章読解の基本的手順を理解している」を満したとは言えない人もいるからである。大学入学までの外国語学習の経験の中で予習復習の習慣がなく、教室外での学習の意義や必要が実感できないのだろうと思われる学生も少数だが目立つ。他方で相当の時間をかけて自習し、積極的に高度な質問をする学生もいて、クラス内の学力と意欲のバラつきが以前よりも大きくなっているように見える。この難題に対する具体的な対処をひきつづき考えながら授業手法を工夫したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテン語VII<全>

授業コード 11J15-001

教員名 岡崎 隆哲

教員コード 103614

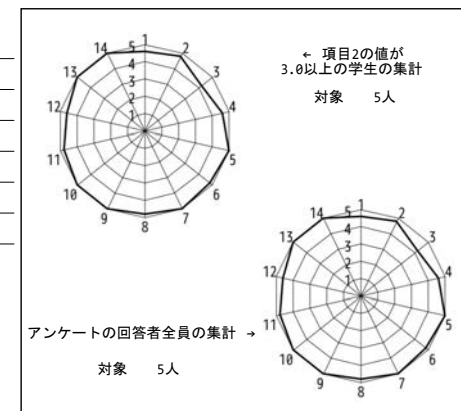
登録人数 7

回答数 5

回答率 71.4%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

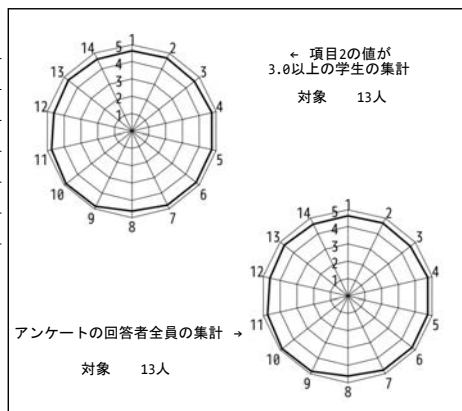
「初級から中級レベルのラテン語の文献に親しみ、中級レベルまでの文法内容、語彙を確実に身につけている」という到達目標について、種々の原典から抜粋したテキストの講読により、実際の原典テキストのラテン語に親しむという（一年目の初級クラスおよび二年目の1Q, 2Qではチャンスが限られていた）機会をとおり、また受講者の全員が、毎回の講読テキストの箇所をしっかりと予習をしてのぞみ、数回おきで実施した語彙力確認を中心とした小テストにもきちんと準備をしてのぞんでくれたおかげで、講読力、文法理解、語彙力ともに中級レベルにかんして一定程度のラテン語の実力が身につけられたと考える。

アンケートでは、毎回のテキストに即した著者や歴史的背景の説明を絵画の提示なども含めて実施したことについてよかったとの感想をいただいたようであり、こうした工夫についてこれからも続けていきたいと考える。数値評価としては特別低い項目はなかったのでよかったと思う。

次クォーター以降に向けての改善点として、話す際の滑舌の調子も含めてもっとゆったりとした雰囲気での授業を実施できるようになっていきたいと考える。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 旧約聖書学(預言書B)  
授業コード 21C21-001  
教員名 加藤 久美子  
教員コード 103475  
登録人数 25  
回答数 13  
回答率 52.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

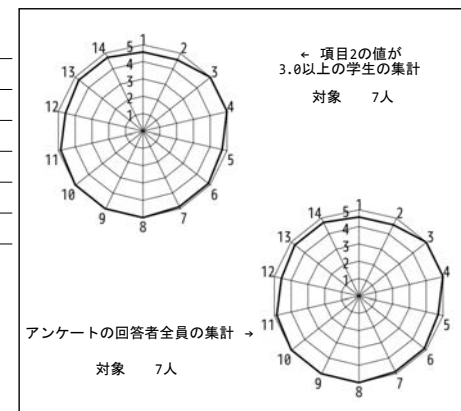
今期のこの科目の目標は、古代の文献に関する基礎知識を得た上で、物語を解釈し、その文献の人間像を理解することだった。同時代の書物に比べ、古代の文献の読解では必要な基礎知識の量が多いが、それらをまとめた資料を作成し配布することによって、物語の解釈のための時間をもつことができるよう努めた。期末レポートからは大部分の履修者が上記の目標を達成できたことがうかがえた。

今期、特に注意したことは、授業の目標をわかりやすく履修者に伝えることだった。というのも、以前の授業評価で「到達目標を理解できたか」と「到達目標に向けて力がついてきているか」という項目の評価が他よりも低い傾向がみられたためである。そこで今期は目標を簡潔な言葉にまとめ、同じ文言を折に触れてパワーポイントを用いて示した。今期の項目5と項目6の平均値の上昇はこの効果だと思われる。これは今後も続けていきたい。また自由記述欄で肯定的なコメントが得られた授業資料についても継続したい。

今期の授業評価で気になる点は、回答数が例年よりも少なかった点である。授業内に時間を設けたが、十分でなかったかもしれない。来期は余裕をもって回答できる時間を確保するよう注意したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織神学(キリスト論A)  
授業コード 21C36-001  
教員名 VARGHESE, Rejimon  
教員コード 100555  
登録人数 14  
回答数 7  
回答率 50.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2022年度Q3の組織神学(キリスト論A)は対面による講義形式授業でした。

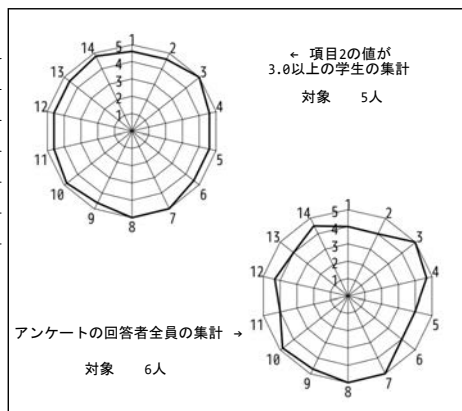
① 学生による授業評価によれば、開講当初に設定していた目標に到達したと思います。その目標は概ね新約聖書における各出来事においてキリスト論的内容を理解できるようになることでした。それと同時に、新約聖書の各文書に表されたキリスト論的特徴も理解できるようになることでした。この項目に対する学生による評価点は4.71だったことはそれを物語っているのと思います。

② 学生によるこの授業の評価項目1～17の総合的点は4.82になっていることは良かったと思いつつ、評価項目5及び12～14にもう少し配慮が必要かなと感じました。ここの難点は、それぞれの学生によるイエス・キリストについての知識ともっと学びたいという意欲がまちまちなので、一人ひとりを別々扱いすることにもやや不便があるかと思えます。大体すべての学生に通じるように講義に取り込んでいました。学生には授業内容が分かりやすかったということは、講義録を配布し、それにその内容のまとめをパワーポイントを使いながら大きな声で講義していたからでしょう。視聴覚機器のため、パワーポイントがよく見えなかったというコメントがあるが、座席はいつも自由だったので、学生がパワーポイントがよく見える角度に座ればよかったです。椅子の余裕が十分にあったからです。

③ 学生の評価によると、それほど改善が必要ではないと思いつつ、今後の抱負や方針として既に上述した評価項目5及び12～14を念頭に入れておく必要があると思いました。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	組織神学(神学的人間論A)
授業コード	21C39-001
教員名	SOUSA, Domingos
教員コード	100753
登録人数	7
回答数	6
回答率	85.7%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



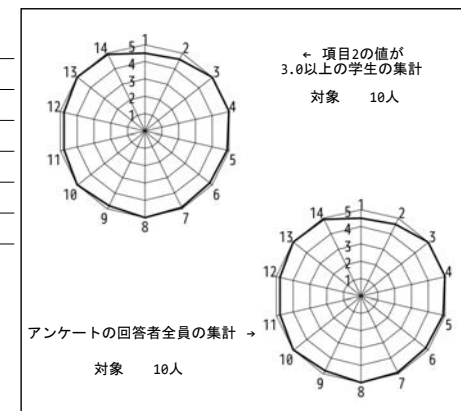
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、旧約聖書と新約聖書に描かれている人間観を明らかにした後、その人間観がギリシア哲学と出会うことにより、どのような変貌を遂げ、展開していったかを検討する。代表的思想家の著作から収集した箇所を精読し、そこに展開しているキリスト教の人間論を把握する。これを通して諸思想家の思想に実際に触れてもらうとともに、受講者の研究に必要な文献の基礎的解読力・分析力を高めることを目指している。パワーポイント利用で講義したが、学習の補助のため各項目の内容をまとめたプリント教材も配布した。

本講義に対する学生の評価結果は、全体として比較的高いと思われる。自由記述には肯定的評価として「授業ごとに質問に対して丁寧に回答、解説していた点」「授業での人間論に関するそれらのテーマについては非常に興味深いと思います」等が挙げられる。予習や復習などについての得点は多少低いので、彼らの自主的な学習を促すような働きかけを行っていく必要があると考えられる。今後はこの点に留意して授業に取り組んでいきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教に見る人間の尊厳7
授業コード	10D01-007
教員名	斎藤 喬
教員コード	103192
登録人数	30
回答数	10
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

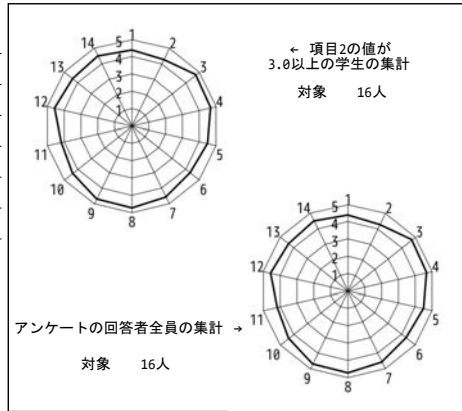


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① この授業は、「世界の諸宗教の教典と現代まで受け継がれる信仰生活の特色を、複眼的に把握することができる」ことを到達目標としてシラバスで提示しているが、ミニテストの答案および期末レポートの記述はたいへん質が高く、さらに授業評価アンケートと自由記述回答から総合して判断した結果、到達度は90%に達していると言える。
- ② この授業の項目1から14の平均は4.86で、項目3から14の平均は4.91であった。当該クォーター「人間の尊厳」科目における前者の平均は4.53で、後者の平均は4.60であることから、それぞれ平均より0,30ポイント以上も上回っていた。さらに自由記述回答では、授業の形式や内容に関してポジティブに評価する意見が多かったことから、自己点検・評価としてはこのやり方を踏襲しつつ授業の質を維持していくことが肝要であると考えられる。
- ③ 以上、授業評価アンケートから改善すべき点は特に見当たらないため、「宗教に見る人間の尊厳」科目としての今後の抱負は、「信仰を前提としない宗教文化理解」の重要性が今日的な課題としてあらためて浮き彫りになる中で、受講者の学術的な興味関心に応えるべく説明の仕方をアップデートしていくことを目指したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	性と生命における人間の尊厳1
授業コード	10D06-001
教員名	中尾 央
教員コード	102505
登録人数	81
回答数	16
回答率	19.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

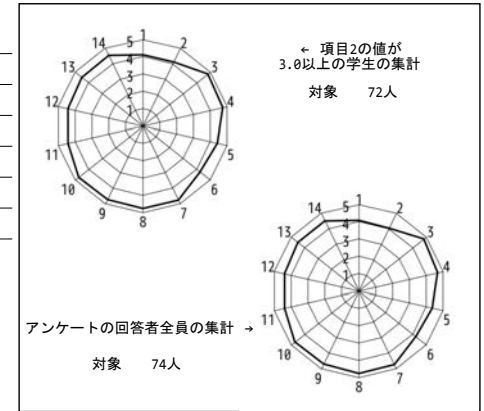


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
以下二点を挙げた。
  - ・進化生物学の基本について理解をしている。
  - ・進化生物学がわれわれの人間理解に対してどのような含意をもたらさうか考察できる。
 アンケート結果を拝見している限り、両者とも概ね達成できたように思われる。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
どれも4を下回る項目はなかった。主体的な取り組みや「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供」といった点が比較的点数が低かったため、今後気を付けるようにしたい。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
上述のように、学習意欲をどう引き出すかが課題であろうか。進化生物学の授業であるため、動物園見学や課外授業などを考慮しても良いのかもしれない。受講者数次第ではあるが、次年度考慮してみたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民族問題と人間の尊厳2
授業コード	10D08-002
教員名	宮脇 千絵
教員コード	152580
登録人数	187
回答数	74
回答率	39.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



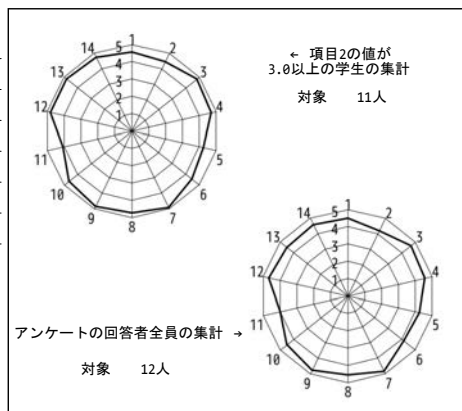
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 「人間の尊厳」科目である本授業は、「当たり前」を問う姿勢や世界で起こっている様々な事象について理解し、自分の言葉で述べられることを目標としており、毎回のリアクションペーパーや最終レポートの結果からもおおむね達成できていると考える。ただし、質問5、6の値を他項目より低くつけている学生も散見され、文化人類学をベースとした授業内容に親和性が高い学生とそうでない学生との差が現れているようにも感じる。
- ② 自由記述のポジティブな評価では、授業内容の満足度や写真・映像資料が多いことを好意的にとらえる意見が多かった。受講人数が多い講義授業かつ2コマ連続であったので、なるべく単調にならないよう工夫した。一方で、学生の積極的な参加を促したり、質問や相談の機会を設けることへの難しさも感じる。毎回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、コメントを付けてまとめたものをDLサーバにアップし閲覧できるようにしているが、これを単なる「評価対象の課題」と捉えず、より幅広くコミュニケーションをはかれるツールと捉え活用してもらえよう、より工夫していきたい。
- ③ 今回、受講生からは大きな改善点は寄せられなかったが、授業内容への関心を高めたり、目標を達成できたと感じられるような工夫は進めていきたい。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本史A2  
授業コード 12B03-002  
教員名 青山 幹哉  
教員コード 019323  
登録人数 32  
回答数 12  
回答率 37.5%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

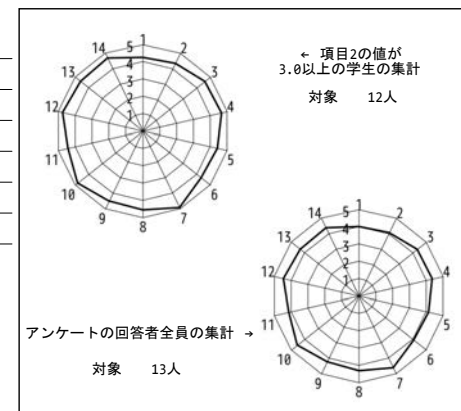


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 目標は、(1)日本古代中世史についての基本的知識を習得することができる。(2)一つの歴史的事実に対して複数の見方があることを理解し、多面的な思考力を養うことができる、の2点であった。設問6の平均値は4.17であったので、受講生はおおむね目標を達成したと満足したようである。ただし、1時限かつ課題提出の多い授業であったためか、学期途中で受講を断念した学生も多かった。
- ② この科目は、2020年度Q2学期における学生評価の対象であった。設問1～14の回答平均値を比較したところ、今回アップした設問数は9つ、ダウンした設問数は4つ、同じであった設問数は1つであった。2020年度は3時限かつオンライン授業であったためか、受講生も80名超であったのに対し、本年度は対面授業で受講生30名程であった。そのため、一概に対照しづらい点もあるが、ほぼ同程度の評価であった（項目3～14の平均値は4.47から4.51へと僅かに上がった）。今期もWebClassに「質問コーナー」の掲示板を立ち上げたが、自由記述に「好きな時に質問できるのも嬉しかった」とあるように、好学の学生には役だったようだ。
- ③ 自由記述で「なぜ出席率が悪かったのかよく分からないくらい分かりやすく面白い授業だった」と書いた学生もいたが、それでも出席率（および単位取得率）の上昇にはつながらなかった。学習意欲を引き出すためのさらなる方策を考えたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東洋史B  
授業コード 12B06-001  
教員名 西江 清高  
教員コード 019356  
登録人数 68  
回答数 13  
回答率 19.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

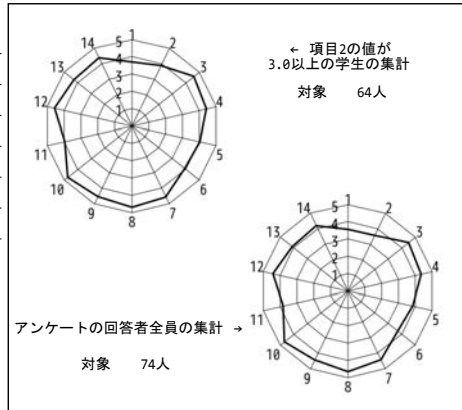


授業評価結果を踏まえた点検・評価

東洋史Bは共通教育科目であるが、例年は人文学部生が受講生の比較的多くを占める科目であった。しかし今年度は時間割の関係なのか、受講生に大きな変化があり、全学すべての学部から偏りなく受講生があつまっていた。中国をおもな対象に、アジアにおける古代文明の形成史と現代史的な課題を考える本授業であるが、幅広い学生が受講してくれたことはたいへんよかったと思っている。受講生による評価内容であるが、昨年度と比べても大きな変化はなかったようである。共通教育の授業ではよくあることかと推測するが、受講開始前には特に関心をもってはなかった授業テーマであったが、最終的には学ぶところは少なくなかった、という評価が得られていると思われた。今回は「ハイブリッド」による授業運営であったが、当初私の不慣れもあって、器機の操作で混乱することもあった。オンライン形式の採用によって、従来の紙ベースの配付資料を完全になくすことができたのは、省エネを考えるとよいことかと思われる。一方で、レポート内容のお知らせ文書などを、資料DLを通じて早めにUPして授業を進めていたが、「必要な情報」が得られると欠席しがちになる学生も一部散見された。授業そのものにさらに学生を引き付ける魅力をもたせるよう、今後とも工夫が必要であると考えている。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジアとの出会い2
授業コード	13B02-002
教員名	宮沢 千尋
教員コード	019562
登録人数	199
回答数	74
回答率	37.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



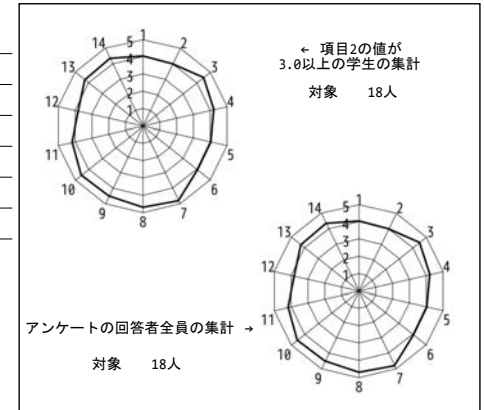
授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3-14の平均値が4点台であり、ほぼ学際科目の平均値だが若干は下回るといういつもながらの結果である。各項目別に見ても平均値を上回ったのは、項目8-10,12のみである。項目13の平均値は4.09（学際科目平均4.34）、項目14の平均値は4.19（学際科目平均4.28）で平均は下回っている。一方、期末レポートの結果は履修者の9割がレポートを提出し、平均点は70点以上だった。完璧ではないが、当初に設定した目標と到達度には達していると思うが、履修者の自己評価は低く、項目5の平均値は3.88（学際科目平均4.09）、項目6の平均値が3.70（学際科目平均3.97）である。

◎自由記述をしてくれた学生からの評価は高い。「日本のみではなく、アジア圏、ひいては全世界の歴史のそれぞれの国の情勢等に関連付けて解説し、現代のあり方にどう結び付いているかを理解することができた。内容も大学レベルの高度さであるが、世界史を学んでいなくてもきちんと理解することができた」「高校や中学で習ってきたアジアのことをより深く、因果関係はより詳しく知ることができる」という評価は嬉しかった。項目16は私語厳禁への不満とレジメが見にくいというのが各1件あったくらいである。しかし、授業評価回答率が3割であり、多くの学生にとっては魅力ある授業ではなかったようなのでより履修者をひきつける努力をしたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	イスラムとの出会い2
授業コード	13B03-002
教員名	石原 美奈子
教員コード	100080
登録人数	43
回答数	18
回答率	41.9%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、以下のような到達目標をたてて講義を行った。

1. イスラームについて基礎的な知識をもっている。
2. イスラームが歴史のなかで形成されてきたこと、さらにはその過程、すなわちイスラーム史について一定の知識をもっている。
3. イスラームの近現代史のなかでサラフィー主義（イスラーム復興主義）が発展・普及したことを理解している。
4. サラフィー主義（イスラーム復興主義）がどのような考え方であり、どのような政治問題や社会現象と関連があるのかについて修得している。

例年になく履修者数が少なかったため、履修生ひとりひとりの顔を見ながら気持ちよく講義を行うことができた。講義は、パワーポイントをみせながら、解説を行うという形式（1回だけ、DVDを鑑賞した）で行い、ほぼ毎回、前回分の小テストを実施した。なお、最終の筆記試験では、小テストの内容がかなり盛り込まれていたため、出席して毎回小テストを受けた者は最終試験でも高得点がとれていた。

学生からの評価は、一定の水準に達しているようであるが、パワーポイントのスライドに内容を盛り込む過ぎる、進み方が早すぎるという指摘があったり、質疑応答の時間を設けているかという質問項目の点数が低い、という反省すべき点もあり、来年度からは以下のように対応しようと思う。

1. パワーポイントのスライド1枚あたりの情報量を減らす。
2. 最後の小テストの時に、質問も合わせて書いてもらい、次回にその回答をする。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報サービス演習I2

授業コード 15P12-002

教員名 浅石 卓真

教員コード 103263

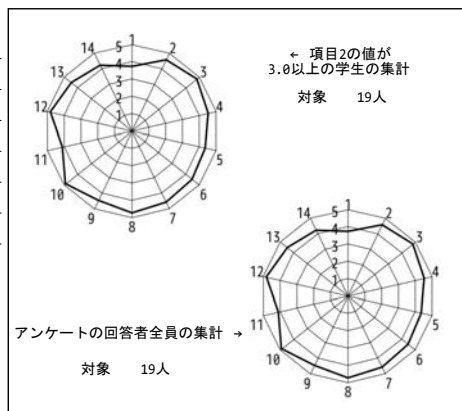
登録人数 29

回答数 19

回答率 65.5%

休講回数 1回

補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開講図書として「1. データベースガイダンスを実践できる」「2. 情報検索サービスのための多様なデータベースを活用できる」「3. リンク集を作成できる」を挙げた。それぞれについて提出課題を見る限り、ほとんどの受講生は目標に到達していた

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

数値データについては、項目1から14の平均が4.49、項目3から14の平均が4.54であった。同程度の受講者数の科目の平均を超えているため、大きな問題はないものと考えている。自由記述では「データベースを使った情報検索ができるようになった」という意見が複数見られたのも評価できる点である。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

自由記述の中には、「リンク集の作成方法についての説明が不足していた」「声が聞き取れなかった」という意見も少数ながら見られた。これらについては、今後の改善点としたい。また、情報検索課題については、課題が早く終わってしまう人と、逆についていけない人がいるため、来年度については必須問題と選択問題を作るなどの工夫をしたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 言語学概論

授業コード 22B01-001

教員名 青柳 宏

教員コード 017004

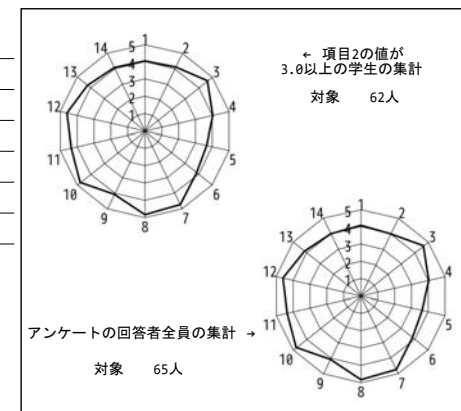
登録人数 102

回答数 65

回答率 63.7%

休講回数 0回

補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標到達度について

今Qは以下の2つの目標を掲げた。

1. 日本語や英語といった身近な言語だけでなく、他のさまざまな特徴を持った言語があることが理解できる。
2. 世界の言語には多様性があるばかりか、普遍性があることが理解できる。毎回の講義で実施した小テストおよび期末テストの結果をみながぎり、目標に余裕を持って到達した学生とそうでない学生の差が大きい。

② 自己点検・評価

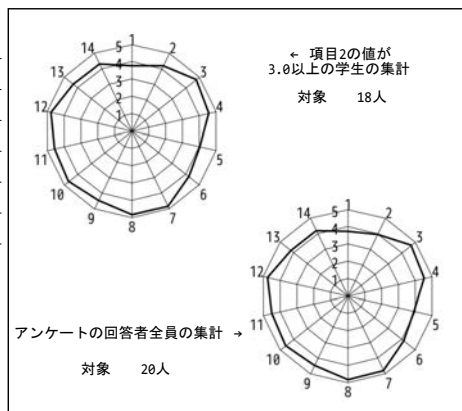
項目1～14と項目3～14の平均値は、それぞれ4.27、4.31で、本科目の開講主体である人類文化学科および日本文化学科の開講科目の平均値と大きな差はない。ただし、項目5、6、14が4点を切っているのが反省点である。自由記述をみても、毎回講義の最後にLMSに質問を上げる時間を設け、次回の講義の冒頭でそれに答えたことを評価するものが多かったが、それに拘りすぎているとの指摘もあった。講義内容が興味深く、説明の仕方もわかりやすいという意見もあれば、内容が難しすぎるという意見もあった。

③ 今後の抱負

今後もLMSやPPTおよび板書を駆使してわかりやすく双方向性の高い授業を目指したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の倫理学  
授業コード 22C11-001  
教員名 奥田 太郎  
教員コード 100642  
登録人数 64  
回答数 20  
回答率 31.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



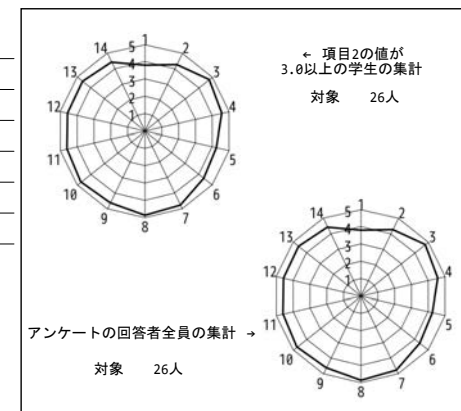
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開校当初に設定した目標は、シラバスに示した通り、(1) 倫理学という学問の基本を理解している、(2) 専門知と倫理の関係がなぜ問題となるのかを理解している、(3) 提示された分析や議論に対して、自分自身がどのようなスタンスと考えをもっているのかを意識できる、の3点であった。論述課題は、これらの目標が達成されていれば好成績になるように設定されており、採点結果を見る限りでは、受講者の多くは十分に目標を達成している。一方で、授業の到達目標に関する項目(5と6)の回答平均値は高いとは言えず、受講者たちの到達目標に関する「自覚」は必ずしも十分でなかったことが窺われる。しかし、この点については、自分自身の了解範囲の外側にいかに知的に到達するかを重視する、という人文知のあり方の根本にもかかわる部分であり、授業期間中という短期間での「自覚」が望ましい到達状態かは慎重に見極める必要があるだろう。

今回は、対面での授業であったため、出席している受講者の反応を見ながら、じっくりと進めることにしたのだが、その点について、自由記述欄で好意的なコメントが複数あった。他方、レジュメ投影に加えて視覚的にわかりやすいスライドの使用を求める声もあり、資料の作成について改善の余地があるとわかった。今後、基本的スタンスは維持し、さらなる工夫を重ねたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民族誌論  
授業コード 22C35-001  
教員名 藤川 美代子  
教員コード 103115  
登録人数 57  
回答数 26  
回答率 45.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

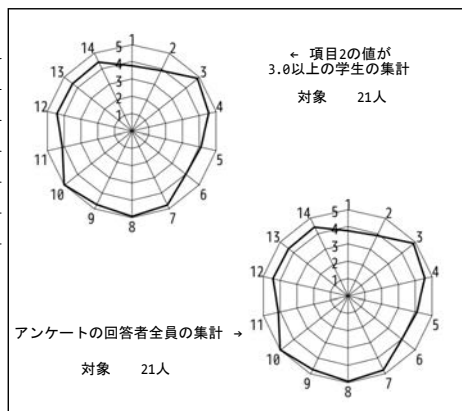


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①当初、以下のことを目標として掲げていた。1. 民族誌を読み、内容および関連事項について考察・議論する力が身についている。2. 「民族誌を書く」とはどのようなことか、説明できる。3. 文化人類学的思考を理解している。これらの目標の達成度については平均「4.27」との回答があり、よい結果になったのではないかと考える。②この授業は事前に全員が該当箇所を読み、読書ノートを作成し、発表者はさらに議論の口火を切るために論点を整理することを課していたので予習の負担が大きかったという感想が多く寄せられた。とはいえ、読書ノートの作成を課しないと自分の発表担当部分しか読まず授業に参加できない履修者が増加することも予想されたので、これは「民族誌を読む」という授業の性格上、やむを得ないことであると感じるので、この形式は継続したい。きちんと参加した学生からは概ねよい反応をもらっているのも、充実した授業運営ができたものと考えている。③受講者が予想以上に多かったために授業中の討論で偏りなく大勢の意見を聞くことが困難であったこと、発表を担当しない回に欠席したり、発表を割り当てられた回に連絡なく休んだり、割り当てがあるにもかかわらず履修中止にしたりする学生がおり、授業運営に支障をきたしたことが反省点として挙げられる。初回で授業の負担や発表者の重要性、発表しない回にも討論に参加することの重要性を何度も伝えたにもかかわらず、これらが発生していたので何らかの措置を講じる必要があると思われる。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人類文化学特殊講義（弥生・古墳時代論）  
授業コード 22C78-001  
教員名 黒澤 浩  
教員コード 100758  
登録人数 26  
回答数 21  
回答率 80.8%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

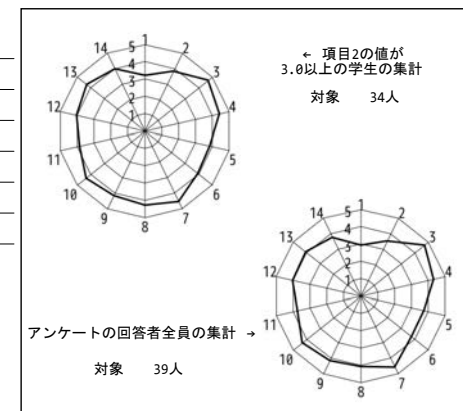


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問項目1・5・6が比較的低いことから、本授業のテーマに必ずしも関心の高い学生が受講しているわけではないという傾向がうかがえる。そうした中で、設問項目12・13が比較的高いことから、授業の中で本授業のテーマに関心が高まっていったという傾向も読み取れる。ただし、授業の到達目標に関する評価が相対的に低いことから、授業の進行に課題を残していると言える。具体的には、本来のテーマに沿っているとはいえ、やや脱線気味のトピックなどを交えたために、時間が足りなくなるなどの事態となったことである。しかし、一方では、そうしたトピックスの方が学生の記憶には残っているようで、全面的にやめるわけにもいかないだろう。その加減が難しい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[H・F]5  
授業コード 10A51-006  
教員名 ABRAHAM, Joy Plathottathil  
教員コード 104278  
登録人数 118  
回答数 39  
回答率 33.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

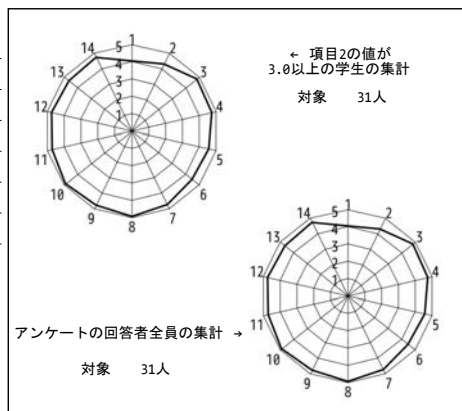


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course was specially designed for students who are not acquainted with Christianity. From the very outset each class was planned in such a way that the students could come to contact with basic values which the Christian teachings upheld. Although the class room was too small for the number of students attended the class there were some practical exercises to enrich the self-awareness. The students were very cooperative. Much of the presentations with clarity and therefore, the students were encouraged to take note or make screen shots for the purpose of writing the class reviews. In order to avoid any misunderstanding regarding the person of Jesus the importance of the Second Testament of the Bible was high lightened and only necessary material were given. Three-fold unexpressed aims were: develop a love to know more about the person of Jesus, exploring the inner dimensions of human values presented in the Bible and a critical evaluation of one's own life. All these areas were very well covered in the reviews of the students and in their final report. Therefore, the course was successful and useful as far as my considerations go.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育・文化における人間の尊厳1  
授業コード 10D07-001  
教員名 青木 剛  
教員コード 103923  
登録人数 38  
回答数 31  
回答率 81.6%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

本科目では、講義で説明された健康観、心理学概念を理解し、健康の多様性について理解を深め、自身の健康観を主体的に考え自身とは異なる健康観との共生に向けて創造的に思考を展開できることを目標としていた。そのために、講義以外にもディスカッションやグループワークを含む演習を実施したが、受講生は、熱心に取り組み互いに発想したことをシェアすることを通して多様性への理解を深めているように見受けられた。また授業内でも積極的に発言がなされていることから、主体的に授業に関与している様子であった。これらのことから、本科目の到達目標は達成できていたのではないかとと思われる。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

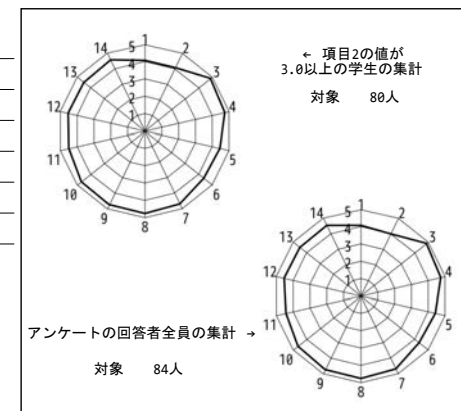
アンケート結果は全ての項目で4以上であり、学生から高い評価が得られたことが見受けられた。また、自由記述からも、教員-学生間や学生同士でやりとりをしながら進められた点が評価されていたことが伺えた。到達目標の達成のためにディスカッション等を取り入れた授業計画を立てていたが、そのようなセッティングが授業効果を高め、学生の満足度を高めていることが分かった。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今後も、上述のような学生による授業評価や授業の満足度を参考に自身の担当する科目で工夫したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育・文化における人間の尊厳6  
授業コード 10D07-006  
教員名 西脇 良  
教員コード 100623  
登録人数 188  
回答数 84  
回答率 44.7%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義では、①学童期の発達課題、教育上の問題、文化面での諸問題に関する基礎的知識を習得していること、②自身の生育経験との照合をおこなうことで、教育に対する自らの見解を深めていること、を学修目標としました。

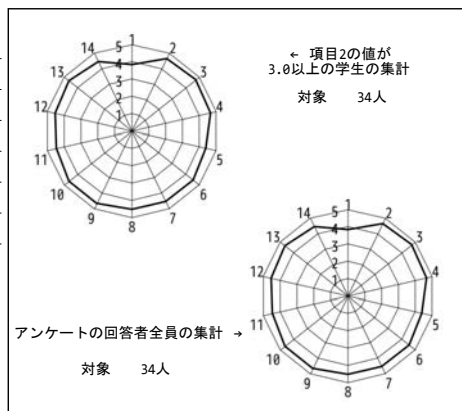
学生の皆さんからの評価ですが、全体としては「まあよし」との判断であったように思います(全設問の平均値=4.52)。この値は、「人間の尊厳」科目の平均値(4.53)とほぼ同様であり、かつ、評価対象科目全体の平均値(4.35)を若干上回っていました。

自由記述についてですが、まず肯定的な意見として、「講義の進行速度が適切で、詳しく理解しやすく講義を進めた。」「文章だけでなく、様々な動画や資料を見ながら進められてとても分かりやすく内容が頭に入ってきたこと。」「自分の体験や経験と照らし合わせて学習できる点。」「声が聴き取りやすいので集中して受講できました。」等の評価を頂戴いたしました。これからも、最新データを紹介しつつ、皆さんを知的に刺激できるような授業を追求して参りたいと思います。

他方、改善すべき点として、「授業中の私語がめちゃくちゃうるさかったが、ほとんど注意してくれなかった。」「どうしようも無いと思うが、資料が二度と見られない物が多かった。」の2件を頂戴いたしました。授業中の私語については、(集中して話しているため)なかなか気づかなかったところもあったかと思えます。今後は、授業内の私語についても一定のルールを設け、より集中できる環境づくりに努めたいと思います。提示資料については、Webclass上に掲載しているものについてはいつでも利用できます。ただし、映像資料等、プライバシーや著作権保護の観点から授業内での視聴にのみとどめているものがあります。このことを、授業初回で触れておくべきでした。今後は、そのようにアナウンスさせていただきます。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IC  
授業コード 23A06-001  
教員名 浦上 昌則  
教員コード 018788  
登録人数 41  
回答数 34  
回答率 82.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

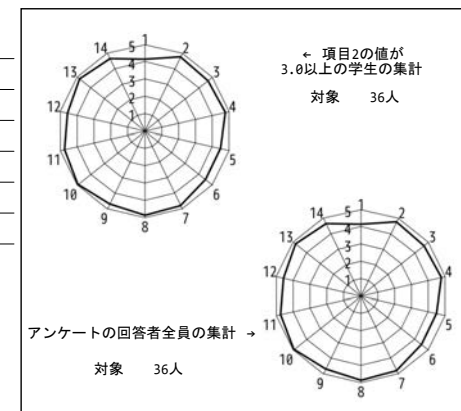
人間科学を学ぶ上で必要となるデータの扱い方、統計的な考え方の基礎について理解することを目的とする。具体的には、統計の必要性を理解する、アンケート結果を的確に読み取るための知識を身につける、Excelを用いて簡単な統計処理ができる、記述統計についての基礎知識を習得する、などを到達目標としている。

授業評価の回答は、概ね平均値が4以上であり、まずまずの評価を得られたと考える。授業形態として反転授業的なものを採用しているので「予習で自分がやりたいだけ時間をかけて学習できるのが良かった」、「グループでの教え合いがあることで、予習をしっかりとやることに責任を持てた」といった意見があったのは評価できる成果といえよう。改善点として、「Excel課題についてもう少しやり方を教えてほしかった」との意見があったが、参考資料のさらなる提供などを考えたい。

なお、「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」という設問に対する回答の平均値は3.82と低く、20%程度の学生が1もしくは2を選択し、興味が2極化していることがうかがえる。必修科目でもあり、興味がひく科目か否かは特に問題ではないだろうが、こういう先入観は学習行動に影響するかもしれない。このような2極化がなぜ生じているのかという分析も必要だろう。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IC  
授業コード 23A06-002  
教員名 藤田 知加子  
教員コード 100382  
登録人数 41  
回答数 36  
回答率 87.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

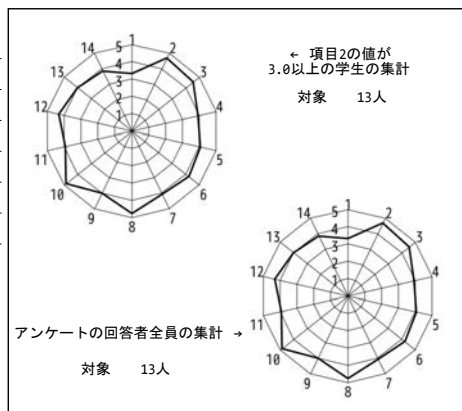


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 小テストの結果および、学生の評価から総合的に考え、当初に設定していた目標にはほぼ達していると考え。
- ② 「グループワークの時間がほとんどなので、疑問を十分に解消できたことが良かった」、「予習復習が必須のため、主体的に学ぶ姿勢をはぐくむことができる」、「予習、復習の構成がしっかりしていて、学習がしやすかった」、「予習課題をどうすればもっと良いものにできるかの説明が的確だった」、「予習課題と復習課題があることで、自分の理解度を把握し、学習したことをしっかりと定着させることができた」など、総合的に本学科が期待している効果が認められたと思われるような記述が多くあった。これらの記述から、反転授業の形式がうまく適合していると評価できる。
- ③ 改善点として学生があげていたものは、自主的な取り組みで身に付けて欲しい内容に対する「サービス」を求めるものが多く（例：グラフの描き方の指示が細かいので資料や動画が欲しい）、これらの内容はこの授業個別に情報提供が必要な内容ではなく、各自がWebで検索することで十分収集できる程度の情報であると思われる。また、予習の出来具合に対する評価にも疑問が付されていたが（例：わからないからまとめられないのに、うまくまとめていないと評価されないのではないか）、わからないことをどのように調べ、何がわかり何が疑問として依然残ったのかなど、自分の学習をモニタリングできる取り組みとその報告が必要であるということが、十分に伝わっていなかったと思われる。次学期は、これらの情報も事前に十分に学生に伝えることが必要であろう。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IIB  
授業コード 23A09-002  
教員名 高橋 亜希子  
教員コード 103582  
登録人数 31  
回答数 13  
回答率 41.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

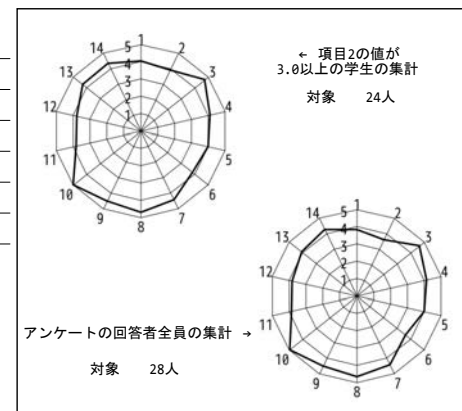


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講時には、それぞれの発表グループの研究の支援を丁寧に行うことを目指していた。自由記述の回答に「先生が各グループを回ってくれたので、進捗状況に応じたアドバイスをもらいやすかった。」「教員に質問できる時間が十分に取られていること」「先生がそれぞれのグループの研究に寄り添ってくれたこと。」との回答があり、支援を受けられている感を学生が持っていたことは良かった。② 総合的な自己点検・評価については、それにも関わらず満足度が4に至らなかった点が反省点である。一つはグループの中の関係性の支援がもっと必要だったかもしれない。「グループで活動を行うため、どうしてもグループの中で人任せな人が出てくる。」「友人のグループメンバーが授業、話し合いに参加しないような人で、授業外での活動で苦労していたようです」など、協力関係の構築に課題があったようであるため、グループでの役割分担、関係性の形成にも支援が必要と考える。もう一つは、授業のスケジュールである。「研究を行うにはレジュメの提出期限が早すぎるように感じた」という意見があり、研究を十分に行う時間が足りなかった側面がある。③ 今後の改善点としては、②に挙げた関係性形成への支援、スケジュールの再考（4クラス共通の課題）を行っていききたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育社会学  
授業コード 23C13-001  
教員名 加藤 隆雄  
教員コード 019349  
登録人数 47  
回答数 28  
回答率 59.6%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回



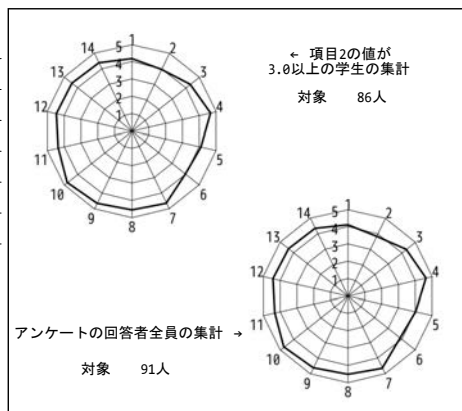
授業評価結果を踏まえた点検・評価

パワーポイントによる授業を行った。台風接近による休講が2回分あったため、急ぎ足の授業となった。大部分の項目で4以上であり開講当初に設定していた目標にはおおむね到達したと言える。昨年度、100分14回授業に対応できない部分があったが1回分の授業内容の見直しでだいぶ改善された。ただ資料編集に時間がかかる場合もあり、これが「前日までに資料を上げてほしい」「予定通りに進行してほしい」という声に関連していると考えられるものの、少し厳しすぎるコメントであるとも感じた。レジュメを廃止し、すべてダウンロードによるペーパーレスの授業としたことに対する直接的な批判はなかったものの、カラーで印刷するとスライドの色が黒くなるなどの意見があった。これは、モノクロやグレースケールでの印刷について知識がなかったからだと思われる。良かった点として「スライドが充実していた点」「説明が丁寧で内容が理解しやすかったこと」「資料が事前にしっかりアップされ、かつまとまって見えるものがあるからありがたい」「資料の量が多く、情報を多く得ることが出来る」「講義を聞いて興味がわき、読んでみたい文献が見つかった」「レジュメがあるので、復習しやすい」「各回の目標が明確で授業が理解しやすかった点」「具体例やグラフなどが多く取り扱われていたこと」「工夫を凝らした先生のスライド。面白い」などの意見があり、こちらの意図がよく伝わったと思う。今後パワーポイント資料の充実を図っていききたい。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学B  
授業コード 12A04-001  
教員名 辻本 裕成  
教員コード 019042  
登録人数 123  
回答数 91  
回答率 74.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

休講は台風の接近によるものである。

シラバスに記載した到達目標は以下の通りであった。

- 1 古典文学を専攻する予定の学生については、古典文学研究の諸問題に関する入門的な知見を得ている。
- 2 古典文学を専門に学ぶ予定のない学生については、教養、趣味としての古典文学の面白さに気付いている。
- 3 人間の想像力の豊かさ、面白さに気付いている。
- 4 古典和歌の豊かな表現性や、歌人達の数奇な人生に興味を持っている。
- 5 文学作品の享受を通じて、時代による思考様式の移り変わりに気付いている。

自由記述欄を見ると、2、3、4にあてはまるような記述が拾えるので、2、3、4についてはある程度達成できたのではないかと思います。

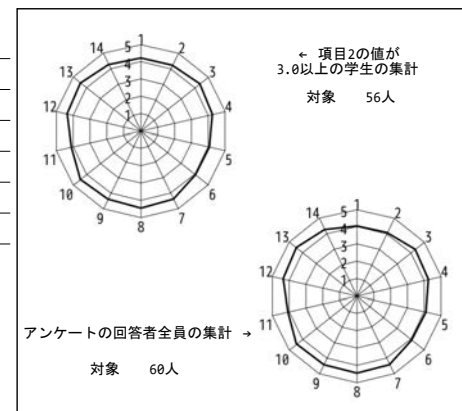
1、5については今後の課題としたい。

本授業は、古典文学を扱うという点で、高校の授業との共通性があり、高大の連結という役割を負っている授業だと自覚している。そのために、高校で扱うであろう作品のより深く、学問的な内容を講義することに努めた。そのためか学生の食いつきはよかったように思われる。

資料は紙媒体によったが、それを評価する記述が複数あったのは意外であった。パワーポイントよりも紙の方がいい場合もあるようだ。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報2  
授業コード 13E09-002  
教員名 坂井 博美  
教員コード 102981  
登録人数 190  
回答数 60  
回答率 31.6%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回

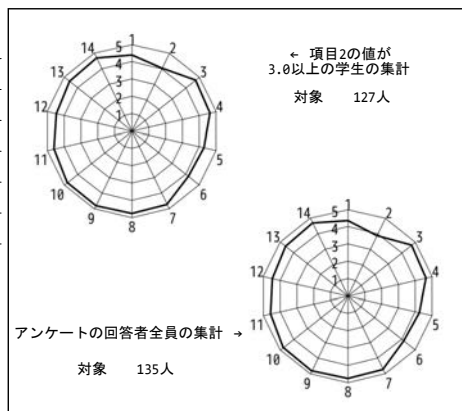


授業評価結果を踏まえた点検・評価

全設問の平均値の中では、設問13「授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」のポイントが高かったことは、担当者として肯定的に捉えることができると感じており、一定程度、開講当初に設定していた目標は概ね達成できたと考える。ただし、台風により休講が発生したため、授業の進行の調整をする必要が生じた。授業では、各時限ごとに小課題を提示し、次の授業で提出された疑問点や意見を紹介し、回答する時間をとった。この点は、他の学生の意見を聞いたことがよかったとの記述があり、今後も継続していきたい。課題は授業内に提出できるような時間を割いたつもりではあったが、課題がなかなか難しく少なきつい時があったとの自由記述がみられ、時間配分を今後調整するなどしていきたい。また、機材のトラブルや、マイクを通した声が聞き取れないことがあるという意見が複数あり、この点、機材の調整を含め改善していく。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文化学入門  
授業コード 24C01-001  
教員名 福本 拓  
教員コード 104126  
登録人数 192  
回答数 135  
回答率 70.3%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

各項目別に見て平均を下回るのが、項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」であった(3.89, 全体平均4.08)。いくつかの回で事前資料を準備していたが、周知が行き届いていなかったかもしれない。事前学習資料の理解についての課題提出やそのフィードバックの機会を設けるといった方策を検討したい。

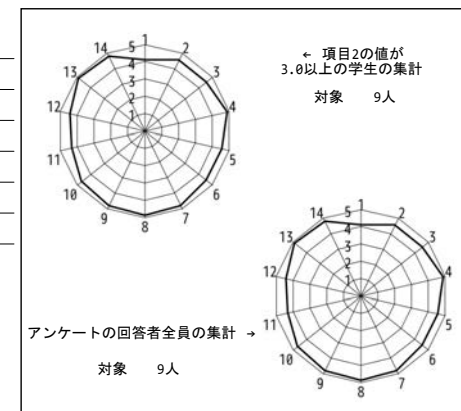
また、平均との差分が小さい項目としては、項目12「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。」(4.46, 全体平均4.41)が挙げられる。各回の進行に時間的余裕がなく、質問への回答に十分な時間を割くことができなかった。100分授業を始めて二年目ということもあり、全体の構成のあり方については引き続き修正を加えていきたい。

(なお、今期は台風で1回休講になったことで全体のスケジュールがタイトになったという事情もある)

それ以外の項目はおおむね全体平均を上回っており、これまでの改善に向けた成果が現れているものと考えられる。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文化史A  
授業コード 24C11-001  
教員名 松田 京子  
教員コード 100789  
登録人数 36  
回答数 9  
回答率 25.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

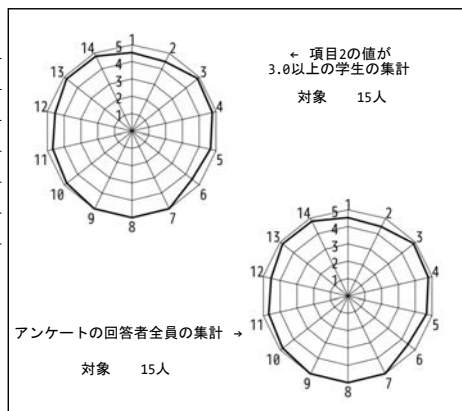
① この授業では、近代日本の社会・文化および思想状況を、博覧会という具体的な出来事を切り口として、博覧会の開催地となった都市空間の変容にも焦点をあてて考察するという全体テーマのもと、講義形式で授業を行った。主な教材としては、教員作成の配布プリントを中心に、適宜、写真や地図、映像資料等を提示しながら、テーマを掘り下げていった。そしてほぼ毎回、授業で取り扱った内容について感想や考えたこと、質問などを受講生全員に書いてもらった。そして次の授業の冒頭で、前回の復習も兼ねて、いくつかを紹介し、質問に答えることで双方向の授業展開を目指した。このような方法で授業を進め、開講当初に示した授業計画は、ほぼ予定通り進行することができた。

② 上記のような授業の構成や進度、授業に取り組む姿勢や方法については、「学生による授業評価」の授業評価集計の、設問4の平均値4.89、設問7の4.78、設問9の4.78という比較的高い数値から、おおむね好評であったと思われる。また新しい知識の獲得や理解の深まりに関する設問13の4.89、全体的な授業への満足度に関する設問14の4.78と比較的高い数値であったことは、大変励みとなった。ただし授業履修者36名に対して、アンケートを提出者9名とアンケートの回収率が低かったことは、反省点として残る。また自主的学習を促す働きかけに関する設問11の平均値は4.33と、改善の余地がある数値であり、この点も反省点である。

③ 以上のような反省から、今後は、自主的学習を促す働きかけをより具体的・積極的に行い、それらが主体的な学習により有効に結びつくよう、予習の課題の内容等についても再考していきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本文学史C  
授業コード 24C31-001  
教員名 岸川 俊太郎  
教員コード 103907  
登録人数 73  
回答数 15  
回答率 20.5%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2022年度Q3の開講科目「日本文学史C」について自己点検・評価報告を以下に行う。

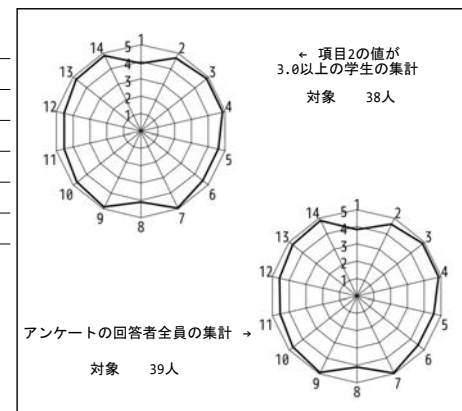
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問5、設問6でそれぞれ、4.67、4.47という評価を得たことから確かめられる。

次に、②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、全ての設問項目で全学部（全体）の平均値を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、ともに4.80という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。設問2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」）については、他の項目より評価が低かったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。予習に関しては適切な事前課題を課し、復習に関してはリアクションペーパー等の内容を次の授業でフィードバックすることで、学生の主体的な学びの充実を図りたい。また、授業で配布するレジュメについても学生の理解がより深まるように内容の改善に努めたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 漢文学研究I  
授業コード 24C45-001  
教員名 西岡 淳  
教員コード 019315  
登録人数 53  
回答数 39  
回答率 73.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

主な授業目標は、漢文の語法や語彙および基本的な工具書の使用法を身につけ、原文に即して適切な読解ができる能力を体得すること等である。本学期は正史『三国志』呉書・陸遜伝の和刻本をテキストとして用い、これを訓読によって読み進めた。授業形式は、次回読む部分を前もって指定しておき、受講生はその部分の書き下し文を準備した上で授業に臨み、授業における担当者とのやりとりを通じて各自添削し、毎回提出するというものである。今回は、受講者に毎時間課した提出物の出来具合に着実な進歩が見られ、それが定期試験にも反映していたこと、授業評価のほぼ全ての質問項目において高めの評価を得ていること（全項目の平均が4.62）などから、目標は一定程度達成されたと思われる。自由記述では肯定的な評価として、「課題を中心として授業が進むので、自然と、無理せずに予習・復習を行える」「指名された際に間違えていても丁寧に指導してくれる」「講義中に先生が丁寧に解説をしてくださり、提出したノートにもアドバイスをしてくださるので復習がしやすかった」「高校までの知識が生きていることを実感でき、その一方で複数の資料を踏まえた柔軟な解釈を養うという点で非常に大学らしい講義であるとも思った」などの評価が見られた。その一方で、「少し聞き取りづらい」との指摘が複数あった。対応可能なことであり、聞き取りやすく十分な説明をするよう心がけたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語史II
授業コード	24C48-001
教員名	平子 達也
教員コード	104112
登録人数	9
回答数	3
回答率	33.3%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

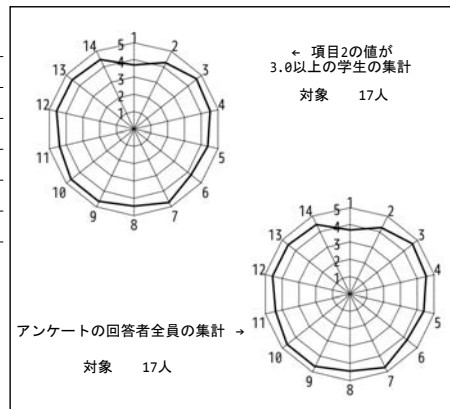
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

日本語音韻史研究の資料と方法およびその限界について理解していることを目標にして、授業を行った。提出されたレポートをみる限り、概ねその目標には到達しているものと考えられる。アンケート回答者が少なく、十分な把握はできていないが、学生側も内容面などには概ね高い評価を示してくれている。今年度は、学生に発言させる機会を意識的に多く設けるようにした。また、資料などを参照して考えさせる時間も多く設けた。その点が良かったのではないかと感じている。一方で、予習や復習について明確な指示ができていなかったり、そのための資料や材料を与えることもできなかった。次年度以降は、予習を如何にさせるかに力を入れたいと考えている。具体的には、予習を通じて、授業内容に対するモチベーションを各自が高めた上で、授業にのぞむことができるような工夫をしたい。また、昨年度来、内容が高度すぎるという意見も多々あるので、そのあたりも気をつけていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Society A1
授業コード	31C01-001
教員名	金 慧昇
教員コード	104504
登録人数	23
回答数	17
回答率	73.9%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

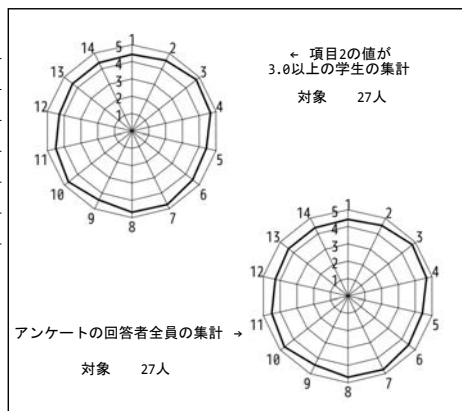


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、日常生活史の観点から19世紀のイギリス社会について理解し、現代社会との比較を通じて過去からの連続性と変化について考えることでした。そのために、毎回の授業の前半ではイギリス社会についてテーマごとに講義を行い、後半では講義の内容に基づいて過去と現在を関連付けて議論する時間を設けました。本授業を通じて、多くの学生が19世紀イギリスの歴史を学び、自ら様々なテーマについて考える機会が得られたことができたと思われまます。グループ・ディスカッションの後には、各グループごとに議論の内容について発表していただくことで、より積極的に議論に参加するように促し、他のグループの意見も交換することができました。最初本授業の内容について興味を持っていなかった学生もいたようですが、毎回議論を準備するための事前学習を通じて全体的にある程度は内容について理解が深まったように思われます。ただし、議論のために与えられた時間(30分程度)を少し長く感じられることもありまましたので、具体的な議論点を提示して、様々な問題について議論できるようにすることが必要であると感じられました。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Society E1  
 授業コード 31C05-001  
 教員名 森山 貴仁  
 教員コード 104589  
 登録人数 28  
 回答数 27  
 回答率 96.4%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Special Topics in English: Society E1は映像作品を通して社会を理解し、英語で議論することでオーラルコミュニケーション能力を向上させることを目的とする。それと同時に、COIL型授業としてUniversity of North GeorgiaのCandice Wilson准教授と協力し、日米の学生のオンライン交流も実施した。

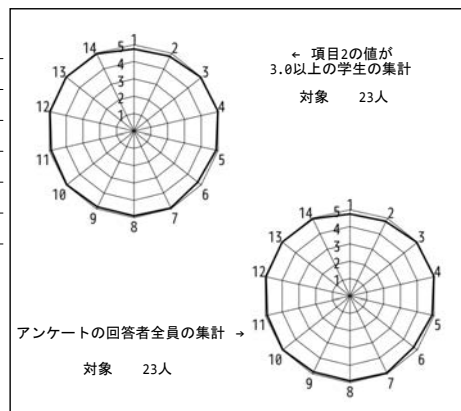
南山の授業ではハリウッド映画を鑑賞し、小グループにわけたディスカッションとクラス全体での議論を行なった。言語は基本的に英語とした。実際、受講者はほとんど英語で議論することができ、毎週全体の3分の2ほどが発言し、各学生はクォーターをとおして複数回にわたって議論に参加していたので、オーラルコミュニケーション能力を重視する本授業の目的はかなりの程度達成されたといえる。

COILプログラムでは、学生にジブリ映画から見てとれる「ジェンダー」と「環境」について何度かZoomでディスカッションをしてもらい、最後に10～20分のプレゼンテーション映像を共同制作することを課題とした。日米の学生をまじえた5つのグループをつくり、全てのグループが課題提出まで至った。

南山の学生同士の授業では学生の満足度も高かったようである。その一方、COILプログラムでは改善点が多い。アメリカ側には積極的な学生もいれば、連絡に全く応じない者までおり、相手校の生徒のモチベーションを高めるための工夫が今後の課題だろう。学生のコメントにもあったように、クォーター初めに学生と教員を合わせて顔見せをすることも必要だろう。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Language A<国際科目群>1 (英米学科生用)  
 授業コード 31C11-901  
 教員名 今井 隆夫  
 教員コード 104239  
 登録人数 25  
 回答数 23  
 回答率 92.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

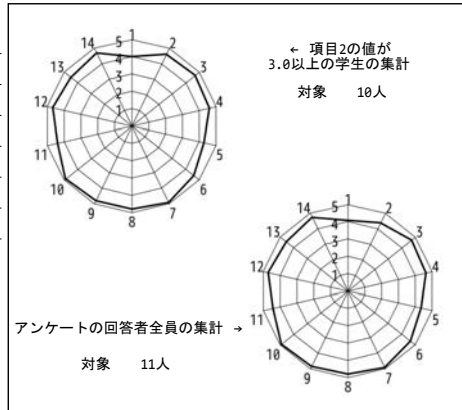
① 開講当初に設定していた複眼的な思考力の養成と英語での発信力の向上は、毎週提出してもらったフィードバックシート、最終レポートと本授業アンケート結果から、達成できたと思われれます。

② 受講生の数値データおよび自由記述から、授業の趣旨が理解され、ほとんど全員の学生が、授業内容に満足し、学びがあったと思われれます。数値データは、4.74～5.00の間に収まっており、満足度も4.96でQ1に開講した同科目の4.86よりも0.1ポイント上昇した。記述データでは、「ディスカッションが多く取り入れられており、クラスメイトの意見を聞くことができた。」「一つのフレーズからつなげて他のイディオムなどを説明してくださったので、非常に想像しやすくわかりやすかったです。」「グループディスカッションを行う機会が多かったため、自分の意見だけでなく、他のメンバーの意見もたくさん聞き、考え方の違いを多く発見することができた点。」「授業が面白いから100分がすぐに感じた」「たくさん英語で話す機会が設けられている。」「生徒が意見を言う時間をしっかりと取り、クラス全体で考えを深めることができた点。」「様々な日常的な表現を授業の冒頭に紹介してくれた点」「英語で発言する場が多く設けられていたので、英語力を高めることができました。」「先生が生徒達の興味を引き出すことがすごく良かったです」などのコメントからも当初の目標が達成でき、講義からと学生同士の話し合いの両方から多くの学びがあったことが観察される。

③ 来年度も今回の内容を踏襲し、さらに新しいテーマなども付け加え、現状を維持しつつ、さらに良いものを提供していきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Interdisciplinary Studies D<国際科目群>3 (英米学科生用)  
 授業コード 31C19-905  
 教員名 大井 由紀  
 教員コード 101888  
 登録人数 20  
 回答数 11  
 回答率 55.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

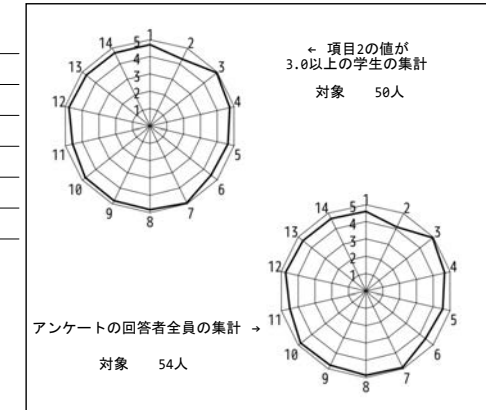


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① この講義では、次の2つの目標を立てていました。
- 1.) understand important migration issues in the United States.
  - 2.) be able to compare migration issues and policies of the United States with other countries.
- 移民にまつわる様々なイシューを紹介し、日本との比較するセッションを間に挟むことができたので、達成できたのではないかと思います。
- ② 授業中のグループディスカッションに関しては言語を指定しなかったため、日本語で行っているグループが多かったです。その分意見は弾んだようですが、発表（英語）になると英語での表現が苦手な学生さんが多いという印象を受けました。事前にリーディング課題を出すなどして、表現や単語など、あらかじめ慣れておいてもらった方がいいかもしれません。
- ③ 事前のリーディング課題を設定したり、反転学習の形式にするなどして、アウトプットの前提となるインプットに注ぐ時間を学生さんに増やしてもらいたいと思います。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化コミュニケーション  
 授業コード 31E11-001  
 教員名 花木 亨  
 教員コード 101269  
 登録人数 148  
 回答数 54  
 回答率 36.5%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

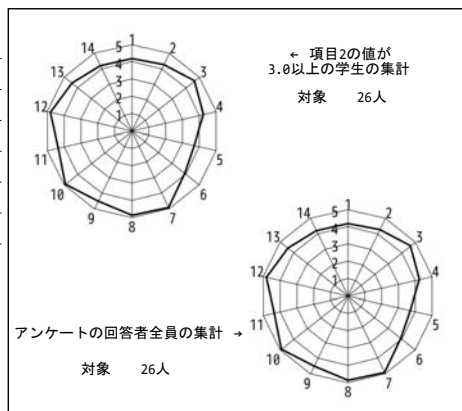


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業では、日常生活の中で自分が経験している異文化コミュニケーション現象を自覚できるようになること、自分が経験した異文化コミュニケーション現象を分析できるようになること、異文化コミュニケーションについての知的関心と思考を深めることを目標とした。目標はある程度達成されたように思うが、さらなる改善の余地もある。
- 項目3から14の平均値は4.71だった。これは科目登録者数が同程度（121～240名）の科目の平均値4.39を上回っている。一定の評価は得られたようだが、さらに高い数値を得られるように努力したい。
- 自由記述欄を読むと、説明やスライドがわかりやすかったこと、リアクションペーパーをとおして学生たちの意見に耳を傾けたこと、学生たちの意見を匿名で紹介することで一定の対話性を確保したこと、理論とともに具体例を多く提示したことなどが好意的に評価されたようだ。その一方で、学生たちの意見を紹介する時間が長すぎるという意見もあった。互いに矛盾する意見もあったが、さらに多くの学生たちの満足度をできるだけ高められるように努めたい。
- 受講者数が比較的多い授業だったが、リアクションペーパーに書かれた意見を紹介するなどして、できるだけ対話的な授業を心がけた。引き続き、学生たちの主体的な学びを促すような授業運営を目指していく。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英文法論<国際科目群>  
 授業コード 31E16-901  
 教員名 鈴木 達也  
 教員コード 017871  
 登録人数 40  
 回答数 26  
 回答率 65.0%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

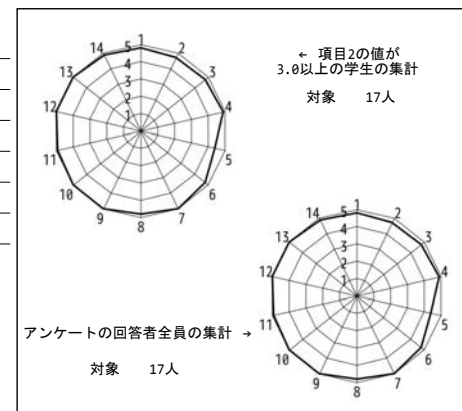
本講義の到達目標は、1.英語の音声の仕組みについて理解している。2.英語の文法について理解している。3.英語の歴史的変遷及び国際語としての英語の実態について理解している。4.生成文法論的言語学方法論を理解している。の4つである。自由記述欄の記載を読むと、1~3については、国際科目群の授業であるということ英語による理解が難しかった面もあったようであるが、まずまずの到達度である一方、4については、英語による理解がかなり高いハードルであったように見える。到達目標に向けての力のつき方を問う項目6の評価が4.0を下回っていることがそれを表しているのではないかと推測する。受講生の理解を助けるため、今年度も小テストを8セット、40問ほど用意したが、まだまだ不十分であったようである。次年度については、小テストの用意だけでなく、その解説も付けるようにして、授業時間外の学習支援を強化したい。

項目1~14の平均が4.43、3~14の平均が4.46であることから、全体としてはまずまずの評価が得られたと考えている。特に評価が高かった項目は、7、8、10、12であるが、自由記述欄を見ても、質問や相談の機会に関する設問12については高評価を得ており、今後も充実させていきたい。

例年同様、改善点として指摘されていることの中に、日本語による説明を希望するものがあるが、国際科目群の授業であるため、対応が難しい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VI[FS]1  
 授業コード 11D06-001  
 教員名 牛田 千鶴  
 教員コード 100657  
 登録人数 29  
 回答数 17  
 回答率 58.6%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

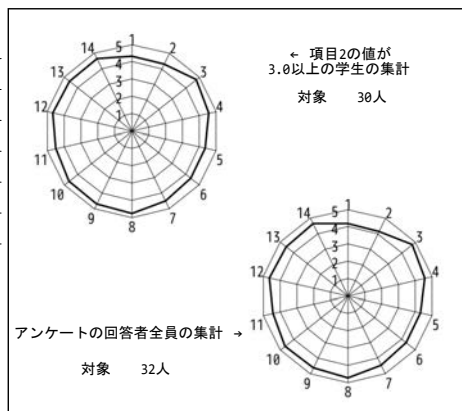
スペイン語文法の基礎を養う本科目の担当は今年度が初めてであり、過去の経験や蓄積のない中での授業運営となったが、昨年度担当された先生方からいろいろとご教示いただき、副教材や課題等のサンプルもご提供いただきながら、できるだけわかりやすくをモットーに授業を行った。学科の専門科目でもあるため、授業計画自体はあらかじめ決められており、かなりの”詰込み型”の授業展開とならざるを得なかったにもかかわらず、「毎回の授業の構成や進行速度は適切であったか」に関する設問4の評価が4・88であったことで、まずは安心した次第である。

その他、「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じたか」（設問7）、「教員が学生の理解度に配慮し、教材や課題を効果的に使って適切に授業を進めたか」（設問9）、「質問や相談の機会が十分に設けられていたか」（設問12）、「この授業を通して新しい知識や理解が深まったか」（設問13）等に関し、5.00という評価が得られたのも嬉しい限りであった。

自由記述欄に、板書を増やしてほしい旨のコメントが見られたため、授業計画の中で時間の余裕を見ながらという条件付きとはなってしまうが、できるだけ視覚的に確認できるよう、一層丁寧な説明を心がけていきたいと思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン文学B  
授業コード 32C02-001  
教員名 小阪 知弘  
教員コード 103689  
登録人数 78  
回答数 32  
回答率 41.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

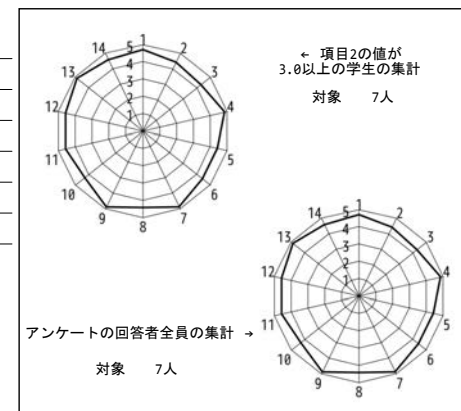


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度についてであるが、予定通り近代スペイン文学から21世紀スペイン文学までを滞りなく全て扱い、ある程度の質を有するレポートを学生たちが作成してくれたことから、設定していた目標レベルまで到達したと判断できる。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてだが、最低数字が4.13で、最高数字が4.75であることから、14項目全てを4.0以上獲得している。この数値的事実を考慮すれば、総合的に見て、担当者がそれなりの実績を出せていると判断できる。さらに、安定した評価を継続して獲得していくため、2023年度も精進し、講義形態と講義形式及び内容を洗練させていく所存である。また、自由回答のついてであるが、これらも概ね高評価を得ることができた。例えば、「スペインの文学の話だったので少し理解しにくいところもあったが、今の日本で言うところこんな風だよと資料を示してくださって理解が出来た。長すぎず、短い時間で集中することが出来るようにしてくださって、聞いていても集中力が高いまま聞けた。」である。ただ、途中退席する学生の扱いは今後、気をつけて対処することにする。次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針についてだが、今まで以上に授業の精度を上げるよう、研鑽を積む所存である。また、学生との接し方に関しても徹底して平等に扱い、学則にのっとって客観的に対処するよう心掛けることにする。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語V[FF]2  
授業コード 11B05-004  
教員名 平田 周  
教員コード 103583  
登録人数 32  
回答数 7  
回答率 21.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



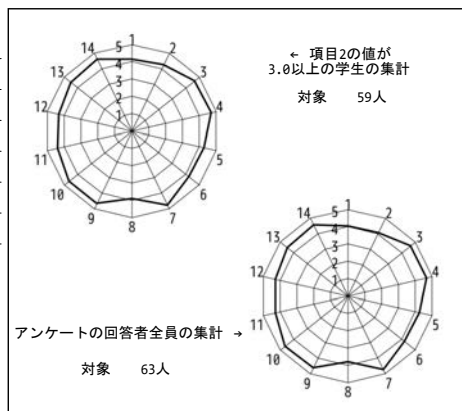
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① フランス語Vでは、当初予定されていた文法項目および会話文等のテキストに関する解説をすべて無事に終えることができました。教材で用いられる読解テキストや文法事項が複雑なものになっていったにもかかわらず、講義内での小テストおよび期末テストの結果を見た限りでは、多くの学生が持続的かつ意欲的に取り組み、優れた理解を示してくれました。この結果を踏まえれば、当初設定していた目標は十分に達成されたと言えるように思います。
- ② 同じ一年次生のフランス語を担当する教員とともに、可能な限り文法の説明をシンプルかつ体系的に教えることができるように日々話し合っており、その点が自由記述に触れられており安堵しました。
- ③ しかし、若干、小テストの回数が少なく、基本的な語彙を記憶してもらう機会が少ないように感じました。それゆえ、次クォーターでは、小テストの回数を増やし、基本的な語彙・文法事項の復習・予習の機会を設けることにしました。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ヨーロッパとの出会い1  
授業コード 13B04-001  
教員名 真野 倫平  
教員コード 100083  
登録人数 196  
回答数 63  
回答率 32.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

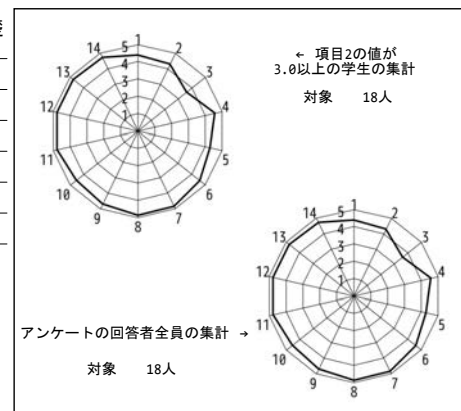


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は全学の1年次生以上を対象とする学際科目であり、フランスの文化や社会を予備知識のない履修者に幅広く紹介することを目的とする。授業では毎回、歴史・社会・文学・思想・芸術・演劇・映画・音楽など一つのテーマを設定し、多面的な角度からフランスの文化や社会を紹介する。毎回、授業プランならびに関連資料(pdfで配付)に基づき、パワーポイント資料も利用しつつ講義を行い、課題としていくつかの質問への回答を授業後に提出させた。大人数科目のためここ数年はオンラインで実施していたが、今クォーターは久々に対面授業となった。①目標と到達の程度については、毎回の課題ならびに最終レポートの結果から判断するに、1) フランスの歴史・社会・文化・芸術に関する基礎知識を獲得する、2) 異文化理解のためのさまざまなアプローチを修得する、という目標は十分に達成できたように思われる。②総合的な自己点検・評価については、設問3~14の平均は4.44で、学際科目の全体平均4.34を上回った。項目別にみると、設問8(教員の声・音声)と設問12(質問・相談の機会)においてのみ平均をやや下回った。自由記述欄においては、視聴覚資料を用いる点や、課題に取り組む時間を置いている点について好意的な意見が多かった。③改善点・今後の抱負については、基本的には授業を順調に運営できているので、とりわけ上記の2項目について改善を心がけることを当面の課題としたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語コミュニケーションの基礎  
II1  
授業コード 33A02-001  
教員名 COURRON, David  
教員コード 019026  
登録人数 19  
回答数 18  
回答率 94.7%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students practice French reading through both oral and written exercises, with a particular attention given to spelling, pronunciation, intonation and acquisition of phonological patterns.

2. Degree of achievement of initial course objectives

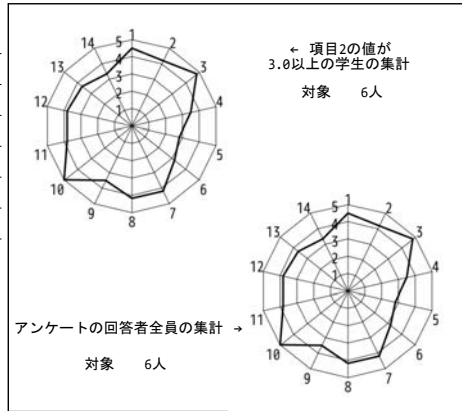
This quarter, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above, so that most of them acquired a real autonomy in reading French. Many valued the fair balance between explanations and practical activities which led to learn also what was not in the textbook and the frequent chances they were granted to study over and over through homework.

3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I think I managed to create a stimulating atmosphere for studying. I will therefore do my best to preserve it in the future. A majority seem also to have appreciated my openness to answer questions, the pace of each lesson as well as the strengthening of their vocabulary knowledge. The content of each class was carefully mentioned on my website allowing the students to prepare in advance alongside extra learning materials (French songs links on YouTube and their lyrics) which contributed to raise the overall interest into this course topic and goals.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級フランス語IIB2
授業コード	33A15-002
教員名	REBOLLAR, Patrick
教員コード	100084
登録人数	18
回答数	6
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



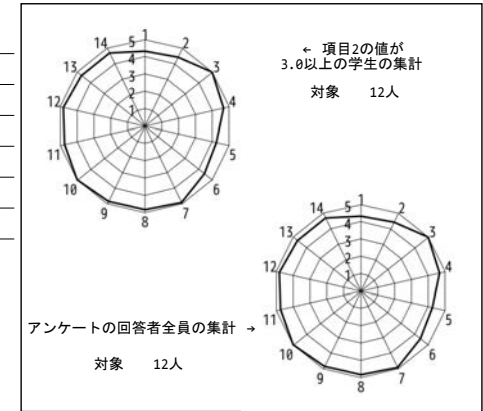
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The evaluation made at the beginning of Q3 revealed an insufficient level of French compared to the syllabus program. I adapted the content of the courses and selected the activities of the book corresponding to the possibilities of the students. The students actively participated by preparing weekly exercises and dictations. The pronunciation has also been revised and improved by numerous phonetic exercises.

The French textbook used having been published ten years ago, documents from the web have supplemented those of the book. French songs also made it possible to present current oral expressions and elements of the cultural history of France and the Francophonie. I also showed the students that the certainly real usefulness of machine translation programs nevertheless masks a danger. Indeed, recourse to the native language becomes permanent and the lack of personal learning of French vocabulary and grammar causes poor memorization of the content of the lessons. Like other teachers no doubt, I tried to adapt teaching methods to take advantage of these new tools sparingly, while encouraging students not to neglect their personal French work and exercising their memory.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アカデミックフランス語III1
授業コード	33A28-001
教員名	吉澤 英樹
教員コード	103584
登録人数	27
回答数	12
回答率	44.4%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

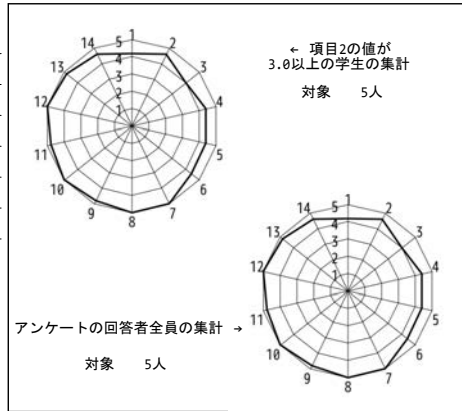


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講時は、この科目においてはフランス語の学術的な文章を読むために、論じられている対象の文脈を調査したり、独特のテクニカルタームの意味をおさえ、抽象的な内容で書かれた文章の言わんとしていることを学生自身の言葉で説明できるようにすることを目標とした。到達の程度に関しては「芸術社会学」という美術に関心のある学生においては目標到達に十分な力をつけることができたことを実感したが、この美術に関心のない学生に美術制度のについて論じられたものを理解させることに困難を感じる瞬間もあった。② 今年度は対面であったため、学生の顔を見ながらグループワークやアクティビティを多用し、進度を調整したために語学の授業としては概ねうまくいき、学生の充実度も高かったことが確認できた。ただ学術的な文章の深い読解に結びつく視点においては、開講時の科目への関心（1、2）と、その目標に到達した実感の項目（5、6）が他の項目より低かったことため改善の余地がある。③ 来年度は、テーマや文章の難易度を大幅に変える予定はないが、なるべく全ての学生が論じられている内容に関心を持てるように、授業を工夫していきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本との出会い5<国際科目群>
授業コード	13B01-901
教員名	RIESSLAND, Andreas
教員コード	101252
登録人数	6
回答数	5
回答率	83.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



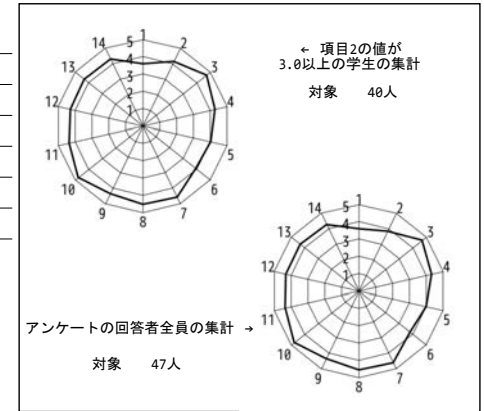
授業評価結果を踏まえた点検・評価

I see the students' overall evaluation of 4.68 (questions 4 to14), well above the university average, as a clear sign for the popularity of this course among the participants. What is more, the written comments also show that the participants obviously enjoyed, and profited from, being part of this course. In view of this encouraging echo, I intend to keep the course format in the coming years, striving to further improve it where I deem appropriate but, on the whole, sticking with my approach of involving the participants actively and constructively in shaping the course contents.

One comment from my perspective, though: An item that I will not be able to remedy is the 15 minute break that the students requested in their comments. Given the overly cramped format of the quarter system, we have to make optimum use of the short time that is being allotted to us. Cutting down further on teaching time would unduly compromise the agenda set for this course. Sorry, folks!

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ研究の基礎 (歴史・社会)
授業コード	34A08-001
教員名	中屋 宏隆
教員コード	102885
登録人数	59
回答数	47
回答率	79.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

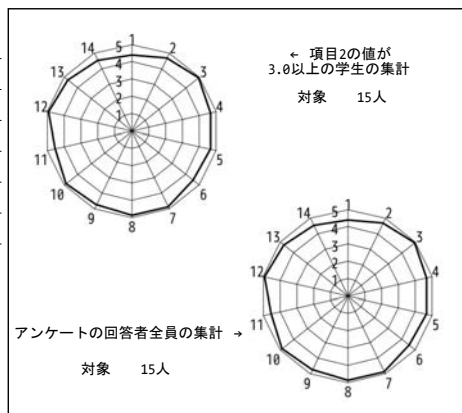


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
目標は「受講生のドイツ関連知識の定着および思考力の向上」であったが、概ね達成できた。
  - ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
項目番号の6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が3.79で低めであった。これに関しては、もう少し引き上げが可能なので、努力したい。
  - ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
項目番号の5「この授業の到達目標を理解することができましたか」が4.02とやや低めなので、到達目標を講義中に繰り返し伝達するように努めたい。また、項目番号の2「主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」が低いので、これを促す手段を模索する予定である。
- この他、自由記述では「チャットを用いた授業で生徒も積極的に参加できていた点」「映像教材などを見る時間が設けられ、授業内容が理解しやすかった」といった評価を受けたので、来年以降も積極的に利用していく。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	基礎演習III (社会)
授業コード	34A13-002
教員名	齋藤 敬之
教員コード	104487
登録人数	18
回答数	15
回答率	83.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

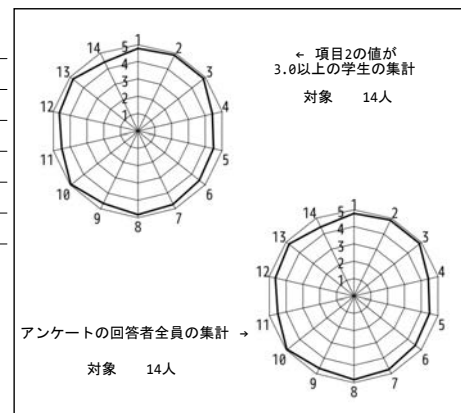
本科目では「ドイツ語圏の歴史／社会／文化に関する基礎的諸事項について理解を深めること」や「学術文献の内容を整理し、新たな問いを発見すること」などを目標に掲げていた。そのために、ドイツの歴史や文化を扱う文献を教科書とし、履修者には教科書の内容を整理しかつ発展的にテーマを設定するグループ発表（2-3名）を2回ずつ課した。全体的に、参考資料を適切に活用し、質・量ともに充実した発表を行うことができていた。また履修者が主体的にディスカッションの場を進めることもしばしばで、それにより教員がやや専門的な内容にまで踏み込んで解説をしたり改善点を提示したりすることも可能になった。以上のことから、開講当初に設定していた目標には十分到達できたと考えている。

このような手応えは、受講生からいずれの設問項目でも好意的評価を得られたことに反映されていると考えている。履修者に主体的な参加と活動を促すことは、演習という授業形態に鑑みても、今後も意識し続けたい。

なお、本科目でドイツの歴史に重点を置いたこともあり、受講生全員が十分な関心や予備知識を持っていなかった可能性があり、授業内容への関心や難易度に関わる設問項目（設問1・設問16）の評価がやや伸びなかった一因と考えられる。今後に向けては、受講生のカリキュラムを再確認し、授業の前半で授業内容を準備・導入するような場を設けることを改善点とする。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級中国語II会話1
授業コード	35A12-001
教員名	張 玉玲
教員コード	101049
登録人数	17
回答数	14
回答率	82.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

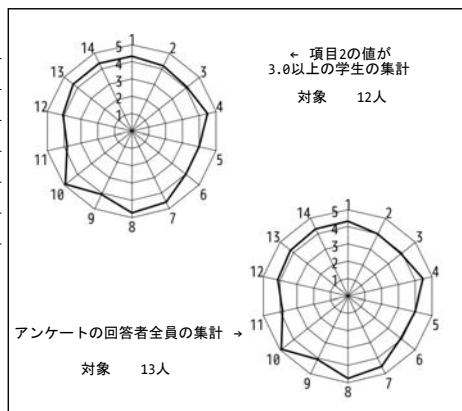
この授業では、口語表現の練習を反復して、会話の正確さと速度のいっそうの向上をはかることで、①中国語検定の3級から2級、HSKの中等レベルの語彙量を身につけること、②中国語検定の3級から2級、HSKの中等レベルのさまざまな言い換え表現ができるようになること、を授業の目標としている。

授業アンケートの数値データおよび自由記述などを見る限り、当初の授業目標はほぼ達成できているといえる。予習と復習などは大変である反面（大変だからこそ？）、確実に力が付いたと感じた学生が多い。授業言語を中国語にすること、様々な形で口語表現を繰り返し練習させることは、会話の正確さと速度の向上につながったと考えられる。今後も、これらの方法を維持しつつさらなる工夫をしていきたい。

自由記述欄に、成績評価に関する貴重な意見があった。同じ科目名で三つのクラスに分けられているが、今回のアンケート調査対象となっているのは、前年度の中国語の成績が上位にあった学生によるクラスであり、ほかの二つのクラスよりやや難易度の高い教材を使い、進度もやや早い。GPAに反映された、クラス単位でつけられる成績は、当然クラス分けの経緯やクラスの違いを物語るものではなく、学生に不平を感じさせてしまっていると思われる。今後、学科単位で解決方法を講じる予定である。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B3  
授業コード 12C09-003  
教員名 神野 真敏  
教員コード 103880  
登録人数 20  
回答数 13  
回答率 65.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、経済学における多様な話題または特定の話題について基礎から深く学ぶことを目的とし、専門分野以外の人にも対象とした内容で構成し、マクロ経済学の入門としてその基礎的な概念（GDP、財政政策、金融政策、国際収支など）を講述するとともに、実際の経済問題についてマクロ経済学の視点に立った見方を解説してきました。

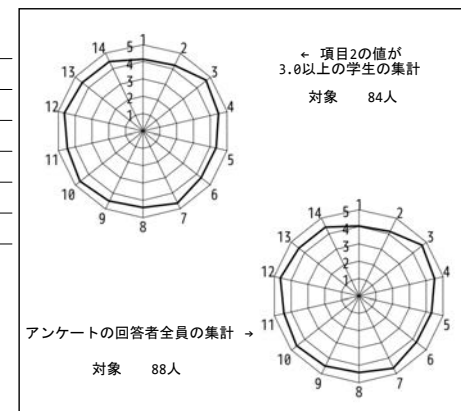
講義目標としては、①マクロ経済学で用いられている基本的な経済用語を理解できるようになる。②簡単なマクロモデルの計算が解けるようになる。③マクロ統計指標の意図を自分なりに読み解けるようになる。を掲げました。

学生評価の値として、設問10（4.92）、設問8（4.77）、設問7（4.54）などは高評価を受けましたが、一方、設問11（3.85）、設問3（3.92）、設問6（3.92）は低評価を受けました。高評価を得た設問は、授業の妨げや講義の声など、声を大きく講義できたことが要因かなあと感じました。低評価を受けた点は、授業時間、到達目標に向けての力の育成や自主的な学習意欲を引き出せなかった点になります。

ただ、開始時間以前には教室にいたものの、教室のPCとプロジェクターとの連携がうまくいかず、開始時間が遅くなってしまいました。この点などが要因と考えられます。その一方で、力を育成することが出来なかったことや自主的な学習意欲を引き出せなかったのは、とても残念に思います。授業後に質問時間などを設けて、フォローに努めたのですが、まだまだ不十分だったのでしょう。今後につなげたいと思います。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本経済史  
授業コード 24C19-001  
教員名 林 順子  
教員コード 101007  
登録人数 254  
回答数 88  
回答率 34.6%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



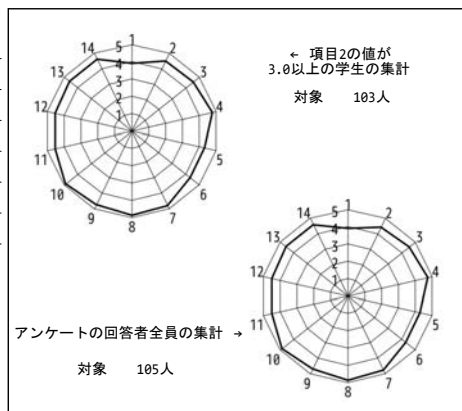
授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義目標としては、名古屋市の都市化および現在のナゴヤ経済を支える製造業の成長の過程を理解することであったが、講義中の学生の反応や、試験の結果をみるかぎり、理解の程度は“二極分化”を起している。講義内容に興味をもってくれた学生の中には休日に“街歩き”をして現地を見に行ったりもいたようだが、一方で白紙に近い答案も散見された。この授業評価についても回答率が悪く、すなわち熱心な学生の回答割合が高いために結果として平均以上に良い評価になった、と認識するべきであろう。

とりあえず、毎回書いてもらう質問や要望にはできるかぎり応じ、応ずることができない場合は説明をするように心がけており、この点への評価は高いので、今後も継続したい。同じく、毎回提出の習得度の確認テストも続けたいが、受講生の人数の関係で、記述よりも採点しやすい、文の正誤判定形式、学生いわく“クイズ”的形式のテストを多めにしてしまう傾向がある。記述式にして他学生にピアレビューしてもらおうと、緊張感も生まれるかもしれない。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学1  
授業コード 40B01-001  
教員名 西森 晃  
教員コード 100624  
登録人数 166  
回答数 105  
回答率 63.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

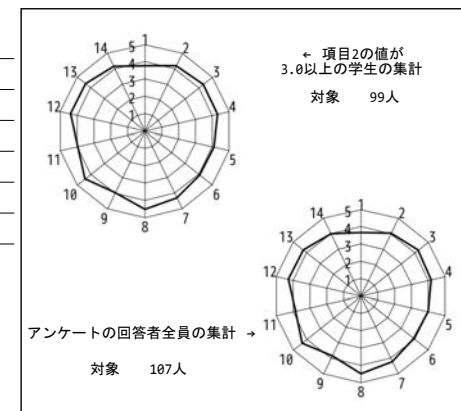


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ・まだ期末試験を採点していないので当初の目的が達成できたかどうかは不明だが、少なくとも授業を計画通り進めることは出来た。
- ・この科目は1年次の必修科目なので、設問1（履修前に授業内容に興味を持っていたか）が低いのは仕方がない。それに対して、設問14（全体として満足したか）の値が4.57と比較的高いので、受講前の期待度合いよりは満足してもらえる講義ができたのだろうと解釈している。
- ・特に評価が高いのは設問7（教員の姿勢）と設問4,8,9,10（授業の運営方法）で、授業のやり方自体には概ね満足してもらっているようである。これらは今後も継続して行きたい。
- ・比較的评价が低いのが設問5（理解できたか）と設問6（力がついたか）で、学生はこの段階では授業を受けての手応えを十分には感じていないようだ。ただし、このアンケートは期末試験前に行われたもので、まだ真剣に勉強を開始していない時期でもある点は注意が必要かと思われる。
- ・自由記述欄でも好意的な評価が多かったと認識している。特に私語厳禁に対しては多くの学生が良かったとコメントしており、普段から彼らがいかに私語に悩まされているかがよくわかる。
- ・一部改善点の要求があったので合理的で対応可能なものは今後改善するようにしたい。ただし、単に学生が甘えているだけのものもあり、全ての要求に応じることが望ましいとは考えていない。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学2  
授業コード 40B01-002  
教員名 赤星 立  
教員コード 103866  
登録人数 164  
回答数 107  
回答率 65.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

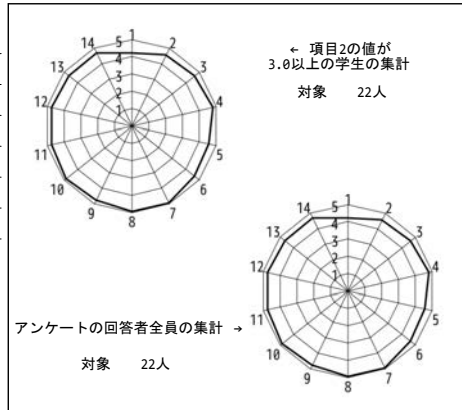


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
学生に課していた目標は次の3点である。（1）需要関数，供給関数を導出し，その特徴を理解する。（2）余剰の概念を用いて市場の効率性を理解する。（3）2財モデルにおいて，所得や価格の変化が財の消費量にどのような影響を与えるかを理解する。  
本講義は1年生対象の必修科目であり2クラスに分けて行われている。そのため，事前に担当者間で評価基準やシラバスを共有し，開講中も情報の共有に努めた。講義内容は学部で固定されているため，上記の設定目標も特に変わった点はない。  
試験では上記の目標と整合的になるように出題した。結果を見る限り，学生は一定水準の理解に達することができたようである。したがって目標は十分に達成されたといえる。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
履修登録者数164名のうち107名の学生が回答してくれている。アンケート回答に授業時間の一部を割いたので，実際を受講者の大半が回答してくれたようである。評価については概ね満足している。どの項目についても高い評価がなされている。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
特に演習問題を多く出題したことが想定以上に評価されている。問題訂正を行った点で否定的な評価もあるので，次回以降はその点も改善したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読(経済分析の方法)B  
授業コード 40C03-001  
教員名 小林 佳世子  
教員コード 100487  
登録人数 44  
回答数 22  
回答率 50.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の評価がとても高かったことを、特に、「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」という項目の評価がとても高かったことに、素直に嬉しく覆っています。

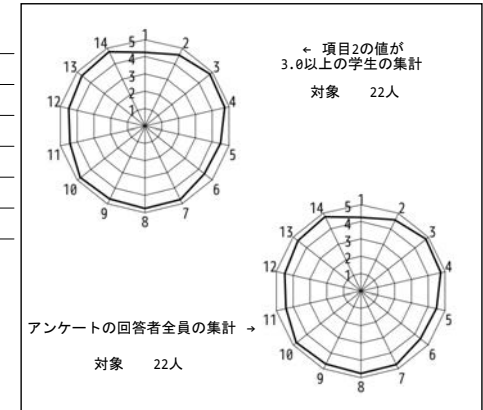
この授業では、ミクロ経済学のテキストを用いて、英語の問題を読んでいく教科書パートと、優しい英語の本の多読を行う多読パートの2つを行っています。

別途とったアンケートでは、グラフの使い方からかなり丁寧に進んだことを評価する声が多くありました。進み方が遅すぎるのではないかと心配していましたが、ほとんどの学生は進み方は遅すぎず早過ぎずちょうどよかったという声でしたが、数名の学生が、もっと早く進めて、たくさんの内容をやりたいという声もあり、進め方は毎回悩んでいるところではあります。

多読パートは、いわゆるSSS多読の法式にのっとり、YL03~0.4ぐらいからスタートを基本として、各自自分のレベルにあった本を読むという形で進めています。教室には、毎回YL0.2~2.0ぐらいの書籍を大量に持ち込み、その場で読む時間を作っています。ORTやその他のごく優しい本が面白くて気に入ったと言った声のほか、英語を読む力がついたことを間違いなく感じる、多読はぜひ続けたい、英語を大量に読む経験はなかったが楽しく続けられた、という声が多々あり、その点を何よりうれしく思っています。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 外書講読(歴史と思想)A  
授業コード 40C08-001  
教員名 川本 真哉  
教員コード 103865  
登録人数 42  
回答数 22  
回答率 52.4%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 目標と到達の程度について

この授業の目標として、①戦後、日本経済はどのように発展したのか、②経済発展を可能にしたシステムは何か、③今日、日本経済はいかなる課題を抱えているのか、などのトピックについて英文で学んでいくことを掲げていた。当初予定していたトピックについて解説をすることができたため、対象テーマの範囲としては初期の目標を達成できたと理解している。

② 総合的な自己点検・評価

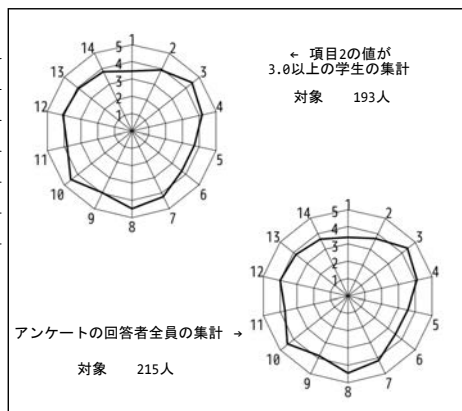
質問項目14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）は4.77ポイントとなっており、概ね肯定的な評価をもらったものと理解している。特に、項目3、項目4、項目7、項目8、項目10が4.7ポイント以上となっており、授業の進行速度、声の聞き取りやすさ、授業環境の維持等が評価された。その反面、項目1が4.3ポイント弱とやや低く、この点については改善の必要があることがアンケートから読み取れた。

③ 今後の抱負、方針

自由記述として、英語力が身につけてきている実感が持てたとの声があった。各テーマのごとの理解度を確認する単語テスト、小テストの実施が評価されたものと理解している。この点については継続していきたい。今後の課題として、講義受講前に受講者の関心を高めるような情報提供（シラバス）について工夫が必要ないように感じられた。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済思想入門  
授業コード 40D04-001  
教員名 荒井 智行  
教員コード 104493  
登録人数 357  
回答数 215  
回答率 60.2%  
休講回数 2 回  
補講回数 1 回

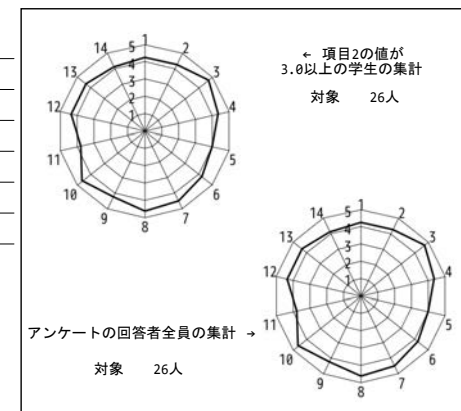


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①については概ね達成できたが、③で記すように、内容面においては大幅に変更が必要だと考えた。②について。昨年度よりも、受講生がこの授業の達成度につながるよう、予習、復習用の配布資料を多用したが、小まとめや小テストを増やす必要があると考えた。また、授業内容と小まとめ・小テストの時間配分についても予め十分に準備しておきたい。アンケート項目では、質問や相談の機会をも求めるように記されているため、昨年度よりも周知させているように思っていたが、この点について改善の余地があると考えた。授業時間の残り10分程度、質問や相談の機会をつくる時間を増やすなど、工夫したい。③については、授業内容を刷新する予定である。着任後、1年目に担当した「特別テーマ講義」と同講義が年度ごとにどのような担当を引き受けるかなど把握しておらず、正直、混同した点もあった。受講生は、私語もひとつもなく、熱心に受講していた。予習、復習のための時間やアンケート項目の内容に見合うための授業の工夫にも努めたい。また、他の先生方にも、授業の仕方についてお尋ねしながら、いっそうの授業準備に尽力したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計入門3  
授業コード 40D05-003  
教員名 大鐘 雄太  
教員コード 103641  
登録人数 37  
回答数 26  
回答率 70.3%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



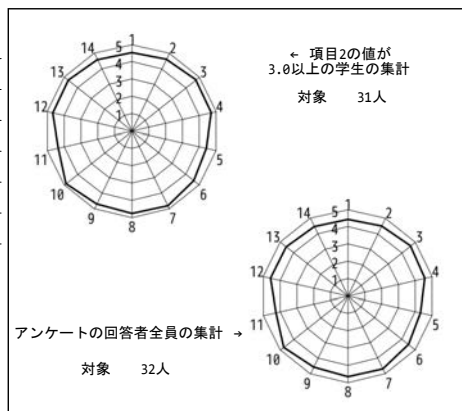
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
この授業では、統計学の基礎知識の習得を目標とした。授業の到達目標を理解できているかどうかに関する設問（設問5）が4.00、授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかどうかに関する設問（設問6）が4.23とそれほど高くはなかったが、定期試験の結果は良好であったため、目標は概ね到達できたと考えている。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
前回開講時と比べて、(1)設問3から設問14までの12項目すべてが低下したこと、(2)全体の満足度に関する設問（設問14）が4.67から4.12に低下したこと、(3)設問3から設問14の平均が4.60から4.33に低下したことから、今回は前回ほどにはわかりやすい授業ではなかったと考えている。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
今回は例年と比べて1年生の履修者が多かったことが、上述の評価につながった可能性の一つとして考えられる。したがって、次回開講時には、履修生の学年構成に応じて内容や説明の仕方を変えることにより、全体的な満足度の向上を図る予定である。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 理論経済学B  
 授業コード 40D16-001  
 教員名 井上 知子  
 教員コード 019166  
 登録人数 49  
 回答数 32  
 回答率 65.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

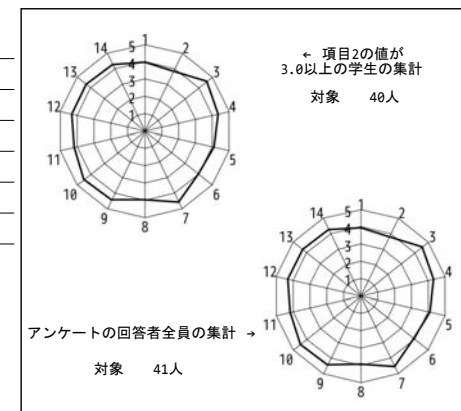


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① シラバスに記載した授業予定通りに、当初の目標通りの内容を終わることができた。目標到達の程度については、学生側の認識について、設問5、設問6、設問13がそれぞれ、4.34、4.50、4.56であることから、学生は、授業の到達目標を理解してそれに向けて力がついてきており、さらに、新しい知識を得て理解が深まった、と感じているようである。また、第14回授業内でおこなったオンライン試験(レポート扱い)の結果も、授業にいつも出席してかつ毎回の課題を出している学生については得点が高かったので、ある程度目標は達成されたと思う。② 各設問の数値については、全学部平均、学部平均より高かった。自由記述欄については、これまで、配点を課題、最終試験、30点、70点としていたが、今回、50点、50点とし、普段の学習態度を重視する配点にしたことについて、普段の授業に出席している受講生に配慮した配点であると、肯定的な意見が複数あった。③ 初回のオリエンテーションで、授業を登録する際の注意事項をプリント配布した上で説明をしたが、そこで説明した内容について、「改善すべき点」にコメントを書いていた受講生がいた。注意事項の説明を聞かずプリントも読まない学生にも、注意事項を知らせる工夫が必要だと思った。来年度は、注意事項をウェブクラスのテストにして、必ず一度目に触れさせるようにしたいと思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 租税論B  
 授業コード 40D35-001  
 教員名 岸野 悦朗  
 教員コード 103035  
 登録人数 117  
 回答数 41  
 回答率 35.0%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回

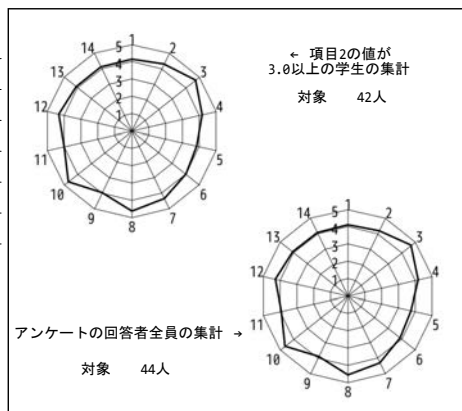


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
 この授業は、我国の法人税並びに消費税といった法人に係る税の現状と各税法に基づく制度の考え方及び基本的な仕組み等について今後社会人として各種職務活動を行う上において必要な知識を身につけるとともに、税に対する考え方を深め、思考能力をも育成することを目的としている。  
 授業に当たっては日頃から法人税等になじみない受講生に対してより分かり易く説明する観点から、パワーポイント資料を見直し授業の進め方等改善に努めた。また、これまでと同様に税に関する時事的な新聞記事を複数回授業前に紹介する等により学生に税に関する関心を呼び起こすように配慮した。また、本年から授業期間中において授業内容について適宜緊張感をもって修得してもらおう観点から、Webクラスによる小テストを3回行った。  
 これらについて評価する意見が散見され、来年度も引き続き実施してまいりたい。  
 ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
 パワーポイントの構成や冒頭での税に関する時事的な紹介は評価する声が多かった。全体としての数値的な評価は、ほぼ平均並みでまずまずの出来であると評価する。  
 ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
 次年度以降、これまでの取組みに加え、授業の進め方をより工夫する等充実した内容となるよう取り組んでまいりたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済学A  
授業コード 40D44-001  
教員名 寶多 康弘  
教員コード 100751  
登録人数 143  
回答数 44  
回答率 30.8%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

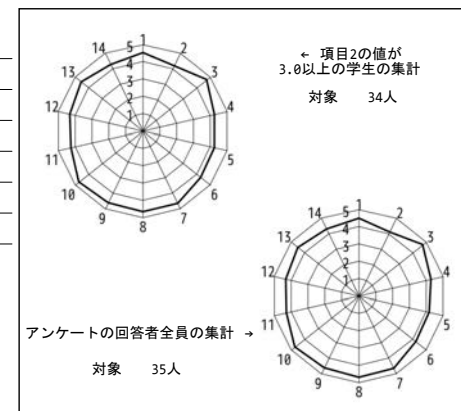


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回初めて授業評価を受けた講義で、国際経済学の学部専門科目である。国際経済学Aでは、実物経済の国際貿易に焦点を当てており、ミクロ経済学や国際経済入門の知識をある程度前提としているが、特に重要な点については復習をしっかりと行った。対面での講義となり、板書でのコロナ前と同じ形式で授業を行った。数回、コロナ対応のためにハイブリッド授業を行った。ハイブリッドの場合、Zoomのホワイトボードに手書きで書き込んで講義した。手書きの講義ノートは、講義資料としてアップロードした。開講当初に設定していた目標はおおむね達成できた。ハイブリッドでの授業も開いたために、内容を絞り込んで講義を行った。その結果、授業の内容と進行速度について高い評価を得た。また、理解度の確認のためのレポートを課して提出を求めた。オンラインで配付資料が豊富にある状況になれてしまったのか、記述回答で学生は板書だけでは講義の情報が不十分との指摘があったが、それは社会に出て必須の能力である、口頭での説明の中から自分にとって重要な事項を聞き取ってメモにする習慣を身につけていないからだといえる。全体的に高い評価を得たので、今回の授業方法を引き続き生かしていきたい。今後も熱意を持って教育に取り組む所存である。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B6  
授業コード 12C09-006  
教員名 山下 忠康  
教員コード 101152  
登録人数 129  
回答数 35  
回答率 27.1%  
休講回数 3 回  
補講回数 2 回

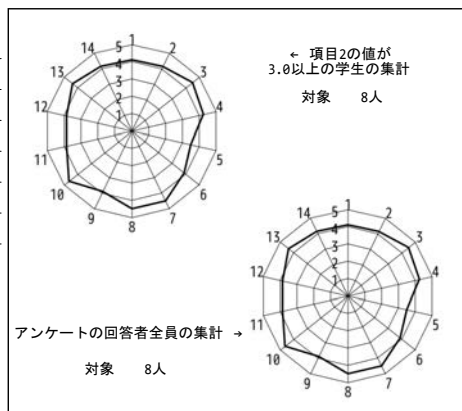


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
到達目標としては、下記の5つを設定していた。
  1. 税金および税額計算の基本的な仕組みを理解している。
  2. 不動産に関する基本事項を理解している。
  3. 相続の基本を理解している。
  4. 財産評価の基本を理解している。
  5. FP3級試験に合格できる。期末筆記試験の結果から、常時出席している履修者については、十分に目標を達成していると評価している。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
基本的にアンケートの回答者数が少ないため、参考値に過ぎないと思われるが、平均的な水準だと判断している。  
また、自由意見についても、ほとんどが前向きで肯定的なコメントを頂けたので、担当教員としては満足している。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針  
毎年、制度の一部変更が必ずあり、教材のアップデートに手間取る部分もあるが、学生が社会に出たときに必要不可欠な知識を今後も提供していきたいと考えている。以上

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数学B  
 授業コード 12E02-001  
 教員名 宮元 忠敏  
 教員コード 017293  
 登録人数 28  
 回答数 8  
 回答率 28.6%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

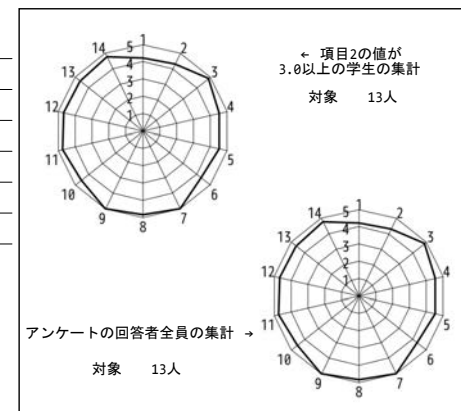
目標と到達の程度：第1部では、フェルマーの小定理を2つの方向に一般化する。カーマイケル数とオイラーの定理を紹介する。第2部では、ディリクレの定理の具体的な場合を紹介した。特定の型の素数が際限なく存在することを、計算機結果を示しながら検討した。次に、ミラーとラビンによる合成数判定を紹介した。第3部では、実数のディオファントス近似を検討した。アルキメデス、ディリクレ、リュール、ロスの定理を、計算機結果で確認した。第1部では、第1部と第2部で使用する合同式をゆっくりと導入した。第3部はその分、駆け足となった。

総合的な自己点検・評価：レーダーチャートによれば、比較的、高い数値が見て取れる。また、授業の内容の理解に苦勞する姿が反映されている。ただ、講義ノートは事前に公開されてある。この科目のテーマの設定は非常に難しい。数学一般について語るの難しく、数値例や図を使って数学的内容の紹介をした。履修生からは、レベルが低い方がよかった(1件)。触れたことのない類の話の聞いた趣旨のコメント(3件)。復習とお題タイムで理解を深められた(1件)。なを、今年度は、多数の学部からの履修があり、なんとオイラーの定理の一般化を発見してくれた。参考文献はこのような環境を想定して構成されている。

改善点・抱負・方針：授業の構成は現状を維持し、内容の取捨選択をはかりたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済の諸相1  
 授業コード 13C06-001  
 教員名 川北 真紀子  
 教員コード 102879  
 登録人数 61  
 回答数 13  
 回答率 21.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

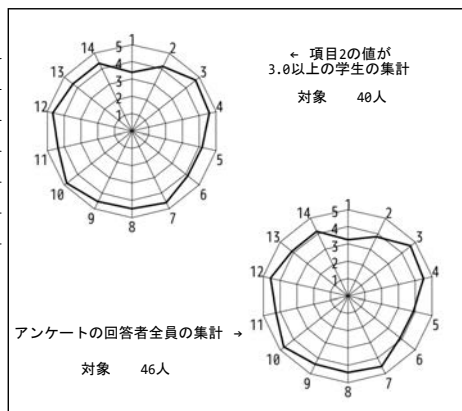


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初に設定していたのは、アートに興味を持つことと語ることができることであり、今回の授業の毎回のコメント欄を見ていると、興味をもって来ており、またアート鑑賞に出かけてくれているのがわかった。②全体満足が4.77と非常に高い得点である。他の設問も概ね高く、教員に関するもので一番低いものは4.54であることから、良い評価を得たと思われる。ただ、学生が予習復習や主体的な学びをしているかという点については、4.31と一番低い点数であった。ただ、外にアート鑑賞に向かっている点、最後のレポートの内容を見ていると、アートへの興味関心は高まっており、今後も主体的に鑑賞に行く機会がありそうである。最終レポートの質が高かったのも、非常にモチベーションの高い学生がいたと思う、③外部講師への好意的なコメントが多かったのもこれは続けた。また、他の学生が自由に意見を言う機会を設けたが、これが好評であったのでこれも続けた。最後の授業でやや多いボリュームを教えたため、多すぎるというコメントがあったため、今後は無理のない範囲で授業を実施しようと思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計学II2
授業コード	42B02-002
教員名	竹澤 直哉
教員コード	101191
登録人数	140
回答数	46
回答率	32.9%
休講回数	0回
補講回数	0回



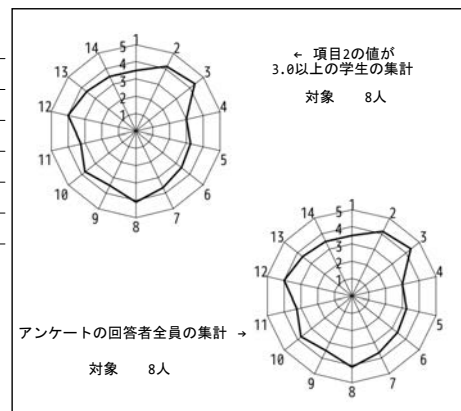
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年も授業目標を以下のように設定した。

1. 正規分布の標本から得られる分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）が分かる。
  2. 正規分布の標本を用いた区間推定と仮説検定ができる。
  3. 最小二乗法が理解でき、計算できる例年通り、履修者の基礎知識の差が大きかった。問1の3.24という評価から問14の4.15に変化したことからわかるように、授業に対する興味は非常に低かったものの、その後改善したことがわかる。多くの時間を質疑応答に割くように努力した結果、自由記述や項目、この影響が項目は設問7,9,11,12の中央値が5になったと評価する。理解は深まったものの、到達目標に十分達しなかったため5,6の評価が低かったことがわかる。
- 以上の分析を踏まえると、今年の授業目標は概ね達成できたと評価する。今後は、この授業目標を再確認しながら授業中の演習時間を増やすなど、到達目標が身についたという自覚を促す創意工夫を検討する。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済原論II
授業コード	42B06-001
教員名	赤壁 弘康
教員コード	100788
登録人数	34
回答数	8
回答率	23.5%
休講回数	0回
補講回数	0回

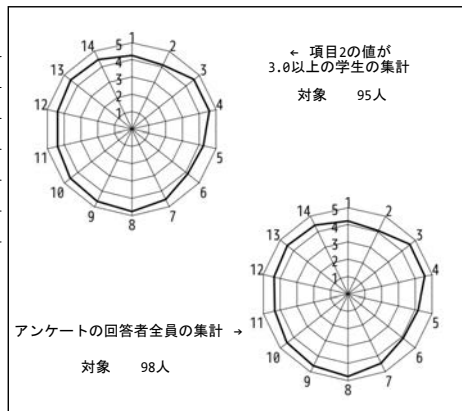


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 講義は市販テキストを利用せず、すべて自前の講義ノート（総76pp.）によって行った。この講義資料はWebClassからダウンロードできるようにした。このうち、開放体系のマクロ経済モデルの説明を除き、予定していた項目はすべて講義することができ、その分、十分な問題演習の時間も確保できた。演習問題の解答は、最終授業終了後WebClassにアップし、各自の復習・最終レポート作成のための参考資料とできるように工夫した。
- ② 積極的授業参加度を測る目的で実施した時間中に実施したリアクションペーパー（演習問題の取り組み・解答状況）の結果を加味して、期末レポートの評価によって成績評価を行った。期末の最終レポート問題は、文章を記述するのではなく、筆答形式の試験でも実施できる客観的に評価可能な形式にした。リアクションペーパーの提出状況、不定期に行った宿題の提出状況が良好な受講生は、おおむね成績も良好であった。
- ③ ここ数年同じ方式で講義しており、この方法による講義形態は、受講生にも徐々に定着してきているように思われる。演習問題を含む講義資料は次年度も引き続きWebClassでダウンロードして利用できるようにしたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営学総論III  
授業コード 42C02-001  
教員名 中島 裕喜  
教員コード 103065  
登録人数 139  
回答数 98  
回答率 70.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

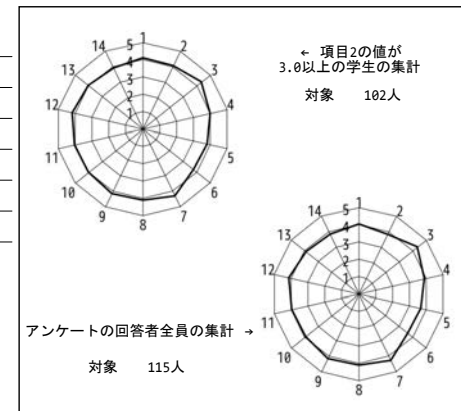


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は久しぶりに完全な対面での講義だったので学生に伝わるような講義ができるのか不安があったが、項目番号8「授業中に、教員の声や音声機器の音はよく聞き取れましたか。オンラインで受講した場合でネットワーク環境が不安定だった場合は「どちらとも言えない」を選択してください」で4.76の評価を得ることができたので、授業の進め方は問題ないと考えている。また項目番号9「教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」においても4.59だったので、学生に示した配布している資料や映像などは効果的であったのではないかと考えている。一方で質問項目2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」が4.05と低い点は改善が必要かもしれない。たしかに講義中に学生に簡単な意見を求めたが、反応はあまりよくなく、これは対象の授業以外についても言えることだが、コロナ前よりも受け身な学生が増えた印象がある。学生が負担を感じることなく発言ができるような仕掛けを考案することが必要だと感じており、次クォーターで取り入れるようにしたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング論B1  
授業コード 42C10-001  
教員名 南川 和充  
教員コード 100478  
登録人数 246  
回答数 115  
回答率 46.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

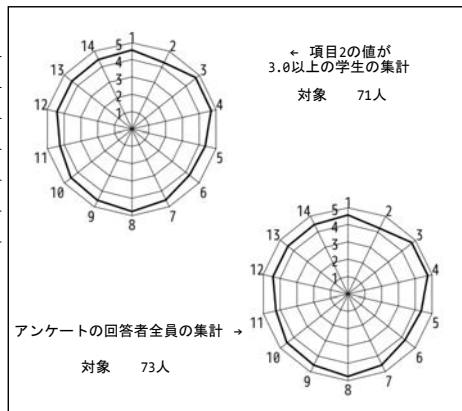


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①. 到達目標は(1)～(4)（シラバス参照）を設定し、これらを達成するために例年同様に中間試験および数回の課題を課した。目標(1)(2)について肯定的評価の自由記述（課題が多く、自ら内容を深めることが出来た。）（難解な理論においても、わかりやすく理解できるような説明がなされていた。）などがあった。目標(3)(4)については「課題があることで、講義で学んだ内容を実践的に復習できる。」「具体的な例を知り、より理解を深められた」といった自由記述があったことから、いずれの目標も、ある程度達成されたと判断できる。
- ②. 全項目が経営学科科目での平均点を下回っており、毎回のごとく反省している。本科目の授業評価結果はここ2年は例年にない改善をみたが、今回はまた3年前までの低水準に戻ってしまった。これは、過去2回のクラスサイズが例年と比べて小さくなり、授業の受講環境や受講態度が改善されたが、今回はまた登録者数が多くなったことによるものと考えている。受講生が多くても少なくとも授業を良くしなければならないが、作業負担であるため中間試験結果や数多くの課題の返却を怠ってしまい、力が身につけていることを受講生に実感させることができなかったと思う。次年度はたとえ受講生が多くとともに課題のフィードバックもこまめに実施したいと考える。
- ③. 自由記述欄「改善すべき点」は、私語および配布資料に関するものが大半であった。この2点については私が、教室での配布物や私語が存在しなかったオンライン授業のときの意識のままに大人数の対面授業に臨んでしまった私自身の準備対応不足が原因である。これを反省して、私語があれば厳しく注意し、資料はデータだけでなくプリント配布することに努めるなど、次学期からは留意したい。また、「その日学んだことを用いた課題が出るため良い復習ができた」（自由記述欄）という学生がいる一方で、課題を独力で取り組まずに他人のを丸写して提出するだけの学生がいるので、そうならないように今後、上述したような課題の返却のことも含めて、課題の出し方を工夫したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング論B2  
 授業コード 42C10-002  
 教員名 石垣 智徳  
 教員コード 101889  
 登録人数 129  
 回答数 73  
 回答率 56.6%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

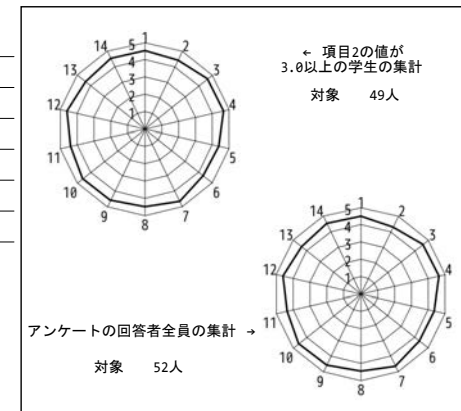
設定した目標については、「マーケティングの基礎的な理論や考え方を習得する」「事例とマーケティング理論の関連が理解できる」であり、理論や考え方については充分時間をかけて説明した。また、到達の程度については事例をできるだけ多く提示することも心掛けたので目標は達成できたと考えている。

担当科目に関する総合的な自己点検・評価は、昨年度の前半対面、後半Zoomからすべて対面になったが授業中の私語は思ったより少なく皆授業に集中しているようであった。14項目から構成される学生アンケートの結果はすべて4点以上（項目最低平均4.21）であった。学生からも一定の評価があったと考えている。記述回答のところでは、「前回の復習から入るのでよかった」「補足の資料が見やすかった」というコメントがあったが、「レポートの提出期間が短すぎる」「濃厚接触者で授業が受けられないときの対応が欲しい」というコメントもあり、レポートの〆切に関する検討が必要である。Zoomも使用したハイブリットの授業については大学の方針もあるので今後もそれに従うつもりである。また、対応を考えるべき点として「出席システムが緩い」「課題が難しい」などがあり、今後適切な対応をしていきたい。

今後に向けての改善点、今後の抱負、方針などについては、コロナ禍が現在も続いているが、基本は対面授業であると考えているので、学生たちが集中して授業を受けられるような準備を行いたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営組織論B  
 授業コード 42C14-001  
 教員名 安藤 史江  
 教員コード 019554  
 登録人数 244  
 回答数 52  
 回答率 21.3%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回

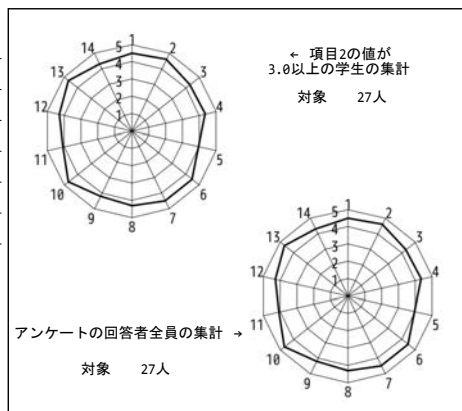


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、組織学習、という馴染みのないテーマについての基礎知識を得るとともに、それを自分の身近なトピックスとともに結び付けて理解する、というものであった。その到達度については、課題などを判断材料にする限り、ある程度達成できたと考えている。また、授業評価の結果をみても、この分野に関する力がついた（4.35）、理解が深まった（4.37）、もしくは満足した（4.52）という回答が、学部の平均値を上回る結果となっており、この点からも一定の成果を得られたと判断される。また、受講人数が多く、教室の定員内ではあったものの、受講生からオンラインの併用などに関する配慮が求められたため、それに対応したことも、学生からの反応は良かった。ただし、反省点・改善点として、パワポを切り替えたり、基本的な操作に加え追加の操作をした際に、Zoomを通して資料共有しているパワポ画面がフリーズしてしまう事態が2度ほど発生し、受講生には大変迷惑をかけた。また、マイクの充電が十分に行われていなかったことで、いつの間にか、音声途切れてしまい、こちらもオンラインで受講している受講生から教えていただき、慌てて対応するなど、授業運営に関するトラブルがあった。そのため、次回からは十分に事前に点検を行い、授業時間にトラブルが発生しないよう、事前の対策を可能な限り講じたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報処理A
授業コード	42D02-001
教員名	姜 秉国
教員コード	019547
登録人数	35
回答数	27
回答率	77.1%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



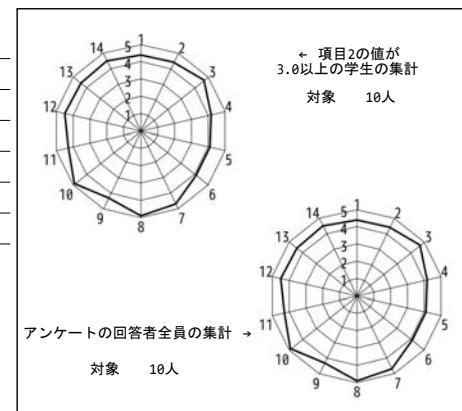
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、「ビジネス情報の基本的な加工・分析ができるようにする」ことであった。学生の出席、またレポートと発表内容から、授業の目標は十分達成されたものと判断している。しかし、表計算ソフトの使い方に関する生徒の習熟度にはばらつきが大きい問題は以前と変わらない。ほぼ初めて表計算ソフトに触れるような生徒もいるため、できるだけ講義内容に対する学生の理解度に合わせて進めていくことに努めていた。教員一人で習熟度の違う生徒の理解度の合わせた個別指導には限界があるが、後半に入るとついて来れるよう心掛けている。自由記述式設問（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）の回答には、以下のようなコメントがあった。

- ・ 解説が丁寧でわかりやすかった
- ・ 実践的な知識が身につくこと。
- ・ Excelを使って時短で資料が作れるコツを学べたこと
- ・ 情報処理についてもしっかり学ぶことが出来た。
- ・ 新しい技術が学べたところ。
- ・ 将来に活用できそうなExcelの機能を学ぶことができたこと。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営数学
授業コード	42D04-001
教員名	後藤 剛史
教員コード	100374
登録人数	16
回答数	10
回答率	62.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

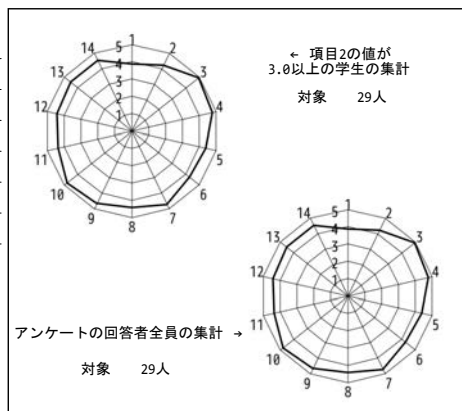


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 「ゲーム理論の問題演習を通じて、ゲーム理論を本質的に理解できるようになること」が、開講当初に設定していた目標である。今年度は持ち込み不可の期末試験を実施したが、出来具合としては物足りなかった。ゆえに、目標を達成できたとは言い難い。
- ② 設問14の平均値は4.50であり、経営学科科目の平均値4.24、読み取り枚数30枚以下科目の平均値4.47、前回（2021年3Q）のこの科目の平均値4.48を上回った。数字の上では満足できる結果に思えるが、私にとっては意外な結果であった。というのも、授業を行なっていて、受講生が興味・関心を持って熱心に聴いてくれているかどうかについて、いま一つ手ごたえがなかったからである。数学の講義をノートも取らずに聴いたり、寝ていたりする学生が目についた。この印象は、試験結果で裏付けられてしまった。
- ③ 久々の対面授業で、講義を行なう側も受ける側も手探りの状態だった。私は、板書の際にiPadを用いるかホワイトボードを用いるかで、どちらにも利点があるため、最後まで迷った。オンライン授業導入前なら、ホワイトボードを使うことに迷いはなかっただろう。受講生も、オンライン授業の際にはチャットを通して熱心に質問していたのに、対面授業になるとどう質問してよいのか戸惑っていたようである。オンライン授業で導入された新しい授業手法を教室にどのように持ち込むか、試行錯誤していきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治・経済と人間の尊厳7  
授業コード 10D04-007  
教員名 MERE, Winibaldus Stefanus  
教員コード 101180  
登録人数 100  
回答数 29  
回答率 29.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

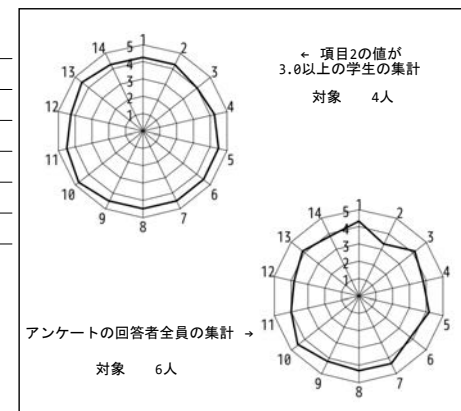
1) The course was carried out in accordance with the goals set up in syllabus in the beginning of the quarter. From personal evaluation, which is also mirrored in students' evaluation and comments, it can be said that to most extent the goals had been successfully achieved. Most students understood the substance of the course and be able to relate it with their economic and political life in the society.

2) Having over-all self-assessment and evaluation, my take on the numerical data of the student evaluation is very positive as they indicate high satisfaction among most students about the topics, substance, materials presented during the course and the methods the course was carried out.

3) Due to difference in ability and interests among the students, it is very difficult to meet all the expectations equally. Thanks to the genuine concerns raised by few students. To improve the future course, additional attention is needed in dealing with students with special concern and needs in terms of the use of English and the way the structure of the slide is made. It needs more clarity on the focus of the slide presented during the course.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法と人間の尊厳2  
授業コード 10D05-002  
教員名 服部 寛  
教員コード 103600  
登録人数 21  
回答数 6  
回答率 28.6%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① シラバスに掲げている到達目標については、台風による休講があったが、予定していたすべての内容を一応扱うことができ、また学生の試験の出来から、相応の内容を知識や情報として提供することができたと判断している。② 数値については、昨年度の同科目よりも、残念ながら、全般的に低下してしまった。とりわけ、項目2の主体的な参加については、本講義がオーソドックスな講義スタイルということもあり、双方向的なやりとりを期待しているであろう学生のニーズにマッチしていないということが考えられる。また、授業の進度については、初回が休講になってしまったということもあって、進度が遅くなってしまった（序盤の数回では、PCを買い換えたこともあり、接続に難儀してしまったことも印象を悪くしてしまった）。この点が受講者からマイナスに評価されたことも否定できない。他面で、講義の各テーマに関するタイムリーな話題を適宜扱い、関心を引き出す工夫を、毎年度継続しており、この点については毎回の学生の授業への反応を見るに、効果的なものといえそうである。③ 受講者の意欲的かつ主体的な態度をいかに引き出すかについて、例えば、WebClassの効果的活用などを含め、今後、工夫していきたい。また、授業の進度を適当に保つためにも、シラバスにて、授業の内容の構成を工夫しようと模索しており、次年度ではこの点を意識して若干の変更を試みている。これらの点を中心に、引き続き改善をはかっていきたい。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文化人類学B2<国際科目群>
授業コード	12B14-901
教員名	ALVA, Reginald Joaquim
教員コード	102369
登録人数	5
回答数	4
回答率	80.0%
休講回数	2 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

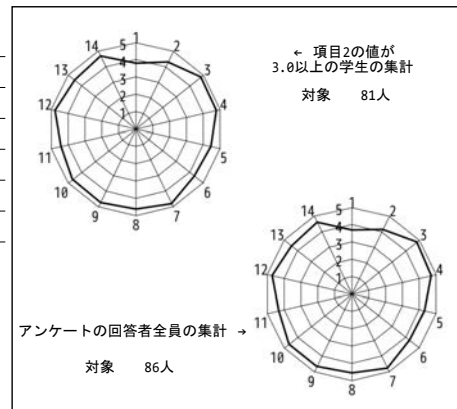
今回、文化人類学国際科目群の授業を対面形式でやらせていただきました。この授業は全学部の学生たちが履修登録することが出来るので学生たちの意欲を引き出せるために授業の内容を分かりやすく説明し、また様々な工夫をいたしました。また、授業中取り扱う資料を事前にwebclassにて掲載いたしました。その結果、学生たちは内容をよりよく理解できたと思います。以下の学生たちのコメントからも同様な印象を得られると思います。

「丁寧な解説があり、語彙の理解が進んだ。ディスカッションが多く自分の意見を考えるきっかけになった。」「授業の進捗がゆっくりだったので他の授業に比べ学んだことが記憶に残りました。僕たちのことをとても気にかけてくださったように感じました。」「討論があったり、ペアで内容を確認することができた。」「流れと先生の説明は良かったです。」

これからも学生たちの意見を聞きながら授業を進めていきたいと思っています。また、必要に応じて改善していきたいと思っております。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本国憲法4
授業コード	12C03-004
教員名	沢登 文治
教員コード	017863
登録人数	242
回答数	86
回答率	35.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

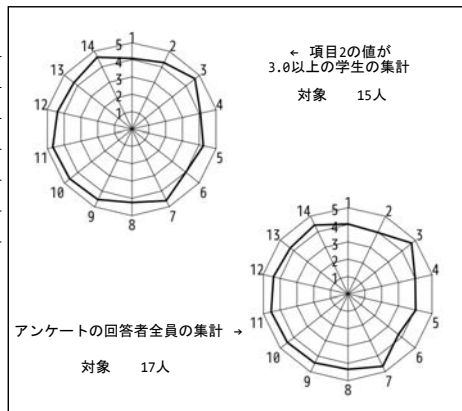
2022年度Q3では、全面的に対面授業を実施することができた(1, 2回コロナ関係でハイブリッド実施)。対面授業復活かつ200人以上の講義(B11教室)のため、諸々注意深く実施するよう努めたが、以下、数値的に特徴的なものを対象に考える。

(6)「到達目標に向けて力がついてきている」が4.27(昨4.04)は今後も注意していく。(7)「担当教員の姿勢」は4.76と私にしては高い数値であった。(8)「声や音声機器の音」が4.58で今後注意して発声したい。(11)「学習意欲・積極的な授業参加・自主的学習」がやはり4.34とやはり低調なので、工夫したい。(12)「質問や相談の機会」は、4.72(昨4.79)で、昨年はzoomやWebClassのチャット、WebClass質問箱・メールを利用したが、今回は対面で、教室またはWebClassメールしか使っていない。メールでは90の質問や問い合わせがあった。今後も継続して受講生とのコミュニケーションに気を配りたい。(14)「全体の満足」は4.60(昨4.50)で私としては悪くないが、さらに工夫を考えたい。

自由記述(15)で32件、(16)で14件記述があった。(15)は「動画を使う場面がありました、これによってイメージしやすかった。」「説明が丁寧で、法律に関して無知の私でも色々な事を知れた。楽しかった。」など、私なりの工夫につき積極的に解釈してくれている。(16)「スピードが遅い。」「教室が大きすぎて、後ろの席の人達がたまにうるさめにお話してたこと。」など気を付けるべきことが分かったので注意したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民法A  
授業コード 40F04-001  
教員名 王 冷然  
教員コード 103577  
登録人数 67  
回答数 17  
回答率 25.4%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

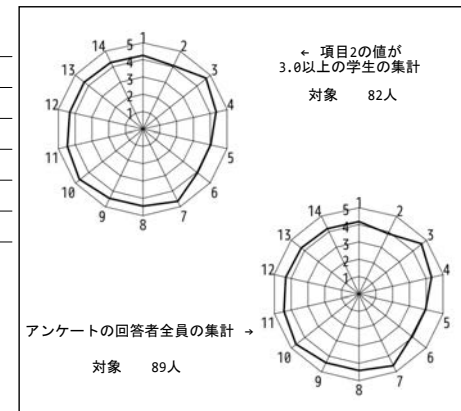
当該授業は、①契約成立や契約の効力に関する民法の規定を理解していること、②意思能力や行為能力、制限行為能力制度の内容について理解していること、③意思表示の仕組みや効力、代理の内容について理解していること、④民法の条文の読み方、解釈の方法など民法学習に必要な基礎的知識を身に付けていることを目標としましたが、定期試験の成績からみると、目標はほとんど達成できたと思われる。

授業評価の数値データからは、「担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか」という設問と「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」という設問に関する評価が高く、また、学生たちの自由記述からは、説明が分かりやすくとレジュメと資料の配布が高く評価されており、授業に関する姿勢や内容は学生たちに評価されているように思われる。

今後も分かりやすく説明することを意識しながら、学生から質問をもらえるよう工夫したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑事訴訟法B  
授業コード 44B10-001  
教員名 岡田 悦典  
教員コード 100621  
登録人数 175  
回答数 89  
回答率 50.9%  
休講回数 2 回  
補講回数 1 回

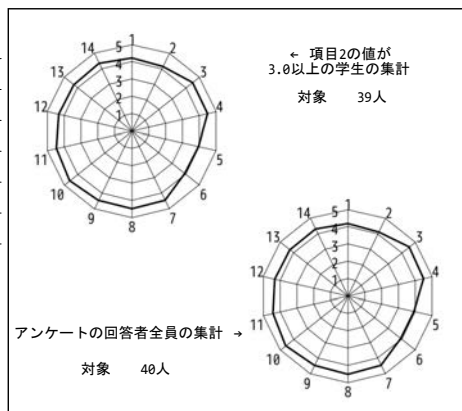


授業評価結果を踏まえた点検・評価

概ね、開講当初に設定していた目標と到達の程度については、十分に達成することができたと思う。しかしながら、刑事証拠法の理解が難しかったという声もあり、扱うテーマの難しさも感じた。さらに、次年度から3年次となるが、履修生に2年次生が圧倒的に多かったというのも、影響していると思われる。この点、解説の内容など、もう少し平易にするなどの改善を試みるべきだった。また、到達目標についての評点が相変わらず、低かった。確かに、到達目標を明確に講義中にしていなかったことも、影響していると思われる。全体の満足評価が必ずしも高くなかったことは、授業を受けていて、テーマがやや難しかった分野であったことが、評価に影響しているのではと、想像している。次回に向けては、第一に、到達目標を明確にして、学生に周知することを、徹底することである。工夫を考えたい。第二に、内容の精査である。特に訴因、証拠法については、理解が難しいようで、かつ想像がつきにくいテーマであるのかもしれない。この点も、改善を考えたい。第三に、もう少し、刑事裁判とは何か、証拠の基本的な内容についての講義部分を増やし、理解を促進させるように内容構成を練り直したいと考える。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法総論B  
授業コード 44B14-001  
教員名 洪 恵子  
教員コード 103537  
登録人数 145  
回答数 40  
回答率 27.6%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



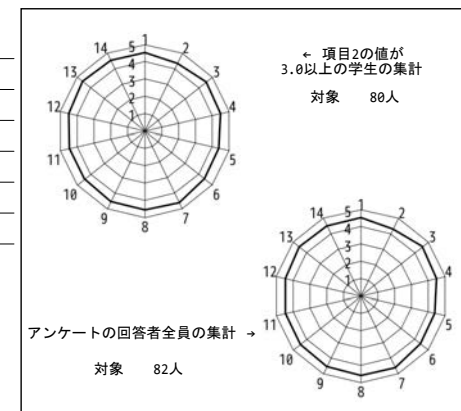
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① この授業では、現実の国際問題と国際法の接点を見つけ出す能力を高めることを目指しているが、アンケートの結果を見ると、その点が受講生に理解されていたように思われる。
- ② アンケートの数値結果はおおむね良好であり、また自由記述も積極的な意見が多く励まされた。他方で、改善すべき点についての自由意見は、講義に出席している学生からの回答とは思われないものもあった。
- ③ 時事問題を取り上げることは講義の目的にもかない、学生にも好評であるので、今後も続ける予定である。またスライドを表示する方が大教室では見やすいということがあらためて確認できたので、今後も続ける予定である。

なお、アンケートに回答するように受講生に何度も指示し、また授業時間内にも回答時間を設けたが、それでも受講生（145名登録）のうち40名しか回答していない。文科省の現在の方針を確認したうえで、南山大学の授業評価アンケートの方式や趣旨を見直す必要があるのではないだろうか。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 労働法A  
授業コード 44B27-001  
教員名 緒方 桂子  
教員コード 103261  
登録人数 373  
回答数 82  
回答率 22.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

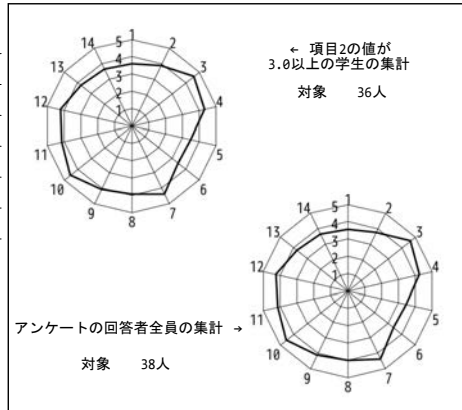


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初設定していた、条文の理解を進めるという目標は達成できたように思われる。
- ② 授業の進みと学生の理解を一致させることを努力したが、ネガティブな評価をみると、その趣旨を理解していないものもあった。授業当初に、授業の進め方についての趣旨を明らかにしようと思う。
- ③ 学生からのコメントに板書のアップロードが遅いとあったが、それはまったくの誤解である。毎回の授業終了後、その場で、板書をDLサーバーにアップロードをしていたので、そのようなことはない。学生が何か間違えていると思われる。むしろ、すぐにアップロードしていたので、勉強が進んだという意見もある。このまま継続していきたいと思う。授業の場で、部分的にPPTに打ち込むことについては、PPTが「紙芝居」のように展開し、学生がよく理解できないままに授業を進めることを防止するための工夫である。この点は最初に説明しておきたいと思う。一方、PPTのページが早く進み、十分についていけないままの場合もあった、という意見もあった。配慮したいと思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋法史A  
授業コード 44B35-001  
教員名 田中 実  
教員コード 017038  
登録人数 82  
回答数 38  
回答率 46.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

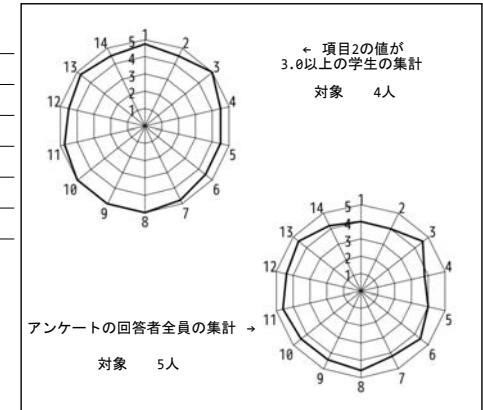


授業評価結果を踏まえた点検・評価

比較的评价が高かったのが、項目3、7、10、11である。3、7、10については例年も同様あるが、11が高くなったのは熱心に質問をされる何人かの学生さんによるものであるかと思われる。学生側の取組みを除く項目で、比較的低かったのは、項目5、6、14である。ローマ法の意義について過去及び現状を丁寧に説明するように心がけてはいたが、やや抽象的なきらいがあり、来年度からは、それに加え、各項目について、どのような意味があるのか、そして到達目標を明確にするような工夫を試みたいと考える。受講する学生側の問題として、項目1が低いことが気になるが、実定法科目あるいはいわゆる六法科目とは異なるので、講義の冒頭で、どのような学問分野であり、法学部の教育の中でどのように位置づけられてきたかを、より丁寧に説明することを心がけたいと考える。個別の記述で、例年に比べ、肯定的な感想などがいくつも書かれていたこと、それらの多くが担当者がまさか心がけていたことでもあり、嬉しい限りである。実際、熱心な受講態度の学生さんの姿が顕著に観察されたことでもあり、より意義のある講義を心がけたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治思想史B  
授業コード 44B45-001  
教員名 西村 邦行  
教員コード 104090  
登録人数 25  
回答数 5  
回答率 20.0%  
休講回数 5 回  
補講回数 4 回



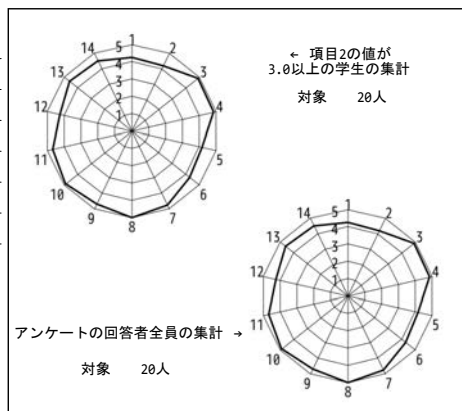
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は受講者数・回答者数ともに少なかったため、アンケート結果からどの程度のことを汲みとってよいのかそもそも心もとないところがある。ただ、業務の都合で補講対応が多くなったうえに、台風による休講で授業回数が減ったことで、とりわけ後半にかけて進行速度が速くなってしまったところがあり、行き届かない授業になってしまったのではないかと懸念していたが、その点について評価の面で予想していたほどの反応がなかったことはよかったと言える（回答してくれた学生たちが、その時点で既に回答を終えていた可能性もあるが）。

以上とは別に、定期試験まで終えてみると、授業で強いて強調しているポイントであっても、受講生の理解が高校までの通俗的なものにとどまっている様子が散見された。前述の授業速度の問題とも絡んで、内容を精選したうえで「狭く深く」型の授業にシフトする方がよいように感じている（政治思想史Aはこのやり方へ変更することで手ごたえがあった）。扱う内容の関係で必ずしも容易ではないが、反転授業的な要素を盛り込むことも考えてみたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済法A  
授業コード 44C19-001  
教員名 齊藤 高広  
教員コード 103599  
登録人数 49  
回答数 20  
回答率 40.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

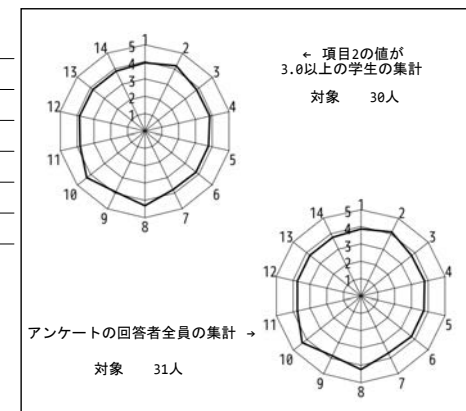


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、市場経済における基本ルールである独占禁止法のうち、主として共同行為の規制と独占・集中規制を扱った。到達目標としては、① 経済活動に対する法的規律を理解する、② 市場における競争秩序の意義と規整方法を法的に説明することができる、③ 競争政策の歴史と競争制限行為の規制手法を理解する、の3点である。口頭説明、レジュメ、パワーポイントの組み合わせによって、授業を展開したが、アンケート結果や試験結果を見る限り、受講者側に混乱をもたらすことは稀だったらしく、理解度に寄与しているようである。授業時間を割いてアンケートの記入をお願いしたものの、回答数は決して多いものとは言えず、よって、一部の意見しか把握できておらず、どこまで信頼性があるのか、不明な側面もないではない。ただし、試験結果における事例問題回答の充実度を見る限り、恒常的に授業に参加していた多くの学生の理解度や関心を高めたことも窺い知ることができる。もっとも、対面式授業であったにも拘わらず、休み時間や授業後の質問数がほぼなかった点、また、コロナ対策のため、対話型の講義を復活できていない点が、個人的には悔やまれてならない。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 応用会社法  
授業コード 44C30-001  
教員名 家田 崇  
教員コード 102459  
登録人数 209  
回答数 31  
回答率 14.8%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
今後より望ましい評価が得られるよう新たな手法をどのように展開されるかなどについてなど、次クォーター・学期以降に向けて今学期に導入した新たな教育手法などを踏まえて総合的多角的に検証していきたい

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
今後の授業と演習の  
それぞれについて反映ができるように、それぞれの記述数値の実質的な意味が何を、さらによく考え、自分のPDCAサークルに取り込んでいく。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
次クォーターは具体的には演習科目しか担当しないので、授業評価で大勢の学生を対象とした授業の評価結果が、個別の演習にどのように活かせるのか、数値データおよび自由記述等を踏まえてのそれぞれの意義が、仮に授業科  
目にのみにか当てはまらないとしても、演習にも応用できることがないのか検証していきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政法総論（基礎）

授業コード 44F01-001

教員名 榊原 秀訓

教員コード 100548

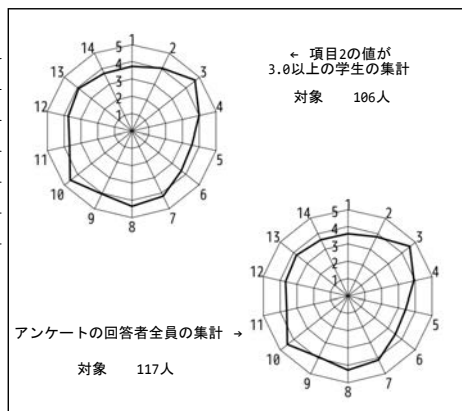
登録人数 357

回答数 117

回答率 32.8%

休講回数 0 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度と比較してみたい。レジュメ等印刷したが、同様の資料は資料講義DLサーバに掲げた。また、自習用に、○×式の参考問題（回答は示さず）と、過去の記述問題も示した。回答数は117名であり、回答率は58%程度である。前から評価が低い項目を確認する。「到達目標を理解することができましたか。」3.50から3.44、「到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」3.57から3.53、「適切な指導や情報提供はありましたか。」3.69から3.62、「質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか」3.45から3.68となっている。全体の満足度は3.58から3.60となっており、だいたい変化なしである。「授業の内容に興味をもつ者」が3.58である。興味がないのに受講しても仕方がないとすら考えられる。比較的記述欄をみると良かった点も改善すべき点も同じほどの意見があり、また従来と比較していずれも記述が多かったように思う。改善意見の主なものはレジュメについてであり、簡単すぎるというものがあった。レジュメの半分は判例の紹介であるのでそれ以外の部分を考えているのであろう。実は、レジュメや資料に対する積極的評価も多い。同じ部分の評価が分かれるのは、教科書とレジュメを組み合わせるのか、レジュメのみに依拠するのかの相違ではないかと思う。教科書があるのに、レジュメのみに頼ることは学習として無理があると思うので、改善の必要があるようには考えられない。考え方が古いのであろうか。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 家族法（親族）

授業コード 44F03-001

教員名 伊藤 司

教員コード 100474

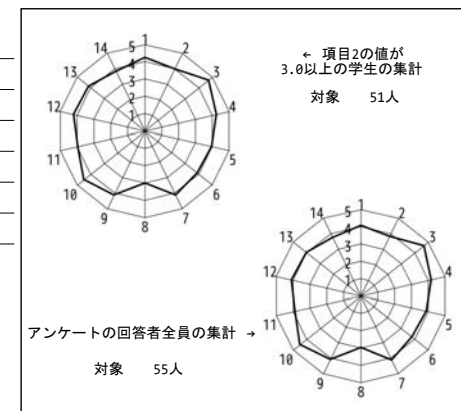
登録人数 168

回答数 55

回答率 32.7%

休講回数 1 回

補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

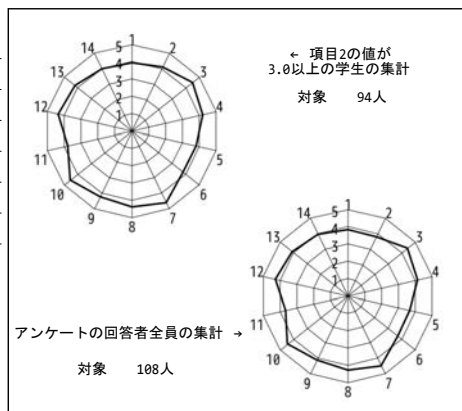
この講義は民法の「親族」を概説するもので、この分野の法的な問題を自力で解決できる用法の知識といかに解決するかの実例を数多く学ぶことを目標にしている。この目標は一応達成できているように思われる。

また、講義それ自体も全体として、それなりの評価が得られているように思われる。ただし、自由記述においてもみられた指摘であるが、これが小さいとか聞き取りにくいといった指摘がみられた。この点は近年はあまりみられなかったが、以前にも指摘を受けたことがある点である。これは、次のクォーターを始め今後気をつけておかなければならない。

なお、今回についても以前と同様にアンケートに協力してくれた学生の数が少ない。試験を受けた人数からすると3分の1ぐらいしか回答されていない。講義をしている限りにおいてはそれほど人数の減少を感じなかったのであるが、アンケートの回収率をみるとそれほどでもない状況である。おそらくこれは講義には出席していたが、アンケートには協力しなかった学生が少なからずいることを反映しているように思われる。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 憲法入門  
授業コード 44H01-001  
教員名 河合 正雄  
教員コード 104426  
登録人数 306  
回答数 108  
回答率 35.3%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

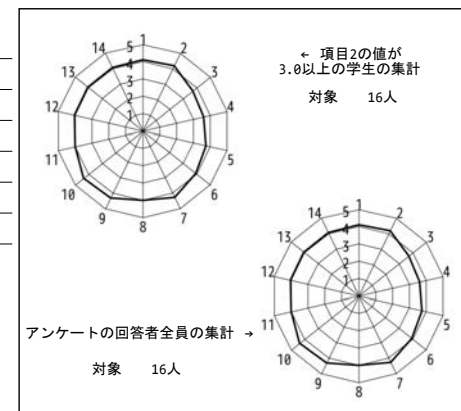
Q2「日本国憲法」に引き続き、項目1から14の平均、3から14の平均共に4点を超えることができた。5段階評価の点数と自由記述回答の内容、定期試験の出来具合からすると、来年度に担当する予定の「統治機構」（「憲法入門」の履修者の一部が履修する）の進行形式と難易度・内容の密度は、現状を維持したい。

憲法は、他の法律科目に比べると抽象的が高いため、「判例が分かりやすくまとまっていた」、「具体例が多く分かりやすかった」という自由記述回答をいただけたことを今後も意識したい。必ずしも本質的な内容ではないものの、「レジュメにテキストのページ」を書くこと、「講義資料が早めに全範囲配られたこと」、「レジュメ通りに講義が進行」することについても、引き続き現状を維持するよう心がけたい。

但し、「あまり寄り道をすることがな..かった」という回答（項目15）の一方で、「話が遠回りになることが多く、本筋が見いだせないことがあった。」という回答（項目16）も見られた。また、レジュメについて、従来に引き続き、「書き込めるスペースがもう少しあると良い」、「レジュメが少し見にくい」とする回答（項目16）が見られた。これらのご指摘については、引き続き意識したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知的財産法B  
授業コード 44J02-001  
教員名 平嶋 竜太  
教員コード 104448  
登録人数 95  
回答数 16  
回答率 16.8%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

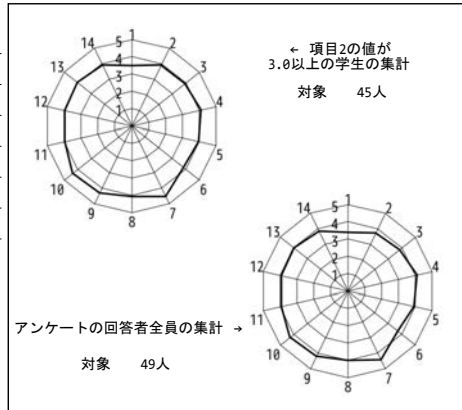


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定した目標と到達については、ほぼ達成できたものと思料する。
- ② 当初の講義計画で取り入れている内容が、内容と範囲ともかなり広汎なものであったためか、講義の予定が後ろにずれ込む傾向が生じ、短時間に多くの内容を扱うため、自然と講義の速さが速くなった点に注意・改善が必要と思われる。数値データでも講義の計画等についての数値が、内容や充実度に比べて若干低い傾向がみてとれること、自由記述の中にも、講義スピードが速かったとする意見もみられることから、この点は注意をようするであろう。他方で、自由記述の意見でも興味ある裁判例をとりいれて学習意欲を高まったと考えられるものがあり、講義内容については、このような特色を維持するべきと考えられる。
- ③ 授業計画内で取り入れる内容を若干見直して、授業進行速度をより緩やかにすることを心掛けて検討を行いたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[H・F]2  
授業コード 10A51-003  
教員名 BOSAKAIBO, B. Georges  
教員コード 104045  
登録人数 150  
回答数 49  
回答率 32.7%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

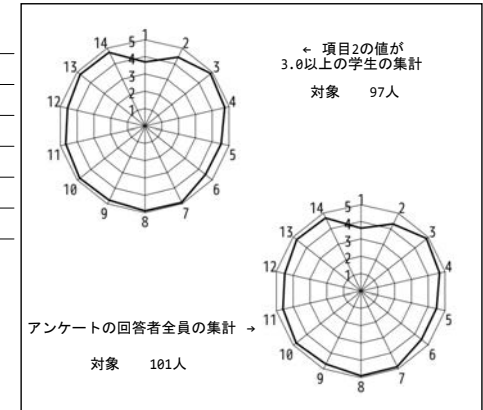


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は講義形式で行われた。旧約聖書と新約聖書に基づき、キリスト教の歴史、特にイエス・キリストの人物像とその中心的な教えを考察した。また、宗教的人文主義について学ぶ機会も提供した。キリスト教をその基礎的要素から現在の機能まで理解することができ、この授業の目的は達成された。予定されていた授業はすべて行われた。休講や補講はなかった。キリスト教の歴史、教派の違い、地域や文化の違いなど、基本的な知識を深めることができた。このことは、授業中の反応や、期末レポートでの学習内容に対する意見に表れている。章が長すぎて、予定時間内にカバーしきれなかったところがあると思う。予定時間との兼ね合いで、短くまとめたいと思う。章全体をカバーする短い要点の提示は、キリスト教とその重要な要素を理解するための教えを増やすことに貢献すると思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[H・F]6  
授業コード 10A51-007  
教員名 山田 望  
教員コード 000211  
登録人数 150  
回答数 101  
回答率 67.3%  
休講回数 1回  
補講回数 0回



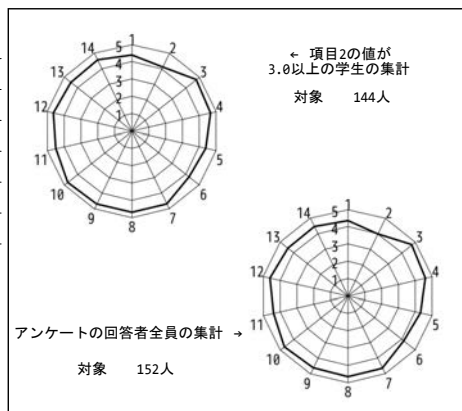
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度については、設問5の目標についての理解度を問う問いに対して、宗教科目全体では4.08だったのが私の授業では4.51と0.43高かったので、受講生は概ねこの授業の目標を理解しており、その上で、設問6の到達目標に向けて力が付いているかとの設問に対して、宗教科目全体では3.93だったのが私の授業では4.49と0.56上回っており、最終的には、設問14のこの授業への満足度を問う設問で、宗教科目全体の平均値が4.18だったのに対して、私の授業では4.70と0.52高かったので、ほぼ目標には達したと理解できる。
- ② 数値データおよび自由記述などを踏まえての総合的な自己点検評価としては、設問1から設問14まで、すべての設問について、宗教科目全体の平均値を大きく上回る結果が出ていたので、キリスト教概論という必修科目としての授業内容としては、学生から高く評価されたものと理解している。同様の評価は、自由記述欄の記述内容からも伺え、「分かりやすかった」「背景知識をしつかりと享受した上で、キリスト教の成り立ち、聖書、そしてその解釈をめぐる歴史や研究について学べたのが良かった」「教員が学問に誠実に向き合っていると感じた」など、たくさんの肯定的評価の記述があったことから裏付けられる。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点としては、自由記述の中に、課題の提出方法などに不満を記述した学生がいた。毎回のリアクションペーパーをワードではなくPDFで提出することを求めたのが気に入らなかったらしく、PDFへの「こだわりが強すぎる。」「人間性を疑う」などの批判的な記述を書いていた。150名もの学生のワードファイルを探し回ることの非現実的な手間を省くために、ワンクリックで開けるPDFでの提出を指示したが、次回からは、なぜPDFファイルによる提出なのかについて、もう少し詳しく説明し、学生たちの理解を得られるように努めたい。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会学B3  
 授業コード 12C07-003  
 教員名 狭間 諒多朗  
 教員コード 104124  
 登録人数 498  
 回答数 152  
 回答率 30.5%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

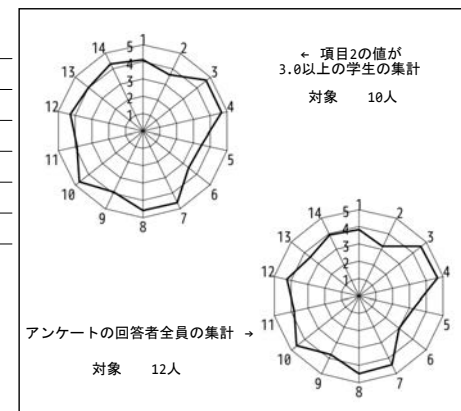
本授業では「①身近な問題から社会について理解する力を身につける」「②社会学の概要を理解する」の2つの到達目標を掲げている。①については、若者論をベースに家族や労働、教育といった身近なトピックを紹介することができ、受講生の理解も進んだと考えている。②については、各トピックについて、身近ではあるものの社会的な見方を紹介することを心掛け、社会学の概要を学べる授業にした。こちらも受講生はきちんと理解できていたように感じている。

「学生による授業評価」の評価をみると、おおむね高い評価を得ることができたと考えている。特に、項目番号7の平均値が4.63と高い評価を得ている。こちらの熱意伝わった結果だと思われる。また、チャット機能を用いた受講生からの質問時間を設けたほか、毎授業後の小課題について必ず次の授業で解説するようにした結果、項目番号12の平均値が4.61とこちらも高い評価になっている。これらの工夫が全体的な満足度の向上につながったと考えている。（項目番号14の平均値は4.47）。

一方で、自由回答をみると、「教科書を読み進めながら先生の話聞いてメモするというのがとても大変」というコメントが寄せられている。授業内容を詰め込みすぎたという反省もあり、今後は内容量の調整や授業内容の整理を行いたいと考えている。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アジアとの出会い3  
 授業コード 13B02-003  
 教員名 野口 博史  
 教員コード 100473  
 登録人数 37  
 回答数 12  
 回答率 32.4%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

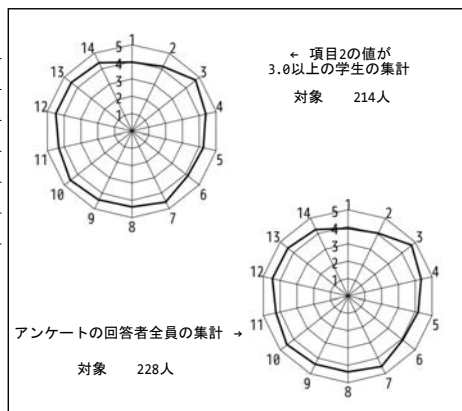
本講義は、グローバルな視点から社会や文化の多様性を理解するというJABEEのA-3に対応し、アジアの近現代史を通じて近代化の諸傾向を検討する科目である。定期試験の結果から、本講義の目標はおおむね達成されたと考え得る。

本講義は2021年度においても授業評価の対象となっているが、各項目の平均値のうち、設問5および6、11の評点が顕著に低下している。講義内容および方法は昨年と変化していないが、昨年の受講生が100人強、本年は30人程度との差がこれをもたらしたとも考え得るが、この点に関して明確な原因はつかみきれしていない。

なお、自由記述欄の記入は4件、改善すべき点に関する指摘はなかった。次年度以降、適度の柔軟性をもって受講生の人数に適合した授業様式を採用すべく準備してゆきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会システムと環境2  
授業コード 13D06-002  
教員名 鶴見 哲也  
教員コード 102265  
登録人数 704  
回答数 228  
回答率 32.4%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

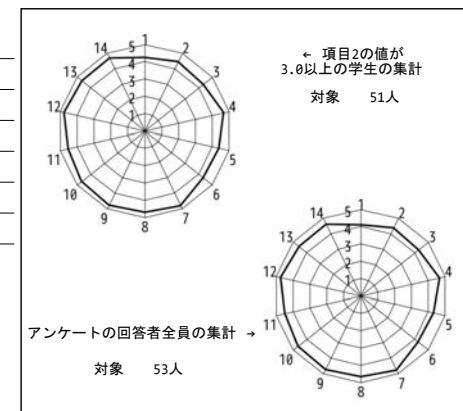


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、レポート課題の質がおおむね優れており、途上国及び先進国それぞれに対して政策として何が必要となるのかについて、持続可能な発展の観点から自分の意見を述べるという到達目標はおおむね達成できたと考えている。数値データに関しては、241名以上の受講登録人数別の平均値が設問1から14が4.21設問3から14が4.26であったのに対し、当該科目はそれぞれ4.32と4.38であったため、平均を超える評価を得ることができた。特に、今回受講者数が700名を超えたことも考えると、多人数に対しての講義としてはおおむねよい評価を得ることができたのではないかと考えている。また、自由記述においても今まで知らなかった世界の状況がよく理解できたという書き込みが目立ち、今回、具体的事例を中心に授業を行ったことが良い反応につながったと考えている。来年もより最新の事例を加えながら、持続可能な発展について自分で考えることができるような授業を行っていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文明論概論2  
授業コード 46A01-002  
教員名 太田 和彦  
教員コード 104469  
登録人数 153  
回答数 53  
回答率 34.6%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について：9「4.72 教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。」、13「4.57 この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」の回答から、シラバスに記載した到達目標は達成されたと考える。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：12「4.77 質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか」から、講義の前半を質疑応答にあてる形式を維持しようと考えている。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点：6「4.26 あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」から、学生の達成度合いを確認できるような小試験を来年度は実施する予定である。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ミクロ経済学

授業コード 46D03-001

教員名 佐藤 創

教員コード 103882

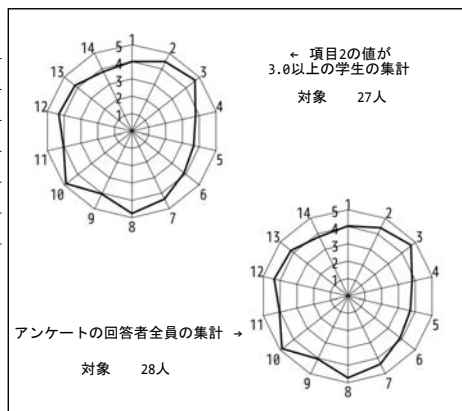
登録人数 58

回答数 28

回答率 48.3%

休講回数 0回

補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達については、アンケート及び試験結果の結果をみると、おおむね達成できたと思われる。本授業の項目1から14の平均、3から14の平均は4.21である。なお、回答数は28でおおよそ5割である。

本授業ではレジュメを事前にアップロードし、そのレジュメのなかで穴埋めをさせる方法を採用した。ミクロ経済学は数式や計算も多く、図表を多用する努力をした。なお、おおよそ1時間ごとに、見せたスライドを再投影し、理解確認問題を解く形式とした。授業の終わりにはリアクション・ペーパーを提出する時間をとり、これを質疑応答の時間とした。これらの工夫はアンケート結果の集計および自由記述欄をみると、概して、学生の評判が良かったようである。今年度は、試験90%とし、リアクション・ペーパーによる授業貢献度を10%としたが、この配分バランスの最適点はもう少し検討してもよいかもしれない。

引き続き、「当該授業の理解度」「自発的な学びの促進」を進めるための良い工夫がほかにもないか、試行錯誤しながらより良い講義になるように努めたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際関係論

授業コード 46D06-001

教員名 小尾 美千代

教員コード 102453

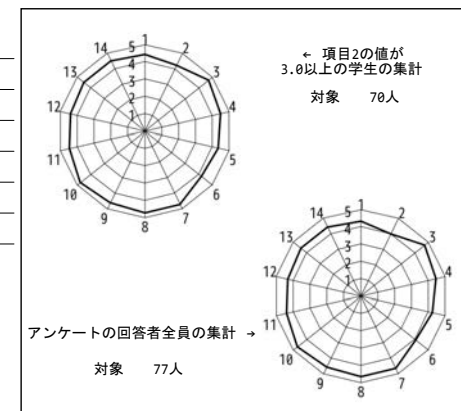
登録人数 125

回答数 77

回答率 61.6%

休講回数 0回

補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

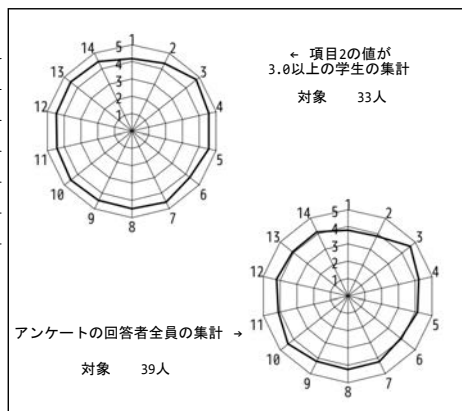
この授業では、(1) 国際関係論および国際政治学の基礎的概念や理論を理解していること、(2) 国際関係の変遷について理解していること、(3) 現代のグローバルな課題を理解していること、の3点を到達目標とした。

アンケートの回答者77人のうち、項目2が3.0以上の学生は70名、1~14の平均値は4.43（昨年度比+0.26）、3~14の平均値は4.47（同+0.25）で、いずれも昨年度より0.25ポイント程度高くなった。昨年度は約0.2ポイント低下から回復した形である。特に項目5「到達目標の理解」と項目6「力がついてきているか」について、これまでは4点未満であったが、今回は4.27、4.08となった。

自由記述欄から授業の進行速度やレジュメについて要望が寄せられたので、可能な限り今後の授業運営に反映させたい。また、テキストを利用し、その内容に沿った授業としたことで理解しやすかったとのコメントがあった他、特に動画視聴については肯定的な評価が多く寄せられたことから、今後も同様の形で、できるだけ受講生がイメージしやすい動画の視聴を含めて授業を運営していきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代国家論  
 授業コード 46D12-001  
 教員名 井上 洋  
 教員コード 100177  
 登録人数 198  
 回答数 39  
 回答率 19.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

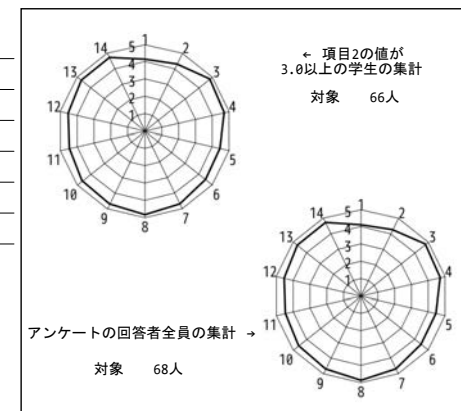


授業評価結果を踏まえた点検・評価

2022年度第3学期の「現代国家論」が、わたしが授業評価を受ける最後の科目である。わたしは、2000年度に法学部科目「行政学」を集中講義で担当して以来、本年度まで20年以上にわたって本学の科目を担当してきたが、来3月に定年を迎え退職するからである。その最後の科目において、講義担当者を評価する項目においてすべて4点台の評価であったことにほっとしている。本講義では、最初の4回思い切って問題を提起する仕法を取り、残念ながらこれを続けるのは難しいという判断をしたあと、5回目からは丹念に語り掛けることを心掛けて講義をしてきた。180名の登録で最後まで聞き続けてくれた学生は3、40名であったが、上にほっとしたと書いたのは、少なくともその範囲には語り掛けられたように思われたからである。聞こうとする者に丹念に語り掛けるという講義の基本が一体として見失われつつあるかに見える昨今、その基点に帰ることを心掛けられたことはよかったし、ありがたかった。最後まで聞き続けてくれた30名のほどの受講生に感謝する。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営学概論  
 授業コード 46D13-001  
 教員名 金網 基志  
 教員コード 102923  
 登録人数 170  
 回答数 68  
 回答率 40.0%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回

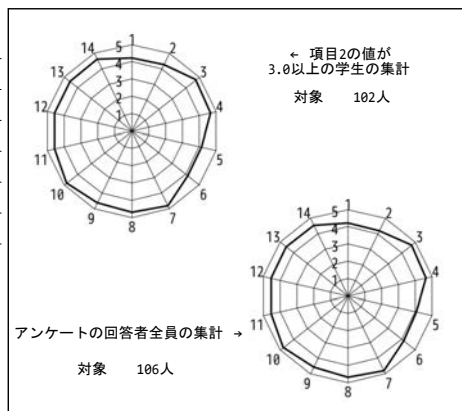


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均値は4.57、項目3から14の平均値は4.63であり、全体の平均値、総合政策学科の平均値、登録者数別集計の平均値をそれぞれ上回っている。毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたかの質問に対する評価の平均値は4.71、教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたかの質問に対する評価は4.68、全体として、あなたはこの授業に満足しましたかの質問に対する評価は4.71で高い評価を得た。自由記述欄を見ると、授業の冒頭に前回の復習を行うこと、授業中にExerciseを取り入れ、学生に考えさせる時間を設けて発表させていること、多くの具体例を示しながら説明していることの評価が高かった。具体例については、事例をアップデートしながら興味深いトピックを取り上げていきたい。この授業の到達目標を理解することができましたかに関する質問の評価がやや低かったので、到達目標との関連を授業中に説明するなどの工夫を取り入れていくことにしたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 都市環境論  
 授業コード 46N21-001  
 教員名 石川 良文  
 教員コード 100650  
 登録人数 168  
 回答数 106  
 回答率 63.1%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 1 回

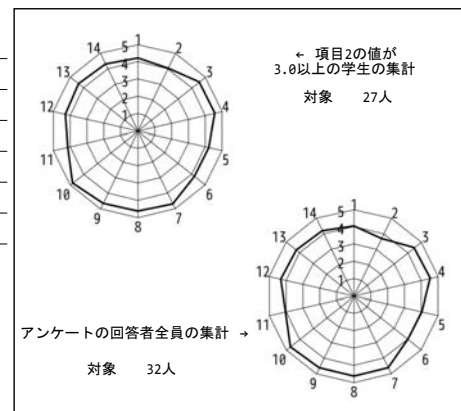


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
 開講当初は、全ての設問項目で全学平均を超えることであったが、本科目は設問5「到達目標の理解」のみ全学平均を下回ったものの(4.08)、そのほかは全て全学平均を上回る評価を得た。また、特に設問14「全体としての授業の満足度」は4.54と全学平均4.29を大幅に上回った。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
 授業評価の設問項目で特に評価の高かった設問は設問1「履修前の授業内容の興味」設問4「構成や進行速度」設問7「教員の姿勢」設問11「学習意欲の引き出し」であり、これらは全学平均より0.2ポイント以上上回った。これらの設問は、授業に当たって特に注力したところであり、教員の意図がかなり伝わっていることが確認できた。自由記述においてもかなり良かったポイントが記入されており、丁寧な授業が評価されたと思われる。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
 全体としての評価は高かったものの、もう少し分かりやすく話してほしいという自由回答もあり、今後の授業の参考としたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際機構論  
 授業コード 46N29-001  
 教員名 山田 哲也  
 教員コード 100839  
 登録人数 109  
 回答数 32  
 回答率 29.4%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回

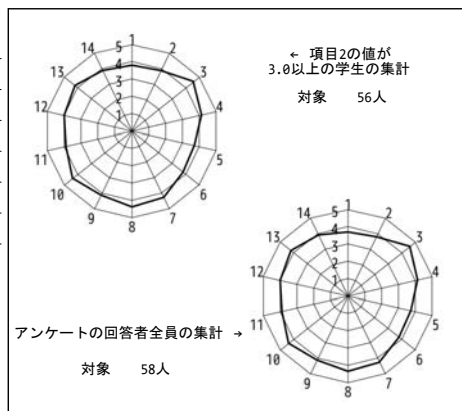


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
 今年度から総合政策学部と法学部の「乗り入れ科目」とした。そのためもあってか、学生の受講態度に例年以上の差があった(教科書を買うか、講義中にノートを取るか、など)。そのため、板書の量もテーマによって増減した。できるだけ学生の雰囲気を感じ取るようにしたため、想定より進行が遅くなったかもしれない。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
 ①のこともあって、数値データは、通常より若干低い。自由記述が好意的な反応ばかりであったことに、若干安堵している。以前から講義中に若干の休憩時間を設けており、毎回のアンケートで好意的なコメントが寄せられている。また、前回アンケートの際に不満があった「講義当日のレジュメのアップロード」を回避したところ、それについても好意的なコメントがあった。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
 この講義については、教科書を指定しているので、教科書とレジュメのバランスを取るよう心掛けたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ソフトウェア工学基礎
授業コード	54A08-001
教員名	吉田 敦
教員コード	101920
登録人数	180
回答数	58
回答率	32.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度から担当を始め、2回目となることから、昨年度よりは円滑に進められることが目標であった。一部の授業内容の順番を入れ替えるなど、全体的には円滑に進められた。数値データを見ると、設問項目5、6が低く、ソフトウェア工学の知識を広く浅く教えていることが原因と考えられる。もう少し取捨選択をして、深く扱う部分を増やすべきと考えている。学生からのアンケートでは、好意的なものがほとんどだったが、特徴的なのは、課題に対するフィードバックである。採点ミスを防ぐ目的もあり、減点するときは必ず理由をつけていたので、それが役立ったというコメントがあった。また、課題の採点は、なるべく次の授業、間に合わなくても翌週には終わるようにし、典型的な間違いなどを授業の冒頭で解説した。この点についても役立ったとのコメントをもらった。講義資料がわかりやすいというコメントももらったが、この点については反省すべき点がある。わかりやすく作ると、学生は安心してノートを取らず、話を聞かなくなる。今年は同時に新しい講義の担当もあり、その準備で余裕がなかったが、来年度はやや不親切な講義資料にして、ホワイトボードも併用しながら、学生がもっと話を聞くような工夫をしたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	統計的方法
授業コード	51A02-001
教員名	松田 真一
教員コード	017566
登録人数	16
回答数	3
回答率	18.8%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

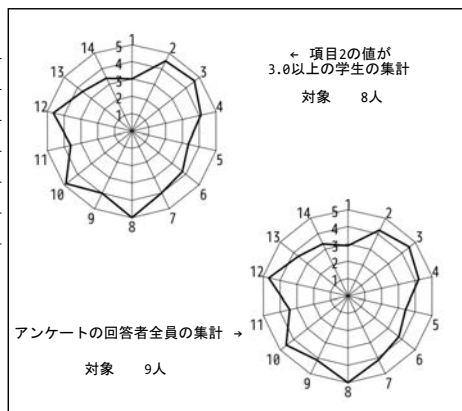
すでに事務には連絡してあったが、この科目は学科編成に伴って開講年次を変更する科目であってこの年は再履修生のみのため登録が16人しかおらず授業評価提出者は3名で平均も出せない状態であった。したがって、全体としての感想を述べるに留める。

この科目は2019年度よりアクティブラーニングを意識した科目になっているが、現状はとてもうまく行っているとは言えない。それでもアクティブラーニングになったため定期試験の出題範囲が広がったにも関わらず単位は以前と変わらずに取れているので学生の学習の点で問題があるようには思えない。これは演習の時間を多くしてできない人に焦点を当てたためである。今回でも出席率は低いもののしっかり取り組む者は演習で力をつけて単位を修得したものと思われる。逆にそのように成績の振るわない者に焦点を当てても実際に出席しないと効果は薄い。(資料自体は単独で読むだけでも成立するように工夫しており、事実通常の授業スタイルだったときに2年連続で落としていた学生がA+で単位を取るなど出席とは無関係に学習することは可能である。要するに本人のやる気次第であるが、単位を落とす学生は得てしてやる気がないため、この方式でA+に変わる方が稀であるのは確かである。)

次年度は衣替えしてスタートするため、今のアクティブラーニング方式を少し改めて通常授業に近い感じに戻す予定である。そうであっても演習時間が豊富なほど効果があることは分かっているので従来通りの板書形式に戻すのではなく、資料提示で時間短縮を図る予定である。資料自体はアクティブラーニングの時と同様一週間前には掲示するつもりで準備を進める。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	代数系入門
授業コード	51B09-001
教員名	小藤 俊幸
教員コード	101907
登録人数	33
回答数	9
回答率	27.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



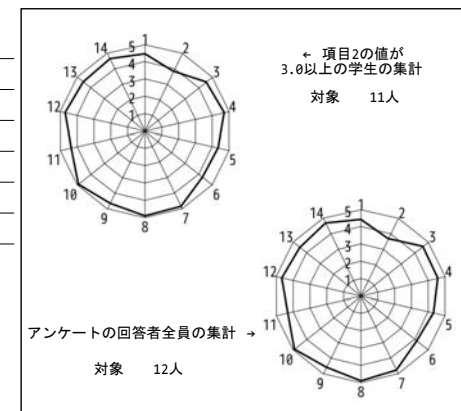
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「代数系入門」という科目名であるが、群、環、体といった現代的な抽象代数学の内容は、最後に、定義を紹介する程度で、現代数学の基礎であるカントルの集合論やデデキンやペアノに始まるよる自然数の公理的定義などの説明に多くの時間を割いている。これは、本科目が教職の必修科目であり、中学校や高等学校の教員になるためには、そうした現代数学の素養を身につけることが有益であると考えられるためである。一方、応用分野に興味がある学生を念頭において、整数論の応用として、RSA暗号の紹介も行っている。

毎時間、授業の終わりに、時間内レポートを課して、授業内容の理解の確認を行っている。レポートは、次の授業時間に寸評をつけて返却しているが、本年度は、数学的な基礎訓練ができていない学生が多かった。オンライン授業が続いたためであると思われる。定期試験の成績が悪く、単位が取れた学生は履修者の半分以上だった。残念な結果となったが、数学ができない学生に数学の教員免許を与える訳にもいかず、いかんともしがたい。履修する学生の一層の努力を求めたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報社会の構造2
授業コード	13E06-002
教員名	藤井 勝之
教員コード	101244
登録人数	18
回答数	12
回答率	66.7%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

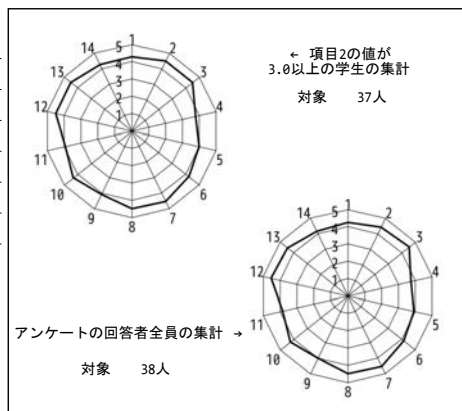


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 理系の内容であるが、テーマ科目のため情報系の知識を有していない受講生を念頭に、分かりやすい講義を行うことを目指した。設問項目15の自由記述を見る限り、十分に達成できたと考えられる。② アンケート項目2番（受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。）の数値が低い。1限の講義なので毎回遅刻してくる学生がいた。コロナで欠席過多の成績が付けられないため、抑止力が働かなかったと思われる。また、アンケートでレジュメが欲しいという記述があるが、ノートすらとっていない学生がほとんどである。10年くらい前はみんな一生懸命ノートを取っていたので、書き終わるまで待っていたのだが、きちんとノートを取っている学生がレジュメが欲しいとコメントするのであれば、一考もするのだが。③ 来年度でこの科目の担当が終わり、代わりに情報倫理の担当になる。これだけ高い評価を得られるまで磨き上げてきた科目が無くなるのは本当にもったいないが、組織の変化に対応するしかない。設問項目15（この授業の良かった点、評価できることは何ですか。）・授業で使っている教材が分かりやすく、先生の解説や付け足しも分かりやすかった・コンピュータやインターネットについて初歩的な段階から知識を付けて理解を深めることができる。・身近にあることを深く知ることができたので、面白いと感じた。・リアペ（\*リアクションペーパーの事）の質問に答える時間があつたこと・映像教材で理解しやすい授業をしていたこと。・教材として使われている動画がとてもわかりやすかった。また、補足説明があるので、よりわかりやすくなっていた。・視聴覚教材が分かりやすい・先生がいろいろなことを話してくれる・講義資料がわかりやすかった

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 プログラミング基礎[TC]1  
授業コード 50A27-003  
教員名 横山 哲郎  
教員コード 101934  
登録人数 72  
回答数 38  
回答率 52.8%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回

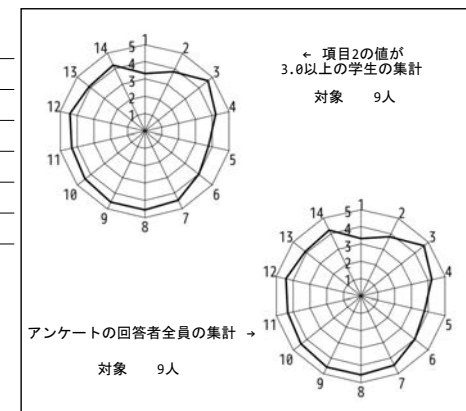


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本科目では、プログラミング言語の構文や意味を理解してプログラムを実際に組み立てられる方法を知ることが目標に含んでいる。ほぼ全ての受講生が毎週のレポートに回答をしてくれて基本問題は毎回8割以上の正答率であった。また、中間試験や期末試験も解きやすい問題であったのかもしれないが、例年より多くの学生が合格の水準に達していた。
- ② 自由記述においては、質問の機会が沢山設けられていること、特にTAが配置されていることに対するコメントがあった。分かりやすい、解説が丁寧、繰り返し説明で理解が深まったという声がある一方で、改善してほしい点については授業のスピードが速いというコメントが多かった。
- ③ 本科目はチームティーチングで理工学部4学科共通したシラバスに沿って進行しているので各回の内容を増減させることは難しいが、実習や5限の講義における基本問題の解説や質問対応の時間の比率を増やすなどして一人も取り残されない授業を目指したい。和集合や共通集合の考え方とそれらをいかにプログラムで扱うかを第4～5回で扱っているが、この辺りが特にスピードが速いというコメントを受けて、来年度は時間配分を工夫したい。高校においても論理と集合は難しい単元であり、真理値表や集合演算を苦手とする学生に配慮したい。プログラミングの内容に入る前に、この単元を特に気をつけて説明することで、その後の授業についていけるようにしたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 数理論理学[S]  
授業コード 52B07-001  
教員名 佐々木 克巳  
教員コード 018051  
登録人数 47  
回答数 9  
回答率 19.1%  
休講回数 2 回  
補講回数 1 回



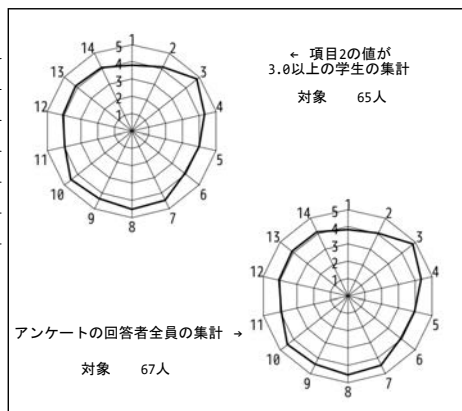
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- [目標] この授業の目標は、数学で用いられる文・推論・証明を形式的に扱うことよさを理解することである。今年度は対面授業に戻り、評価は主に定期試験をもとに行った。運営面では、事前に講義資料を配布すること、具体例から目標のよさを示すこと、演習時間を適宜設けることの方針を継続している。
- [評価] 数値では、設問3～14の平均が4.31(昨年度まで4.33->4.59->4.34->4.40と推移)で例年どおりの結果となった。理工学部独自の設問(21と22)の結果から、回答者のすべてが、「ノート等をみれば自力で調べられる」段階に達しており、とくに、設問21では、約44%が「他の人にも説明できる」段階に達していた。自由記述欄では、設問15に、進行速度、課題の難易度、講義資料が適切であるとのコメントがあり、設問16のコメントはなかった。これらのことから、運営方針を継続してよいと考える。
- 一方、設問6と設問21の相関係数は約5(2021年度は約-6)であった。どちらの設問も目標達成度に関する設問であり、設問6は「力がついているか」を、設問21は上の[目標]の具体的な達成度を問うている。つまり、負の相関は、達成度が低い学生は力がついていると感じていて、達成度が高い学生はそうではないことを示している。今回は、対面授業であることを活かし、学生の様子をみながら扱う問題の調整を行ったので、相関が正の値になったと考える。
- [今後の計画] 基本的な目標や運営は継続してよいと考える。目標は維持しつつ、学生の様子にあわせた調整も続けていきたい。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マルチメディア情報通信[S]  
授業コード 52B08-001  
教員名 奥村 康行  
教員コード 101219  
登録人数 140  
回答数 67  
回答率 47.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

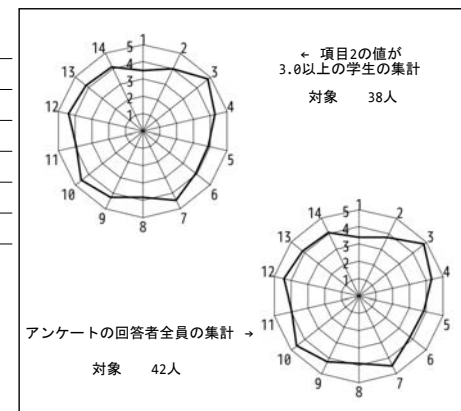


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定した授業目標： 通信システムの開発・運用に携わるときに必要なとなる知識であるデータ圧縮技術を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2. 目標達成度： 期末試験結果より、約80%の受講者が目標を達成した。10%が試験欠席、10%が目標不達だった。
3. 担当科目についての授業評価： この科目の評定値は学科科目の平均値と同じだった。自由記述のうち改善を希望された項目は、ホワイトボードが光って見にくい(1)、板書の間違いを時間がたってから気付いて修正した(1)、解説についていけないことがあった(2)、計算量が多い(1)、公式の証明は板書でなく配布資料内で説明してほしい(1)であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として、演習を含めた講義のわかりやすさ(19)、資料が丁寧に書かれている(2)、授業の開始と終了時刻が守られていた(1)などがあり、これらは今後も継続する。
4. 次年度の方針： 演習問題の解説では、その場で計算して板書した後、手元のメモを参照して間違いを直したことが数回あった。このやり方のほうが、たとえ誤りが含まれていたとしても、受講生には理解しやすいのではないだろうか。これまでに比べて講義内容を精選したので進行速度はややゆっくりとなり、自由記述でわかりやすいと書いた学生が増えた。このやり方は来年度も継続するつもりである。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 電子工学基礎  
授業コード 56A07-001  
教員名 藤原 正浩  
教員コード 104753  
登録人数 195  
回答数 42  
回答率 21.5%  
休講回数 2 回  
補講回数 1 回

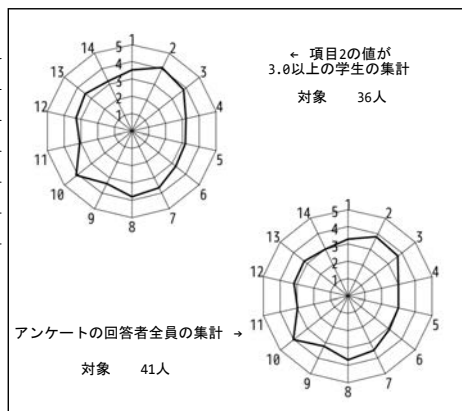


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標は、受講学生が電気・電子回路の解析に関する基本的な計算ができるようになり、電子回路の設計と応用に関する基礎的な知識を習得することである。授業終了時にはほとんどの学生がその目標に到達したといえる。
- ② アンケート結果の数値データおよび自由記述等を踏まえて、授業の本質的な内容のみでなく「何のためにその内容を学ぶか」という点も説明したことで、ある程度のモチベーション向上になったと考えられる。また、講義資料や講義動画をすべてオンラインでアクセスできるようにし、学生が自分のペースで復習できるようにしたことは、内容の理解に有効だったと考えられる。
- ③ 次クォーター以降に向けての改善点として、本授業は開講初年度であるため授業計画をある程度変更しつつ進めることとなったが、これを一貫した内容として進めていくことを目指す。具体的には、講義資料アップロード後の変更は最小限とする。また、クォーター前半においてピンマイクを使用していたため音声の一部聞き取りづらい状況になっていたが、後半はハンドマイクを使用し、改善したという声が学生から得られたため、その点も考慮する。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報通信システム  
授業コード 56A08-001  
教員名 梅比良 正弘  
教員コード 104425  
登録人数 189  
回答数 41  
回答率 21.7%  
休講回数 2 回  
補講回数 1 回

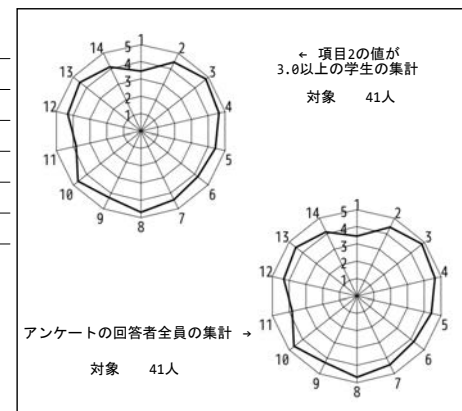


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 授業目標と目標達成度：本授業の目標は、情報通信システムの基本事項を学ぶことであるが、極めて広い技術分野の内容を含む。今年、初めて担当した授業であり、アンケート結果ならびに試験の結果はFやXも多く、十分目標が達成できたとは言い難い。前提となる学習（例えばフーリエ変換）がカリキュラムにない、カリキュラムでこの科目より後に行われる内容（例えば通信理論）があること、また、学習内容が多すぎたことが原因と思われる。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：①で記載の通り、前提となる学習が不十分な学習内容を含んでおり、学習内容が多すぎたため、学生の理解が十分でなく、結果的に満足度も高くなかったものとする。授業内容を精査し、学習内容を削減する必要がある。さらに、授業内容の理解を確認するための演習を取り入れる必要がある。なお、14回授業と15回授業を明確にしていなかった点についての苦情が多い点については、最初のガイダンスで明確に伝えることとした。
- ③ 授業評価 受講者数に比べ回答率が低く、他の科目と比べても全体の評価は低い。まずは、授業内容を精査し、全体的な内容の削減が必要と考えている。一方、内容が多いこともあり、講義内容をスライドにまとめて配布したが、これは好評であった。
- ④ 次年度に向けた改善点：学習内容を精査して、授業内容を削減すると共に、既学習の内容を意識して、学習内容のレベルを見直すこととしたい。また、授業内容の理解を確認するための演習を取り入れ、授業を改善していきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[HA・HP]4  
授業コード 10C01-012  
教員名 大月 英明  
教員コード 047340  
登録人数 45  
回答数 41  
回答率 91.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

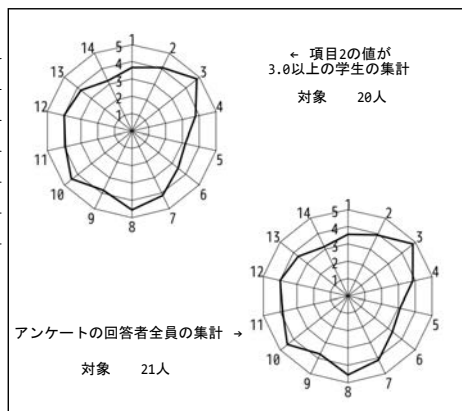
各項目の傾向についてはほぼ例年と同様である。評価の平均値は約4.3なので、授業運営も大きな改善の必要はないと思われる。評価の回答者数に関して、回答数が少ないことが今までの課題であったが、今回は回答率が9割を超えており満足できるものになった。

各項目に関しては例年と同様の傾向である。「授業を受ける前に内容に関心があったか」など、授業の内容にはほぼ無関係な設問の点数が例年4を下回っているのは教員としてはどうしようもないのではないかと感じる。またあらかじめ用意されている教材の比率が高いので「学習意欲を高める工夫」に関してもなかなか手が回りにくい面もある。自由記述欄では「先生からのアドバイス」にポジティブな意見もあるが、「先生から学べなかった」というネガティブな意見も同時に存在する。このような相反する意見が同時にされると、なかなか解釈が難しいところである。

グループ学習に関してはおおむね好評である。自由記述欄にもグループ学習に対する記述が多く、学生の関心や興味を引き出すのに効果的であると思われる。しかし「グループよりは一人でやった方が良かった」という意見も存在し、グループによっては、他のメンバーのレベルに対して不満を持つ学生も存在した。対処の方法はすぐには思いつかないが、今後はこの点を念頭において授業を運営していきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	制御理論II
授業コード	53B05-001
教員名	坂本 登
教員コード	102293
登録人数	29
回答数	21
回答率	72.4%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



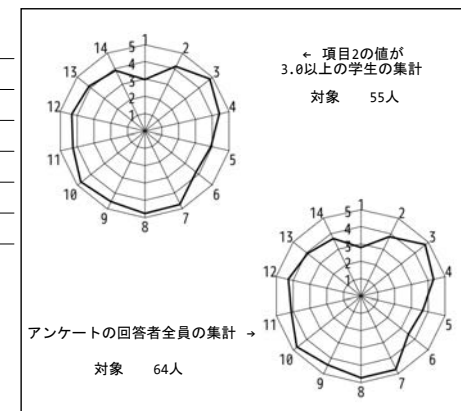
授業評価結果を踏まえた点検・評価

線形代数と微分方程式論を活用して制御システムの解析と設計を行う内容であり、基礎数学の習熟も目標とした。すべての講義は録画しYoutubeで復習できるようにした。これらは好評であったと言える。また、Webclassを使った計算テストを2回行った。

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
1. 実際のシステムをモデリングする方法を知っている。  
→ おおむね達成されているといえるが、不合格者の中には未達の者もいた。
  2. 状態空間表現されたシステムに対する制御系の設計手法を知っている。  
→ おおむね達成されている。
  3. レギュレータとオブザーバの設計手法を知っている。  
→ おおむね達成されている。
  4. 設計CADを用いて制御系の設計が行える。  
→ 今年からMatlabGraderを用いた。例年はわけもわからずmファイルを提出していたのが、厳しい採点方法になったため難しく感じたようである。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
→ 達成度の自己評価が低いですが、真剣に取り組んだとの回答が多いので、到達すべき目標が高いことを理解した結果と受け止めたい。計算テストの結果はかなり良かったので計算はできるようになったと言える
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
→ MatlabGraderの活用はより進めていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	キリスト教概論[G]
授業コード	10A51-019
教員名	VOLPE, Angelina
教員コード	000167
登録人数	135
回答数	64
回答率	47.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

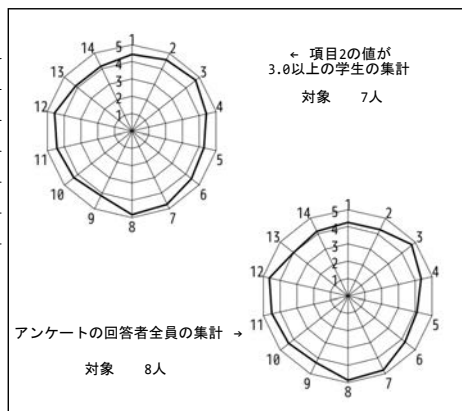


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標である：1. 「キリスト教の神観を理解している」、2. 「キリスト教は人間の尊厳を目指す人間学であることを理解している」、3. 「キリスト教の中心は兄弟愛であることを理解している」に関して、学生の講義内容の理解に対する個人的な努力は別として、到達したと言えます。特に第3に関しては、最終レポートの中で、学生の多くがキリスト教に対して抱いていた固いイメージから解放され、ナザレのイエスの教えとその生き方は兄弟姉妹愛と赦しに基づくことを発見し、すべての文化に相応しいものであると書きました。設問項目とレーダーチャートを分析すると、二つの項目の平均値の中で最も数値が低いのは、項目番号1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」(2.78)と、項目番号6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」(3.53)でした。つまり、項目1に関しては、カトリック大学が基づく思想「キリスト教」に興味が高かったと推定できます。ここで教員は、学生自らが希望し入学した大学の教育理念を客観的に知って学ぶ大切さを学生たちに問いかけ、説明する必要があると思いました。項目2については、大学での勉学に対する情熱が足りないとも推測できますが、この点においても教員がその情熱と興味関心を学生から引き出し、それを育てる必要があると思いました。最後に、137人の受講生の中で64名(クラスの半数)だけがアンケートに答えているため、この調査への参加の重要性を再度学生に訴える必要があると思います。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[G]6  
 授業コード 11A07-037  
 教員名 村杉 恵子  
 教員コード 019034  
 登録人数 23  
 回答数 8  
 回答率 34.8%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 1 回

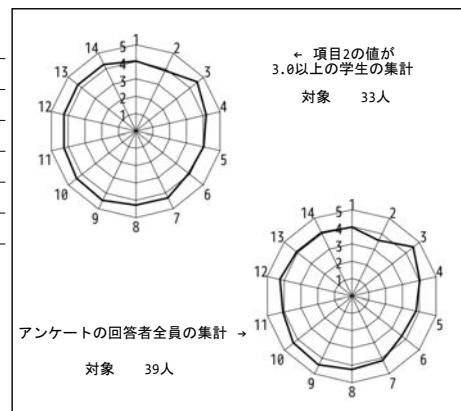


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 国際教養学部の英語リテラシーの授業である。シラバスに従い、二種類の議論の進め方を学ぶQ3であったが、提出された定期試験の結果を見る限り、その目標はおおむね到達されたと思われる。授業内のリアクションペーパーにおいて、自身が書き方がわかってきたという自覚を記す学生が少なくなかった。
- ② 高校生の面影が残る中、「よく書きたい」意欲をもつ学生が少なくなく、仲良くまとめていこうとする雰囲気も垣間見られた良いクラスであった。学生評価としては、「ピアレビューの機会があり、他の学生から真似るべき点を沢山得ることができた」、「みんなのエッセイを読む機会はなかなかないので、そういった機会があってよかった」などがあった一方、教員からのより詳細な英語表現の修正(「添削」)を期待するコメントもあった。「生徒とのコミュニケーションを大切にしてくれていた」「先生の熱意が毎回伝わってくる」などのコメントもあり、数値的には全体的に良い評価を得られていると言えるだろう。
- ③ 「個人ではなくグループで英作文の宿題をやりたい」という希望が出されたが『書く』ことは個人の思想を表現する営みであること、議論の進め方を会得するためには、まずは自身で考え書くことを重視した。Q4では、共同で書きたい学生にはその希望がかなえられるようにしたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ことばとは1  
 授業コード 13E02-001  
 教員名 林 慎将  
 教員コード 104656  
 登録人数 113  
 回答数 39  
 回答率 34.5%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回

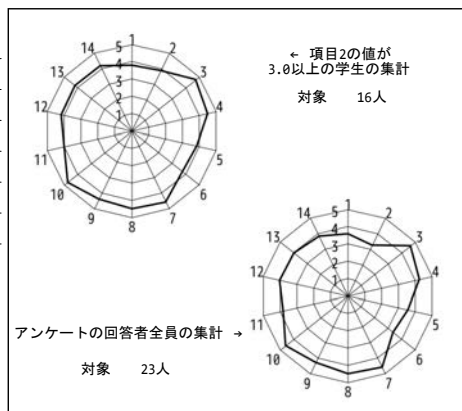


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
言語学思想史として、歴史的に研究者がどのような言語の特性に興味を持ち研究をしてきたか、また、その内容を理解、吟味することで人間言語の総体を理解することを目標とした。テキストの内容が難しいという自由記述の回答もあったが、概ね達成できたと考える。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
授業終わりにリアクションペーパーとして学生の疑問、意見を募り、それを次授業の最初に回答していく方法で学生と交流したが、学生からも好評で、教員側としても、学生の理解を確かめる点で有意義であった。大幅に他よりも評価が下回った項目も無く、学生にも満足の高い授業を提供できたのではないかと考えている。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
できるだけ学生が疑問、意見を出しやすい授業を提供したい。現在はリアクションペーパーという手法を取っているが、一方で、疑問に思った時点で教員側からの回答が得られるわけではない(次授業まで待たなければならない)ため、Slido等のアプリを活用し、リアルタイムで質疑応答ができる方法も模索していきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 知識の探求1  
授業コード 13E03-001  
教員名 永井 英治  
教員コード 018861  
登録人数 36  
回答数 23  
回答率 63.9%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



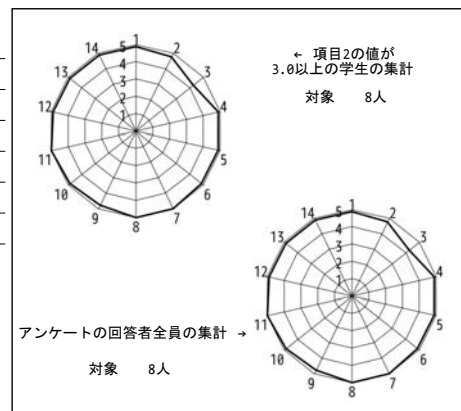
授業評価結果を踏まえた点検・評価

共通教育科目であるこの授業では、歴史資料の分析事例を紹介することで、歴史的理解の方法を身につけることを目的とした。しかし、設問1の数値が低いことは、シラバスに記載されている授業の目的があまり考慮されることなく受講されていることを示していると考えてよいだろう。このような受講生には設問13・14の数値を期待することはできないと思われるが、チャートによれば、設問1から設問13・14への間、数値はわずかに上昇しており、受講によって関心がわずかでも高まったものと考えられる。しかし、設問11の数値が下がっているように、そのような受講生の関心に十分に対応できてはいなかった。しかしこれは、参考文献の紹介など自主的な学習のための指導が困難な授業内容によるところがある。この授業の参考文献は、授業の内容を構成するまさに参考文献であるため、専門性が高く基本的な関心には十分応えるものではない。授業こそが、基礎的理解からの展開を示す参考文献と位置付けているからであるが、関心を持ったテーマについて受講生の理解を高める工夫は今後の課題としなければならない。概説書ではその役割を負うことができないので、講座・シリーズ本などから参考文献を紹介することを印象付けたい。

結論とそこに至る過程を理解することではなく、方法を理解するという授業の目的は多くの受講生にはピンと来ないようであるが、結論を導く方法をひとつでも理解することで、方法というややメタな関心へと誘いたい。ことさらに現代と異質な社会・慣習を取り上げているのは、方法への関心のアプローチと位置付け、興味深い事例の追補に務めたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 GLSアカデミック・ジャパニーズII  
授業コード 48A13-001  
教員名 北村 雅則  
教員コード 100212  
登録人数 9  
回答数 8  
回答率 88.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

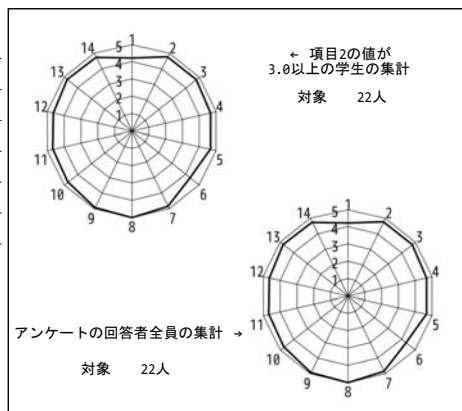


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は留学生向けの日本語の授業であり、少人数で行われるものである。到達目標としては「1. 日本語で、適切な語彙・表現を用いたプレゼンテーションができる」、「2. 日本語による、論理性や客観性の高いレポートを作成できる」の2点を設定しており、授業内で行うディスカッションを前提に、プレゼンテーションをしたり、レポートを執筆する過程を通して度合いを確認した。その結果、出席したすべて履修者が概ね達成できていることがわかった。授業評価結果を受けて数値的には高い評価であったことに手応えを感じている。しかし、それは授業を提供する教員の努力というよりは履修者の参加度が非常に高く積極的に関わることによって一緒に授業を作り上げてくれた結果であるとも考える。留学生という特長と少人数クラスの利点を活かした一緒に授業を作り上げる雰囲気は維持しつつ、教員側の努力として、よりレベルの高い日本語力の習得に向けて、ディスカッションの内容やその材料となる読み物を吟味をしたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Topics in GLS A1  
授業コード 48A48-001  
教員名 吉田 信  
教員コード 104481  
登録人数 25  
回答数 22  
回答率 88.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

当初の設定していたレベルに受講生が到達していないか逐次確認しつつ授業を進めていった。

その点は受講生から一定程度評価されていることがわかるが、本来達成してもらいたいレベルを下げざるを得ず、ジレンマが残る結果となった。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

学生の反応を都度都度確認した点は高評価であった。

また、授業運営に工夫を凝らし、読解の授業にディスカッションを取り入れるなど、新たな試みをおこなった。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

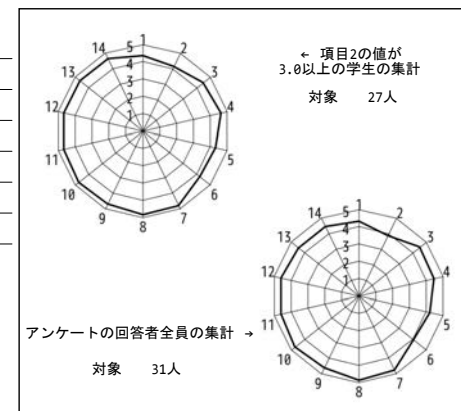
課題が多いといった反応に対しては、どう対応すべきか苦慮している。

予習・講義・復習といった一連の授業のプロセスを踏まえて講義設計しているが、学生からの反応は芳しく無い。

授業評価の数値が悪くなることにも直結するので、この辺りの対応についてはアンケートの実施主体でしっかりと議論を重ね、講義の質保証を優先する姿勢を全学的に共有する方向で検討していただくのが望ましいように思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治学A / Political Science A  
授業コード 48C26-001  
教員名 山岸 敬和  
教員コード 101411  
登録人数 68  
回答数 31  
回答率 45.6%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回授業評価の対象となった「政治学A/Political Science A」は、アメリカ政治史についてのテキストに従って講義を進めるとともに、講義内で複数の設問を設け、グループごとに議論を行うものである。

学科科目の全項目平均は4.24、項目4から18の平均は4.30であり、このクラスのそれぞれ平均4.47、4.53であり、それを上回ったことは前向きに捉えたい。

以下が本授業の到達目標である。

To read and discuss politics in English

To understand political systems and problems in the world

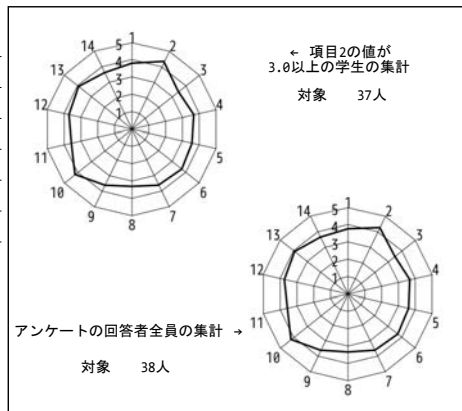
To think about how to solve political problems in the United States, Japan, and other countries

この点については、学生のクラス内での議論の内容や、成績、そしてこの授業評価によって概ね達成できたと考えられる。

自由記述のところで、学生が議論し、クラス全体にして意見を述べる機会があることが評価されていた。他方で、政治学の知識がないまま議論することの難しさも指摘された。この問題については受講できる学年を上級生に絞ればある程度は解決できるだろうが、議論をすることで自分が知らないことを確認するということもあるため、この問題があるということを確認しながらも今の形で講義をしていきたいと考える。今後も講義と議論とのバランスをとりながら、学生がより積極的に授業に取り組めるように努めたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	グローバル化と開発経済 / Globalization and Development Economics
授業コード	48E04-001
教員名	安原 毅
教員コード	017905
登録人数	107
回答数	38
回答率	35.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



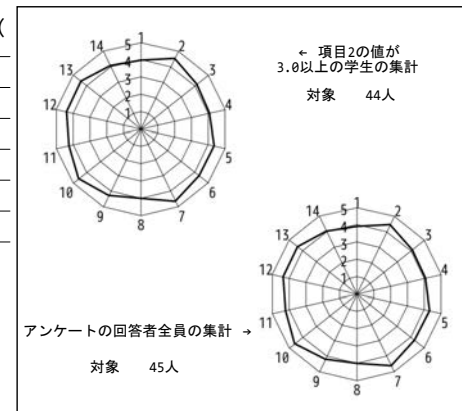
授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体の平均値3.72、1-14の平均値3.67の結果は大学全体の平均に比べれば低いが、担当者の授業としては前年度よりもわずかに改善されたと記憶する。経済学と名のつく授業は敬遠されることを鑑みれば、ほぼ満足のいく結果と考える。授業の進度も予定通り実現でき、予定していた内容はほぼすべて解説することができた。少なくとも前列にいつも着席していた学生からはたびたび質問がきたし、授業中に提出を求めた課題には大勢が真剣に取り組んでくれた。定期試験の解答を見ればきちんと授業に出席していたものとそうでない者との違いが鮮明なのだが、今後は出席率を上げる努力をするべきかと考える。

また項目18がやや低いが、これは教室が極めて伝統ある教室で視聴覚機器が古く、マイクの声がエコーしたり雑音が入ることが多かったことを表していると考え。自由記述では「先生が使い方を理解していない」という批判もあったが、残念ながら装置をどう操作すれば雑音を消せるかといった説明はどこにもなく確かに自分に知識はない。また可能な限りWordファイルをスライドで映して説明したが、どうしてもファイルの端がスクリーンに入りきらず学生からは見えにくかったようだ。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Global Studies F (Economic Studies)
授業コード	48E11-001
教員名	平岩 恵里子
教員コード	100953
登録人数	53
回答数	45
回答率	84.9%
休講回数	2 回
補講回数	0 回

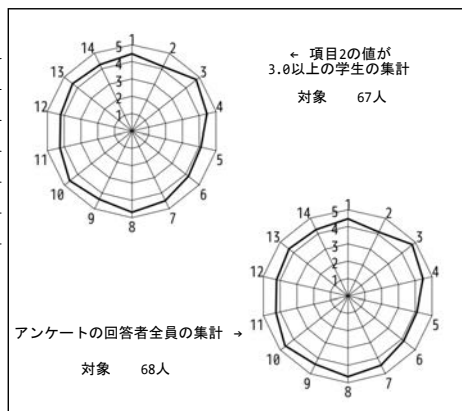


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 「この授業を通して新しい知識を得たり理解が深まったりしましたか」（設問13）の評価を平均以上にすることを目標とし、クリアできたこと（平均+0.14）は自分で自分を褒めたい。
- ② 平均値より劣っていた項目は、主に「時間配分」「声の大きさ」であった。「時間配分」は自分でも適切でなかったと自覚している。講義は、「グループ発表+ディスカッション」で学生自身に進行を任せただが、途中で議論が長引いたり、議論の方向を修正したりしていたことで時間が経ってしまったことがよくあったためだと思われる。あらかじめ、「何を」「どのように」「どの程度の時間で」の指示を今少しはっきりしておけばよかった。これは今後の反省点。「声の大きさ」は、初回にマスクでマイクを使わなかったために指摘されて、それ以降は気を付けていたのだが、つい夢中になって忘れてしまったことがあった。これも反省。
- ただ、「この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」（設問6）は平均を上回る（平均+0.34）ことができたのは嬉しいことであり、自由記述欄のコメントがいつもより多く書かれており、かつ、学生主体の講義運営にポジティブなコメントも多かったことには報われる思い。学生の協力も大きかったことと思う。
- ③ 上記②の「時間配分」「声の大きさ」は改善を要する。抱負としては、学生主体の講義運営は今後も続け、学生との意見交換をさらに行おうと思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑法各論A  
授業コード 44B90-001  
教員名 大山 徹  
教員コード 104613  
登録人数 171  
回答数 68  
回答率 39.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

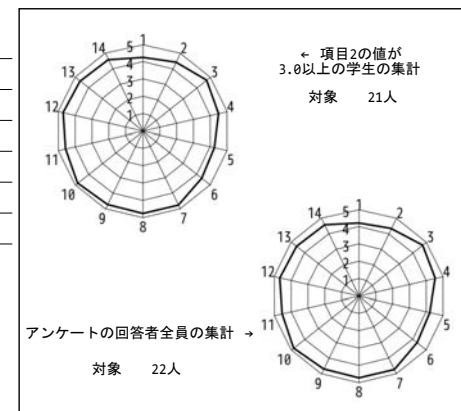


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標は概ね達成できたように思う。「スライドが非常に丁寧に作成されており、自主学習もしやすかった。非常に詳細に学説や判例の動向の説明があり、また、理解を進めるための例え話もとても分かりやすく、毎回楽しく授業を受けることができました。刑法を学ぶ上で何が問題となるのかをPowerPointをみれば、一目瞭然だった」との回答を頂いた。わかりやすく講義をし、初学者の学力を引き上げる目標は達成できたと考える。② 数値データでは4をすべて上回っていた。しかし、開講時の担当授業への興味関心が乏しかったことが数値に反映されており、ここは反省点である。③ 開講時に初学者の学力を引き上げることに重きを置くと宣言し、受講者に安心を与えることを今後は心がけたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民事訴訟法C  
授業コード 44C13-001  
教員名 石田 秀博  
教員コード 101939  
登録人数 58  
回答数 22  
回答率 37.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1から14の平均 4.55、設問項目15（満足度）4.55ということで、① 民事訴訟における複数請求訴訟の体系・概要を理解することができる。② 上訴・再審制度の概要について理解することができる。③ 簡易裁判所の手続、略式訴訟手続について、その概要を理解することができる。④ 上記各分野における、重要論点について、解決方法を論理的に考察することができる、という4つの到達目標は達成できたものと考えている。

また、上記数値以外にも、授業の良かった点についての好意的評価（授業を受けてよかった、わかりやすい、説明が丁寧、速度が適切、論点についての整理や重要事項についての理解ができた、など）が多かったことから、本年度の講義は総合的にうまくできたと思っている。

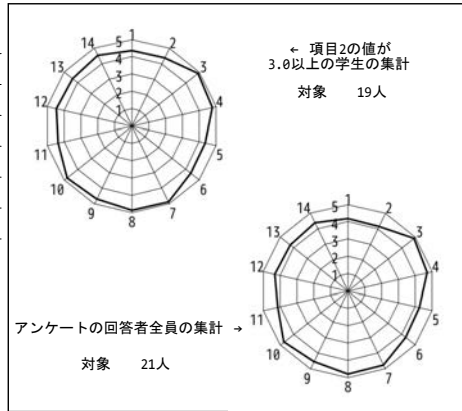
他方、今後の改善点として、学生から寄せられた意見（各回に授業のまとめをして欲しい、学生に考えさせる場合や設例の説明に関して、もう少し時間的余裕を欲しい）について、今後取り入れて、より一層心がけたい。

なお、「民事訴訟法A、Bで扱った内容もおさらいしていただくともっとわかりやすい」との意見については、第1回目の講義時に、民事訴訟法A、Bの学習内容のポイントについて説明を行っているので、その際の説明をより充実したものにしたい。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	学校教育心理学2
授業コード	15A05-002
教員名	大塚 弥生
教員コード	000065
登録人数	57
回答数	21
回答率	36.8%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



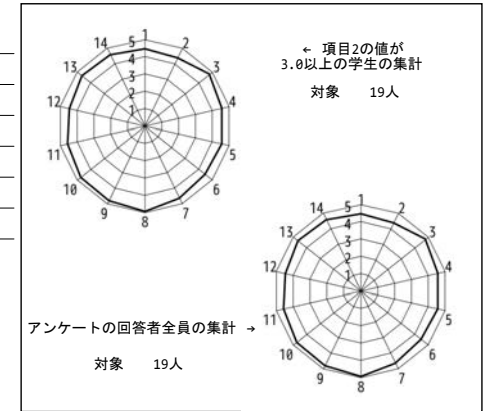
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は教職の必修科目であり、コンテンツとしての教育心理学の知識を学ぶとともに、プロセスとして受講者同士が学びを助け合う関りを形成していくことを目指した。そのため、授業では毎回、グループ討議の時間を設け、個人の疑問や気づきを言語化して互いに教えあう機会を設けた。この取り組みに対する反応は、学生によって大きく異なっていたようである。自由記述においては、良かった点として「グループワークが多かったこと」、「ディスカッションの時間が長めに取られているため、多くのことを学生たちが自主的に話す機会が与えられている」など、本講義の意図が効果的に作用していたことが示されている一方、「話し合いの時間が十分すぎて、会話に困る」や「話させたいことが何なのかあまり明確に定められていない」などが改善点として挙げられており、「学びあう関り」を作ることが難しい学生もいたようである。しかし、教員としての資質を向上させていくためには、他者と対話していく力を伸ばしていくことは重要であり、学生の「苦手感」が表面化していくことは、むしろ必要なことであろうと考える。このことは、「レポートが難しかった」や、「手書きレポートが苦手」という回答にも当てはまる。苦手であればこそ、今後もこの授業において取り組んでもらえるようにしていきたい。

数値に関しては、すべての設問が4点以上であったことから、本講義の目標は到達できたものと考えられる。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	学校教育概論3
授業コード	15A18-003
教員名	五島 敦子
教員コード	101282
登録人数	20
回答数	19
回答率	95.0%
休講回数	2 回
補講回数	1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標の達成度・点検・評価

本科目は「教育思想・教育史」を主題とする教職科目で、アンケートの回答率は100%（履修辞退1人を除く）である。項目13「新しい知識の獲得、理解の深まり」が4.67、項目14「授業満足度」4.58であったことから、目標を達成できたと考えられる。項目9「教員は学生の理解度に配慮し...適切に授業を進めましたか」が4.79、項目7「教員の授業に取り組む姿勢の誠実さ、真剣さ」が4.63であったことから、講義の進め方は適切であったと考えられる。自由記述では、「話し合いが多かった」「グループ発表が多かった」など、アクティブラーニングを取り入れた点が評価された。

2. 今後の改善点・抱負・方針

アンケートの得点及び自由記述の肯定的意見から、授業運営は適切だったと考えられる。最も評価が高い項目は、項目8「教員の声、音響機器の聞き取りやすさ」4.97であったように教員の声は十分な大きさと考えられるが、自由記述では、「ビデオの音声がかたくなかった」「巻き戻しが気になった」という指摘があった。動画の切り替え操作やDVDの接続がかたくなかったときがあったので、今後、機材の使い方を今一度確認する必要がある。また、座席指定はなく話し合いのグループは固定していなかったものの、「毎回同じ席だったのでシャッフルしてほしい」という意見があったので、異なる席に座るよう促したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際産官学連携PBL B
授業コード	14F02-001
教員名	藤掛 千絵
教員コード	104116
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、以下の三点であり、学生たちはプロジェクトのテーマである障害者のソーシャルインクルージョンについて、当事者から話を聴き、さらにキャンパス内で協働現地調査をすることによってバリアフリーやユニバーサルデザインについて考察することができた。また、グループやペアでのディスカッションや、海外の学生との情報交換・意見交換を通して、問題を客観的に理解することができた。グループワークを通して、異なる意見を持つ者同士における調整能力を養い、主体性も身につけることができた。

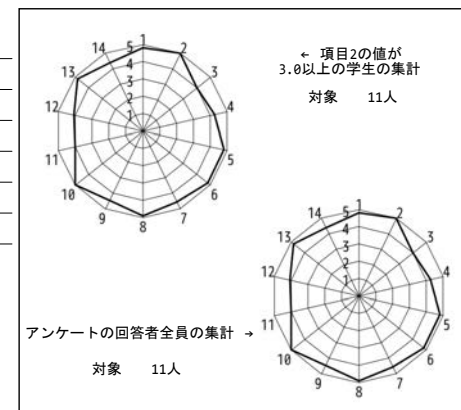
1. 問題や課題を理解し、客観的にとらえることができる
2. グループ内で、問題や課題に対する解決策をいくつか提案し、建設的な議論ができる
3. 異なる文化背景をもつ学生がいる中、グループ内で意見をまとめ、最適な解決策を提案することができる

学生の最終レポートの記述から、学生たちが、自身の障害者に対する偏見に気づき、障害者に対する見方が変わったことがわかる。また、国の制度や法律、建造物の設計などについての日米比較をすることによって、社会問題を多角的に捉え、問題解決のために自分たちが何をしたら良いかを考えることができた。と学生たちが振り返っていた。

次回にむけての改善点としては、履修者を増やし、より意見交換を活発にすることや、現状1単位の授業を2単位の授業にすることで、学生がじっくりと時間をかけて問題の分析をしたり結果をまとめ発表に備える時間を確保することが挙げられる。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際産官学連携PBL C
授業コード	14F03-001
教員名	山田 貴将
教員コード	104223
登録人数	13
回答数	11
回答率	84.6%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 本授業では、「1. 問題や課題を理解し、客観的にとらえることができる、2. グループ内で、問題や課題に対する解決策をいくつか提案し、建設的な議論ができる、3. 異なる文化背景をもつ学生がいる中、グループ内で意見をまとめ、最適な解決策を提案することができる」、という3つの目標を設定した。毎週課題として提出させていた「Communicationジャーナル」の記述を見ると、大多数の学生は8週間に及ぶ天津師範大学（中国）の学生とのオンラインによる交流・協働を通じてこれら3つの目標を達成することができたのではないかと考えられる。その大きな要因の一つとして、本授業では「同期性」を意識して、本学と天津師範大学の学生がリアルタイムにやり取りをする機会を数多く（7回の授業中3回）提供することができた点が挙げられるだろう。また、本授業は、小島プレス工業（株）との産学連携プロジェクトであるため、学生が「真正性」を感じていたこともこれら3つの目標達成に貢献したと考えられる。
- ② 本授業を3年連続で担当しており、授業のクオリティ自体は毎年少しずつ向上しているはずだが、項目1から14の平均値としては、今年が最も低くなった（4.56）。その原因として、1人の学生が非常に低い評価をしていることが考えられる。実際、当該学生のスコアを除外して再計算した所、同平均値は4.71まで上昇した。本授業のように履修者が少ない場合は、1人の学生の評価で全体の傾向が歪められてしまう可能性があるため、数値データの活用方法については、今後より慎重に議論していく必要があると感じた。
- ③ PBL型COIL科目は学生を大きくtransformする可能性を持った授業だと感じている。そのような魅力的な授業を担当させていただいたことに感謝申し上げます。文部科学省による補助金の有無にかかわらず、南山大学の共通教育科目として継続的に開講して頂ければと思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際産官学連携PBL D2  
授業コード 14F04-002  
教員名 小野 詩紀子  
教員コード 104564  
登録人数 12  
回答数  
回答率  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

レーダーチャートなし  
(授業評価アンケート不実施のため)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

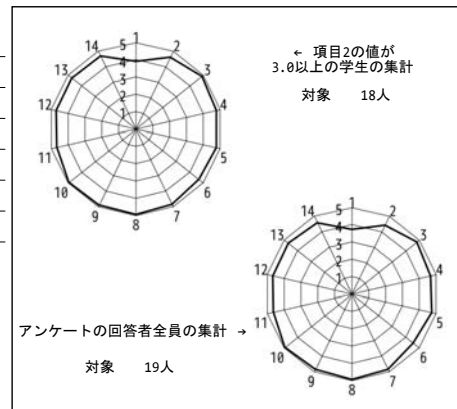
2022年度国際産官学連携PBL D2科目においては、到達目標は概ね達成できたと考えている。学生たちは、連携企業のブラザー販売株式会社（ブラザー販売）からもらったSDGsをテーマにした新製品やサービスの企画という課題に取り組んだ。授業前半では課題の理解をさまざまな視点から深め、連携校の米国メリランド大学（UMBC）の学生と南山生で構成されたグループでディスカッションを重ねた。そして、7週間という短い期間に、各グループは、自分たちが着目する社会課題を特定し、そのソリューションとしてブラザー販売に新たに開発してもらいたい製品や、取り組んでもらいたいサービスを8分程度の動画にまとめて提案を行った。6グループによる提案内容は、斬新なアイデアが多くブラザー販売の方も感心し、新たなアイデアをもらえたと高評価をいただいた。

学生たちの受講態度は、非常に意欲的で、授業外におけるCOILのグループ活動に毎週積極的に取り組んでいた。グループ内の意見を取りまとめる上で、多様性を受け入れた上で各自の意見に耳を傾けることや、自分の意見をしっかりと述べることの難しさや大切さを体験的に学んでいたことが振り返りのレポートから伺えた。

来年度も同じテーマで引き続き授業を構成したいと考えている。企画をゼロから考えるという難しい課題であるため、学びの足場がけについて連携校の先生と計画し行っていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[  
HA, HP, HJ]3  
授業コード 11A11-003  
教員名 TROY, Henry  
教員コード 104616  
登録人数 24  
回答数 19  
回答率 79.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

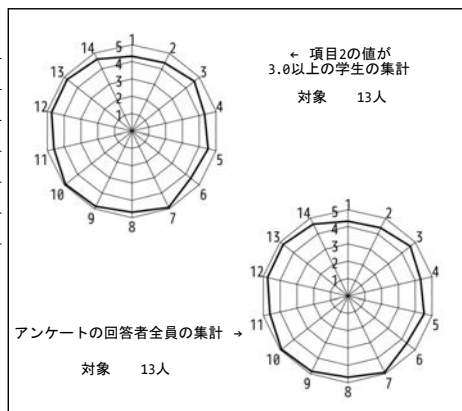


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The course aimed to work on the students communicative English skills, their reading (especially via extensive reading) and also to incorporate some elements of listening practice too. I feel all of these goals were achieved, with the reading a particular success.
2. I am pleased that the students responded in an overwhelmingly positive way both to the course itself and my teaching. It is especially clear from the comments that they enjoyed the course, which is important to me. The numerical data suggests the students were more engaged after the course had started than they were beforehand, and the written comments were all positive.
3. Although I am happy with the feedback from the students, I still feel elements of this course can be improved. Looking ahead to next year, I feel that overall there was a bit too much for the students of this class to do - there was too much assessment each quarter. I will therefore reduce the amount of assessment, perhaps by only doing one presentation per quarter instead of two.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[T]1  
 授業コード 11A11-049  
 教員名 DAVANZO, Christopher  
 教員コード 101653  
 登録人数 16  
 回答数 13  
 回答率 81.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



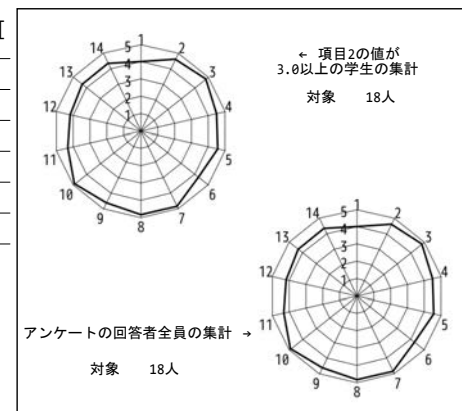
授業評価結果を踏まえた点検・評価

As a whole, the students achieved the class goals. In the third quarter, almost all of them did very well in their two conversation tests with either one or two of their classmates. They were required to engage first in everyday small talk, and then focus on a particular topic that they had prepared for and practiced in class. They had to both comment on their partner's responses, and ask follow-up questions. In addition, the students were required to build their own custom-made vocabulary sheets, and they were tested on 25 words per week, as well as engaging in regular vocabulary review activities. Their reading fluency and comprehension seems to be improving as well.

In quarter three, they advanced to two higher level textbooks, one focused on fluency and the other on intensive reading, and seemed to do well with both. I would like to build on the conversation skills the students have acquired and expand the variety of topics that they converse about. In addition, I am going to add some small group presentations and follow-up activities. I was pleased to receive overall high numerical numbers and positive comments from the students, and will keep improving the content.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[T]4  
 授業コード 11A11-052  
 教員名 KLUGE David E.  
 教員コード 100398  
 登録人数 21  
 回答数 18  
 回答率 85.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall, I was somewhat pleased with the evaluation. All evaluations were 4.00 and above. The goals were the same as in Q1-Q2, which were to become proficient in oral communication (conversation, presentation, group performance) and reading (textbook, news article, and poetry in the form of song lyrics).

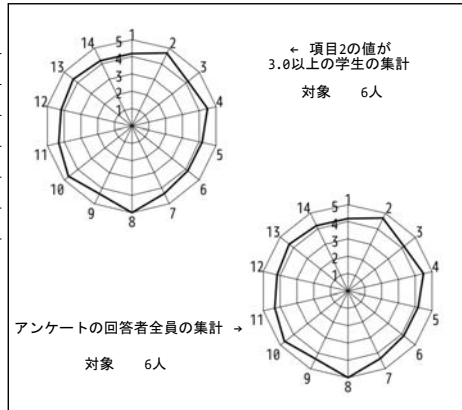
The higher scores were Q3 Time management (4.83), Q8 Sound (4.83), Q10 Disruptive student management (4.89), and Q5 Sincerity of teacher (4.83). This means that the students were satisfied with the basic mechanics of the course. The lower scores were Q1 Course interest (4.00), Q5 Understanding goals (4.56), and Q4 Structure and progress of lesson (4.50). This indicates students were not certain about the more intangible elements of the course. The score that concerned me the most was for Q6 Stronger towards the goals of the lesson (4.28). Even though the students were required to give daily self-evaluation and evaluate the uploaded videos of presentations and performances, I see that I need to give more frequent feedback.

With the free comments, I was happy that there were no negative comments (except one which I could not understand what the student was commenting on) and the good comments such as they enjoyed doing groupwork to learn and deepen relationships with classmates. I was happy that students recognized that I "cherish events" and so students could make "good memories."

For the next time I teach these skills, I will make sure the students have a clearer idea of the class goals each class.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ライティング<HA, HP, HJ>1  
授業コード 11A17-011  
教員名 FLORES, Ana Maria  
教員コード 102899  
登録人数 17  
回答数 6  
回答率 35.3%  
休講回数 2 回  
補講回数 1 回



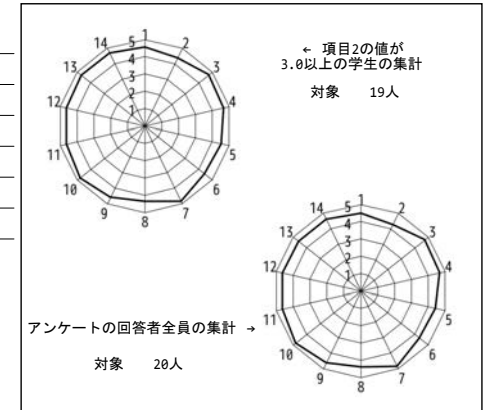
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals and objectives of this course were successfully implemented.  
Based on the students' response, their expectations of the course have been met.

The instructor in-charge will continue to design and develop writing materials that address the students' learning needs both inside and outside the classroom.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語VII<全>2  
授業コード 11B07-002  
教員名 OLIVERO, Regis  
教員コード 104119  
登録人数 26  
回答数 20  
回答率 76.9%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

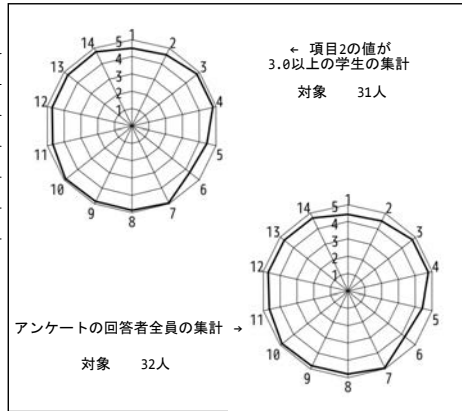
I have tried to make sure during the class that all the students could work in a comfortable environment and I believe that the class atmosphere was very good during Q3 and Q4 too.  
Most of the students were motivated and responsive, which greatly helped the progression over the course of Q3.  
The mid-quarter oral test was overall satisfying and the group was well-prepared for the final exam where everybody did well.  
Some grammar points in the book were sometimes hard to understand, but by teaching slowly and using English and Japanese in my explanations, giving the students enough time to think and discuss, I ensured that nobody got lost in the process.  
I could have used English a bit more since it was an "Eibei" group but giving instructions in French, although a bit challenging at times for a few students, proved to be useful for their comprehension level.

The next quarter actually confirmed this progression since they were capable of working in group, making presentation in French and generally improved their speaking skills and grammatical knowledge alike.

To conclude, I would say that this group met the goals I set for them and it was very pleasant to work with it.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	スペイン語VII<全>2
授業コード	11D07-006
教員名	MAYORAL MUNOZ, Miguel Angel
教員コード	104658
登録人数	39
回答数	32
回答率	82.1%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

During Q3, grammar contents were difficult and the time to cover them very narrow so my goal was to teach in the most efficient and easy way for the students. I realized the exercises and the teaching approach in the textbook were sometimes confuse, and the amount of new vocabulary was big. Grasping grammar and vocabulary at the same time would be an overwhelming task.

For this reason I decided to make my own prints, with less vocabulary and approaching the grammar contents in a more adequate way. Judging by the number of positive comments from the students, I managed to make the study easier and smoother, and got them to understand the contents, and I am very happy.

Charts and answers show that contents of the course differ with the learning expectations of the students. Students expect to learn less grammar and written Spanish and more speaking and everyday conversation language. I totally agree with them. For their level, it would be better to learn more basic vocabulary and conversation and less complicated grammar.

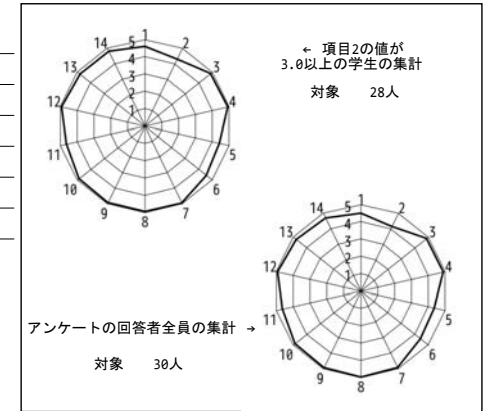
I am confident I got students engaged in the lesson and learning process, The atmosphere was good, and we worked together as a group to cover the subjects. Students attitude was great.

I will try in Q4 to make them love Spanish and Spanish culture because

I think that if I get students motivated to learn Spanish by themselves in the future, it will help them as persons and in their jobs too.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語III<H>4
授業コード	11F03-004
教員名	趙 偵宇
教員コード	104640
登録人数	30
回答数	30
回答率	100.0%
休講回数	1回
補講回数	0回

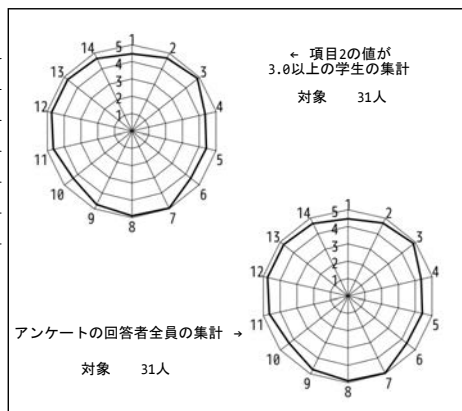


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
本授業の到達目標は、常用語700語を習得していること、及びこの語彙量に相応するレベルの運用力を身につけていることである。教員から見ると、おおむね達成できたと言えると思う。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
第13項目「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか。」の平均得点は、4.77である。  
なお、自由記述回答の「web classから回答し、匿名であるため、みんな積極的に質問していて、質問への解答も丁寧であるため、学生の理解に大きく貢献していたと感じた。」「先生がとても優しく分かりやすかったので、楽しく中国語を学べました。質問や感想を毎授業後に書くことで、他の人の質問もみんなの前で答えてくれるので、納得出来た。」というような意見によると、学生の視線から見ても、この授業の目標はおおむね達成できたと言えよう。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
授業の良かった点として、「発音を先生と一緒に確認できること。また個々の発音をしっかり確認してもらえると。」「もうすこし発音をやった方が良い」という意見もあるため、今後は負担をかけすぎない範囲内で、発音の時間をもう少し増やそうと考える。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語III<J・P>1
授業コード	11G03-005
教員名	陸 心芬
教員コード	101225
登録人数	33
回答数	31
回答率	93.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3の授業目標であった基礎文法の習得や基礎会話ができることについては、学生による授業の評価の設問項目の平均値が4を超えており、おおむね達成できたと考える。

授業の「良かった点」を挙げると「友達と発音しながら勉強できる点」「隣の人と会話練習する時間が毎回取られていて、発音の仕方や会話文をよく学ぶことができよかった」「分からない部分があっても、質問したら丁寧に教えてくれる」「聞いたり書いたりするだけでなく、話す機会が十分に用意されていたこと」「解説が丁寧であったこと」「授業進度がよく、講義でのスクリーンの活用は内容を理解するのに大きく寄与した」「会話をすることが多いため、実践的に韓国語が活用出来た」「頻繁に小テストがあったため、日々復習する機会をもうけることができたことが良かった。」など多数頂戴した。

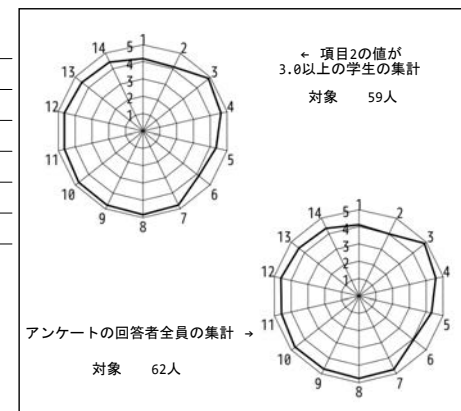
授業中ではただの会話練習だけでなく文法及び語彙の暗記ができるように発話練習を繰り返していた。これが学生に評価されているので今後も今の授業形式を続けたい。

この授業で改善点や困ったことについては「同じ朝鮮・韓国語の他のクラスとのプリントの量に差があったことや、授業の終わる時間に差があったことが少し不満に思ったので、できるだけ平等にして欲しいと思った」「一部の受講者が少々騒がしいと感じた。もう少し積極的に注意をしたほうがよいと思った」などがあった。

授業学習プリントの量と授業の終わる時間については、韓国朝鮮語の各先生と話し合ってQ4から改善していくつもりである。また、授業を妨げる学生については今後積極的に注意していくつもりである。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語教育入門
授業コード	24C05-001
教員名	六川 雅彦
教員コード	101221
登録人数	116
回答数	62
回答率	53.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

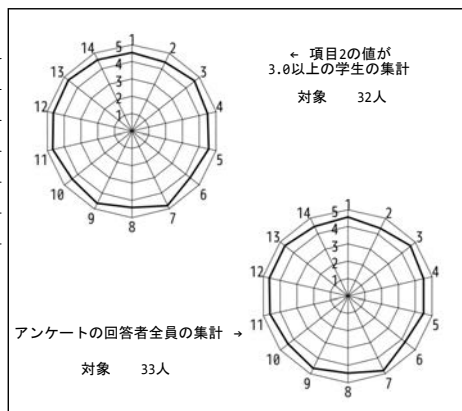
今年もオンライン授業として準備を進めていたが、直前の登録者数、教室定員の変更等により、2019年以来の対面授業となった。直前の変更であったため、授業開始後も計画を変更しながらの開講となった。今回の結果は前回までのオンライン時の結果と単純に比較はできないが、今回の結果から気が付いたことは以下の通りである。

まず、開講形態の変更にもうまく対応でき、今回も全体として目標を達することもできて成功だったと考えている。オンラインだった前回までの2回、3年前の対面時だった時よりも全体として評価が上がっていた。また、今回の自由記述のコメントも、私の学生への接し方や説明の仕方に対する好意的なものが大半だった。特に全回答者の1/3以上から自由記述で好意的なコメントが得られたことには満足している。

最後に、比率としては前回までと大きく変わらないが、今回も回答者が少ないのが少し気になった。授業時間をとって回答してもらっての結果であり、これ以上どうすればいいのか分からないが、次回以降回答率も改善できればと考えている。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 健康科学論1  
 授業コード 12D09-001  
 教員名 畑山 知子  
 教員コード 101969  
 登録人数 113  
 回答数 33  
 回答率 29.2%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回

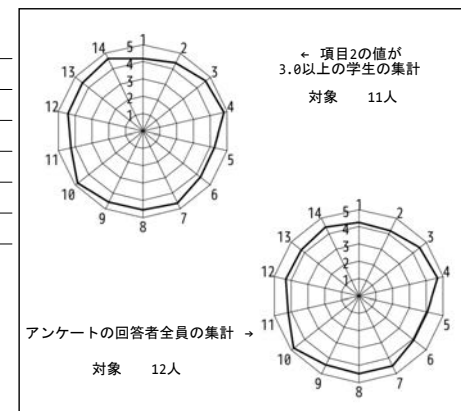


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① レポートやジャーナルの記載から、到達目標1および3については、おおむね達成できているのではないかと考えています。多くの学生が、自らの食生活や身体活動を見直すと同時に、自分と同じ大学生の健康づくりに向けてのアプローチを考えることができていました。
- ② 総合点の平均は4.5を上回っており、おおむね、満足いただけたのではないかと考えています。自由記述で多かったのは、授業時間内に座位行動の中断を実践したこととグループワークについてのコメントでした。講義で扱う内容を、実践をともないながら学び、日常生活の中に落とし込むことができた学生もいたことは、教授者として嬉しいことでした。加えて、グループワークを通して、最終的に同じ結論だったとしても、一人ひとり健康情報の理解や判断の基準が異なることを実感してもらい、受講者それぞれの考え方や視点の違いを理解しあえたのはよかったと思っています。ただし、到達目標に向けて力がついてきていると思いますか、という問いの得点はやや低く4.24でした。到達目標の2：健康についての諸問題に関しては、もう少し深く理解できるよう改善したいと思っています。
- ③ 上記②で触れた点について、次年度も可能な限り小さな実践を取り入れるとともに、学生の理解を深めるための改善をしていきたいと考えています。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人文地理概説  
 授業コード 22C05-001  
 教員名 岡本 耕平  
 教員コード 049502  
 登録人数 72  
 回答数 12  
 回答率 16.7%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



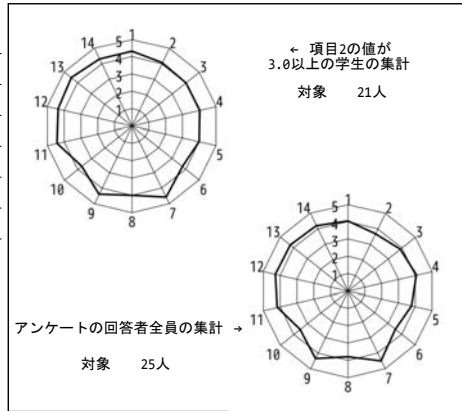
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」と設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」に対する回答の平均値は、いずれも4.08、「5」または「4」の評点を付けた学生は4分の3であり、達成度はあまり高くなかった。
- ② 設問14の「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」に対する評価は、全授業の平均より高かった。また、自由記述回答の設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に対しては、「具体的な例が多く、理解しやすかったです。」「説明が丁寧なされていた。」「先生の体験談などもあり、とても面白かったです。」といった声があり、設問16、設問17への回答はなかった。以上を見る限りは、この授業の満足度は一応の水準には達していたと思われる。しかし一方で、設問1から設問13までの約半分の設問で、全授業の平均を下回った。従って、総合的には望ましい結果とは言えない。
- ③ 以上を踏まえ、この授業「人文地理概説」は、授業内容を抜本的に変える必要があると判断した。特に上記①の結果により、新しい授業内容は、学生の世代にとっての現在および新しい時代を考えるための内容としたい。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	福祉論
授業コード	20A11-001
教員名	児玉 克己
教員コード	102510
登録人数	77
回答数	25
回答率	32.5%
休講回数	2 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

「福祉とは何か」の問いから始まる授業で、多くの学生からは弱者救済等の返答が返ってくる。国家が国民の生活を保障する社会保障制度においてはその返答はもっともであるかもしれない。しかしながら、自助・共助・公助から自助・互助・共助・公助への変化は、社会保障のみならず、国民ひとり一人参加型の地域包括ケアシステム、共生社会の構築が急務とされている国策においては、支えることと支えられるという事の理解が必要である。この講義は日々の日常生活において、「福祉」に自らが関わっていることの認識することが重要であり、ひとり一人間がその尊厳を保ち、基本的人権を保障される生活とは何かを考察する内容はおおむね達成できたのではないかと考えている。しかしながら、最後の講義において授業の感想で「社会保障は国がきめている」との発言があり、国の施策そのものは本来国民ひとり一人が選挙という自己選択の公使により決められているとの認識が薄いと感じた。学生が自らの生活だけでなく、周囲の人々のよりよい生活を創造できる知識と感性を育む講義にしたいと感じる。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域開発と人間関係II
授業コード	23C33-001
教員名	井坂 泰成
教員コード	104429
登録人数	10
回答数	1
回答率	10.0%
休講回数	4 回
補講回数	2 回

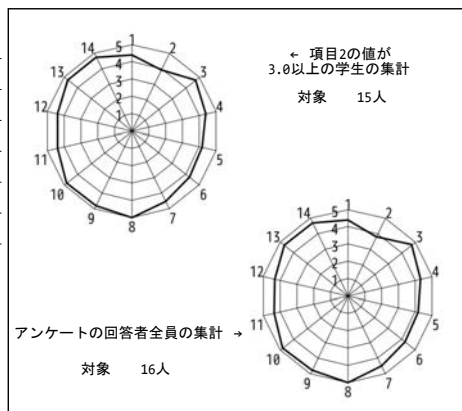
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 予定していた授業計画の内容は実施でき、設定していた3つの目標は概ね達成されました。ただし、受講者の多くがコミュニケーションは苦手なタイプだったため、講師が期待していたほど活発なグループ対話はできませんでしたが、講義内容は皆よく理解し、一対一の対話では意見交換できていました。
- ② 回答者が少なかったため数値データは得られませんでした。自由記述の回答に「対話の中で、互いに尊重しながら深く話すことができたこと。」とあるように、社会や人間関係について対話によって理解を深めることはできたと自己評価しています。
- ③ テーマ・内容は大きく変えないと思いますが、同様の状況（10人程度の登録者でコミュニケーションが苦手な人が多い）を想定して、構造化したワークを増やすなど、学生がより取り組みやすい内容に改善したいと思います。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 パーソナリティ心理学(感情・人格心理学)  
授業コード 23C57-001  
教員名 山脇 望美  
教員コード 104477  
登録人数 80  
回答数 16  
回答率 20.0%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回

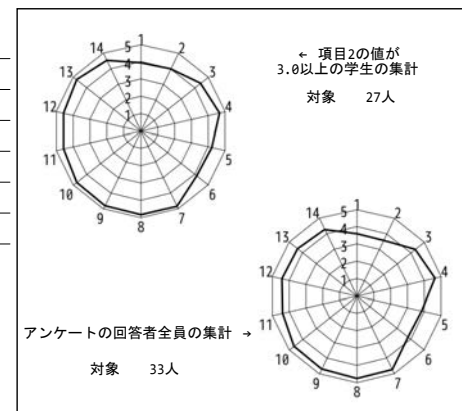


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度について、以下の点に留意した。「1.感情に関する理論及び感情喚起の機序について理解している。2.感情が行動に及ぼす影響について理解している。3.人格の概念や形成過程について理解している。4.人格の理論について理解している。」これらの到達目標は概ね満たされていたといえる。また、自由記述から、「先生が若くて雑談も友達と話してみたいで楽しかった、性格診断や自己分析を行う回が多く楽しめて授業を受けれた。今まで受けた授業の中で一番面白かった。」、「診断など実際にやってみることができる資料がたくさんあったので楽しかった。」、「先生が体験談などが聞けておもしろかった。パワボも見やすかった。休憩の時間を十分にとってくれたり、授業のペース配分がちょうどよかった。」、「講義形式での教授だけでなく、実際にパーソナリティを分析するワークに取り組むことができたために、人のパーソナリティの構造を理解することができた。」といった授業が楽しいといった意見が多くあったため、今後も引き続き学生の関心を引くような授業を心がけたいと考える。また、次回以降の授業では、さらに、学生のためになるような授業を実施できるように心がける。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 神経・生理心理学  
授業コード 23C69-001  
教員名 米山 薫  
教員コード 104086  
登録人数 50  
回答数 33  
回答率 66.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

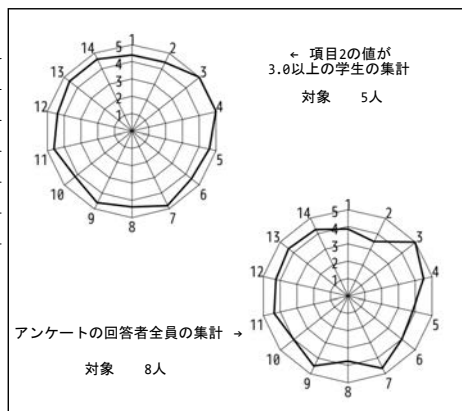


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 目標と到達の程度に関しては、取り扱う内容がやや専門的であったこともあり、学生自身の目標達成に対する評価は低い傾向がみられた。しかしながら、授業毎のチェック課題及び定期試験の結果を見る限り、教員が到達して欲しいレベルには概ね達していたように思われる。
- ② 数値データについては項目1（「履修前の興味」）や項目2（「予習・復習等の自主的な学び」）が低かった。項目1については、教員としては数値の改善が難しいように思われるが、自由記述を読む限り、講義中に実際に実験をする機会を設けたことなどで学生が授業内容に興味を持つ良いきっかけになったと感じている。項目2についてはwebclassでも資料を配布、閲覧可能にしている。自由記述からこうした資料を利用した学生もいたように見受けられるが、さらに自主的な学びを促す指導が必要なようである。
- ③ 本年度は対面授業が実施できたが、オフィスアワー等における学生からの質問が非常に少なかった。来年度はコミュニケーションを取りやすい授業の雰囲気を作り、学生が積極的に授業に参加し、主体的に学ぶ姿勢を促していきたいと考えている。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 医学概説(人体の構造と機能及び疾病)  
授業コード 23C77-001  
教員名 丹羽 統子  
教員コード 104280  
登録人数 53  
回答数 8  
回答率 15.1%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

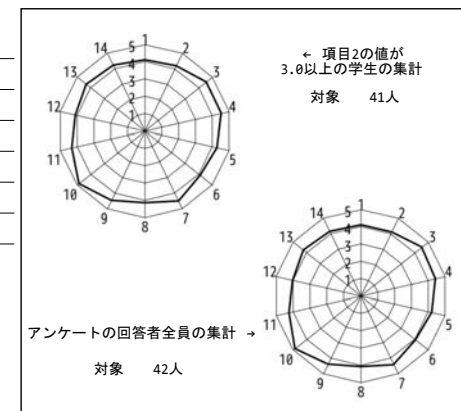


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 設定目標と到達の程度: 講義内容は難解なため受講脱落者が多い。よって学生の出席率を8.5割以上維持する事を目標にする⇒(初回の講義から欠席した学生を除けば)9.2割の出席率であったため目標は達成された
- ② 総合的な自己点検・評価: 60点。講義内容が伝わるように工夫が必要。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針: 講義内容の性質上、授業における情報量が過剰で学生の理解が追いついていなかったと考える。情報を取捨選択し、専門的な内容を減らして平易なものにしていく必要がある。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本芸能史  
授業コード 24C16-001  
教員名 早川 由美  
教員コード 101167  
登録人数 64  
回答数 42  
回答率 65.6%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回

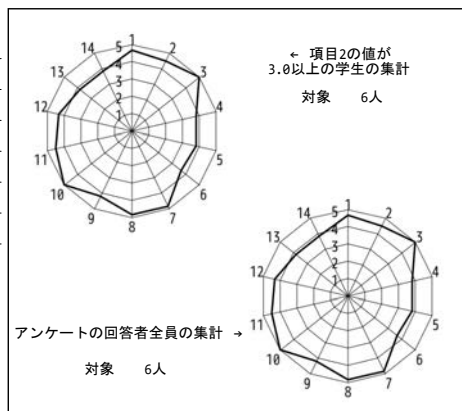


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 日本の芸能について、実際の資料映像を視聴し、興味関心を持ってもらうという目的に関しては、評価値からもかなり達成できたと思われる。
- ② しかし、授業の進め方についてはかなり厳しい意見があった。  
まず、教室が広がったことで画面が見にくかったこと。映像を含めて音が聞きづらいという指摘もあった。  
明るくて画面が見にくいという指摘もあったが、光量調節がうまく出来なかったことは自分でも気づいて反省している。  
次に、配付資料とスライドの関係である。配付資料があるので、同じ物を画面に映して読み上げたり補足説明したりしても、手元の紙資料を見ていれば大丈夫だと考えていたが、その進め方についての不満が多く書かれていた。  
昨年度は、オンラインで画面共有であったため、こうした問題は起きなかった。
- ③ 対面授業の場合、画面と手元を交互に見ることが難しいと考える学生が多いようなので、手元資料を見ながら聞くようにと明確に指示すること、画面で見やすい横書きスライドなど工夫するようにしたい。  
また、映像資料が見やすく聞きやすい環境作りのために適度の大きさの教室で授業が出来るように相談調節することや機器の使用方法についても習熟を図りたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 王朝文学研究  
授業コード 24C34-001  
教員名 大井田 晴彦  
教員コード 101186  
登録人数 16  
回答数 6  
回答率 37.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

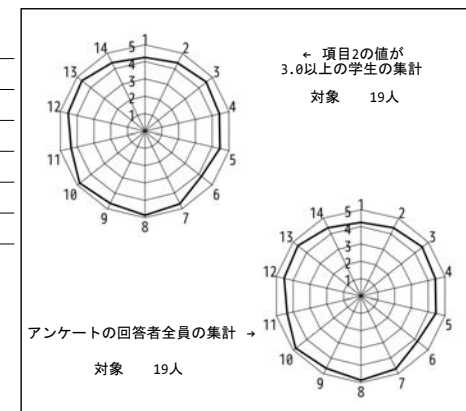


授業評価結果を踏まえた点検・評価

ほぼ当初の目標は予定どおり達成できた。伊勢物語の主要な章段はほぼ取り上げ、作品の全体像はつかめたはずである。受講生の出席率は高く、毎回の課題も真剣に取り組んでいる。課題はやや難しく、やや解答時間も少なかったかもしれない。毎回、指名してテキストも読ませたが、ほぼ正確に読めていた。受講生の姿勢は真面目であるが、やや受身で消極的な印象はある。質問の機会が多く設けたものの、あまり質問がなかったのは残念である。オンライン授業であったが、機器の支障などはなく、毎回問題なく授業は実施できた。機器に習熟していないので、最低限の機能しか利用できなかったのは遺憾である。来年度は教室での対面授業になると思われるが、授業方針に大きな変更はない。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語教育教材研究  
授業コード 24C62-001  
教員名 伊藤 恵美子  
教員コード 102909  
登録人数 24  
回答数 19  
回答率 79.2%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回



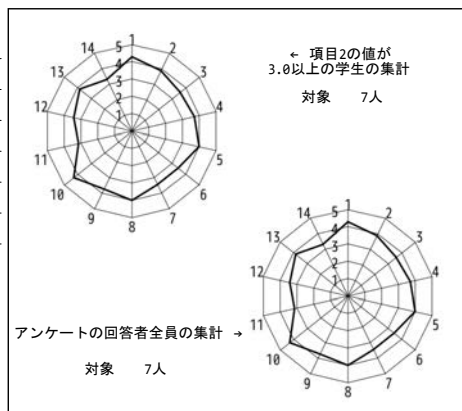
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標は、日本語教育教材のレベル別特徴を知っている、日本語教育教材のスキル別特徴を知っている、日本語学習者のニーズに合う教材が作成できるようになる、の3点であった。設問2「主体的な授業参加、内容理解の努力」の平均値4.37、設問13「新しい知識の獲得・理解の深まり」の平均値4.63から、受講生の勉学姿勢と目標への到達度との相関を窺わせる。平均値は、ともに全体・人文学部共通・日本文化学科のいずれも大きく上回っている。また、設問5「到達目標の理解」、設問7「教員の誠実さ・真剣さ」、設問8「教員の声」、設問9「学生の理解度への配慮」、設問10「授業の妨げに対する対処」の回答は、4と5のみであった。

自由記述（授業の良かった点）は、「先生の学生に対して授業する際の考え方、取り組み方、そして姿勢がとても素敵だなと思いました」「レジュメなど資料が充実していた」「私はグループワークを中心にやる講義で、単位を取れたことはほとんどなかった。しかし、この講義では円滑なグループワークが行われるよう配慮されていたので参加しやすかった」「話し合いが多すぎず少なすぎず、適切な量で楽しかったし気分が楽だった」「空調についてこまめに聞いてくださってありがたかった」「教材という点で、日本語教育について改めて学べた点」「自分で考える力を鍛えるこののできる授業でした」等、高評価であったので、今後もこのような評価が得られるようにしたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Culture  
C1  
授業コード 31C08-001  
教員名 TOMKINSON, Fiona Gail  
教員コード 104760  
登録人数 21  
回答数 7  
回答率 33.3%  
休講回数 3 回  
補講回数 3 回

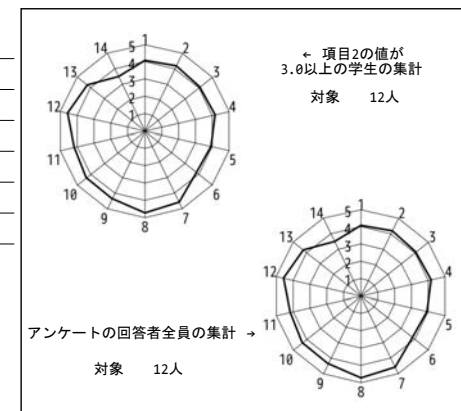


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I think that the goals set at the beginning of the course were achieved. Students were able to discuss the text, make interesting presentations and, on the whole, engaged well with the final project. They were also interested in making comparisons between Eastern and Western mythology and fantasy writing. However, I think students would like to be given more handouts and comprehension questions in future.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 イギリスの社会  
授業コード 31E07-001  
教員名 松波 京子  
教員コード 103864  
登録人数 51  
回答数 12  
回答率 23.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
「イギリスの社会について、その社会的・歴史的背景を理解しつつ、現在いかなる問題を抱えているかを知り、その問題について自らの意見を考え、またそれを主張することができる」との問題設定であったが、ほとんどの学生が目標については到達できたと感じています。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
2022年度Q3は講師としては当大学で数年ぶりの対面方式でした。オンライン方式と比較して受講生の皆さんとスムーズに意思疎通ができるのはやはり学習度が高いと感じました。また、新型コロナウイルス感染症対策として座席指定でしたが、かなり静謐な受講環境となり、受講生さんから「とても受講しやすい環境であった」との意見がありました。この点についても、次年度の授業方法として検討したい点であります。なお講義の内容については、イギリスのことをいろいろ知りたいという学生の要望には概ね応えられたかと考えています。意欲的に講義に参加してくれる学生が非常に多く、担当者も非常に刺激を受けました。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
今期の講義については、原則としてPC・スマホの長時間使用（用語の確認など一時的な使用を除く）を原則禁止として受講していただきました。この点に関しては、「かなり授業に集中できてよかった」という意見と、「自分はタブレットでノートを管理しているので使用を認めて欲しかった」といった意見があり、今後の検討の余地があるかと考えております。また、出席確認についても、「丁寧な出席確認でとても安心した」といった意見と、「確認に時間がかかりすぎている」という相反する意見があり、こちらも検討課題であります。今後も講義内容の方向性については維持しつつ、学生とのディスカッションの時間を少しでも多くしていきたいと考えています。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級スペイン語IIB3  
授業コード 32A21-003  
教員名 ROJAS ESPINOZA, Lorena Sue  
教員コード 103464  
登録人数 12  
回答数 3  
回答率 25.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

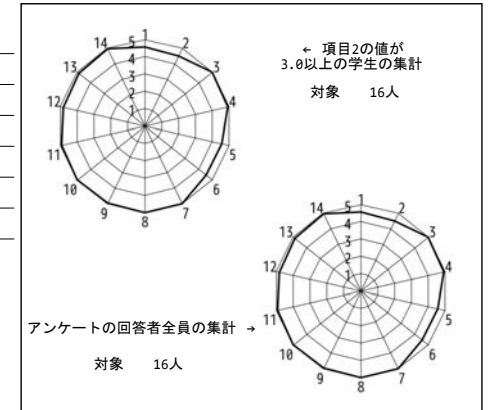
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

第3Qは、学生が積極的に授業へ参加したことができたと思い、目標に達成したと考えています。  
なお、自由記述にもありましたように、授業ではディスカッションと会話を通してスペイン語を身につく力を鍛えられたと思います。  
また、現在使用中の教科書の内容が少し古いため、データや内容を更新することによって現実的な教材を採用することができました。  
さらに、学生へのフィードバックもしっかりできたことや学生の質問や疑問に答えることができた点もよかったです。  
来年度は、フィードバックを中心的に授業を行っていく予定であり、学生の向上心を高める工夫をしていきたいです。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIA1  
授業コード 33A12-001  
教員名 NISHINO, Aurelie  
教員コード 103640  
登録人数 19  
回答数 16  
回答率 84.2%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals at the beginning of the quarter were to bring the students at an intermediate level in French through the method and our active lessons. The method is not easy but the students were really involved in the lesson and did their best to achieve the different goals of each lessons. Even in this particular situation, they were really active and it was lovely to teach to them. They didn't get the situation bother their studies and we managed to reach a very good level of French, especially with speaking.
2. This year was also special and with the situation, I think that the class did very well. In fact, they manage to do a lot of very high-quality videos, presentations as groups. The quality of their work was really amazing.
3. For the next year, I will try my best in order to motivate the students on their journey on learning French. I will use this past year experience and re-use it to make it beneficial for the students and myself.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	コミュニケーション特論B
授業コード	33C02-001
教員名	DASSONVILLE Nicolas
教員コード	104635
登録人数	5
回答数	3
回答率	60.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

3 out the 5 students evaluated this course. All questions got 100% of "5", except questions 1, 5, 13 (1 student gave a "4")

This course was designed as a sort of workshop. The expected level was B1. Students were asked to prepare a presentation in groups of two/three. We went through each step of the preparation and rehearsal process together. Each week, students were asked to prepare at home one aspect of their presentation and share it with the class, with my guidance and feedback. Feedback from other students played an important role too.

I can confirm that the general concept of this course makes sense. The final result of this process was very convincing in my view: all 5 students were able to deliver a high-quality presentation, far above their own expectations. I think this experience helped them make real progress in many aspects of language skills.

As in my other classes at Nanzan, the main challenge I encountered here was the heterogeneity in proficiency levels : 3 students were approximately A2 (preparing a presentation at this level is a challenge) and 2 were approximately B1+/B2. I tried to adjust the tasks and the type of monitoring and feedback to each student.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス社会特殊講義B
授業コード	33C17-001
教員名	長谷川 一年
教員コード	103576
登録人数	16
回答数	3
回答率	18.8%
休講回数	2 回
補講回数	0 回

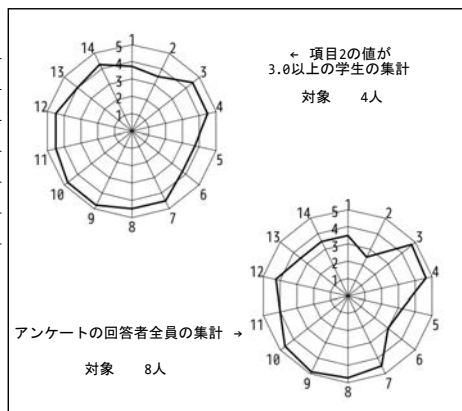
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初の目標は、近代から現代に至るフランス思想の流れを理解し、思想の営みをその時代の政治・社会状況との関連で理解することであった。講義では、デカルトに始まり、スピノザ、ルソーを経て、20世紀のサルトルの実存主義、フーコーの構造主義に至るまで、当初予定していた思想家たちを一通り取り上げることができた。加えて、受講者が比較的少数であったため、授業の一部にゼミ形式を取り入れ、カミュの『ペスト』を講読することができた。受講生はペスト禍とコロナ禍をパラレルに捉えることで、カミュの人間観をよりよく理解することができたように思う。
- ② 受講者が少人数であったため、数値データではとらえきれない部分があるが、基本的には受講生の関心に沿うかたちで授業をおこなうことができたと考えている。
- ③ 来年度の講義においても、基本的に今年度と同じような形式・内容で授業を進めていきたい。ゼミ形式の採用については、受講者の人数・関心に合わせて対応したいと考えている。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	タイ文化研究
授業コード	35D15-001
教員名	加藤 久美子
教員コード	100483
登録人数	48
回答数	8
回答率	16.7%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業目標は、「タイ国の自然環境、タイ国に住む諸民族の文化、タイ国の歴史について基本的なことを理解している」ことと「タイ(Tai)族地域の自然環境、各国に住むタイ(Tai)族の状況とその歴史について基本的なことを理解している」ことであった。試験の結果から見る限り、修了時の目標到達の程度は様々で、非常に高い到達度を示す人も人からかなり到達度が低い人まで、さまざまであった。

授業評価については、回答者数が少ないため、受講生全体としての傾向をどこまで示しているかは分からないが、設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか」に対しては、4が50%、3が37.5%であったものの、5と答えた人はいなかった。それと連動するように、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の数値も低めであった。シラバスでは「...について基本的なことを理解している」という書き方をしたため、何を目標として授業を受けたらよいか分かりにくかったかもしれない。次回からは、より具体的な記述をするよう心がけたい。

その他の数値データを見ると、設問13「この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか」および設問14「全体としてあなたはこの授業に満足しましたか」については、4あるいは5と答えた人が60パーセントは超えていたものの、1や2と回答した人も存在した。受講生全員に関心を持ってもらえ、受講生全員に十分に理解してもらえる授業をするのは難しいことかもしれないが、より魅力的な授業となるよう、テーマの選び方などに工夫をしていきたい。

自由記述の「この授業の良かった点、評価できること」として、タイについて近隣諸国との関係性まで詳しく教えた点を挙げてくれた受講生がいた。タイと近隣諸国との関係は、受講生の関心が高い問題かもしれないので、今後の授業立案の参考にさせていただきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジア文献講読B
授業コード	35D17-001
教員名	北野 浩章
教員コード	104302
登録人数	14
回答数	4
回答率	28.6%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、東南アジアを中心とする英語文献を読み、卒業論文などで英語文献を用いることができるようにすることを目標にした。具体的には、  
(1) 東南アジアの歴史や文化などの基本事項を、英語を通じて理解する。  
(2) 今日の東南アジアの最新事情を知り、時事を語るための英語表現を習得するとともに、地域の現状を理解する。  
(3) これらを通じて、東南アジアに関する英語の基本文献を読解できるようになる。  
ということである。

(1) については、コースの前半を使ってカバーした。使っているテキストでは「今日の東南アジアの最新事情」というのがあちこちに現れるため、特にいつ扱ったかということとは言えない。現代の東南アジアについて取り上げた読み物として、「韓流」の東南アジアでの受容について扱った論文や、今日の東南アジアで生きる人たちの姿を東南アジア研究者たちがそれぞれの視点から描写した読み物を読んでみたが、授業で扱うにはあまり適当ではなかった。

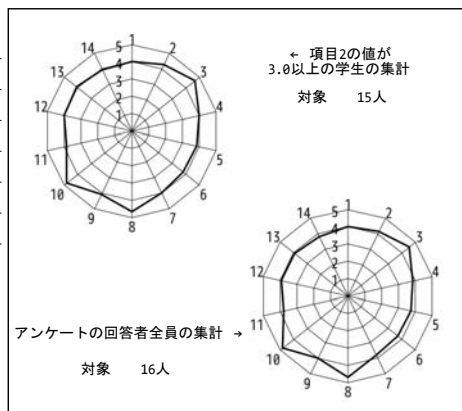
おおむね1~3段落を一人の受講者に担当を割りふって発表してもらおう方式をとった。ただこれでは、受講者は自分の担当箇所だけやっていればいいことになり、学習効果としては疑問がある。

彼(女)らの訳出能力に物足りなさを感じた。英単語を日本語に置き換えればそれで訳文が成り立つと考えているようで、今後は内容をよりよく理解する努力してもらうために、小テストなどをこまめにやれればと思う。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計入門1  
授業コード 40D05-001  
教員名 塚本 高浩  
教員コード 104478  
登録人数 45  
回答数 16  
回答率 35.6%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回

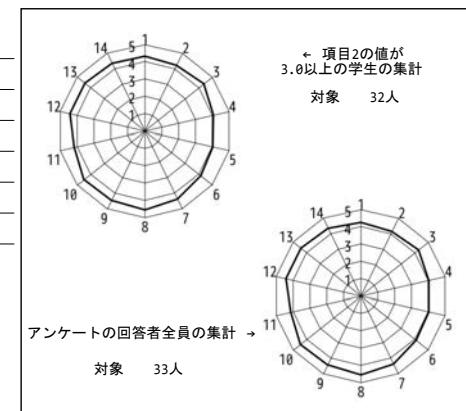


授業評価結果を踏まえた点検・評価

期末試験前に実施している本アンケートでは、到達目標への達成の実感は乏しいようであるが、期末試験などの結果、多くの学生は開講当初に設定していた目標を到達している。動画の視聴等の課題の多い授業であるので、次年度以降は学習意欲を湧きたてるような工夫を行って行きたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アメリカ経済論B  
授業コード 40D57-001  
教員名 西尾 圭一郎  
教員コード 104651  
登録人数 103  
回答数 33  
回答率 32.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初設定していた目標は、グローバル経済の中のアメリカ、ドル体制についての理解を中心に考えていたが、為替の変動等を受けアメリカの金融制度などの取り扱いを増やす形になった。ただ、対象は広がったものの、概ねドル体制やアメリカの金融についての理解はしっかりなされていたと感ぜられる。レーダーチャートを見ると平均が4.3前後であり、それが良いのか悪いのかはわかりませんが、概ね好評だったのだと思います。ただ、広く理解をしてもらうことを目的としたため、授業構成や深度に納得のいかない学生は一部いたかもしれませんが、これは痛し痒しのため、万人を納得させることは難しいとは思いますが、授業中の専門書の推薦等、何らかの形で対応していければ、と思っています。また、アメリカの金融を理解するにあたって、金融の復習などを入れ、しっかり理解してもらうことなども案としては考えているところです。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語B1  
 授業コード 40E05-001  
 教員名 MOORE, Jonathan  
 教員コード 101410  
 登録人数 16  
 回答数 1  
 回答率 6.3%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 2 回

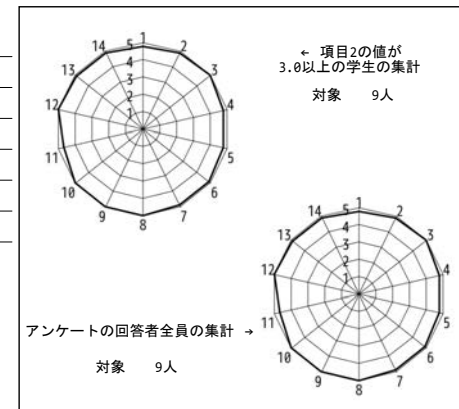
レーダーチャートなし  
 (回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The scoring of the set of questions was very positive. Students were engaged in the lessons. Most students were self-motivated to prepare for classes and projects, do assignments and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. A syllabus was uploaded along with other materials for students. PowerPoint lectures were uploaded for students. The class was adjusted to the student's needs and level. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students seemed very interested in acquiring communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques, and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語B1  
 授業コード 40E07-001  
 教員名 森川 信子  
 教員コード 100136  
 登録人数 13  
 回答数 9  
 回答率 69.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講者は13名で、クラスのサイズとしてはちょうどよかったように感じました。出席状況・受講態度とも良好であったと思いますし、掲げていた学習到達目標はだいたい到達できたと言えそうだと考えています。今クォーターの授業では、文法の解説やシャドウイングによる音読、小テスト等、基礎的な英語力をつけることに時間を割きましたので、当初の予定よりテキストの進み方はゆっくりになりましたが、今クォーターのクラスに合った授業ができたと思います。いたずらに先を急がず余裕を持って着実に学び、今後の土台となる英語力をつけることができ、有意義であったと考えています。また、文法の知識がリーディングの正確さにつながることも実感してもらえたのではないかと思います。受講生からは、英語が苦手だが文法の説明が丁寧でついていくことができた、毎回の単語テストが語彙を増やすのに役立った、シャドウイングを続けるにつれて上達を感じられて達成感があった、などの感想がありました。小さな達成感の積み重ねは学びの動機付けとして重要だと感じますので次のクォーターでも続けたいと思います。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	時事英語B3
授業コード	40E07-003
教員名	NORTH Cameron
教員コード	100400
登録人数	16
回答数	0
回答率	0.0%
休講回数	0回
補講回数	0回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the start of the course and the extent to which They were achieved.

The goals of the class were achieved. In order to improve English communication skills, students must participate in the classroom. In addition, students must do the applicable homework. In most cases, the students did participate, and they did their homework. Also, students seemed to appreciate the class as their efforts allowed them to increase English abilities.

An overall self-assessment and self-evaluation of the subject you are in charge of based upon the numerical data and the comments etc.

Thank you to all students for practicing and studying English. The majority of students tried to improve their English in class and by doing homework. A few students put in less effort. I think the pairwork system and homework study style greatly helps students that put in the effort. Overall, I am happy with the class results.

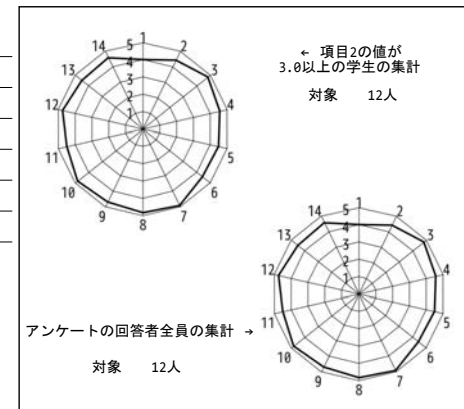
Thinking ahead towards the next quarter or semester, improvements, aspirations or specific measures etc. you will take.

In the future, I can try to explain more clearly. I can also try to improve the motivation for students that do not try very hard.

Overall, there is not too much to change. Of course, it is always important to motivate all students.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	商法A
授業コード	40F06-001
教員名	村上 康司
教員コード	103658
登録人数	46
回答数	12
回答率	26.1%
休講回数	0回
補講回数	0回



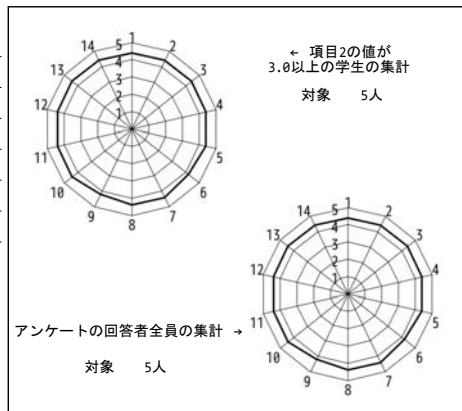
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「商法A」は、当初シラバス記載の通り予定した学習を進めることができました。

学生アンケートの結果からは、履修前に興味を持っていたかどうかに関するスコア（4.00：設問1）に比べ、履修後に授業に満足したかに関するスコア（4.58：設問14）が上昇している。このことを踏まえると、単純に法律の仕組みを学ぶにとどまらずに、それが身近な社会経済活動の中でどのように展開されているのか、具体的な事例をもとにして学習するという講義の目標も一定程度達せられたといえる。その他の項目のスコアを見ても、総じて肯定的なものになっている点も、このことを補強すると考える。各講義後のフィードバックも、学んだテーマを現実の事象から深めてもらうリサーチなど、学習成果の確認にも役立つ部分があったのではないかと感じている。フィードバックの提出そのものは任意であったため、全員の提出があったわけではないが、多くの学生が主体的に参加していた。来年度以降についても、肯定的な評価を受けている部分については、さらに満足度を高められるように意識しつつも、マンネリになることなく、より効果的な題材選定や授業の組み立てなどに意識を持って臨みたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経営管理論B  
 授業コード 42E04-001  
 教員名 藤川 なつこ  
 教員コード 101618  
 登録人数 15  
 回答数 5  
 回答率 33.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の学修目標は、① 経営管理論の理論的内容を理解したうえで、② 現実の企業の事例を、経営管理論を用いて分析し、③ 現実の企業が抱える経営課題に対し、経営管理論の視点から打開策や改善策を提示すること、であった。学生による授業評価のすべての設問において回答の平均値が4.2を超えていることから、学修目標を概ね達成できたと判断できる。本講義では以下の点に心がけながら講義を進めた。

① グループディスカッションの実施

単に講義を聴くだけでは、受け身の講義になってしまうので、毎週グループディスカッションを実施し、講義内容について学生間で考える時間を提供し、理解を深めるようにした。

② 学生からの質問への対応

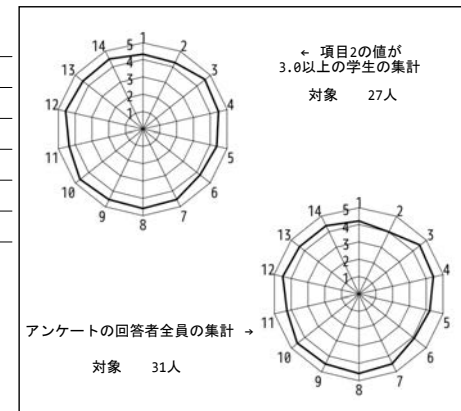
講義後にチャットに質問を書いてもらうということを毎回行った。また、そこで出た質問に対しては、全体に対してその都度回答した。このことによって疑問と答えの共有を進めることができた。

以上のように、一方的に講義をするのではなく、学生間の共同学習の場を設けることによって学生とともに講義をつくり上げていったことが、学生からの一定の評価に繋がったと考えられる。しかしながら、課題として① インプットとアウトプットの時間配分および② 授業外の自主的な学習意欲の喚起があげられる。

以上の点を踏まえて、学生の学習意欲を高められるような、より参加的な講義にできるようさらなる努力をしていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代産業論(電子・電機産業論)2  
 授業コード 42F03-002  
 教員名 金丸 義弘  
 教員コード 104609  
 登録人数 98  
 回答数 31  
 回答率 31.6%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 0 回

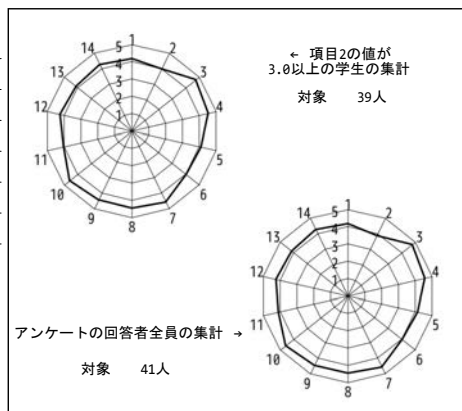


授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 第1Qの反省に立ち、定期試験に加えて講義参加度を評価に組み入れました。講義参加度はリアクションペーパーの内容を講義毎に採点するようにし、定期試験と合わせて数値化しました。評価方法を各講義の始まる前に繰り返し撤退した影響もあると思いますが、1Qに比べて出席率がアップし、各講義に真剣に取り組む学生が増えたと思います。当初目標としていたレベルは全員C以上でしたが、受講生の約90%以上がC評価以上に到達する見込みです(まだ最終評価中) ② 数値データは学部の平均値をわずかに上回ることができました。また自由記述においてグラフやデータ、写真等を使っており講義がわかりやすかった。体験談が興味深かった。等コメントがありました。もともと心がけていましたことですので今後の励みになります。来年度もできるだけわかりやすく、内容のある講義を進めて行きたいと思います。 ③ 出席点を何点取れているかの開示をして欲しいという要望がありましたが、開示はできないものの、出席点の評価方法については、さらに詳しく説明をして行きたいと考えています。また、時々刻々と政治経済環境、企業戦略が変わりますので最新の情報をアップデートしつつ、経営学部、経済学部学生の知識レベル向上と、今後学生が社会に出て取り組まなければならない日本と日本の産業発展に向けて実践に役立つような講義をして行きたいと思います。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	現代産業論(自動車産業論)1
授業コード	42F04-001
教員名	飯島 修
教員コード	104485
登録人数	99
回答数	41
回答率	41.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

満足度(設問14)が事前の期待(設問1)を上回ることで、と定めた目標は達成。  
「説明が丁寧で話のポイントがわかりやすい」「映像資料や写真を用いた説明で、理解を深めることができた」「スライドを使った分かりやすい説明でとても助かる」とあり、力を入れた点がこのコメントに繋がったと推測。復習での理解・定着を意図した資料についても「毎回レジュメが用意されており、復習しやすかった」と言ってもらえ、ありがたい。一方、「スライドを読み上げている感じ。もう少し記載文を絞ったほうがよい」と真逆に近い指摘もあったので気をつけたい。さらに「経験談を述べる回を増やす、担当したプロジェクトとその過程の紹介を」との提案は、そのような授業にして良いのかも含め検討したい。

「資料のアップロードが当日昼頃。家で印刷し手元に置いて授業を受けたいため、前日夜か当日朝までにアップしてもらえると嬉しかった」との指摘をくれた学生はほぼ全項目を5としていたので申し訳なく思う。最新の情報を入れざりぎりまで資料をつくり込みつつ、次Qは当日朝までにアップした。その他、ほぼ全ての項目を1とした学生がいたことは真摯に受け止め、改めて平均点だけを見てはいけないと感じた。今回フリーコメントが多かったことに感謝。また、シラバスを見ていない学生が多いと判ったので、次年度はシラバスの確認、授業の進め方、資料の活用方法をしっかりと説明したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(労務)
授業コード	42G20-001
教員名	澤井 実
教員コード	103270
登録人数	8
回答数	1
回答率	12.5%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

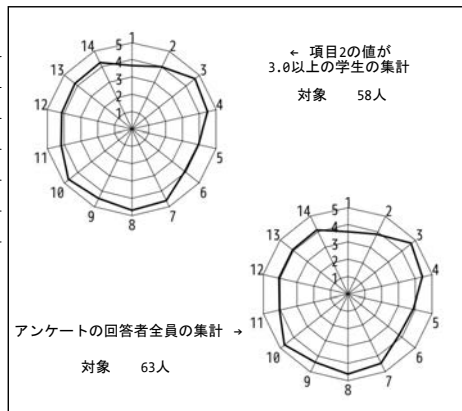
授業評価結果を踏まえた点検・評価

このクラスは毎年受講学生の英語能力に大きな差がある。今回も高校レベルの学生から十代をアメリカで10年近く過ごした学生まで、その能力は大きく異なった。英語読解に苦手な学生には社会科学系の英語が面白いこと、日本語に訳さないで(後ろから前に戻らないで)、前から読み進むことを可能なかぎり勧めた。一方英語読解にまったく問題のない学生にはコンテンツの解説を心掛けた。今回のテキストはスイス人著者による日本時計産業史ということもあり、受講学生は興味を以て参加してくれたことと思う。

授業の最後に何人かの学生がこれからはペーパーバックを読んでみずといってくれていたことが嬉しかった。学生は辞書に出てくる単語を1対1対応で捉える傾向があり、英語と日本語の対応が緩やかな関係にあること、従って一つのベストの訳がある訳でなく、文章の流れを理解し、それを日本語に置き換えるのは日本語能力の問題でもあることを理解してもらうことがきわめて難しい。やはり短期間に集中的かつ大量に英語論文等を読む機会がどう設定するかが課題だと考える。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本法史  
授業コード 44B34-001  
教員名 代田 清嗣  
教員コード 104266  
登録人数 171  
回答数 63  
回答率 36.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに即して講義を実施し、到達目標に必要な事項は概ね解説することができた。またレポートや定期試験の成績から、多くの学生が目標に到達したと考えられる。

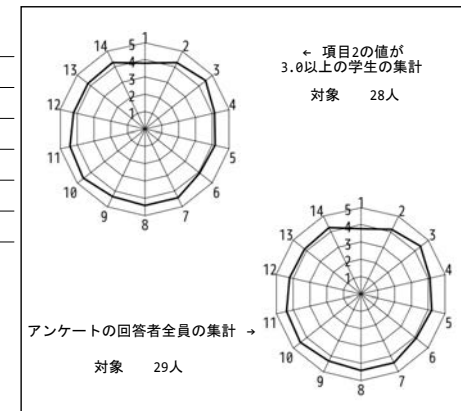
アンケート結果によれば、本科目の到達目標を理解し、それに向けた実力がついていていると感じている学生がやや少ない。また、積極的な授業参加を促す機会や、質問・相談の機会が設けられているかとの項目も、学科平均を下回った。質問等はWebClassや休み時間を使って随時受け付けているが、時間の制約からアクティブラーニングの時間を設けにくく、学生の関心が高まっていない現状を理解した。

また講義内容について、早口でメモが取り切れないという声が多く寄せられている。この点については、時間に追われ早口になることがしばしばあったと自覚している。

次年度は、余裕をもって話せるよう、解説する項目にメリハリをつけるとともに、各事項が到達目標との関係でもつ意義について、さらに丁寧に解説したい。加えて、ICTも活用した講義の双方向性を模索し、可能な手法を積極的に採用したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス法  
授業コード 44B39-001  
教員名 小林 真紀  
教員コード 103451  
登録人数 118  
回答数 29  
回答率 24.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①については、学生の回答内容を見る限りでは、設定目標に到達していると考えている。

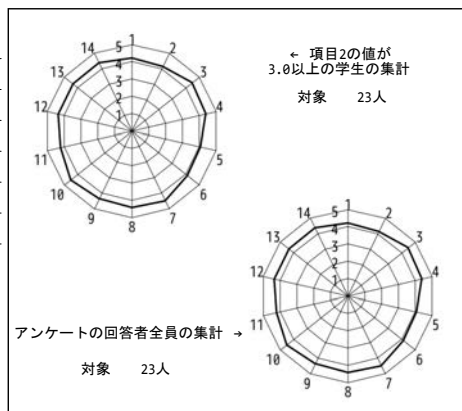
②に関しては、受講者数が比較的多く、また、ハイブリッド開講（コロナ対応学生のために毎回Zoomでの配信を必要とした）のため、機器の設定が難しく、また、資料の配布などにも気を配る必要があり、その分、授業スピード等については、若干配慮ができなかった時もあったかもしれない。ただし、授業中にノートが取れなかった学生に対しては、講義動画を見て見直すように指示していたので、それをやらしてもらえなかったのは残念である。受講者全員が満足できるスピードで授業を進めることは不可能なので、進度が早いと感じる学生がいる場合には、こうした補助教材でケアするしかほかに方法はないのではないかと考えている。

③次年度からは、指定テキストを使う予定なので、学生の理解度をさらに上げられるよう、テキストとの関連性に配慮して授業を進めたい。

なお、学生にはアンケートに回答するように促したものの、回答者数が少ない点が残念であった。他方で、こうしたアンケートは、授業に否定的な意見やマイナスの感想をもっている学生のほうが回答する傾向が強いと思われるので、見方を変えれば、大半の学生にとっては、それほど大きな不満はなかったと考えられるかもしれない。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政学A  
授業コード 44B42-001  
教員名 高 東柱  
教員コード 104267  
登録人数 115  
回答数 23  
回答率 20.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



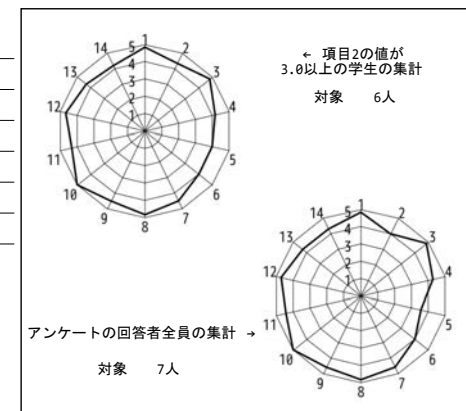
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の到達目標は「行政学の基本概念を理解し、現代行政学の誕生と発展における歴史的背景について理解している」「行政の仕組みを政官関係、中央地方関係、官民関係、国と国との関係から捉えられるようになる」であった。Q3の授業評価の回答が少なかったため、全体的な傾向を把握するには限界はあるものの、授業評価の設問5、6の平均値がそれぞれ4.09、4.13となっており、本講義の目標に概ね到達していると考えられる。さらに、設問13、14の平均値がそれぞれ4.35、4.39となっていることから、学生から本講義に対する一定の評価が得られていると考えられる。

講義の冒頭に、学生から提出された前回分のコメントペーパーにある質問に答えることで、前回の講義の復習をしつつ、質問内容を他の学生と共有することで学びを深める時間を設けた。そして、講義内容に関する質問だけでなく、講義内容以外の質問にも答えることで学生と距離を縮め、質問しやすい環境作りのために努力した。二コマ連続の講義を受講するのは学生も大変であろうと理解しているので、今後も学生が受講しやすい環境作りを意識しつつ、講義に取り組んでいきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済原論A  
授業コード 44B52-001  
教員名 川地 啓介  
教員コード 103289  
登録人数 22  
回答数 7  
回答率 31.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

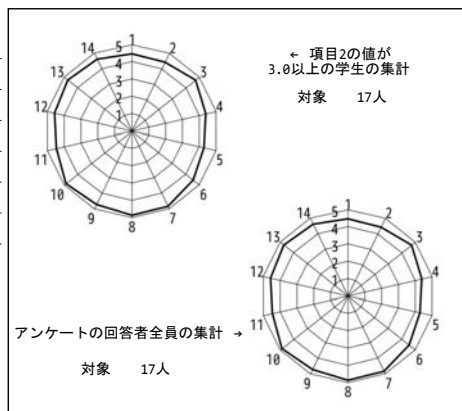


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標として、消費者と生産者の行動原理に加え、資源配分における市場の役割について理解できるようになることを設定し、その理解のために必要ではあるものの法学部の学生が苦手意識を持ちやすいグラフや数式について丁寧に説明するよう心掛けた。授業評価の到達目標に関する項目を見る限り、受講生の理解度はおおむね良好だったと判断される。1時間目に開講させていただき、受講生が疲れておらず受講姿勢が良かったことが要因の一つとして挙げられる。ただし、昨年度に課題として挙げていた到達目標の理解を問う項目が最も低い評価であった。今年度は初回講義だけでなく、各授業においてシラバスを示しながら、各内容が授業全体の到達目標とどのように関連しているのかを説明したが、授業評価の結果につながらなかった。その原因として授業全体の到達目標について説明の頻度が多すぎたことが考えられるため、来年度の授業では、説明回数を調整しながら授業全体の到達目標について受講生の理解を促すよう工夫したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 行政法各論  
 授業コード 44C04-001  
 教員名 庄村 勇人  
 教員コード 101598  
 登録人数 86  
 回答数 17  
 回答率 19.8%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

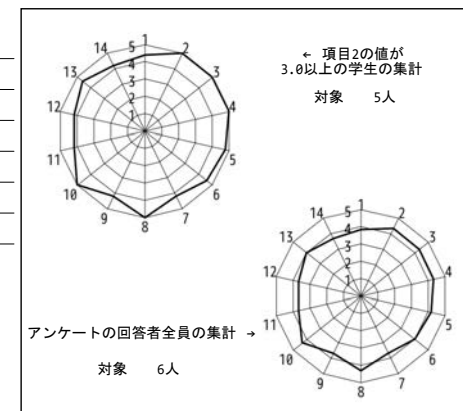


授業評価結果を踏まえた点検・評価

「目標と到達の程度」(①)としては、地方自治に関する法制度について解説し、リアルタイムの話題にも接続を試みた。それなりに聞いていただいたという手ごたえはあるが、ただ学生自身が地方自治の視点から現代行政を評価できるようになったかどうかは不明である。数値データ・自由記述への評価(②)としては、項目1-14の平均は「4.61」、項目3-14の平均は「4.63」と一定の評価であった。評価が低かったのは「授業の到達目標の理解」であったため、目標をどう伝えるべきか、具体化を含めて検討したい。自由記述については「レジュメの見やすさ」「現実の体験を聞いた」などについて好評価であった一方で、「講義が10分早く終わること」、「最後駆け足で授業が終わること」があるなどの問題指摘があった。「今後への方針」(③)として、上記(②)の指摘に関して、普段90分授業に慣れているため100分授業へ対応しきれなかった部分がある。次年度は改善したい。また、小テストの解答公開のアナウンスも丁寧に行いたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際経済組織法  
 授業コード 44C11-001  
 教員名 水島 朋則  
 教員コード 103634  
 登録人数 55  
 回答数 6  
 回答率 10.9%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



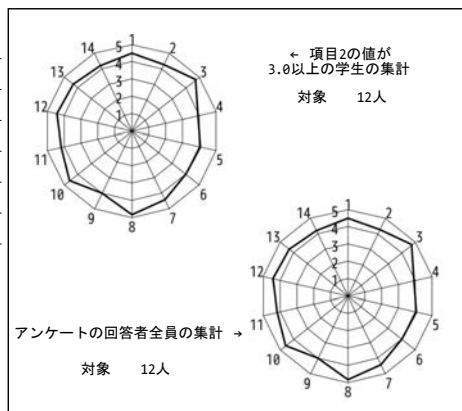
授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 今年度は、受講者が前年度の約5倍に増えたが、目標に達していない学生(不合格)の割合も増え、試験を受けた36人のうち7人が不合格であり、その意味では到達度は8割程度と言えよう。
- ② 回答率が2割に満たず(6人)、そのうち1人はすべての項目について「1」と回答しており(例えば他の5人は「5」と回答している設問3「授業の開始と終了の時間は守られていましたか」への回答も「1」である)、数値データの評価については留保したい。授業の進め方や成績評価方法、毎週のレポート課題に対してコメントを付けていることなどを「この授業の良かった点、評価できること」として挙げる自由記述(項目15)からは、担当教員が大学の授業で目指していることを評価してくれる学生がいることが分かり、授業のやり甲斐につながっている。
- ③ 自由記述(項目16)として「コメントだけでは伝わりづらい部分もあるため、授業毎にレポートの採点基準を公開すべきだと感じました(その方が次回以降のレポートに活かせると思います)」と書かれていた。「採点基準」を文章で示すことはいくつかの意味で現実的ではないが、過去の受講者による優れた(および劣った)レポートを参考レポートとして示すなどの代替策を検討したい。また、授業の途中に休憩時間を設けてもらいたいという希望が複数の受講者から出されていたが(自由記述(項目16))、それを望まない受講者や「だったら休憩を挟むのではなく、その分だけ早く授業を終わってほしい」という受講者がある可能性もあるので、文字どおり「休憩」するのではなく、こぼれ話など、息を抜けるような時間をこれまでよりも多めに取り入れるなどの対策を検討したい。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	会計学
授業コード	46D08-001
教員名	梅田 守彦
教員コード	103893
登録人数	38
回答数	12
回答率	31.6%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

全体的に平均値をやや下回るものとなってしまった。とくに質問項目4：授業の構成や進行速度、5：授業の到達目標の理解、6：授業目標の達成へ向けての力の向上、といった点が低く評価されている。授業の構成を見直して、無理なく理解することのできるような講義内容に修正していきたいと考えている。おそらく、会計学の基礎知識の学習段階から、企業の状態を判断する実践段階に入るさいに急に難易度が高くなったのではないかとと思われるので、このあたりの説明を丁寧に行なうことで学習がスムーズに進むように努めたい。

なお、今回は一人の学生からかなり辛辣な苦情が寄せられた。たとえば、野球選手の成績表からはそれぞれの野球選手の特徴が窺えるように、会計書類からも会社の特徴が推測できることを説明するにあたって、「野球を知らない人、特に女子に多いのかもしれないが、その人たちには申し訳ないが・・・」と断りを入れたが、それに対して「女子には分からないと思うが」と小馬鹿にしたように受け取られてしまった。また、ダメな回答の例として挙げたなかにもその学生が提出したものが含まれていたようであるが(もちろん匿名扱い)、これもまた不快であったようである。答案に対する解説や学生の授業態度の指摘などについては注意を払うようにしたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	近現代史
授業コード	46D10-001
教員名	柳澤 幾美
教員コード	101592
登録人数	24
回答数	4
回答率	16.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

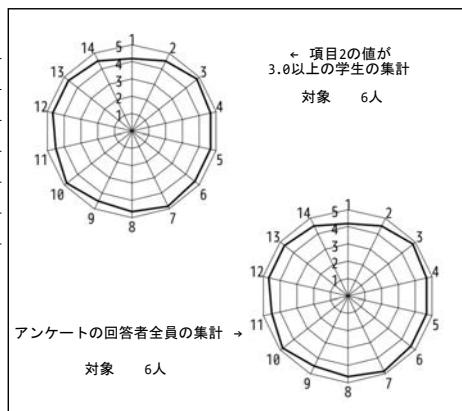
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定していた目標と到達の程度について  
目標としては、学生が各自当事者としての視点により、マイノリティの視点を身につけること、そして各自が問題にコミットメントできることであったが、毎回、授業後にリアクション・ペーパーを書かせることにより、ある程度は達成できたのではないかと考える。
2. 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価  
数値データは、回答数が少なかったため、記されていないかった。もう少し積極的に授業評価アンケートに参加するように促す必要があると考えている。自由記載については、よく理解できたようでよかった。映像を利用したことも効果できてあったようである。
3. 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
もう少し学生が参加できるような授業をやっていく工夫が必要であると考えている。受講生が少ないので、ディスカッションなども効果的であろうと思われる。今後も学生の反応を見ながら、授業を進めていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策英語II4  
 授業コード 46F02-004  
 教員名 Jean Claude AHWENG  
 教員コード 104148  
 登録人数 33  
 回答数 6  
 回答率 18.2%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals of this course were for the students to: (1) undertake independent research and think about the assigned policy related topics; (2) convey what they have learned and thought of in their research into an English report; (3) share with and learn from each other what they have learned and thought about in their research. A good learning environment and teacher-student communication prevailed during the semester.

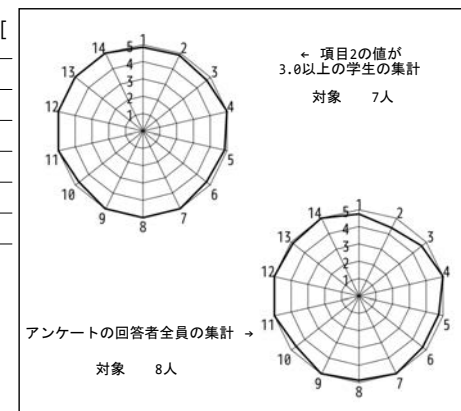
Right at the outset, the teacher explained the goals and teaching-learning method used in the course. This allowed the students to know exactly what they were expected to do and why, thus allowing the students to be motivated and to focus on the assignments.

The students found the assigned topics to be interesting and thought provoking, and took the assignments very seriously, did good research, gave much thought about the assigned topics and wrote good reports. Based on feedbacks from the students, the students enjoyed the course and the hands-on learning-by-doing approach, and felt that they benefited a lot from the course, both in terms of the assigned topics and English.

The teacher concludes, therefore, that the course attained its goals. In the future, the content of the course and the way it is delivered will remain basically the same, with some minor improvements to include some latest global issues  
(222 words)

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIオーラルコミュニケーション[G]8  
 授業コード 11A03-039  
 教員名 SELTMAN, Zen  
 教員コード 104672  
 登録人数 20  
 回答数 8  
 回答率 40.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



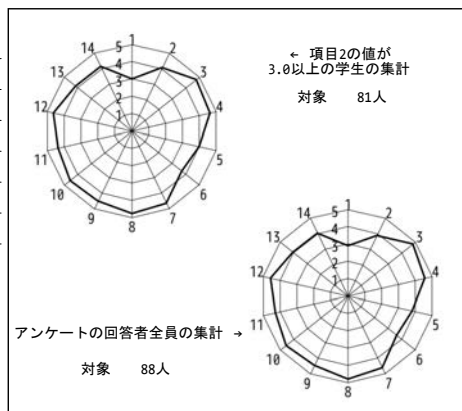
授業評価結果を踏まえた点検・評価

My goal for this course was to foster an environment conducive for students to improve and work on their oral English communication skills. I believe that, for the most part, I was able to achieve this goal. The students' feedbacks were positive, so I am generally satisfied with the results.

Point of improvement: Due to the high number of COVID-19 cases during Q3 and Q4, I do not believe the teaching experience was optimal. I had initially designed the class to be centered around group activities. However, this posed a challenge since students frequently got sick and missed classes. If I were to conduct the course again, I would have taken this factor into greater consideration and designed the class to accommodate last-minute changes. In addition, several students were suffering from burnout/depression, particularly during Q4, which also affected the overall mood of the class. It is imperative that, as educators, we are aware of the external factors that may impact a student's motivation and behavior. Moving forward, I will try my best to maintain a positive environment emphasizing fun and exploration instead of cookie-cutter activities that risk becoming boring and repetitive.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 グローバル化と情報技術 / Globalization and Information Technology  
授業コード 48D04-001  
教員名 後藤 邦夫  
教員コード 016428  
登録人数 160  
回答数 88  
回答率 55.0%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標は前年度と同じで、真面目に学習した受講者が良い成績を得ることである。難しい内容を理解した気にさせて、飽きさせないように小テストやディスカッションを多くした。その結果、受講者155名のうち試験欠席者3名を除く全員が合格、A以上は128名と全体として良い成績であった。したがって、目標に十分到達したと言える。アンケート実施日の出席者は119名であり実質回答率は74%である。

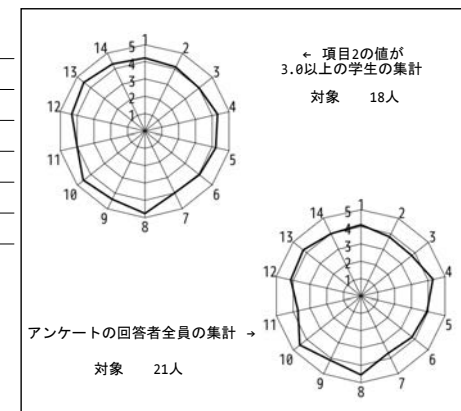
2019から2020年度は2名の教員で担当したので、授業評価の記録はない。2021年度は1名で担当したがオンライン開講であり、今年度（2022）が久しぶりの対面授業であった。内容は2021年度に全面改訂し、今年度は同じ内容で情報を更新した。例えば、円安、ウクライナ情勢に伴うサイバー情勢の変化を内容に反映した。

評価ポイントは学科平均と比較して、3から14の平均では4.35/学科4.30と上回っていて問題はない。低めなのは、1. 事前の興味 2.91/3.63である。他に5（到達目標の理解）と6（力がついた）がそれぞれ3.84/4.06, 3.63/3.93と低め、13（理解）、14（総合満足）が4.05/4.24, 4.02/4.11と少し低い。技術的な事項に関する自信のなさが6と13の平均値に見られる。自由記述では肯定的な記述が22件（わかりやすかった、面白かった）、改善点等は7件（クイズ回答時間不足、難しい、興味がわからない、実習したい）あった。

2022年度末で退職し、今年度は非常勤としての授業であった。次年度の担当はないが、大人数かつ必修の授業が選択科目となったさいに担当される先生には、Webサイトでの簡単なプログラミングやプログラミングなしで使えるAIの実習を入れることをお勧めする。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語III<H>2  
授業コード 11B03-002  
教員名 中島 潤  
教員コード 100883  
登録人数 23  
回答数 21  
回答率 91.3%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



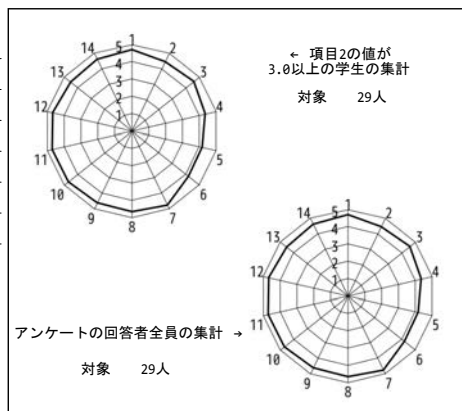
授業評価結果を踏まえた点検・評価

ある程度の学生に関して満足が得られたことについて、良かったと思います。しかし、若干数の学生に関して評価が得られなかったことは、今後の反省材料にしたいと思います。一年次の第二外国語としてフランス語を選択する学生に、どのような教育的ニーズが持たれているのかということが、今回ある程度（アンケート結果や授業自体において）明確になりましたので、次回以降に生かしたいと思います。

一年生を主な対象にした授業でしたが、本年度から採用された新しい教科書に対応するのに時間がかかったことが、第一の反省点です。その中で、学生すべてが満足できる授業を行うにはいっそうの模索が必要であると考えています。以上、今後担当することがあれば改善すべき点であると認識しています。来年度においては、同じ教科書が継続で使用されることが決定しているので、本年度とはことなり、なれた状態で授業を進めることができるかと思われる。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語III<G>
授業コード	11B03-013
教員名	遠藤 美加
教員コード	101551
登録人数	39
回答数	29
回答率	74.4%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講は一年生向け仏語初級クラスの第3クォーターである。平易なフランス語を読み、聞き、話し、書く技能の習得を目指しており、程度の差はあるが、履修生全員がこの能力を着実に身につけることができた。

アンケートにはクラスの4分の3の学生が回答している。多くの学生は積極的に取り組み、ポジティブな回答をしてくれているが、設問8～14の評価集計を見ると、少数の学生は2、3をつけており、満足とはいかなかったようである。私としても履修生の能力や関心の伸長を支えるよう、教材や資料の工夫を心がけたが、完璧に進行した授業はないので、今後もいっそう効果的な授業を常に目指すしかないと考えている。

自由記述では、進行速度、課題の量が適切との声が多かったが、早いと感じる履修生もいた。授業ではグループで課題を確認したり、会話練習をしたりするが、これを評価する声は以前から複数聞かれる。それによって、発音練習を増やしているつもりだが、一方で「スピーキングが上達しづらい」という意見が今回あり、異なるアプローチのスピーキング練習を工夫する余地があると考えさせられた。

テキストを2冊使うため、学習事項の順番が2冊の間で対応していないことに困惑する学生もいる。次年度はよりシンプルなテキストを選び、文法学習をわかりやすくする予定である。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語VII<全>1
授業コード	11B07-001
教員名	村田 ひで子
教員コード	100665
登録人数	8
回答数	4
回答率	50.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

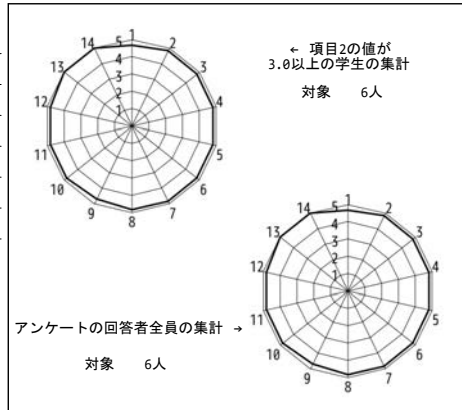
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

基本的な文法や語彙等を習得してフランス語の基礎力を養うことと、授業を通してフランス語に親しみながらコミュニケーション力をつけることが目標であった。できるだけ2-3人のグループで、予め訳の試みや発音練習をしてから発表というスタイルを取ったので、全員が授業に積極的に関わってくれたと思う。フランス語は動詞の活用が複雑なので、今学期も小テストでは動詞に力を入れた。アンケート参加人数が少なかったので集計はされていないが、「学生毎回答結果」ではまあまあの数字が出ているようである。「自由記述」では、「授業の形式が決まっています、ノートの取り方など自分で工夫しやすい」「読む・書く・話す・聞くのそれぞれの能力をのばすことができる」の感想が寄せられている。学生の皆さんは2年間がんばってフランス語に取り組んでくれたので、これからも機会を見つけてフランス語やフランス関連の事柄に関心を持ち、語学力を維持していってくれることを期待しています。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級フランス語IIB1  
授業コード 33A15-001  
教員名 VURPILLOT, Xavier  
教員コード 104503  
登録人数 19  
回答数 6  
回答率 31.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

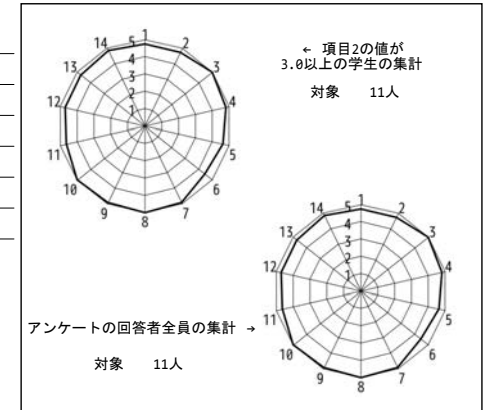


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aimed to continue improved the students understanding of the french language based on what they learned during the quarter 1. The course focused on improving all four skills : listening, reading, speaking and writing.  
After being divided in groups, the students also had to create a short video using all the tools they learned until now and during quarter 3.  
All the groups managed to do this task quite well. I hoped that those video and theirs grades reflected the fact that the students had a good understanding of the content of the course, thankfully, the survey confirmed that point.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語V[FS]4  
授業コード 11D05-004  
教員名 JAIME LAZO, Alan Christian  
教員コード 103654  
登録人数 12  
回答数 11  
回答率 91.7%  
休講回数 1 回  
補講回数 1 回

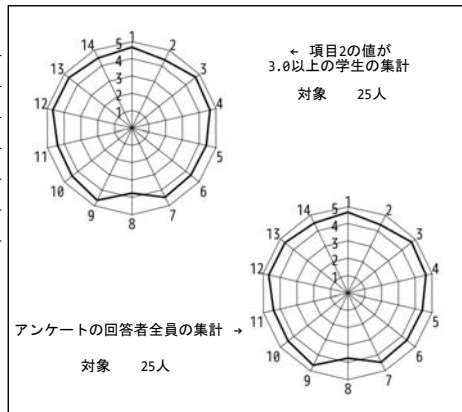


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1年目のA1の授業レベルは、家族や友人など、身近な人との会話ができるような単語を用いた。目標到達のため、すべての授業で、色々の問題点を考え、解決方法を話し合った。が、学生たちは経験が浅く、知識も少ないようで、社会などの問題点を深く掘り下げて考えることがスペイン語で進みました。なるべく学生たち同士でスペイン語を使用して会話をするように心がけた。スペイン語に対する好奇心を刺激するような、クリエイティブな授業を常に心がけた。教えることに夢中になりました。学生たちが自ら言葉を発し、会話に参加し、お互いに刺激しあえるような授業を展開していきたい。学生たちがソーシャルネットワーク等を使い、スペイン語文化に参加していくと良いと思う。授業内ではもう少しコミュニケーションでの遊びを取り入れていきたい。さらにスペイン語の学習ストラテジィを学び、使えるスペイン語を習得してもらいました。このクラスはまとまりがよく、授業にも積極的に参加していたと思います。文法、語彙、発音を復習したうえで、コミュニケーション機能を深めたと思います。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語VI[FS]2  
授業コード 11D06-002  
教員名 千葉 裕太  
教員コード 104531  
登録人数 30  
回答数 25  
回答率 83.3%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

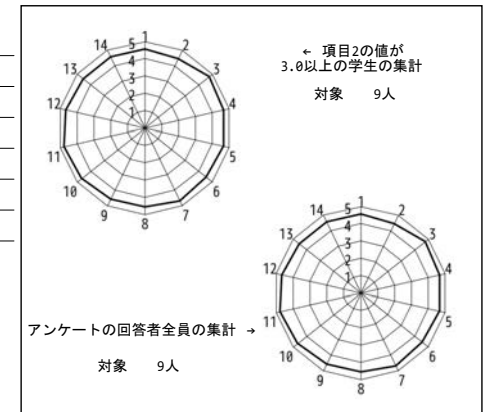


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
> 到達目標はおおむね達成できたと言える。しかし、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザを罹患したことなどによる欠席が続いた学生については到達目標に至らなかった者もあり、欠席時のフォローが課題として残った。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。  
> 数値の平均はおよそ4.5程度であり、総合的に見て十分に意義のある授業運営ができていたと言える。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など  
> 感染症によるためか、同時期に複数の学生が欠席したことにより、学生同士で互いに教え合ったり学び合ったりということができないケースがあった。教員に直接質問をしてくれた学生がいたため授業内で振り返りを行い再度説明をすることができたが、今後は欠席者の多い回については時間の許す限り振り返り授業を行ったり、説明資料や課題を用意するなどして対応したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中級スペイン語IIB2  
授業コード 32A12-002  
教員名 VILLALOBOS Antelma  
教員コード 101011  
登録人数 21  
回答数 9  
回答率 42.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

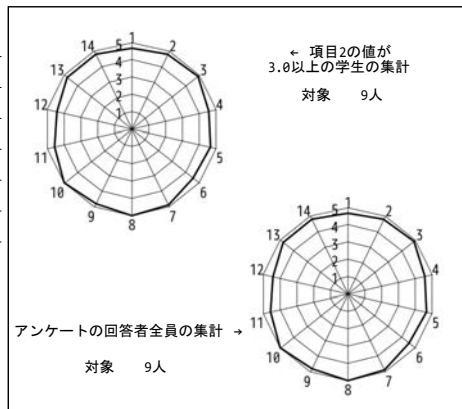


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course has gotten a high evaluation from the students in all the items. Moreover, as usual, the students' comments were all very positive indicating that the general objectives of this course were well fulfilled. The biggest proportion of the students seems to be well satisfied with the kind of techniques used during the course classes and the way the professor behaved during the semester. As a general evaluation of the course, I should stress that the most important point is the fact that I should continue my teaching with the standard and new methods I have developed and used until now and looking for improvements, according to the students' reactions to the contents and the teaching methods. In other words, I should respond to the good evaluation of the students by trying to find more ways to let them obtain a better and more effective learning experience every class of the year. Getting the students enthusiasm for the Spanish language was the clue for the exit of the course.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中級スペイン語IIB3
授業コード	32A12-003
教員名	HOPKINS Mariella
教員コード	103653
登録人数	22
回答数	9
回答率	40.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

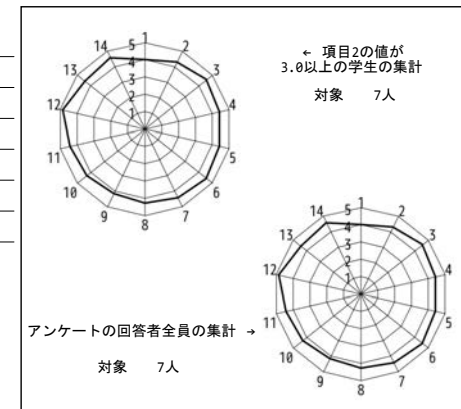
1) The objectives and goals of this course were achieved according to the syllabus. Homework was completed after class, with final papers after the completion of each unit and with the final exam according to the provisions of the indicated syllabus. It is important to note that this group comes from a hybrid year 2021 with online and face-to-face lessons and has been able to fully adapt to face-to-face classes this 2022.

(2) According to the general result of the survey, we can affirm that we are developing the classes adequately and accurately. And we must place greater emphasis so that in each class we have adequate feedback from the students, thus achieving the proper understanding of the activities we carry out in class. We will continue to insist on the development of the acquisition of new skills and knowledge of the language we are studying.

(3) For the following quarters, in relation to strategies and improvements in the course, our main objective and goal will be to provide a space in class so that students can ask questions, resolve doubts, give adequate guidance according to their needs and levels with the so that they can have a proactive participation in class and we can see improvements in their learning process.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語III<全>1
授業コード	11F03-027
教員名	李 香善
教員コード	103871
登録人数	39
回答数	7
回答率	17.9%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

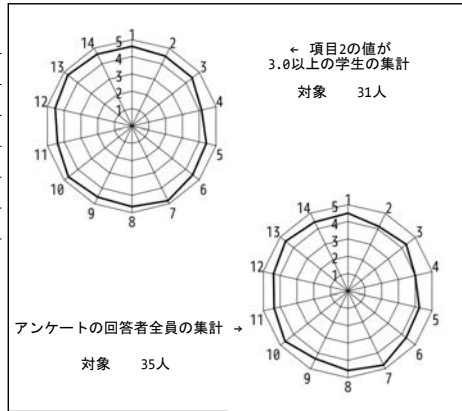


授業評価結果を踏まえた点検・評価

履修生のほとんどが中国語の基本文法を理解し、ピンインを正確に読めるようになった。  
 毎回各受講生に必ず1、2回発音してもらおう機会を設け、発音チェックを行ったことは良かったと思う。  
 各課の学習を終了後、練習問題を作成し、プリント配布して、文法や単語確認を行ったのも大変良かったと思う。  
 今後の改善点としては、受講生がもっと日常会話ができるように工夫して行きたいと思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語III<G>
授業コード	11F03-031
教員名	中野 麻里子
教員コード	102125
登録人数	41
回答数	35
回答率	85.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

コロナ禍ということもあり、予定していた進捗よりは少し遅れてしまった。学生たちは遅れを慌てて取り戻すより、じっくり学びたいようだということを今回のアンケートで知ることができた。進捗は少し遅れてしまったが、重要なポイントはしっかりと学習でき、目標はおおむね達成できた。

学生たちの学習意欲もあるため、会話練習なども取り入れてスムーズに授業ができており、それがより学習効果を高めていると思われる。

学生たちの意見に耳を傾け、学生たちのやる気を継続してもらえよう授業を心掛けたい。第1クォーターからの継続の授業なので、期が進むにつれて内容も難しくなってくる。そのためついてこれない学生もいるように感じる。最後の第4クォーターまで、なんとか頑張ってくれることを期待する。そのために、板書を写す時間をより取ったり、重要なポイントを繰り返し言うなどの改善をしたいと思っている。試験問題が難しいという声があることは承知しているが、毎回平均点は70点を超えるので、試験問題の難易度はこのまま学生たちのためにも継続したい。ただ学生たちにもそれぞれのペースがあると思うので、ひとりひとりのがんばり具合も認めていけるような評価をしたいと考える。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語作文B
授業コード	35C11-001
教員名	陳 志平
教員コード	049346
登録人数	4
回答数	3
回答率	75.0%
休講回数	1 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

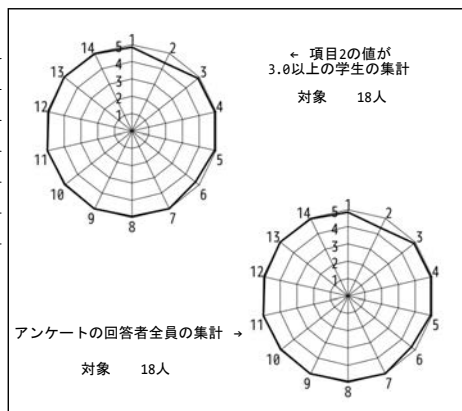
今回の「授業評価集計」は少人数クラスのため、詳細なデータやレーダーチャートは記載されていないが、自分で中身を点検して、設問3（授業時間）や設問12「質問・相談／事前・事後指導」などは5.00、設問9「理解度」4.66、設問14（満足度）4.33並びに自由記述を見た限りでは、開講当初の目標は概ね達成されたと思われる。学生から「先生が学生の書いた作文を添削して、文法の間違いを細かく修正して、返却してくれた。」、「先生が一人一人にしっかりと意見を聞いてくれたので、緊張感をもって考えながら聞くことができました。」と言ったようなコメントを頂いた。

今学期は珍しく10人未満のクラスとなり、またQ1の「中国語作文A」に引き続き受講生の中国語レベル差が大き過ぎるので、Q1同様に課題選びや質問・相談を含めた事後指導などに細心の注意を払うよう心掛けた。来学期以降も、受講生のレベルのバラツキ問題に対して上手く対処し、できるだけ多くの学生に満足してもらえることを課題とし、授業改善の努力を重ねて参りたいと考えている。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東アジア特殊研究  
 授業コード 35C18-001  
 教員名 虞 萍  
 教員コード 101432  
 登録人数 30  
 回答数 18  
 回答率 60.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

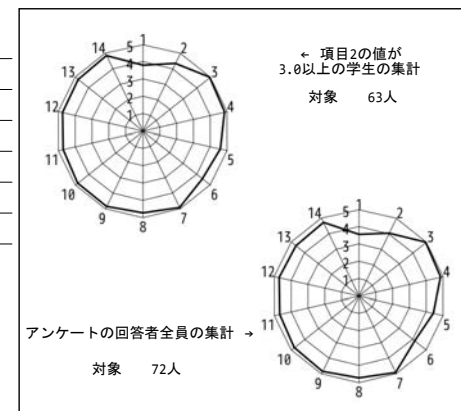
長年御校で教鞭を執っていて、今回の授業評価集計結果は一番喜ばしいです。設問7番（担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか。）・9番（教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。）・11番（学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。）・13番（この授業を通して、新しい知識<あるいは、技術や能力>を得たり、理解が深まったと感じますか。）がすべて満点5.00点になっており、項目3から14の平均値は4.94まで上っています。

これらの数値から考えると、今期も学生から高い評価を得ることができて、開講当初の目標にほぼ到着したと言えよう。設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に対して、「先生が非常に真剣に教えてくださった点。具体的な例や、中国の方だからこそわかる考え方や感覚がわかり、興味深かった。」「普段の授業では知ることの出来ない、中国の常識を知ることが出来、面白かった。」「教科書から学ぶだけでなく、実際に中国で撮られたドキュメンタリー動画も授業内で見せてもらったので、実際の中国の様子を見たことで、中国への関心が増した」など多くのコメントをいただきました。

今後も学生の自主学習能力や自発的な勉強意欲を最大限に引き出せるような指導方法を模索したいと考えています。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 キリスト教概論[H・F]3  
 授業コード 10A51-004  
 教員名 暮林 響  
 教員コード 102624  
 登録人数 150  
 回答数 72  
 回答率 48.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回

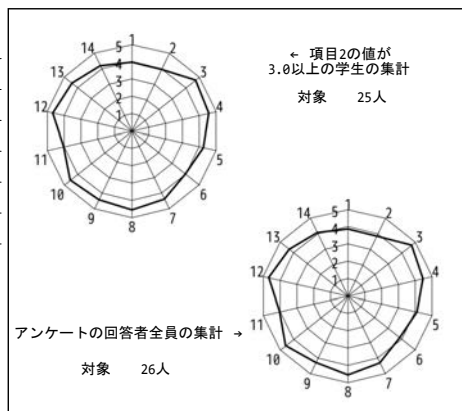


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開港当初に設定した目標には十分に到達できたと思われます。特に、リアクションペーパーでの回答にも、しっかり学生たちの関心が示されていたのがうれしい点です。
- ② 音量については、授業中にも聞こえるか確認してから行っていたはずなので、リアクションやチャットにも書いてくれればよかったのに、最後のこの時点で音が小さかった、と言われるのは不本意です。そもそも論のキリスト教概論を必修にすることに対する異論に関しては、最初の授業でどのようにそれをとらえるかを説明しているので、それに不満があるなら、なぜ南山大学を選んだのか、と誤ってしまいます。総合的には、パワーポイントを補助として、講義内容に関心を持ちながら、集中して参加してくれていると思えました。
- ③ 理解度を授業中に確認する時間に関しては、大教室の授業では自分ではやりきれないので、リアクションペーパーでそれを確認していたつもりです。そのことについては、リアクションペーパーで明記してもらいたかったですが、改めて、リアクションペーパーを利用するように伝えたいとおみます。パワーポイントの転換が早すぎるというコメントが一つありましたが、レジュメと併用してくれればそんなに早くないはずなので、以後、レジュメを片手に、ということは明示しようと思います。レジュメのアップロードは、他の仕事との兼ね合いでとても時間に追われていて大変なので、理解してほしいです。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 思想史に学ぶ人間の尊厳1  
 授業コード 10D03-001  
 教員名 浦 英雄  
 教員コード 101166  
 登録人数 66  
 回答数 26  
 回答率 39.4%  
 休講回数 1 回  
 補講回数 0 回

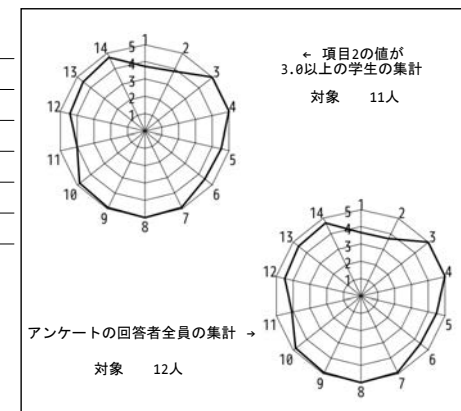


授業評価結果を踏まえた点検・評価

奇麗事しか知らない坊ちゃん嬢ちゃん方には、私の使う言葉は刺激が強すぎるようで、学生たちを大人と思ってはいけなと身にしみた。龐大な文献に目を通し、真偽を判別した上で、正しいと思われる事実を話しているのに、「精査を要することなのに断言口調」だとは、増上慢にも程がある。少しは本を読んだらどうだと言いたい。当たりさわりのない口調で語り、よく調べもしないメディアの言うことは、疑いもせず信じ、安穩に暮らしている学生にとっては、私は哲学者ソクラテスだったようで、それこそ本望というもので、講義の目標は達成出来た。今後とも、私の授業スタイルを変えるつもりはない。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳3  
 授業コード 10D06-003  
 教員名 大橋 真砂子  
 教員コード 100233  
 登録人数 28  
 回答数 12  
 回答率 42.9%  
 休講回数 2 回  
 補講回数 0 回

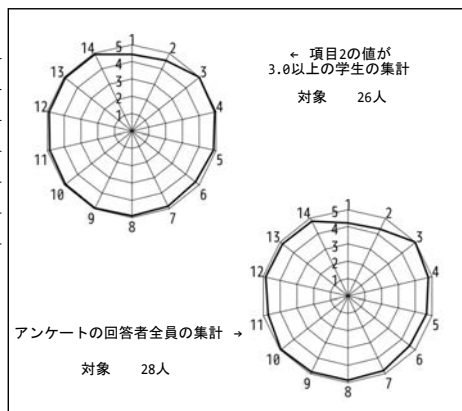


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この科目は、古代から近現代にかけてのヨーロッパの歴史をおおまかにたどりながら、生命や病、死などにまつわる様々な状況を史実としてとらえ、そのなかから現代における「人間の尊厳」とは何であるかを探ることをテーマとしている。今年度の第3クォーターは台風の影響で授業が2回少なくなかつ補講がなかったために、当初予定していた近現代に関する内容は十分扱えなかったが、それ以外に関してはシラバスの内容について紹介することができ、目標をおおむね達成できたと考えている。学生の自由記述には「説明がわかりやすい」等の好意的な評価も見られた。ただし、パワーポイントの文字が小さいという指摘もあった。教室内であれば前の方に座ればそうしたは問題ないと思われるので、このような指摘は、授業を欠席した学生のためにWebClassにアップしたパワーポイントについての指摘だったかもしれない。これらの指摘を参考にして、次年度においてはパワーポイントのフォントを大きめにするなど、学生がより見やすくわかりやすい教材づくりを心がけたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳5  
授業コード 10D06-005  
教員名 三谷 竜彦  
教員コード 102441  
登録人数 67  
回答数 28  
回答率 41.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

② 受講生数は67名で、回答者数は28名（回答率42%）でした。回答率はやや低いですが、設問3～14の平均値は4.81で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.60）を上回りました。いつも個人的に最も重要視している設問13（「...新しい知識...」）および設問14（「全体として...」）の数字は、4.82および4.79で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.53および4.53）を上回りました。これらのことから、① 開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって③ 今後大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していった方がいいのだらうと思っています。もちろん細かい点での改善など（具体的には配布資料・プレゼン資料の内容面・形式面のいっそうの充実化や、発声のいっそうの明瞭化など）には、今後もたえず取り組んでいきたいと思っています。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 美術A1  
授業コード 12A05-001  
教員名 池田 洋子  
教員コード 044362  
登録人数 8  
回答数 3  
回答率 37.5%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回

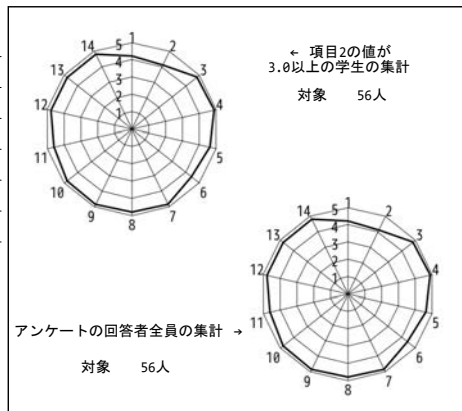
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

絵画の見方を学習し、個々の作品を理解すると同時に、日本の美術の史的展開を認識できるようにする。  
当初、授業の内容について興味を持っている学生が少なかったが、講義を通して作品を見る要点が理解できたとあり、まずは作品の見方が理解できている。作品の細かい表現方法・描法・意味するところが学べた。表面的な部分だけでなく深い部分まで知ることができた。時代の変容と資料との関連を常に説明してもらえた。と言っていることから、史的な展開や当時の思想や状況も理解できたと考えられる。  
この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じている様子が分かった。  
総合的な自己点検・評価  
この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じる学生が多かった。  
改善点、今後の抱負、方針  
もっと楽しく講義が受けられるように 今後改善したい。  
実際の作品を見に行きたいという学生がいた。講義で離れた作品の実物を見ることが重要であり、今後もこういう学生が増えることを期待したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 音楽A2  
授業コード 12A07-002  
教員名 吉田 文  
教員コード 102447  
登録人数 84  
回答数 56  
回答率 66.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

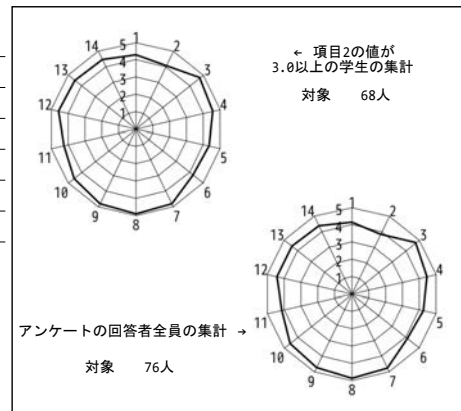


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。  
学生の個人差は多様にあると考えるが、おおむね到達できたと思う。  
ミサ曲をただ紹介するだけではなく、作品の成立背景や歴史的背景、他ジャンルの美術等との関連性及び学生が日常生活で無意識にこれらの音楽と接している場面を解説することにより、それぞれの作品に関する理解度は深まったと考える。  
作品としてのミサ曲だけではなく、実際に儀式として行われているミサを紹介しながら講義を進めたり、作曲家について紹介することにより、宗教音楽と精神文化の関連性について理解が深まっているという目標に到達できたと思う。  
学生の評価では「授業到達目標の理解度」及び「授業の到達目標に向けて力がついてきているか」の設問で比較的低い値が出ているが、毎回行ったミニテストや期末レポートを参照する限り、当初設定していた到達目標には充分到達している力がついていることが判る。今後とも到達目標をさらに明確に提示し、学生に自信を持たせる声掛けを心がけたい。
- ② 学生がいかに関心を持って授業に伝え、学生の興味を促し、主体的な学びへとつなげることができるか工夫をした。  
一般教養科目であり、多くの学生が受講していることから、全ての学生が興味を持った上で受講することは前提とできない環境で、予想以上に多くの学生が肯定的に授業を受け止め、主体的に参加し、興味を持って学んでいたことが読み取れた。
- ③ 今期の授業内容は来年度の内容の基礎とできることが判明した。毎回学生が記入する振り返り用紙からも自己点検を行い、より充実した内容の講義となるよう努力したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 音楽B2  
授業コード 12A08-002  
教員名 小沢 優子  
教員コード 101168  
登録人数 127  
回答数 76  
回答率 59.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

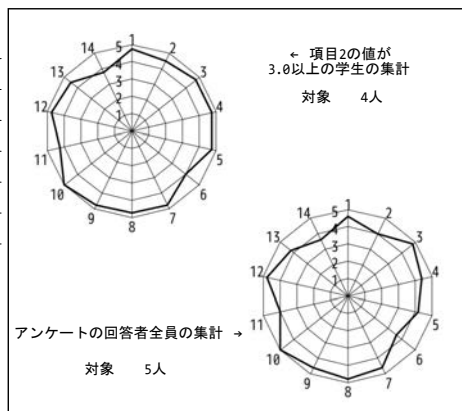


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1～14の平均が4.42、項目3～14の平均が4.49。また、設問13（理解の深まり）が4.41、設問14（授業の満足度）が4.36。今までのアンケートに比べると数値が上がっており、評価が少し高まっているのではないかと思います。その反面、設問5、設問11の数値はほかの項目より低く、授業の到達目標に向けての力がついてきたという実感が得られにくいということ、積極的で自主的な学習の促しが足りないということがうかがえる。受動的で一方的な授業にならないような工夫を今後も重ねていかなければならない。久しぶりの対面授業だったためか、自由記述には実際のピアノの音やさまざまな音楽を聴いたこと、幅広いジャンルの音楽に触れることができたこと、などが良かった点として多く挙げられていた。「わかりやすく退屈でなかった」「楽しめた」という記述もあり、3つの視点から音楽を把握しようというこの授業の内容に興味を持ちながら受講してくれていたのではないかと思います。授業の進行のスピードについては、今期は通常よりも幾分スピードを緩めたので、「もう少し早くてもよかった」、「もう少しサクサク進めても生徒はついていけると思う」という指摘があったが、一方で「進行速度がとてもよかった」「適切だった」という逆の意見もあり、バランスの取り方の難しさを感じている。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本史B1  
授業コード 12B04-001  
教員名 関口 哲矢  
教員コード 103639  
登録人数 17  
回答数 5  
回答率 29.4%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義で学生に身につけてもらいたい目標はつぎの通りである。この実現度を期末レポート（60%）で確認し、講義での平常点（40%）とあわせて100%の評価対象としている。

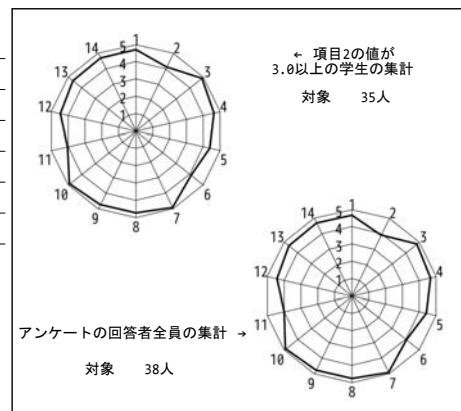
- ・史料をもとに、基本的な史実を理解することができるようになる。
- ・歴史的な事柄を、文章だけではなく図や表なども使用して自分の言葉で説明できるようになる。
- ・複数の歴史的な事柄を相互に関連づけて考えることができるようになる。
- ・歴史的な事柄を現代の問題として考えることができるようになる。

アンケートは概ね好意的なものであった。使用資料の充実度、話しあいや討論の実施（発話を伴わないもの）などに対して高く評価してもらえたと思う。学生からの質問に丁寧に応じる行為も教員として留意していることである。特に話しあいや討論は、学生の理解度や表現力、思考力を鍛えるうえで有効な手段であったと認めてもらったのではないかと。アンケートの中には、講義中の質問は直接当てて答えさせてもよいのではないかとというものがあった。学生の自主性を重んじているため、慎重に検討していきたい。

次年度の講義は、できれば発話を伴う話しあいや討論を実施していきたい。そのほかは今年度を踏襲した講義を行っていこうと考えている。つまり質問への対応、丁寧な説明、学生とのやりとりの充実などである。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 西洋史B  
授業コード 12B08-001  
教員名 岡地 稔  
教員コード 015206  
登録人数 88  
回答数 38  
回答率 43.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

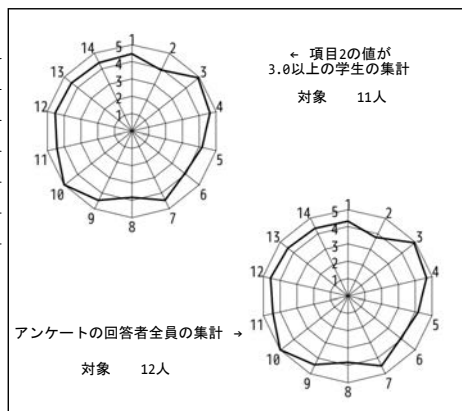


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は全学部学年向けの共通教育科目である。授業全体では、設問3～14の平均値が4.59で、まずは及第点と思われる。開講当初の到達目標は「中世ヨーロッパにおける政治・社会・経済のありようを理解することをおして、歴史的社会的の一つとしての中世ヨーロッパを理解できるようになる」であるが、到達目標に関連する設問5・6が4.42、4.05、またその到達度に関連する同13が4.63であり、当初の目標はほぼ達成できたと思われる。授業の良かった点、評価できることを問う自由記述は、例年以上に多く、また長文が目立った。二三そのまま記すと「高校で学んだ世界史の知識をあまり覚えておらず、受講前は授業についていけないか心配だったものの、毎回テーマが明確に決まっておき、用語を詰め込むような授業ではなかったため話が分かりやすかった。話題から脱線したこまやかな話も、世界史を一度勉強していると楽しく聞くことができた。世界史を学んでいない人でも、各テーマの大事な点は繰り返し伝えられるので、話が分からないという事態にはならないと思った」「論の筋道を分かりやすく示してくださり、授業内容をよく理解できました。高校で世界史Bを履修していなくても理解できるような丁寧な説明をしてくださいました。また、毎授業後に私の不躱な質問にも嫌な顔をせず丁寧に御回答くださり大変感謝しています」「先生の豊富な知識を活用した講義が一番の特徴だと思います。高校時代に日本史や地理選択だった人にも分かりやすく授業を進めており、授業後の質問タイムもしっかり設け丁寧に対応していらっしゃいます。資料やこぼれ話(コラム)も興味深い話題がいくつかありました」「大学生になってやっと勉強したい興味のある授業を受けることができました。とても楽しかったです。レジュメがとても分かりやすく、参考資料が多くて先生の話が理解しやすかったです」等々、望外の評価を得た。最後に、教員の取り組み姿勢の誠実さ真剣さを問う設問7の評価が4.92であった。こちらこそ、感謝です。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法学A1  
授業コード 12C01-001  
教員名 長尾 良子  
教員コード 102081  
登録人数 22  
回答数 12  
回答率 54.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

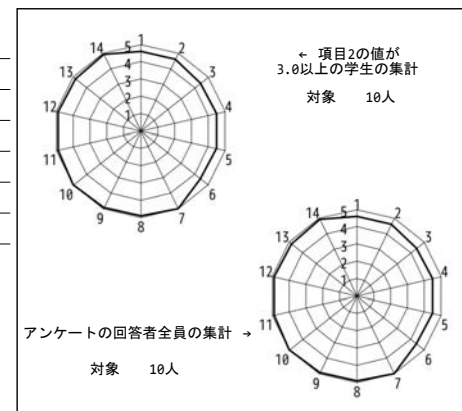
2022年度のQ3の「法学」は、ウィズコロナで陽性の学生が欠席する中での対面授業となりました。「法学」の授業は共通教育科目で、法の基本構造、裁判の仕組み、民法・刑法の基本を理解するという授業目標はおおむね達成されたと思われます。

授業評価の設問項目2、6～9の平均は各種集計値の平均をやや下まわり、それ以外の設問項目の平均は各種集計値を上まわりました。設問項目15の自由記述回答では、良かった点として、教科書に則した説明(2名)、グループ・ディスカッション(2名)、法廷教室での模擬裁判員裁判(2名)、レジュメ、関連サイトの紹介、授業ペース、新しい知識の獲得(各1名)など計8名(/12名中)の回答がありました。他方設問項目16の改善点としては、パワーポイントのスライド(2名)、学生の理解度(1名)、教員の声(1名)に関する指摘がありました(計3名)。到達目標の明示や学生の理解度への配慮、音声など改善できる点については改善していきたいと思えます。

コロナ禍3年を経ての試行錯誤は進行中ですが、今後も学生の様々なニーズ・要望を前提に「法学」の授業全体の満足度と理解度を高める工夫と努力を、一つ一つの改善を重ねて続けていきたいと考えます。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 政治学B1  
授業コード 12C05-001  
教員名 大園 誠  
教員コード 102910  
登録人数 24  
回答数 10  
回答率 41.7%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

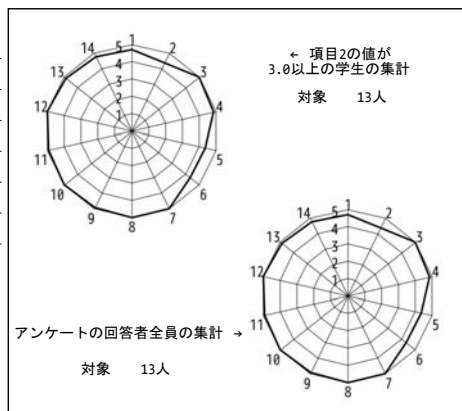


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①：この授業の主なテーマは「戦後日本政治史」である。第二次世界大戦後の1945年から現在までを対象とすることで毎年確実に1年ずつ内容が増加していくため、15回という限られた講義の中でその全過程を扱うことが年々厳しくなりつつあるが、当面はこの方針を継続したい。②：全項目の平均値は4.74であり、同内容の昨年度後期よりも+0.2であった。おおむね肯定的評価が得られた。自由記述では、良かった点として「授業冒頭の質問コーナー」「推薦図書を紹介」「動画の活用」「話の面白さ」「話すスピード」「説明の分かりやすさ」が挙げられた。一方、改善したほうがよい点として「はじめの振り返りの時間は質問がある場合にはその質問に答えるという形でも良いとも思った。もっと本題を長めにやって欲しい」「マーカーが薄くて読みにくい」との指摘があった。毎回「コメント用紙」を提出してもらい、そこに書かれた質問などには出来る限りすべて応答したいと考えているが、受講人数によっては限定せざるを得ない場合も出てくるかもしれない。コメントへの応答は今後も継続する予定だが、そこに割く時間帯については再考したい。③：来年度はいよいよ1945年から2023年までの「78年」の歴史過程を扱うことになる。長期間にわたる「政治史」をどのように取り上げるかについては、今後もさらなる工夫を試みていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 物理学B  
授業コード 12D02-001  
教員名 本村 扇仁  
教員コード 102685  
登録人数 17  
回答数 13  
回答率 76.5%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

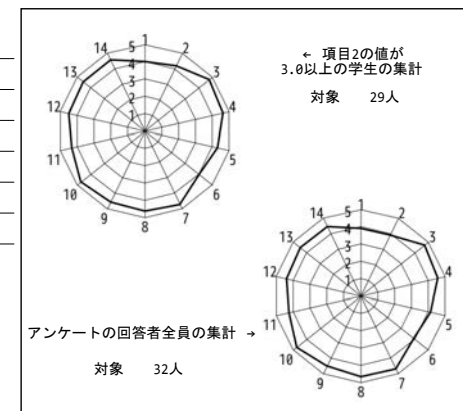


授業評価結果を踏まえた点検・評価

説問14の数値から、全体としては授業目標に近づくことができたものと考えられる。シラバスに「高校で物理を履修している必要はない。初めて履修するものとして授業を行う。」としたことから、授業で取り上げた物理学の知識については初歩から紹介し学習する場面を多くとった。このような展開について、説問4、9の数値から、概ね成功であったと考えられる。関連して、映像資料については、実感を伴った理解につながるという点から要所で取り入れる展開を今後も継続したいと考える。さらに、今年度は学期を通じて対面式の授業を行うことができ、教室内で簡単な演示実験を行ったが、こちらも今後も継続したいと考える。「理解しやすかった」という趣旨のコメントがあった一方、「理由をじっくり聞きたい。」という趣旨のコメントがあり、不明な点や疑問点は理解をより深める大切な機会と考えられるので、質問を授業内外でしやすくするという点に留意し工夫したい。また興味があった点についてどのように学習を深められるかをより明確にするという点に関しては、参考文献の紹介、資料の提示などに常に工夫を加えていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学B1  
授業コード 12D07-001  
教員名 藤波 初木  
教員コード 102077  
登録人数 146  
回答数 32  
回答率 21.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

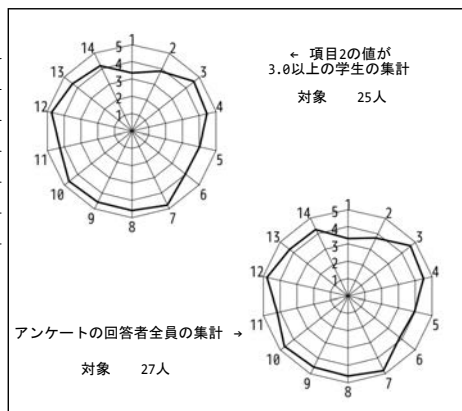


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の授業は2019年以来の対面授業となった。また、1コマ100分授業に変更後の初めての対面授業でもあった。開講当初に設定していた授業目標はほぼ達成したと考えている。部屋の設備がコロナ禍以前よりも改善されており、非常に授業がしやすかった。学生評価では、この授業全般に対し良好な評価を得た。アンケートの任意解答でも「授業資料がわかりやすく、丁寧な説明で理解がしやすい」との回答を多く得た。教養科目の自主的な予習・復習は難しいと思われるが、授業の中で復習ができるように工夫した。授業資料はなるべく難しい数式を使わず、理系の専門用語の使用も最小限に止め、身近な気象現象から地球規模の環境問題の成因をできるだけ論理的に追いかけるように努力した。授業が行われる週に観測された天気の変化や異常気象などに関する説明を、動画や天気図などを用いて解説し、授業の内容がどのように気象・気候の理解に結びつくのかがわかるように資料を作成した。また、私のフィールド(海外)の観測風景などの映像も増やし、研究者が何を行っているか等も授業内容に関連づけて話題提供した。これらの点は自由形式のアンケート結果から好評であった。一方、100分間の授業なので、途中で休憩を入れて欲しいとの要望があった。また、部屋が寒いとの指摘もあった。大きい階段教室でのコロナ対応での換気とエアコンによる温度調整の両立はなかなか難しいと感じた。授業時間の使い方と部屋の環境は、次年度の授業時に改善したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学B3  
授業コード 12D07-003  
教員名 古澤 文江  
教員コード 103906  
登録人数 41  
回答数 27  
回答率 65.9%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

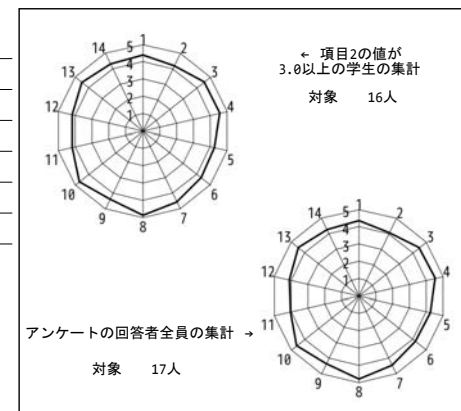


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 1つ目「熱や放射の基礎物理の習得」については、たくさんの質問に授業で答えることで、繰返し学習することになり、理解につながっていると考える。2つ目「応用例の理解」の目標は、測器を理解した上で、その観測によって得られた表や図のデータを読み取ることで、そこにある物理や自然現象を理解できたと思う。3つ目の「身の回りの現象について物理的に考察する能力を養う」という目標については、身の回りの現象や先端科学・技術に対し、自ら疑問を持ち、多くの質問をすることができたので、達成しつつあると考える。今後この姿勢を続けて欲しい。
- ② 今回は対面授業を行ったので、リアクションペーパーを配り、授業後回収し、その後の授業でそれに丁寧に答えていくことで、学生との双方向のコミュニケーションが取れたと考える。学生達が、たくさんの意見や質問をしてくれたので、とても楽しく、良かったと思う。これらが、14番の「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。」という設問の4.26という前より高い数値につながったと考えられる。また、自由記述も非常に好意的であり、学生に恵まれたと考える。しかし、受講者が少なくなっていることは問題であろう。
- ③ 引き続き、学生達とのコミュニケーションを心掛け、臨機応変に対応していきたい。授業時間の延長は極力なくせたので、次回も終了時間を守っていく。一方、課題が多く、内容が難しいという事から、受講者が減少する傾向にあると考える。次回は課題を減らしてみる予定である。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理学A1  
授業コード 12E03-001  
教員名 小澤 良  
教員コード 103091  
登録人数 26  
回答数 17  
回答率 65.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回



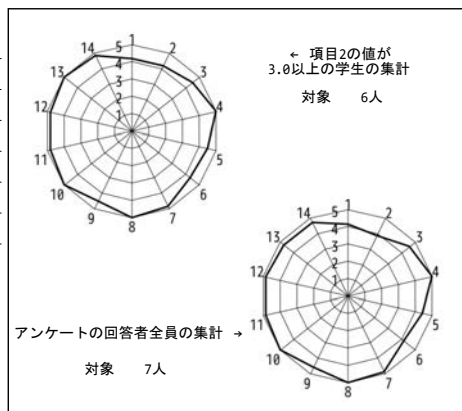
授業評価結果を踏まえた点検・評価

毎回、小テストを行なったが、極端に正答率は低い問題もあった。それが、学習到達目標に対する相対的に低い自己評価につながったかもしれない。次回講義時間に詳細な解説を加えたため、それを聞き間違いを修正すればこの点は問題ないと考えられる。また、最終課題の成績は十分に高く、最終的な達成度は実感以上に高いと考えられる。授業内容に関しては、おおむね好評であったが、項目番号2、11において評価が若干低かった。両者とも学生の自主的な学習に関する項目であり、事前・事後学習のための手掛かりを意識的に提示していく必要がある。また、評価できる点として、具体的な実験が多く説明されていたことが挙げられた。さらに新しい事例を加えることで、より内容を高めていきたい。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって1  
授業コード 13A04-001  
教員名 梶田 美香  
教員コード 103589  
登録人数 40  
回答数 7  
回答率 17.5%  
休講回数 4 回  
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 想定よりも高い到達度の履修者と、出席数の少なさから低い結果の履修者とで二分されたように感じている。出席に対して意識の薄い履修者も少なからずいたことが気になった。反面、欠席やもちろん遅刻もなく、フィードバックシートへの記入も十分な熱意の履修者もいるので、目標に対する到達度にどのような評価を出して良いのか迷った。
- ② 生演奏を聴く機会を設けることに強い思いがあったので、自由回答でその点に触れられた内容が多かったことは、授業者として喜ばしいと感じている。また、長久手市文化の家の自主事業として実施できたことは、長久手市に対しても感謝に絶えない。長久手市文化の家が名古屋市内の大学へのアウトリーチを実施するということが、長久手市にとって有益であると解釈されたことで実現した機会だったので、実体験として履修者が文化政策を身近に感じる機会にもなったことは有意義だった。
- ③ 今年度で離職し、次年度は担当者が変わるので、これまでに感じていたことを伝えた。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命と法律問題2  
授業コード 13C02-002  
教員名 三枝 有  
教員コード 100468  
登録人数 25  
回答数 3  
回答率 12.0%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回

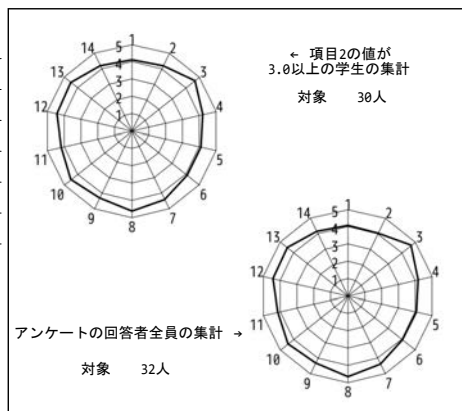
レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

受講者数が少なかったこともあり、講義内で直接ご意見を頂いたりして大変参考になりました。全体的には目標を達成できたのではないかという意識ではありますが、自由意見で頂いたように、リアクションペーパーの回収についても少し時間的余裕を取れるように配慮します。また、ご意見をうかがう際に参考的意見がないと意見を出しにくいとの以前のご指摘を受けて、今回の講義では、私の意見を参考的に先に出してきたのですが、この例示的見解がかえってプレッシャーになっているとは気づきませんでした。今後、参考意見をどのように先出ししたらよいか内容も含めて再検討させていただきます。かなり深堀の課題を扱い大変であったとは思いますが、最後まで履修していただきありがとうございました。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相7  
授業コード 13C04-007  
教員名 松野 正太郎  
教員コード 104285  
登録人数 117  
回答数 32  
回答率 27.4%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

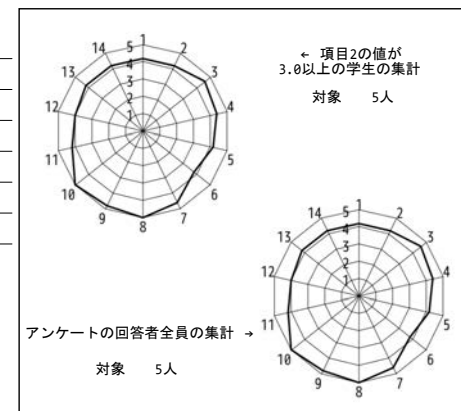


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は今年度で3年目の開講であるが、対面形式にて実施するのは初めてとなった。  
開講当初に設定した、持続可能な社会の実現に向けた、特にSDGsの推進にむけた知見め動向の理解と日常生活における行動の実践ができるようになるという点について、できるだけ多くの具体例を用いたこと、また、SDGsに関する取組についてDVDを活用したことが学生の理解を促進したと考えられ、講義全体としては目標を達成できたと考えられる。  
個別には、毎回学生に課したリアクションペーパーについて、次回の講義で優れたコメントは紹介し、質問には丁寧に回答したことから、事後的なフォローが十分に行うことができたと思われる。また、環境問題やSDGsのみならず、持続可能性に関して幅広く扱ったことから、学生の視野の拡大に寄与することができた。  
2コマ続きの長丁場であったので、50分毎くらいに小休憩をはさみ、集中力が途切れないように努めたことも学生からは好評であった。  
次年度は、やや講義の内容が多かったようにも感じられたので少し絞って深堀することも検討したい。講義の内容、方法については基本的に今年度のを踏襲する。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 人間と機械3  
授業コード 13E04-003  
教員名 大野 波矢登  
教員コード 100625  
登録人数 14  
回答数 5  
回答率 35.7%  
休講回数 2 回  
補講回数 0 回

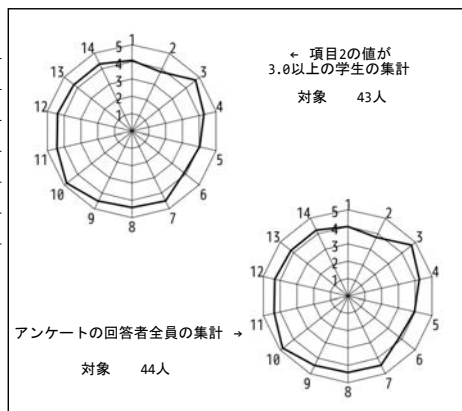


授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1)人工知能やロボットに関わる哲学・倫理学的問題を理解し、自らもそれらの問題について考え、討論できるようになることがこの講義の目標である。目標達成度は、アンケートの全項目の平均が4.39であったこと、小テストとレポートの合計点の平均が83.1点であったことから8割程度と思われる。  
(2)アンケートの結果については、設問6に対する回答の平均値が3.80であったことから、授業の到達目標に向けて自分に力がついてきているとの実感が得られなかったと学生が感じていたことが分かる。この結果の理由としては、授業時間内に2回実施した小テストに対するフィードバックが十分ではなかったことにあるのではないと思われる。  
(3)今後の改善点として、到達目標や受講の意義について丁寧に説明すること、そして、自分の目標達成度を各授業回において点検できる方法を工夫し実施することを心がけたいと思う。これまで授業時に授業内容に関係する問いを与え、自分の意見を200字程度で記述し、提出してもらってきた。今後は学生に与える問いを、理解度を確認するような問いに変え、学生の回答に対するフィードバックもできるかぎり丁寧に行うようにしたいと考えている。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 博物館学E  
授業コード 15M05-001  
教員名 可児 光生  
教員コード 102475  
登録人数 63  
回答数 44  
回答率 69.8%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

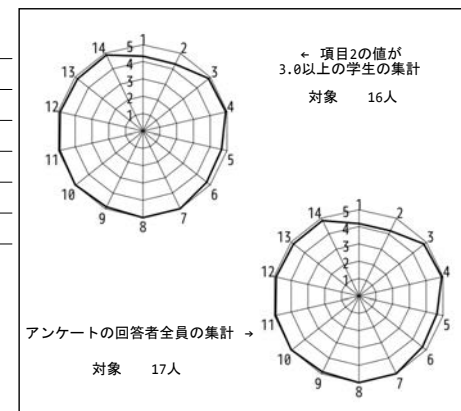


授業評価結果を踏まえた点検・評価

博物館学Eで扱う「博物館経営論」は現在の博物館の置かれている現状を知り、社会的存在意義など今後の課題について自発的に考える場でもある。設問11の「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」の評価点が4.36であったことは、授業に対する学生の一定の評価が得られたと思われる。授業の中で、実際に近くのミュージアムを訪ねる課題を出して、一方的な講義だけでなく主体的に問題意識を高めるきっかけを用意した。自由記述の中で「実際に地元の博物館に足を運んで自身の理解を深める機会が設けられていて良いと思った」「新聞などの資料を使っていたので、博物館に現在どのような問題があると思われるかが分かった」などという感想が寄せられたことはありがたい。自主的な学習がさらに促され、積極的な授業参加につながるよう今後も努力したい。また、配布資料の提供の内容や方法についてもさらに効果が上がるように考えていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報資源組織演習III  
授業コード 15P11-001  
教員名 小嶋 智美  
教員コード 104494  
登録人数 21  
回答数 17  
回答率 81.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

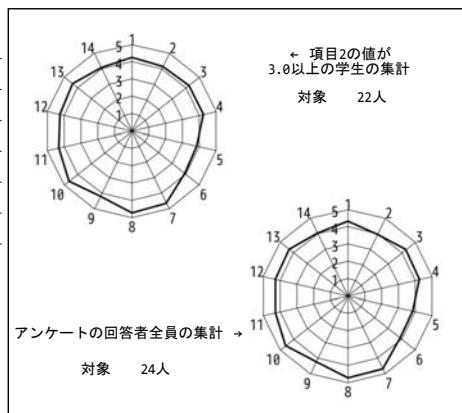


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標については、十分に到達していた。学生の評価については、全体および資格課程における平均値を上回っており、設問7・8・10の平均値が5.00（回答者全員が最高値をつけた）ということから、当方の対応に不足はなかったと考える。設問1・2については、他の設問よりも平均値が低くなっているが、回答者17名中1名による評価が平均値を下げていること、また、資格課程の演習であるという特性上、予習を不要とする授業の組み立てを意図的に行っていること、またその資格自体（司書資格を取得し図書館に務めたいと考えること）にあまり興味を持っていない者の受講もあり得ることから、特に問題はないと考える。なお、平均値を下げていた1名の評価は設問1・2を除くとほとんどが最高値であり、当人が自由記述に書いた内容も教員の学生に対する態度を高く評価するものであった。また、自由記述全体についても、要望は教室や機器についての内容のみで、教員に対する意見はすべて好意的なものであった。次クォーターでは、引き続き現在の授業内容や授業実施の質を維持することを心がけたい。また、来年度からは当授業の環境に適した、図書館内での実施ができることを期待している。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地誌概説
授業コード	22C07-001
教員名	佐藤 久美
教員コード	102924
登録人数	119
回答数	24
回答率	20.2%
休講回数	2 回
補講回数	0 回

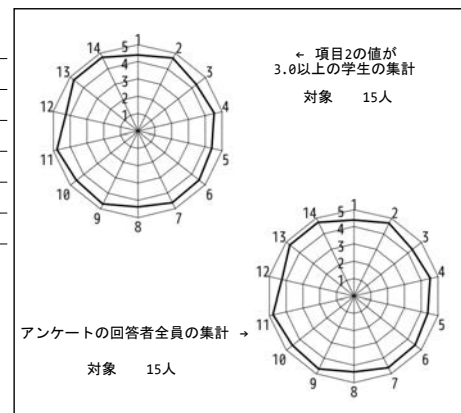


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 対面形式の授業を行うことが出来たので、学生の反応を確認しながら授業を行った。目標と到達の程度については、学生の関心度によってもかなり変わると思うが、手応えはあったと考えている。
- ② 授業に関連した映像などを適宜入れることが出来たので、より理解が深まったことが確認できた。  
また、自由記述に、雑談が楽しかった、というコメントがある一方で、雑談が多かった、というコメントもあったが、100分授業をニコマ行うときに、ずっと講義を行うのでは、学生も集中力が途切れると思ひ、授業に関連した体験を話した。これは、親近感を持ってもらうという効果があったと考える。(個人的に連絡してくれた学生も数人いた。)
- ③ 課題については、授業中にはっきりと明示したが、聞いていなかった学生にとっては、分かりにくかったかもしれない。ただし、聞いていれば理解できるはず、と次クォーターでは伝えたい。また、大教室での出欠席の取り方を工夫したい。出欠席だけで成績を決めるわけではないが、

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語III<E>・B>2
授業コード	11G03-008
教員名	白 明学
教員コード	103287
登録人数	32
回答数	15
回答率	46.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

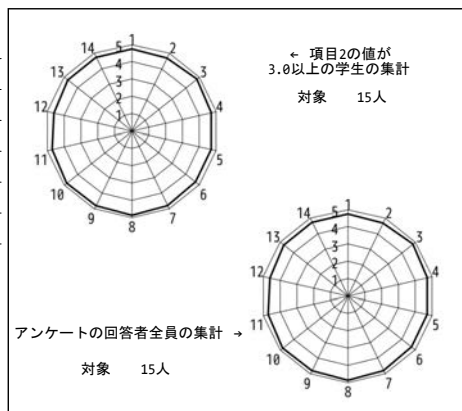


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 2022年度Q3の授業目標はおおむね達成でき、満足度も高いと言える。最初の授業の時に授業の目標値をきっちり示し、設定したスケジュールに合わせ、初級会話に必須の丁寧体、過去文、質問文、勧誘文の作り方および助詞の使い方をマスターした。授業全体と授業運営に関する設問の平均値が4.54で、ある程度学生の満足度もあると言える。
- Q3は前学期同様、学生参加型授業を一貫して実施し、授業時間内に学生を授業に集中させ、ある程度の緊張感を持たせる方法を取ったが、この点が効果を発揮したのではないと思われる。また、これだけは覚えてほしい語彙リストと文法内容を整理し、繰り返し、声に出しながら復習した。大学の授業とはいえ、語学の学習にリピートは必須だと思う。自由記述で「わかりやすかった」等と評価を得たところは、素直に嬉しかった。ただし、韓国語の場合は、文法構造が日本語と近似しており、学生の修得度も早い。何人かの学生から授業進度を速めてほしいとの声もあったので、授業難易度については再考の余地があると思う。
- また、多少授業内容がマンネリ化し集中力が衰えるとの声もある。学生の集中力と興味を維持させる工夫をしていかなければならない。来年度の課題である。授業運営の評価で比較的评价の低かった、「質問の時間等は十分もうけられましたか。」の設問についても、改善していきたいと思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国・朝鮮の言語と文化I
授業コード	35C01-001
教員名	金 由那
教員コード	101171
登録人数	40
回答数	15
回答率	37.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

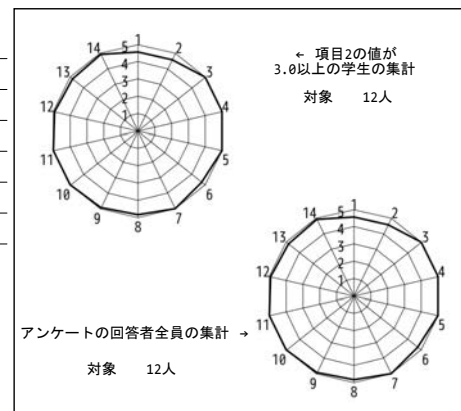
この授業では、バランスよく朝鮮・韓国語を学べるように、基礎文法の学習だけではなく、文化・風俗・歴史・社会事情など背景の知識を学習することにより朝鮮・韓国語世界の諸相を理解し、国際的視野の涵養を図る一歩とし、「韓国語に触れる」ことを目標に講義を展開した。

その結果、概ね授業の目標は達成できたと考えられる。自由記述欄に、「先生の積極性がすごくて、ついていきたいと思えた。」、「小テストが何回かあったので、きちんと復習することができ、力が付いているように感じた。」、「実際教室内で声に出すことで、発音が学びやすかったと感じました。」、「はやすぎないペースで進んでいくのがとてもありがたいです。」、「もともと韓国語は自分で勉強していたため、特に難しいと感じる内容はなかったが、とてもゆっくり丁寧に進めてくださったため、初学者でも分かりやすい授業だったのではないかと感じた。」、「先生が、韓国語を初めて勉強する人に対しても、とても分かりやすく説明してくれた点です。」

初めて学習する人にも楽しく学べるように工夫して授業を行ったことがいい評価を得たと思う。次学期以降の授業でも、今学期の授業方法を踏襲して、もっといい授業ができるように努力を続けていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国語科指導法C
授業コード	15B55-001
教員名	上野 裕章
教員コード	103859
登録人数	23
回答数	12
回答率	52.2%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

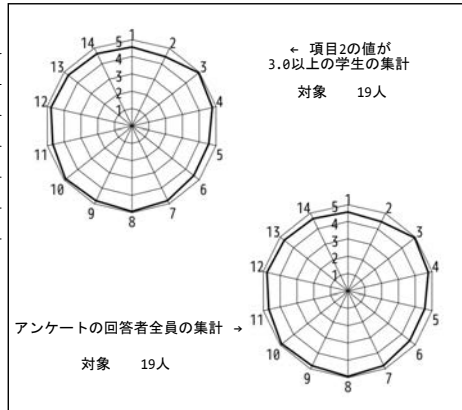


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 到達目標を次のように設定した。1 中学校学習指導要領の目標、内容、全体構造を理解している。2 国語教育の現状と工夫改善の取組を理解している。3 上記1, 2を踏まえ、授業実践の基本を身に付けている。学生の評価を見ると、ほぼ目標に到達できたと考える。
- ② 学生の評価項目3から14の平均評価は4.93であった。最も評価の低い項目が6「授業の到達目標に向けて力が付いてきていると思うか」の4.75であった。13「新しい知識を得たり、理解が深まったと感じますか」の4.83とともに、教師の自己満足で終わらないように5.0の評価を得られるように努めたい。
- ③ 次年度に向けて、学校現場の教員であるという利点を活用し、国語科教育の現状をできる限り学生に伝えていきたい。教師の喜びや楽しみだけでなく、苦労や辛さも伝え、将来、自信に満ちあふれた教師として教壇に立っていただけるよう取り組んでいきたい。そのために、毎時間提出していただいている「フィードバックシート」に書いていただいたことへフィードバックや質疑応答も丁寧に行っていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語科指導法B  
授業コード 15B58-001  
教員名 浅野 享三  
教員コード 070912  
登録人数 20  
回答数 19  
回答率 95.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

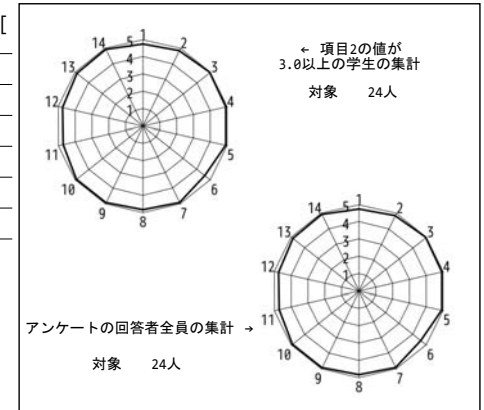


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 毎回の学生授業振り返り、および今回の自由記述を踏まえて記述すると、開講当初の目標は概ね達成できた。未達成と思われるのは、学生によるより積極的な授業への関わりを通して課題発見・解決するという部分である。この部分は評価項目に加えていなかったことが原因かもしれない。しかし評価されないことには取り組まないとすると、この未達成分野を達成するという事は、今後とも不可能かも知れない。
- ② 今回の学生評価は、資格科目全体の「項目3から14」の平均値を超えて高かったため、その限りでは「平均以上」の資格関連科目授業だったといえよう。今回のクラスはなぜが自由記述がわずかのために、それをもって全体を押し量るのは不適切であろう。
- ③ 今後の抱負としては、教職科目カリキュラム編成の改変を進めて頂きたくお願いする一方で、現行のままでできることを引き続き継続したい。南山の特色を活かした教科教育指導法がしてみたい。来年度の授業が楽しみである。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIオーラルコミュニケーション[P]2  
授業コード 11A03-021  
教員名 岩城 奈巳  
教員コード 049601  
登録人数 27  
回答数 24  
回答率 88.9%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

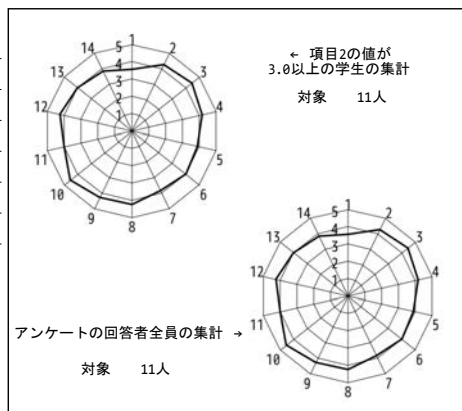


授業評価結果を踏まえた点検・評価

アンケートは各項目とも平均以上の点数であり、特に設問14は4.92と高い評価であったため、総合的に満足のいく授業内容だったと感じる。毎回、教科書のテーマ紹介とその授業内での目標、そして授業後に目標の達成度の確認をおこなないながら指導した結果もアンケートでの学生の満足度として現れたと感じる。授業は2-3名から構成されるディスカッション及びペアワークを毎回取り入れ、必ず全員が発言しなければいけない参加型講義にした。役立つ英語表現をまなび、それらを必ず講義内で実際に練習して身につけさせることを心がけた。自由記述欄では、1) 教科書に書いている表現だけではなく、実際に使える表現も紹介していた点、2) ペアワークが多くて理解が深められる点よかった、3) 知らない英語の意味がたくさん知れて、日常会話に使えるものも教えてもらえること、4) すぐに先生が回答を言うのではなく、近くの子と話し合っただけで自分たちで回答を導き出すところ、5) 自分やペアで考える時間が多く与えられているため、その場で思いついた解答で答え合わせをするのではなく自制や冠詞などを考えることができ英語力がより身についた、6) 意欲的に参加しやすい授業であった、などのコメントがあった。また、サブ教材として取り入れたTOEICについてもコメントが多く、継続を望む声がおおいため引き続き最終クォーターでも取り入れていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[P]5  
授業コード 11A07-024  
教員名 松岡 光治  
教員コード 044636  
登録人数 24  
回答数 11  
回答率 45.8%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

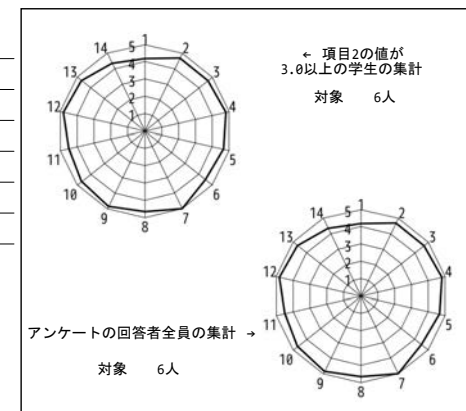


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業は週2回で、リーディングはTOEFL問題と各国の奇妙な法律に関するエッセイを精読し、ライティングは英文法、英作文、パラグラフ・ライティングに基づく英語エッセイを教えた。この授業では速読と精読のバランスをとるよう努め、基礎的な文法や単語の覚え方も指導したが、自由回答では「派生語を多く教えてください」、「英語について向上することができた」など好意的なものが多かった。前者は日頃から工夫している点であり、一つの単語の動詞・名詞・形容詞の法則に加えて同意語・反意語を一緒に記憶するように指導している。また、日常的に使用しているカタカナの和製英語も知的雑学として説明し、漢字とともに正確に記憶させている。ただし、アンケートの結果は、設問1、5が4を切っていた。設問1に関しては来年度のシラバス執筆時に工夫したい。設問5も1と関連していると思うので、シラバスの改善だけでなく、授業中でも到達目標をしっかりと学生たちの意識に植え付けたいと思う。他の英語の授業に比べると予習の量が多く、期末試験も100分であり、それで授業に満足できない学生も多いと思うが、楽しいだけで時間が過ぎる授業では学生のためにならない。実際に自由回答には英語の向上を実感できたという学生もいる。リーディングでは各国の奇妙な法律のエッセイを読んでいるが、それに関連した雑談も増やして、Q4はさらに工夫をしながら授業を進めていきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[P]6  
授業コード 11A07-025  
教員名 BONDOC, Jeffree  
教員コード 103469  
登録人数 25  
回答数 6  
回答率 24.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

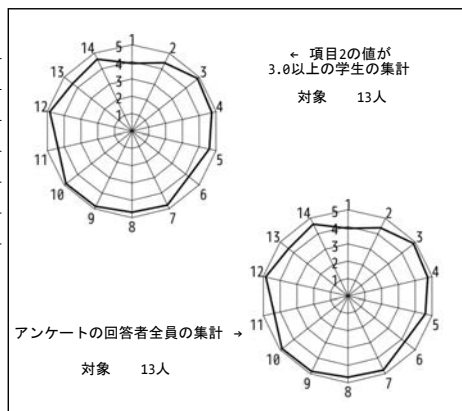


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The quarter went well. Starting with the writing portion. The students found the work challenging but did well. Some of the short essay analysis questions were difficult. This made the writing concepts challenging. However, the student did their bests and produced work which was satisfactory. Next year, I need to provide concepts which are more to the level of the students. With the reading portion. The vocabulary and textbook section was done well. Students were able to study the reading comprehension articles well. Furthermore, student could study the vocabulary well. However, the class reader, Shakespeare, was very difficult for the students. This demotivated the students quite a bit. Fort next year, I need to select a class reader which is much closer to their level.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[P]11  
授業コード 11A07-030  
教員名 平出 優子  
教員コード 102521  
登録人数 24  
回答数 13  
回答率 54.2%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



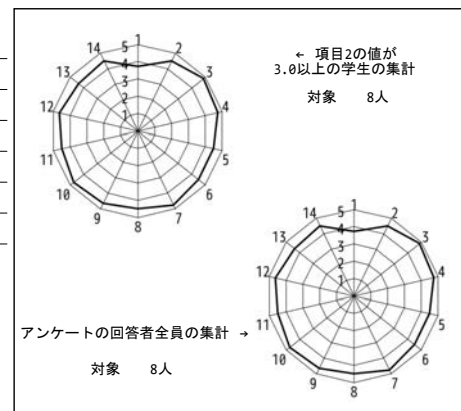
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3におけるWritingの目標は、2つのトピック、つまり、写真の人物描写及び自身の経験談について200語以上の首尾一貫したパラグラフが書けるようになることであった。また、Q3からはIntroduction paragraph, Body paragraphs, Conclusion paragraphから成るパラグラフの構造を理解した上で5つのパラグラフでEssayが書けるようになることを求めた。

Q3におけるReadingの目標は、流暢に英文を読むことが出来るようになること、様々な読解方略を効果的に使って読むことが出来るようになること、テキストの構造をとらえながら論理的に読み進めるcritical readingの力をつけること、読解を支える文法・語彙力をつけること、であった。データの数値が一般的に高い数値であり自由回答でも高評価を沢山得られていることから、学生は授業の内容を十分に理解しており、この授業の掲げた目標に到達していると考えられる。今後はより難易度の高い様々なトピックを提供し、WritingとReadingの能力向上に向けて努めたいと考える。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[P]12  
授業コード 11A07-031  
教員名 島 禎子  
教員コード 045559  
登録人数 23  
回答数 8  
回答率 34.8%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



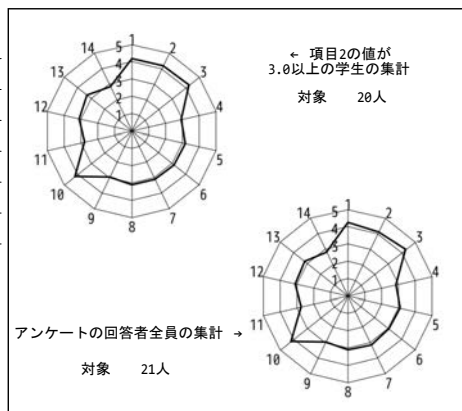
授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q3の目標は概ね達成された。まず今年度の学生は例年より学力が低かったため、ライティングの課題を易しくするなど工夫した面が多かったが、「授業構成や進度は適切なものだったか」の問い、4.75の点が出て何よりホッとしている。ただ回答者が8名と少なく、極めて限定的な結果であること弁えなければならない。とは言っても、今回、設問1を除いてほとんどの学生から5/4と評価されたことは、今までの努力が報われたように感じ、正直うれしかった。次に、今回学生の自由記述で、改めて気づいたことを2-3述べていきたい。初めに自由記述から：「単語力が身についた」「分からなくても一緒に考えてくれるところ」「オンラインでも分かりやすかった」「丁寧に教えていただいた」単語を品詞から教える、つまり主語/目的語には名詞、文修飾には副詞を使うなど基礎的なことが、学生にはかなり役立っていることを改めて痛感した。これは当たり前とさっと流すのではなく、何度も基礎の基礎に立ち戻ることが大切なことを肝に銘じておきたい。また以前は自分で考えなさいと突き放してしまうところがあったが、絡まった糸と一緒に解きほぐしていく作業も、また楽しいと思えるようになった。私の器を広げてくれたのは、ある意味、学生かもしれないと感謝している。



2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[G]2  
授業コード 11A07-033  
教員名 クマイ 恭子  
教員コード 101131  
登録人数 25  
回答数 21  
回答率 84.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

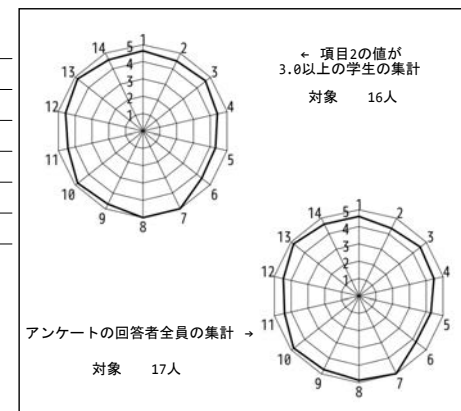
この科目は必須科目なので、コーディネーターのシラバスに基本的に沿いながら展開した。リーディングではアカデミックな記事が読めることを目標とし、ライティングにおいてはエッセイの構成の習得・練習にポイントを置いた。Q3から担当した学生なので、それ以前のクォーターの状態は不明だが、目標到達度は個々の学生の努力の度合いに応じてなされたと思う。

学生からはフィードバックが分かりにくかったという意見が自由記述で見られたが、教員側としては「不明点は口頭でもメールでも構わないので問い合わせてください」と何度も念をおしている。英語で運営する科目ではあるが、重要ポイントは日英両言語を用いている。また自由記述ではフィードバックのどの点がわかりにくかったのか説明がなく、改善をするのが難しいように思われる。具体的にどの点で困っているのか伝えてもらえるとうれしいのだが、教員側としても呼びかけを行っていききたい。またコメントを英語で書いているので、コメントそのものがわからないということもあるのかもしれない。

Q4では、次の点に留意したい。グループが大きすぎるという指摘に関しては、1グループの人数を減らすことで対応できる。声の大きさに関しては、Q4の教室はQ3の2分の1程度なので、かなり改善されているのではないだろうか。課題のフィードバックに関しては、用いている用語などについては随時説明していきたいと思う。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIリテラシー[G]8  
授業コード 11A07-039  
教員名 水野 真紀  
教員コード 101981  
登録人数 21  
回答数 17  
回答率 81.0%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

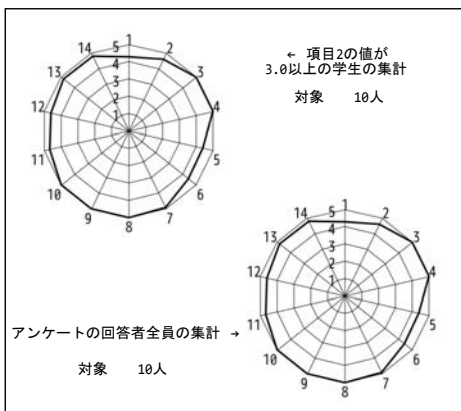
① 今期はリーディングとライティングのテーマを「食」に設定し、授業を実施した。教科書と食に関する概論を精読し、その内容と語彙・表現を使いフリー、プロセス、制限時間内に完成させるエッセイを様々な構成で書くことができるようになった。教員やクラスメートのフィードバックにより、読み手を意識して書く、書き手を意識して読むこともできつつある。

② 新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり理解が深まった、授業に満足したことが数値からうかがえる。反面、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしたか、到達目標を理解することができたか、それに向けて力がついてきているかが比較的に低いのは、週2回の抱き合わせ科目のため、シラバスで定められた提出課題が多く、私生活が忙しい昨今の学生は十分に時間をかけることができない上に何よりまだ英語では思うように書くことができないと感じているからではないか。自由記述の教員のフィードバックが厳しいこともあるかもしれないが、丁寧で細かい添削やアドバイスがよいというコメントと共に良い点としてあげられている。

③ 引き続き添削を効率的にすることが課題である。加えてコロナ禍で翻訳ソフトを使って課題を行う学生が増えてきているので開講主体の指示を待ち適切に指導していく必要がある。また精読ができない学生も少なからず見受けられるので注意していきたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]6  
授業コード 11A11-042  
教員名 LANGLEY, Patrick  
教員コード 104288  
登録人数 24  
回答数 10  
回答率 41.7%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

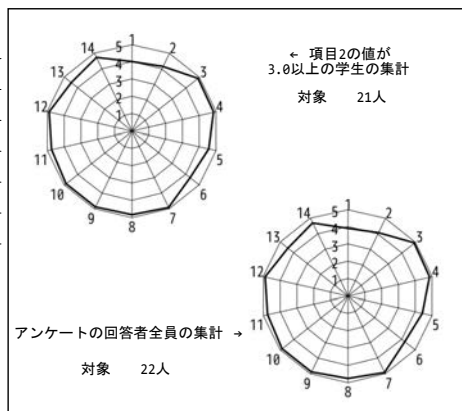


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am comfortable that the key goals for this class were achieved. The data suggests that the students were satisfied in the main part. There were some concerns regarding the amount of reading required for this class. Also, some of the students have been using DeepL and A.I. translation device for their homework assignments - which I think had a negative impact of their language learning. This should be addressed by the University (rather than individual teachers). Overall, they were a good class.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]11  
授業コード 11A11-047  
教員名 大竹 万里  
教員コード 047084  
登録人数 25  
回答数 22  
回答率 88.0%  
休講回数 0回  
補講回数 0回

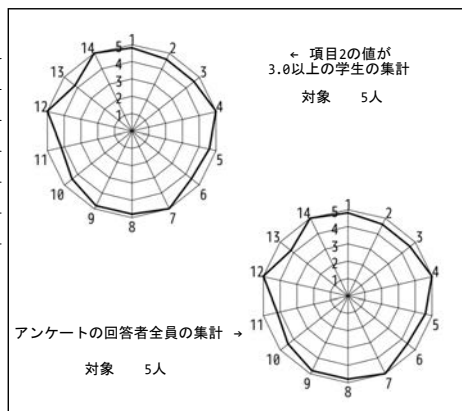


授業評価結果を踏まえた点検・評価

火曜日の授業では、イントネーションの練習、会話、インタビュー、モノローグを聴いて、リスニング力及びスピーキング力を高めることを目標とし、ペア、またはグループで発話練習をした。また、金曜日の授業では、語彙力と読解力を高めることを目標に設定し、様々なジャンルの読み物の内容理解とそれに必要なストラテジーの説明とその応用に充てた。教材は全て小冊子(Class Book)にまとめて配布し、WebClassにリスニング教材やリーディング教材の練習問題をアップした。第3クォーターの多読学習は1週間に4,000語を読むことを設定し、読んだ本についてのディスカッションの機会を設けた。授業評価の設問3から14の平均数値データが4.61、学生の授業に対する全体的な満足度については4.72であった。週2回の授業をシラバス通りにおこなうことができ、学生の満足度も得られたように思う。授業について評価できる点として、「わかりやすく授業をしてくれた」や「TEDのような英語のプレゼンを教材に取り上げた」ことを挙げる学生がいる一方、「授業の進め方が少し遅い」ことを挙げる学生もいた。第4クォーターでは授業展開のスピードにも配慮すると同時に、学生が互いに学ぶ環境作りに心がけて積極的な課題取り組みを促していく授業を目指したい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ[J]12
授業コード	11A11-048
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	22
回答数	5
回答率	22.7%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

The goals of the course were largely achieved. I was able to teach both the reading and the conversation ends of the course, so I was able to be flexible about time management and scheduling.

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

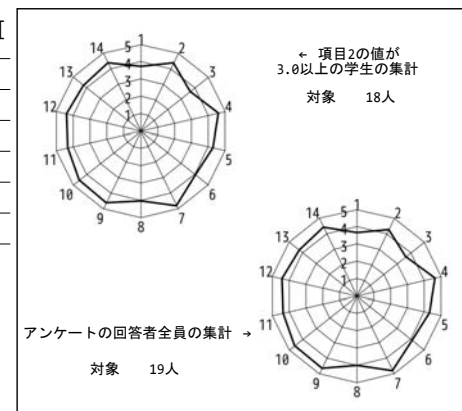
I was not unhappy with the results. However, we have to take into account a couple of factors. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not spend much time or effort to fill it out. and won't consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

Given the current health pandemic, there isn't really much we can do differently. I hope we can go back to 100% regular classes and activities in the near future. I will try to provide quality and interesting instruction to the new class of students so that they can achieve their own goals.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ[T]2
授業コード	11A11-050
教員名	NICKSICK, Thomas
教員コード	102113
登録人数	22
回答数	19
回答率	86.4%
休講回数	0回
補講回数	0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course is to help students become more confident and proficient English communicators. Some of the goals include using vocabulary for contemporary topics, giving opinions on general topics, and asking questions for clarification.

The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the classes were structured in an appropriate manner and delivered at an appropriate pace, the rating was 4.63. Regarding the instructor's sincerity and determination in teaching the course, the rating was 4.79. When asked if the instructor took into account the students' degree of understanding, the rating was 4.63.

However, the instructor was not as successful in other areas. Regarding students making solid progress towards achieving the course attainment target, the rating was 4.11. Regarding the instructor providing appropriate guidance and information to encourage the students to want to learn, the rating was 4.37. The rating was 4.26 when the students were asked if they acquired new knowledge. When asked if the students were satisfied with the course, the rating was 4.42. The instructor must make a better effort to improve these aspects of the course.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ[I]3
授業コード	11A11-051
教員名	KENNY, Thomas
教員コード	102984
登録人数	22
回答数	3
回答率	13.6%
休講回数	0回
補講回数	0回

レーダーチャートなし  
(回答数4件以下のため集計しない)

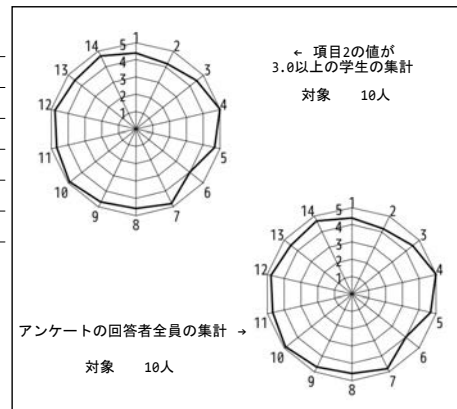
授業評価結果を踏まえた点検・評価

According to respondents, students clearly understood the class goals, and saw how we worked toward those goals. Although I taught completely online during the 2022 academic year, students responded positively to the experience, according to this data. Respondents scored my performance above average for every question, most noteworthy, question #7 -- the teacher displayed sincerity in teaching approach, and question number 10 -- teacher dealing with disruption issues, students rated me 100%. This indicates to me that students are aware that they were getting a smoothly-run class every time.

However, I realize that the number of student respondents is very low -- 3 out of about 20, and I see that only 40 FLEEC students total took time to make an evaluation. I hope the gakuen will make a note to inform teachers that the best time and place for students to perform a questionnaire like this is in the classroom, during class time, when they can all pull out their devices and complete the anket within a few minutes. If teachers don't know when to tell students to do this, it seems likely that this valuable evaluation will continue to be ignored by students.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIIコミュニケーションスキルズ[I]7
授業コード	11A11-055
教員名	LANDSBERRY, Lauren
教員コード	103626
登録人数	22
回答数	10
回答率	45.5%
休講回数	1回
補講回数	0回

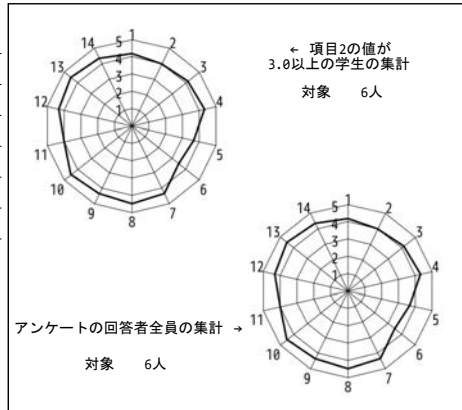


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I think the goals of this course were met. Although all the students were still wearing masks they enjoyed group work and sharing, such as poster presentations. As I wasn't able to do these activities for the past several years I was happy to return to some kind of normalcy. The students also enjoyed group work. I also used other online activities such as Quizlet and Kahoot. which they seemed to really enjoy. The students in the class had very positive attitudes and were interested in learning. It was easy to teach them. I look forward to hopefully seeing some student faces without masks in the next academic year!

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIIコミュニケーションスキルズ[T]11  
 授業コード 11A11-059  
 教員名 SIMMONDS Brent  
 教員コード 103050  
 登録人数 22  
 回答数 6  
 回答率 27.3%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

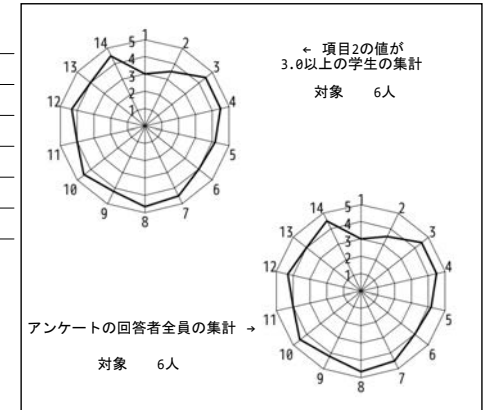
I was generally pleased with the feedback from the students, however there are several areas that could be improved upon. Firstly, I need to scaffold some of the tasks a little more to enable the students to perform to a higher level. Second, more consideration is needed regarding students who may be neuro diverse and have different learning styles. I should also explain, how the activities are connected to the final course goals.

The students are using translation software far too much in class. Although, I believe computers are invaluable, it may be beneficial to do some tasks on paper in the future as well as integrating some vocabulary building components into the syllabus.

The students expectations in this class, may have been different for other classes, another factor that I should take into consideration.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ<全>2  
 授業コード 11A13-018  
 教員名 FOX, Aaron  
 教員コード 103869  
 登録人数 24  
 回答数 6  
 回答率 25.0%  
 休講回数 0 回  
 補講回数 0 回



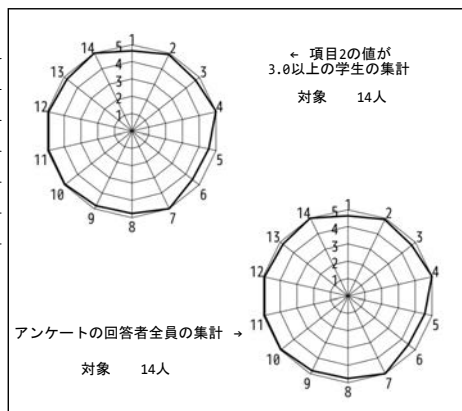
授業評価結果を踏まえた点検・評価

The students were highly motivated and enthusiastic about improving their language skills, which made teaching a joy. They participated actively in class discussions and activities, which created a dynamic and engaging learning environment.

The progress the students made was impressive. Throughout the course, they developed greater fluency and accuracy, and their ability to express themselves improved markedly. Seeing their progress was a rewarding experience, and I was proud to have been their teacher. One of the most rewarding aspects of the class was watching the students bond with each other and form friendships. They supported and encouraged one another, which helped to create a sense of community and made the class feel like a welcoming and safe space.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ[FA, FF, FS, FG]8  
授業コード 11A13-025  
教員名 加藤 普由子  
教員コード 101654  
登録人数 22  
回答数 14  
回答率 63.6%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

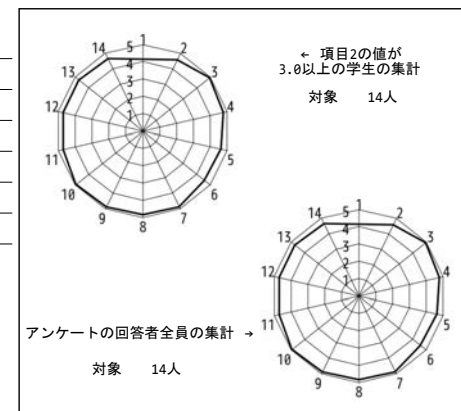


授業評価結果を踏まえた点検・評価

対象学生数22名のうち回答者数は14名であり、約63%の評価である。項目1 -14の平均が4.82、項目3 -14の平均が4.83であり、深刻な問題はなかったと理解する。この授業はQ3&Q4の継続授業であり、教科書も続けて利用するが、Q3開始時に教科書を1年生時にすでに学習済みであることが判明した。急遽授業内容に変更を加えることになった。復習を兼ねて教科書に関連したスキルのハンドアウト課題を加え、当初の予定であった語彙力増強、ディスカッションとプレゼンテーションに多くの時間を費やした。設問11と12、どちらも平均値が4.93、設問13では4.79、満足度についての設問14では5.00であった。私自身、大部分の学生が主体的に授業に参加したと認識し、評価している。学生の自己評価についても、設問2の平均値が4.93、設問6では4.50という結果となり、自身の姿勢を高く評価している。自由記述では、「積極的に発言する機会を設けてくれた」「単語力をつけるアクティビティがあった」「質問に対する丁寧な説明があり、楽しく受講できた」とのコメントをもらった。Q4も彼らの主体性を維持できるよう授業運営に努めたい。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Vコミュニケーションスキルズ<全>8  
授業コード 11A13-031  
教員名 JONES William M.  
教員コード 100263  
登録人数 24  
回答数 14  
回答率 58.3%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回

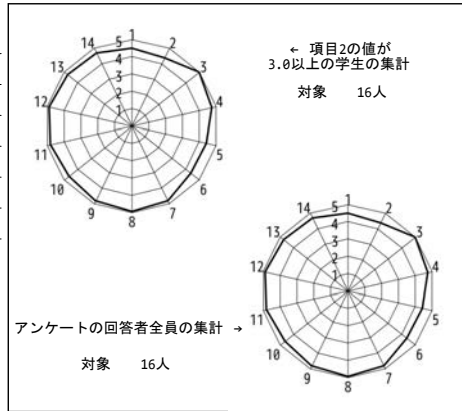


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Results here were surprisingly good and unexpected. I was challenged to "bring out the best" of the students as they were quite shy and unmotivated at first. As always, I'm often more interested in, and find the feedback much more helpful from qualitative data than quantitative data. Most importantly, Ss were able to enjoy classes, even though they were challenging. In particular, the use of playing cards can turn a typical "boring" English course into an atypical adventure of excitement and joy whereby Ss not only learn what they are supposed to learn as listed in the goals and objectives, but more importantly, form human bonds that can last a lifetime. Instructor's greatest pleasure is being able to have students learn and write about Jesus and how that relates to Nanzan's motto of Human Dignity. As a devout Catholic who tries to attend Mass daily and prays several rosaries a day, this is the main reason I enjoy teaching at Nanzan. I was, and continue to be worried about, the forced wearing of masks on students who have severe existing medical conditions such as asthma or other serious, congenital breathing birth defects that are not visible externally. Thank you very much.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ライティング<J>1  
授業コード 11A17-028  
教員名 HAYES, Mary  
教員コード 103625  
登録人数 19  
回答数 16  
回答率 84.2%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

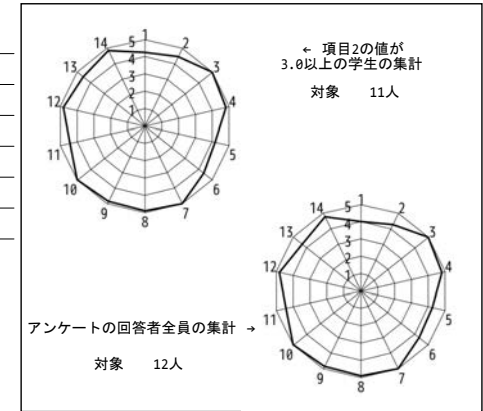


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. In this English writing 1 class, the goals were for students to improve their writing skills and develop confidence in expressing themselves in English through practice of timed writing, textbook exercises, writing structured paragraphs and essays, as well as learning how to write letters, both formal and informal. A further goal was to learn how to format papers following standard layout rules and improve their typing skills. A majority of class members succeeded in completing all assignments and showed a marked improvement in reaching the goals.
2. The data shows that the class members were satisfied with the class content and that they worked hard in a comfortable atmosphere to master the skills of self-expression and composition. Overall, I felt that my efforts to manage the class, guide the students and give appropriate feedback were successful.
3. In future writing classes, I will continue to give clear and easy to understand instructions, work hard to create a positive and supportive atmosphere and give feedback to individual class members on how to improve their writing.

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語ライティング<J>2  
授業コード 11A17-029  
教員名 酒井 美納江  
教員コード 046060  
登録人数 17  
回答数 12  
回答率 70.6%  
休講回数 0 回  
補講回数 0 回

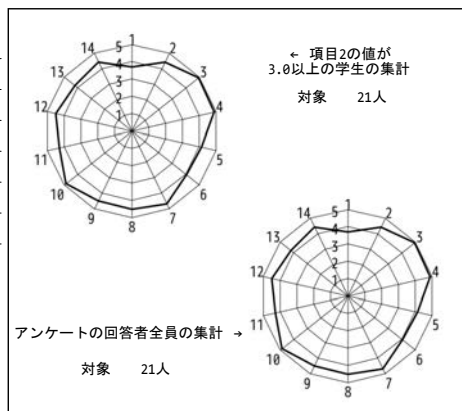


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講座の目標は英語を書く力を2つの点において上達させることで、1つは「スラスラ」書く力、もう一つは「正確に」書く力をつけてもらうことを目指した。前者は毎週行ったFree Writingで、後者は3つのパラグラフを書くことにより、ある程度達成できたと思う。しかし、チャートを見ると「この授業の到達目標を理解することができましたか。」と「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」の項目が若干低い。これらの課題自体はしっかり行えるよう配慮したつもりだが、課題で何を鍛えているのか、具体的に予告や振り返りを意識して行っていなかったのも、学生側にもそれがうまく伝わっていなかったのだと考える。2つ目の項目に関しては、自分の力がついたかを認識するには1 Quarterでは短すぎると思うが、1つ目同様、学生が自分の学習に関してメタ認知ができるような声掛けや取り組みをしてもよかったかと思っている。自由記述では、授業を行う上で大事にした「学生同士のやり取り」を評価するコメントがあり安心した。学生の文章の添削は授業以外での作業になり、時間と手間がかかるものなのだが、そちらも評価するコメントを見ることができ苦勞した甲斐が報われた思いだ。

2022年度Q3 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語Iリスニング<全・T>12  
授業コード 11A25-038  
教員名 PENDELL, Patrice  
教員コード 104625  
登録人数 24  
回答数 21  
回答率 87.5%  
休講回数 1 回  
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1) Goals

Students improved listening skills through the text book, conversation activities and homework. Text book ( Academic Listening ) was a listening, note-taking and summarizing activity. Typically the text book was for the Monday class, and on Thursday students had conversation/ listening prompts and scenarios ( Conversation Tools ) including pair or group rotations. Homework, mid-term and final all used short presentations from TED Talks ( 2-4 minutes with a variety of topics ) focused on listening, note-taking and summarizing. These skills were new challenges and acquired skills as reported by students. Student responses were very positive.

2) Self Assessment

Response to class challenges were positive and goals achieved. Students were positive about their accomplishments. The class was fun and yet asked a lot of students. This was especially evident in improvements demonstrated by students to achieve goals in the homework assignments, mid-term and final: all of which followed the same format of listening, note-taking and summarizing. The conversation/ listening activity gave confidence, and adding skills in listening and communicating with peers. Additionally, this allowed communication for all students to meet classmates.

>> 3) Improvements

>> Continue to provide a positive class culture, clear class plans and set high expectations.